

厚木市民意識調査報告書

平成 28 年 1 月

厚 木 市

． 調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	4
6 標本誤差	4
． 回答者の属性	
1 回答者の属性	
（1）性別（ア）	7
（2）年齢（イ）	7
（3）家族構成（ウ）	7
（4）住居形態（エ）	8
（5）居住地区（オ）	8
（6）居住年数（カ）	9
（7）利用駅（キ）	9
（8）自宅から最寄り駅までの交通手段（ク）	9
（9）職業（ケ）	10
（10）通勤（通学）先（コ）	10
（11）自治会への加入（サ）	10
． 意識調査結果	
1 暮らしの状況	
（1）定住意向	13
（2）住み続けたい理由	16
（3）市外に転出したい理由	19
2 市の現状と将来	
（1）現在のイメージ	21
（2）将来のイメージ	24
3 産業・商業	
（1）買い物をする場所	27
（2）観光地活性化のための取組	29

目次

4	福祉・人権	
(1)	介護保険料の金額設定	32
(2)	高齢時の居住形態	34
(3)	子どもを産み育てられる環境	36
(4)	人権侵害を受けた経験	39
(5)	経験した人権侵害の内容	41
(6)	人権侵害を受けたときの対応	43
(7)	人権や差別に対する関心	45
5	男女共同参画社会	
(1)	男女の地位	47
6	スポーツ	
(1)	スポーツをする頻度	56
(2)	取り組んでいるスポーツの種目	58
(3)	参加してみたいスポーツイベント	60
7	国際交流	
(1)	国際交流の取組	63
8	環境	
(1)	資源とごみの分別	66
(2)	ごみの減量化・資源化の推進	68
(3)	地球温暖化防止に関する情報の提供方法	71
(4)	地球温暖化防止のための取組	73
9	交通・安全・防災	
(1)	本厚木駅周辺の治安	75
(2)	防犯対策に効果的なもの	77
(3)	セーフコミュニティの考え方	79
(4)	地域の防犯活動	81
(5)	住宅用火災警報器の設置	83
(6)	実行可能な応急手当	85
(7)	家庭で行っている災害対策	87
(8)	自転車保険への加入	91

10	教育・生涯学習・文化	
(1)	子どもの教育のために最も大切なこと	93
(2)	生涯学習活動に参加する上で支障になること	95
(3)	優先すべき文化芸術施策	97
11	市民生活	
(1)	市の施設の利用状況	100
(2)	整備が必要な施設	102
(3)	市の施設の利用の有料化について	104
(4)	公共施設の駐車場の有料化について	106
(5)	高齢時の交通手段	108
12	保健・健康	
(1)	市立病院のイメージ	110
(2)	かかりつけ医	112
(3)	「あつぎ健康相談ダイヤル24」	114
(4)	がん検診の受診状況	116
(5)	自殺への対策	118
13	広報・広聴	
(1)	市の情報の入手方法	120
(2)	「広報あつぎ」の入手方法	123
(3)	屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度	125
(4)	行政サービスの情報化・ICT化	127
(5)	家庭で利用する情報機器	130
(6)	「マイタウンクラブ」で利用したことがあるサービス	132

目次

14 まちづくり

(1) 本厚木駅周辺のイメージ	134
(2) まちづくり全般の変化	136
(3) まちづくりへの参加	154
(4) 本厚木駅周辺の活性化	158
(5) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じる事	160
(6) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設	162
(7) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段	165
(8) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	168
(9) 厚木市内のバス交通に望むこと	169
(10) 市の将来の土地利用	172
(11) 厚木市内の道路の現状	175
(12) 道路整備に望むもの	179
(13) 河川環境の整備に望むこと	183

15 行政

(1) 市民の声を行政に反映させる仕組み	186
(2) 行政情報の公開状況	188
(3) 「市民協働によるまちづくり」	190

調査票と集計結果

1 調査票(A)	195
2 調査票(B)	209

. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に関係の深い事項について、市民意識の変化や市民ニーズを的確に把握し、今後の市政運営等の資料とすることを目的に実施したものである。

2 調査項目

- (1) 暮らしの状況
- (2) 市の現状と将来
- (3) 産業・商業
- (4) 福祉・人権
- (5) 男女共同参画社会
- (6) スポーツ
- (7) 国際交流
- (8) 環境
- (9) 交通・安全・防災
- (10) 教育・生涯学習・文化
- (11) 市民生活
- (12) 保健・健康
- (13) 広報・広聴
- (14) まちづくり
- (15) 行政

3 調査設計

- (1) 調査地域 厚木市全域
- (2) 調査対象 厚木市在住の18歳以上の男女
- (3) 調査対象者数 調査票A：3,500人
調査票B：3,500人 総対象7,000人
- (4) 抽出方法 無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- (6) 調査期間 平成27年6月30日～7月17日

4 回収結果

- (1) 有効回収数 調査票A：1,471人
調査票B：1,445人 総回収2,916人
- (2) 回収率 調査票A：42.0%
調査票B：41.3% 平均41.7%

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」(Number of Cases の略)は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 設問によっては、過去に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数が30に満たないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団(厚木市全域に住む満18歳以上の男女)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、比率算出の基数(n)、回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

$\left\{ \begin{array}{l} N = \text{母集団数} \\ \quad (\text{厚木市の満18歳以上人口}) \\ n = \text{比率算出の基数(回答者数)} \\ p = \text{回答の比率(\%)} \end{array} \right.$

(注) $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。(この表の計算式の信頼度は95%)

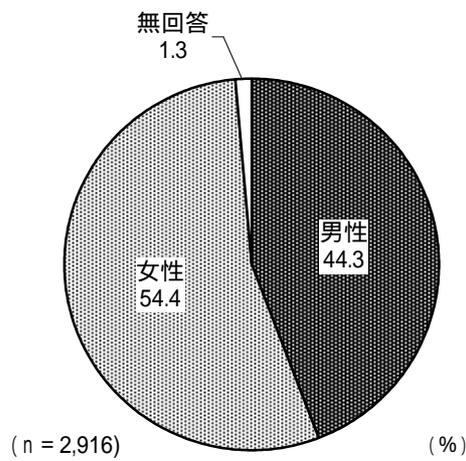
p n(基数)	回答比率				
	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 40%	50%
2,916票	±1.09	±1.45	±1.66	±1.78	±1.81
1,471票	±1.53	±2.04	±2.34	±2.50	±2.56
1,445票	±1.55	±2.06	±2.36	±2.53	±2.58
1,000票	±1.85	±2.47	±2.83	±3.03	±3.09
500票	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
300票	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.65
100票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

例えば、問1の「厚木市にずっと住みたいですか。」という質問に対して、「ずっと住みたい」と答えた人は、2,916人のうち42.8%であった。回答者数が2,916人、回答率が40%前後のときの標本誤差は、上の表では±1.78%であるから、「ずっと住みたい」と考えている人は、厚木市在住の18歳以上の男女全体(母集団)の41.02%から44.58%の間にあると推定できる。(信頼度が95%のため、この推定は95%の確率で正しいといえることになる。)

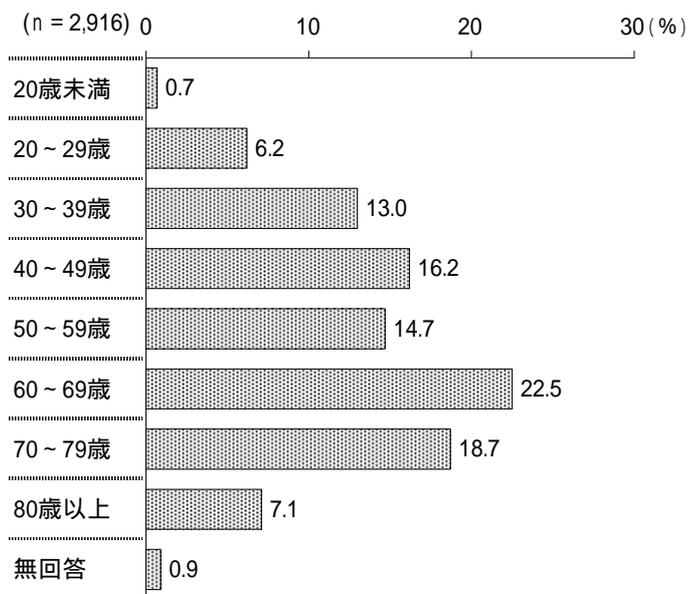
. 回答者の属性

1 回答者の属性

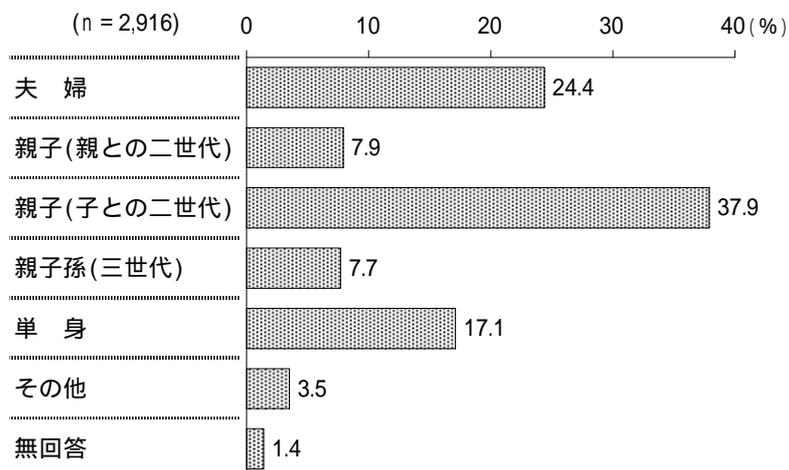
(1) 性別 (ア)



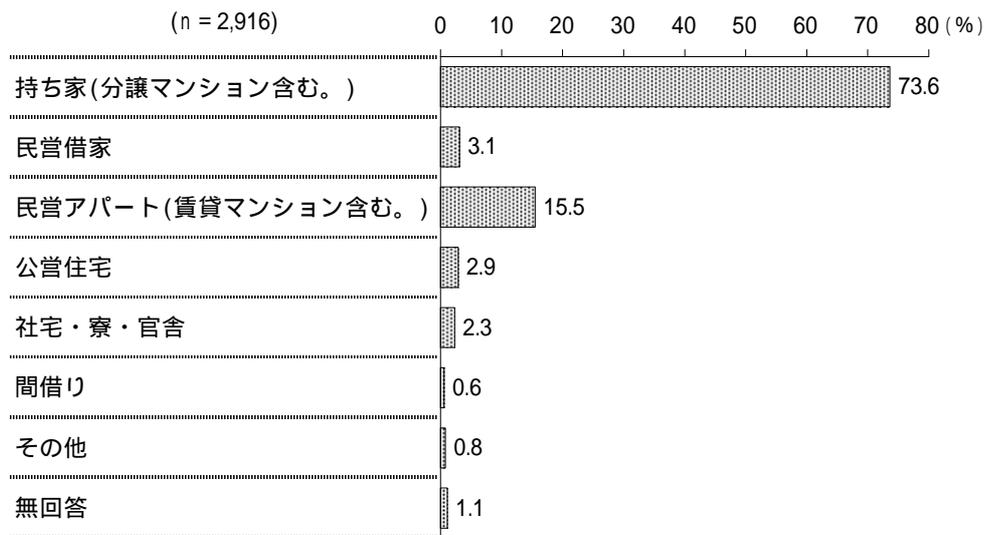
(2) 年齢 (イ)



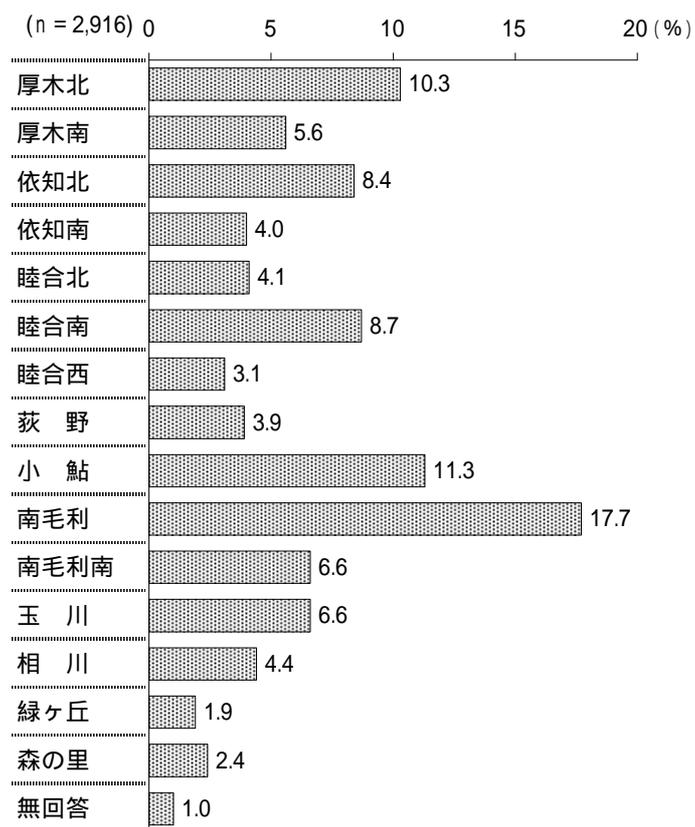
(3) 家族構成 (ウ)



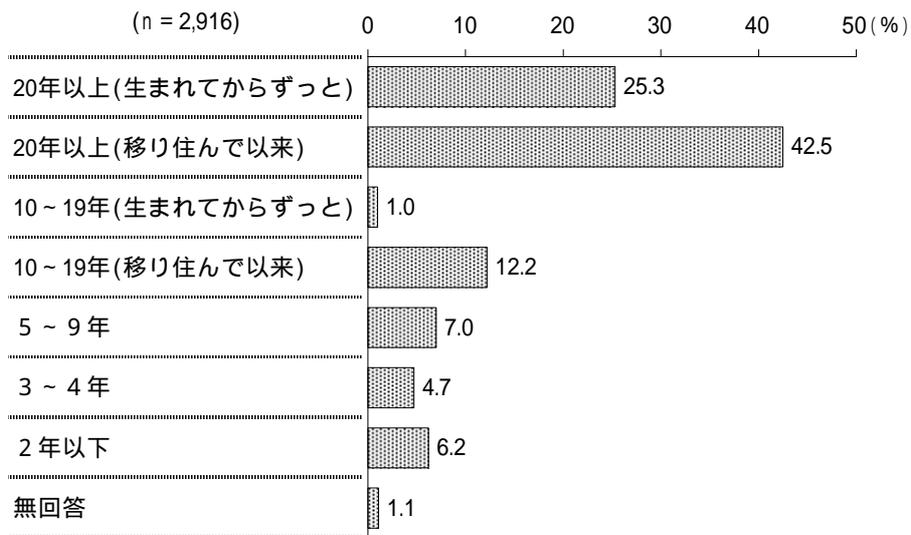
(4) 住居形態 (工)



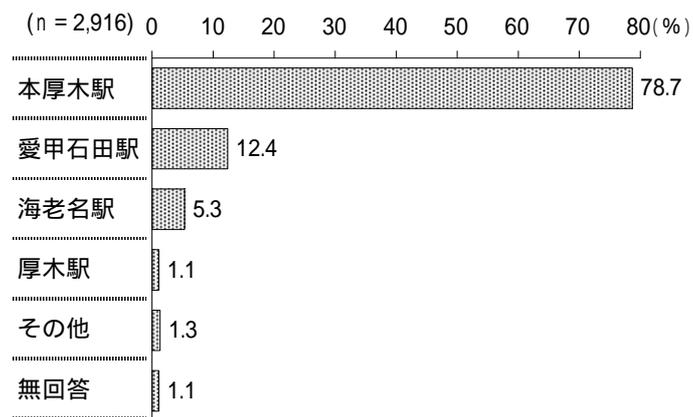
(5) 居住地区 (才)



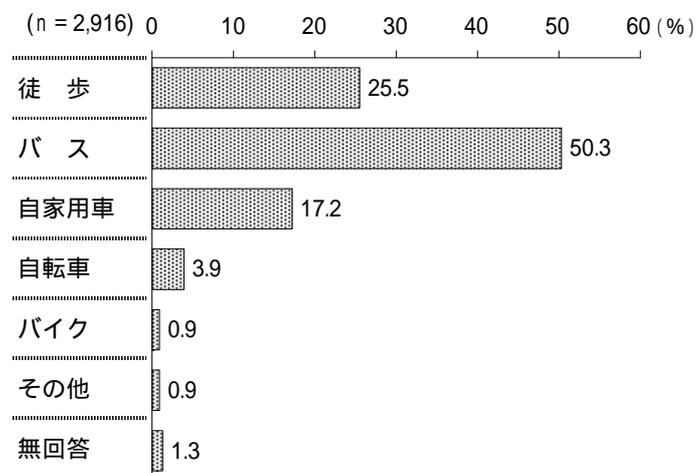
(6) 居住年数 (カ)



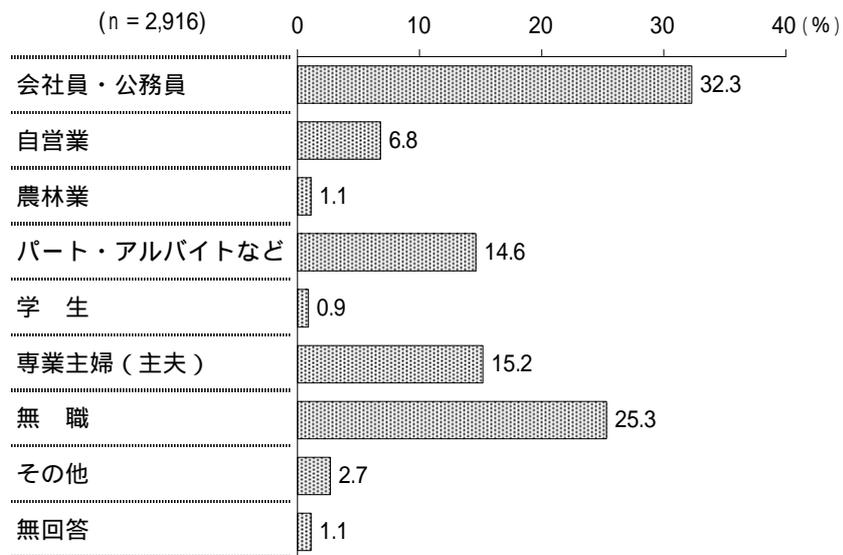
(7) 利用駅 (キ)



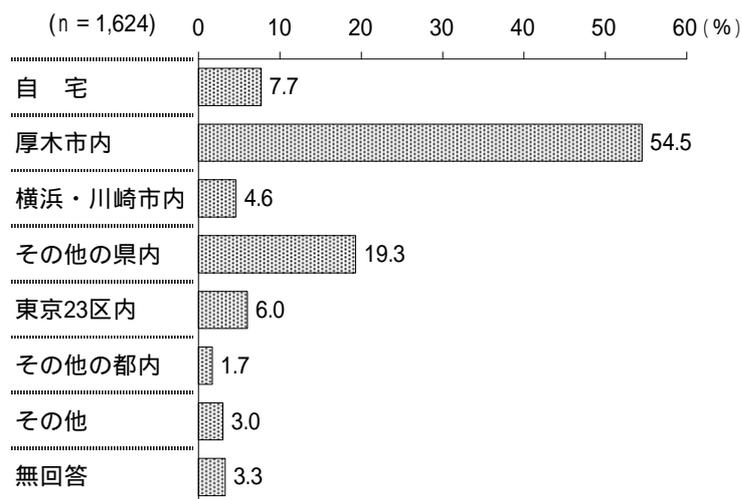
(8) 自宅から最寄駅までの交通手段 (ク)



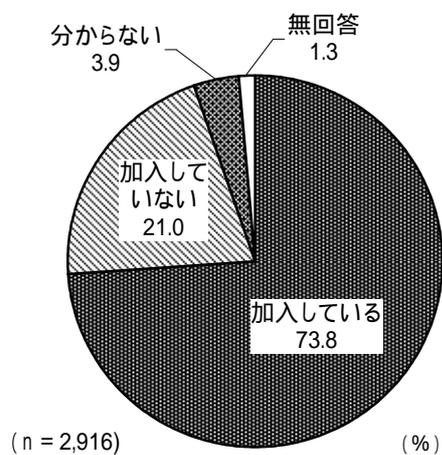
(9) 職業 (ケ)



(10) 通勤 (通学) 先 (コ)



(11) 自治会への加入 (サ)

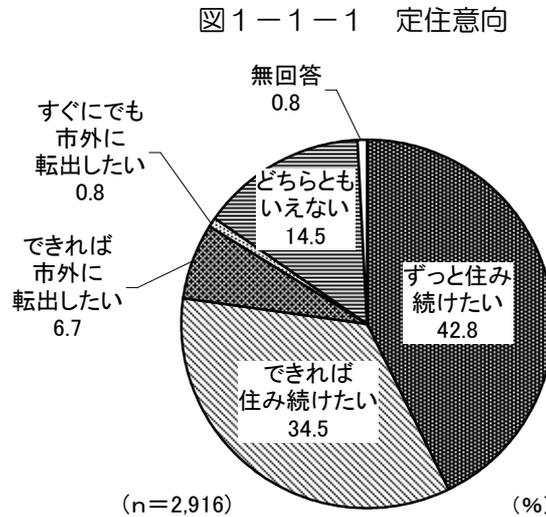


Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)

問. 厚木市にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)



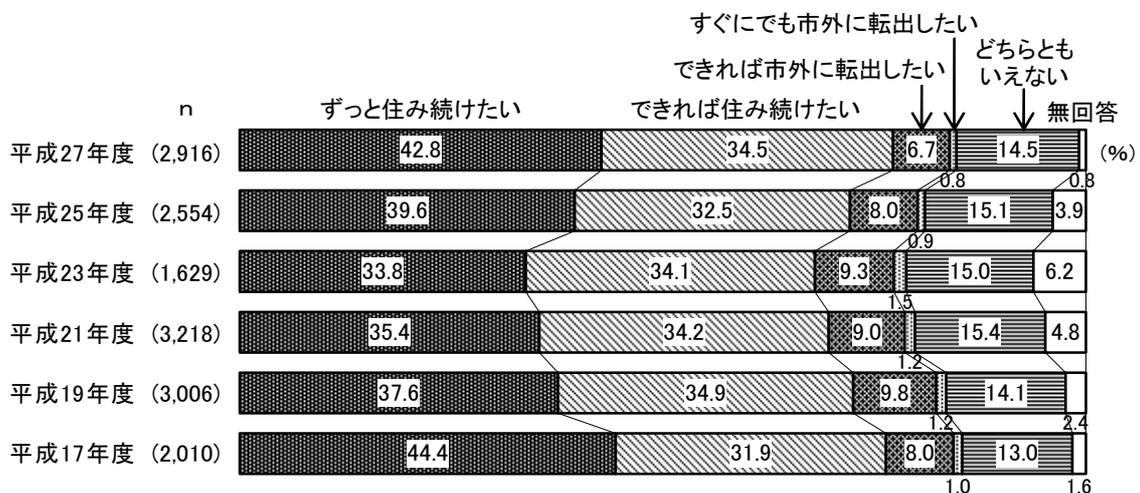
【全体】

厚木市への定住意向は、「ずっと住み続けたい」(42.8%)が4割を超え、これに「できれば住み続けたい」(34.5%)を合わせた『定住意向』(77.3%)は8割近くとなっている。一方、「できれば市外に転出したい」(6.7%)と「すぐにでも市外に転出したい」(0.8%)を合わせた『転出意向』(7.5%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『定住意向』(77.3%)は前回調査(72.1%)より5.2ポイント増加し、平成23年度調査(67.9%)以降増加傾向にある。

図1-1-2 定住意向—経年変化

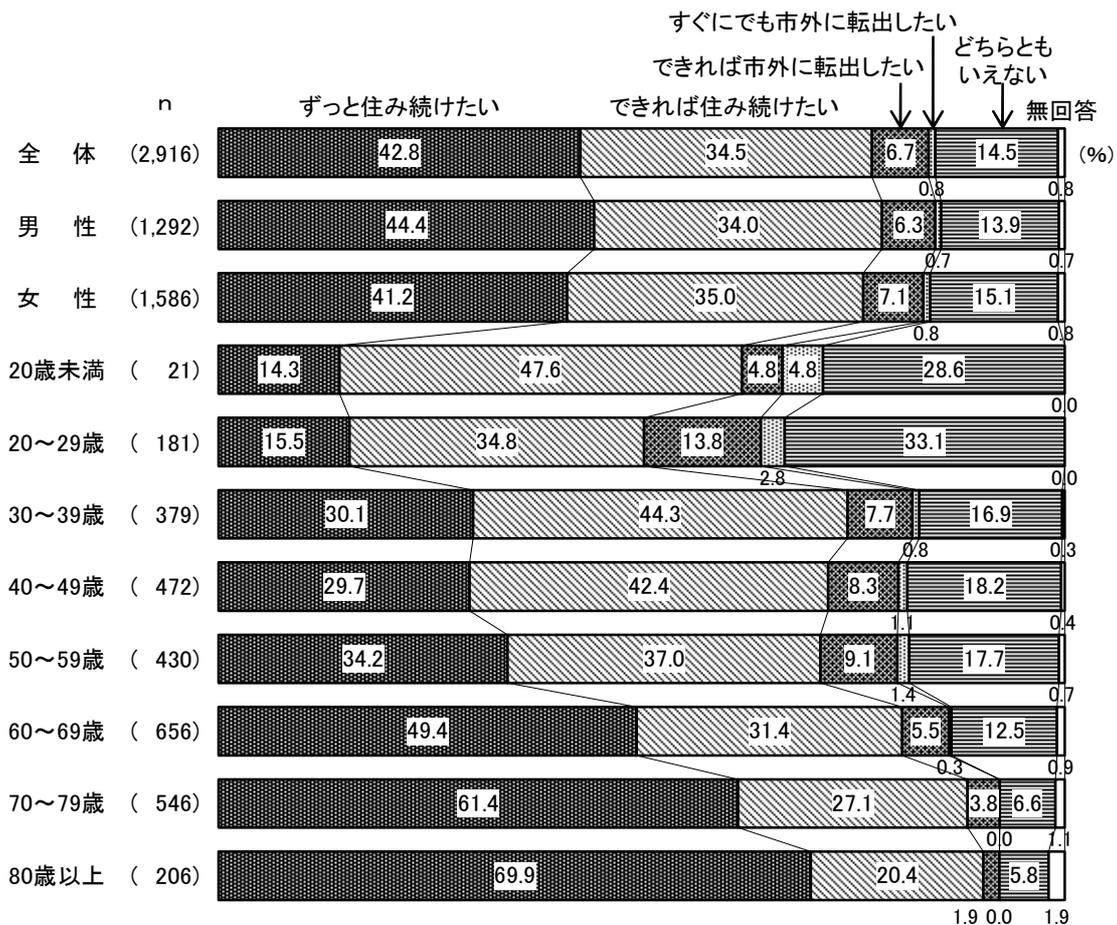


【属性別】

性別で見ると、男性では『定住意向』（78.4%）が女性（76.2%）より2.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『定住意向』は80歳以上（90.3%）で約9割、70～79歳（88.5%）で9割近くと高くなっている一方、20～29歳（50.3%）では約5割にとどまっている。

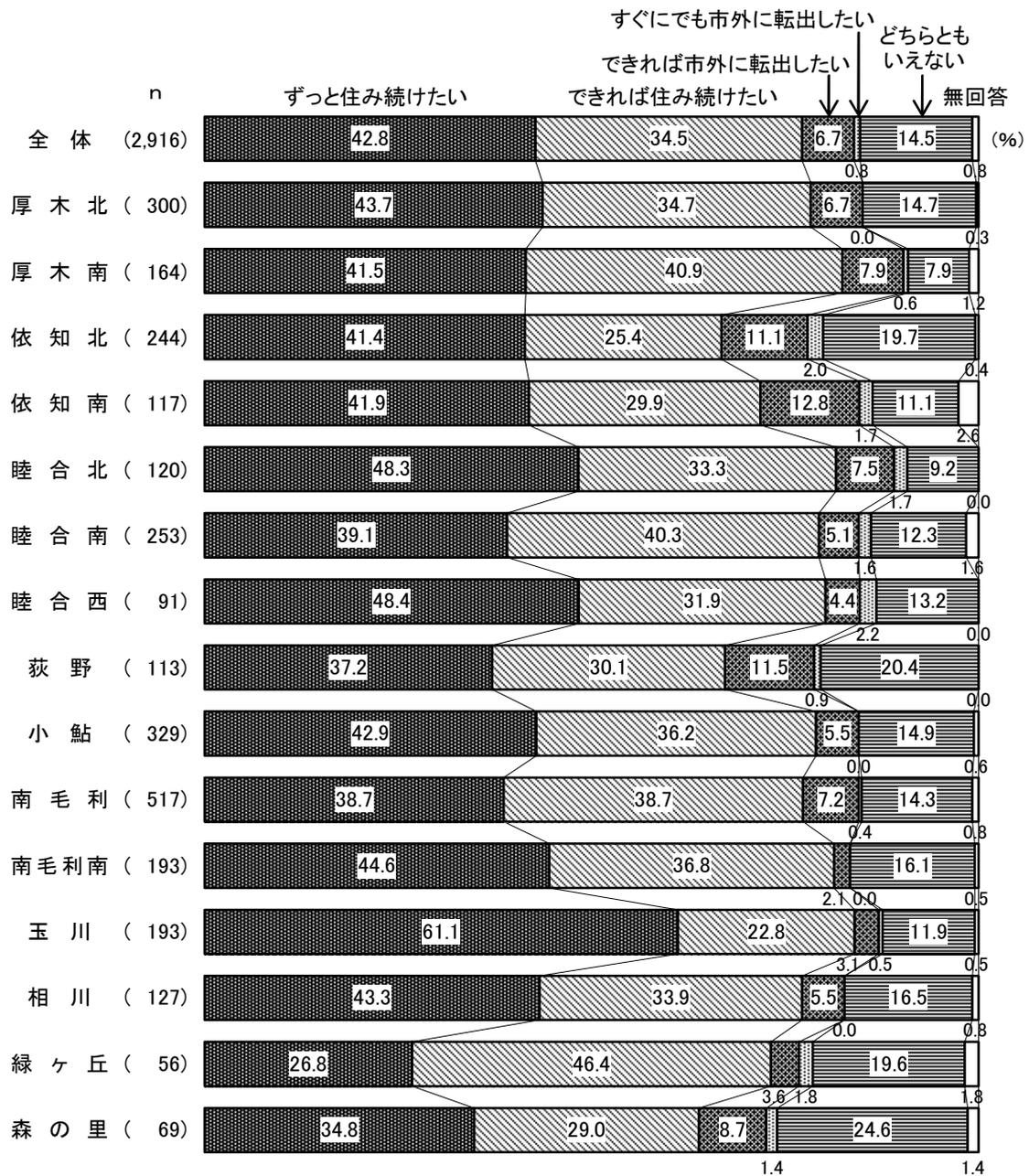
図1-1-3 定住意向—性別、年齢別



【属性別】

居住地区別で見ると、『定住意向』は玉川（83.9%）が最も高く、このほか厚木南（82.4%）、睦合北（81.6%）、南毛利南（81.4%）、睦合西（80.3%）で8割台となっている一方、森の里（63.8%）、依知北（66.8%）、荻野（67.3%）では6割台にとどまっている。

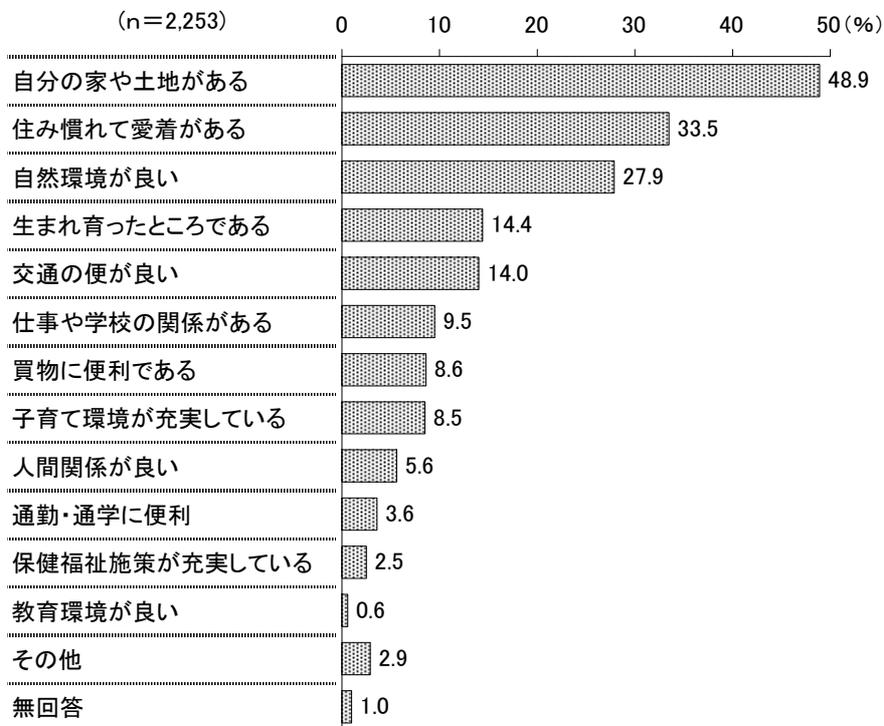
図1-1-4 定住意向—居住地区別



(2) 住み続けたい理由 (A・B:問2)

問. 「住み続けたい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで選んでください)

図1-2-1 住み続けたい理由



【全体】

厚木市に「ずっと住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と答えた2,253人に、住み続けたい理由について聞いたところ、「自分の家や土地がある」(48.9%)が5割近くで最も高く、次いで「住み慣れて愛着がある」(33.5%)、「自然環境が良い」(27.9%)、「生まれ育ったところである」(14.4%)、「交通の便が良い」(14.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自分の家や土地がある」(48.9%)は前回調査(44.1%)より4.8ポイント増加し、「子育て環境が充実している」(8.5%)は前回調査(5.1%)より3.4ポイント増加している。一方、「自然環境が良い」(27.9%)は前回調査(32.0%)より4.1ポイント減少している。

表1-2-1 住み続けたい理由—経年変化

調査年	n	(%)													
		自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	生まれ育ったところである	交通の便が良い	仕事や学校の関係がある	買物に便利である	子育て環境が充実している	人間関係が良い	通勤・通学に便利	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
平成27年度	2,253	48.9	33.5	27.9	14.4	14.0	9.5	8.6	8.5	5.6	3.6	2.5	0.6	2.9	1.0
平成25年度	1,842	44.1	32.2	32.0	13.4	15.0	9.3	9.9	5.1	5.3	4.5	3.5	0.5	3.3	0.8
平成23年度	1,106	52.8	33.4	31.0	13.5	12.6	9.0	6.6	4.4	6.1	5.2	2.9	0.4	3.4	2.3
平成21年度	2,237	54.7	35.0	29.8	14.9	12.5	9.4	7.3	-	5.7	3.6	2.8	1.2	2.0	0.7
平成19年度	2,178	53.9	35.2	30.9	15.2	10.1	8.3	9.1	-	7.0	2.9	3.4	0.6	1.7	2.2
平成17年度	1,534	53.4	42.6	27.4	25.2	11.3	6.4	8.7	-	5.3	2.4	2.4	0.7	1.0	0.3

(注) 平成23年度調査以降、「子育て環境が充実している」を追加しているため、平成21年度以前は参考に掲載する。

【属性別】

性別で見ると、男性では「自然環境が良い」(31.5%)が女性(24.6%)より6.9ポイント、「自分の家や土地がある」(52.0%)が女性(46.2%)より5.8ポイント高くなっている。一方、女性では「住み慣れて愛着がある」(35.1%)が男性(31.9%)より3.2ポイント、「子育て環境が充実している」(10.0%)が男性(6.8%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「自分の家や土地がある」(61.8%)が6割を超えて高くなっている。20～29歳では「仕事や学校の関係がある」(29.7%)が約3割と高くなっている。30～39歳では「子育て環境が充実している」(35.5%)が3割半ばと高くなっている。

居住年数別で見ると、20年以上(移り住んで以来)では「自分の家や土地がある」(57.0%)が6割近くと高く、「住み慣れて愛着がある」(42.3%)が4割を超えて高くなっている。

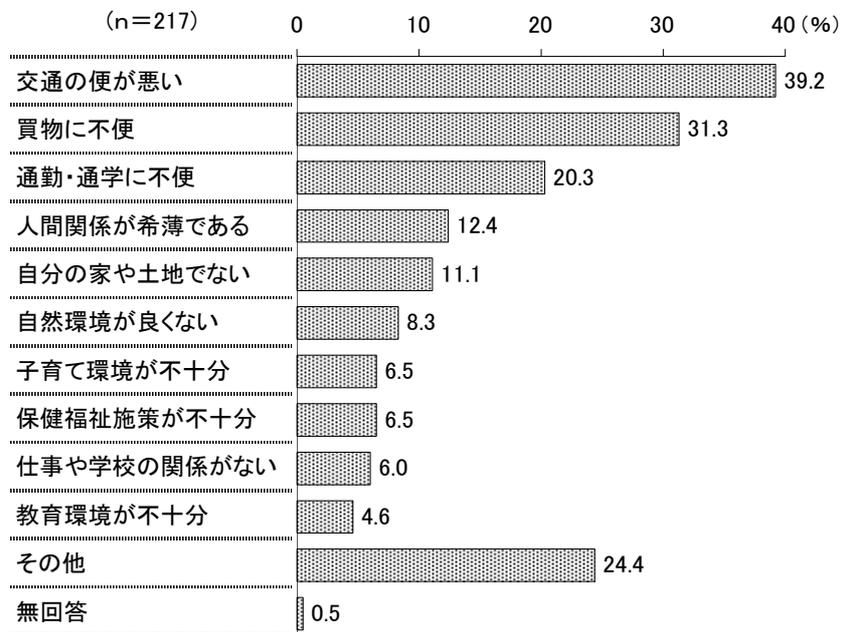
表1-2-2 住み続けたい理由—性別、年齢別、居住年数別

			自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	生まれ育ったところである	交通の便が良い	仕事や学校の関係がある	買物に便利である	子育て環境が充実している	人間関係が良い	通勤・通学に便利	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
全体		2,253	48.9	33.5	27.9	14.4	14.0	9.5	8.6	8.5	5.6	3.6	2.5	0.6	2.9	1.0
性別	男性	1,013	52.0	31.9	31.5	14.2	13.5	10.3	6.8	6.8	5.0	5.2	1.8	0.4	2.7	0.8
	女性	1,208	46.2	35.1	24.6	14.7	14.6	8.9	9.9	10.0	6.1	2.2	3.1	0.7	2.9	1.2
年齢別	20歳未満	13	15.4	30.8	38.5	15.4	7.7	38.5	15.4	-	-	-	7.7	-	-	-
	20～29歳	91	18.7	27.5	14.3	18.7	13.2	29.7	12.1	31.9	2.2	12.1	1.1	3.3	1.1	-
	30～39歳	282	35.8	24.1	24.8	19.9	11.3	13.1	4.3	35.5	2.8	6.0	2.8	1.1	2.8	0.4
	40～49歳	340	40.3	32.4	19.7	19.1	13.2	20.6	7.1	14.4	3.8	8.2	2.1	1.2	3.5	0.9
	50～59歳	306	54.2	36.3	23.5	13.4	17.0	13.4	8.8	2.0	4.9	5.6	2.0	0.7	2.6	0.3
	60～69歳	530	56.0	39.8	30.4	12.6	13.8	4.7	9.4	0.8	7.5	0.9	1.3	-	2.8	1.5
	70～79歳	483	52.8	33.5	34.8	9.7	16.4	1.2	11.0	-	6.6	0.2	4.1	0.2	2.5	1.4
	80歳以上	186	61.8	30.1	34.4	14.5	10.2	0.5	6.5	1.1	8.1	-	3.2	-	3.8	1.1
居住年数別	20年以上(生まれてからずっと)	648	51.7	35.3	21.3	40.4	8.8	5.9	4.2	8.0	4.0	1.7	0.5	0.3	1.4	0.9
	20年以上(移り住んで以来)	973	57.0	42.3	30.8	2.8	14.2	5.7	8.7	3.3	6.8	2.2	2.6	0.1	2.9	1.1
	10～19年(生まれてからずっと)	23	43.5	13.0	34.8	13.0	26.1	4.3	13.0	4.3	-	4.3	4.3	-	13.0	-
	10～19年(移り住んで以来)	263	41.1	27.4	26.2	3.8	20.2	18.3	13.3	11.4	6.1	4.2	2.3	1.5	3.8	0.8
	5～9年	145	26.9	11.0	35.9	2.1	15.9	21.4	11.7	23.4	6.2	9.7	6.9	1.4	4.1	1.4
	3～4年	75	24.0	16.0	32.0	12.0	17.3	17.3	10.7	24.0	5.3	12.0	5.3	-	5.3	-
	2年以下	100	25.0	4.0	28.0	7.0	22.0	26.0	15.0	23.0	3.0	12.0	7.0	4.0	2.0	-

(3) 市外に転出したい理由 (A・B：問3)

問. 「転出したい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで選んでください)

図1-3-1 市外に転出したい理由



【全体】

「できれば市外に転出したい」または「すぐにでも市外に転出したい」と答えた217人に、市外に転出したい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」(39.2%)が約4割で最も高く、次いで「買物に不便」(31.3%)、「通勤・通学に不便」(20.3%)、「人間関係が希薄である」(12.4%)、「自分の家や土地でない」(11.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位3項目については前回調査と同じ順位となっている。

表1-3-1 市外に転出したい理由—経年変化

調査年	n	(%)											
		交通の便が悪い	買物に不便	通勤・通学に不便	人間関係が希薄である	自分の家や土地でない	自然環境が良くない	子育て環境が不十分	保健福祉施策が不十分	仕事や学校との関係がない	教育環境が不十分	その他	無回答
平成27年度	217	39.2	31.3	20.3	12.4	11.1	8.3	6.5	6.5	6.0	4.6	24.4	0.5
平成25年度	227	38.3	31.3	19.4	11.9	14.1	3.5	1.3	5.3	4.0	3.1	30.8	0.0
平成23年度	177	41.2	29.4	22.0	8.5	14.1	8.5	7.9	6.2	5.6	6.2	22.6	2.8
平成21年度	329	45.0	33.1	19.5	10.3	10.6	12.2	-	8.5	5.2	10.6	18.5	0.3
平成19年度	331	42.3	25.4	26.0	7.6	10.0	12.4	-	9.1	5.4	10.9	23.6	0.3
平成17年度	182	45.1	33.5	28.0	6.0	3.8	12.6	-	9.3	7.1	8.8	23.6	0.0

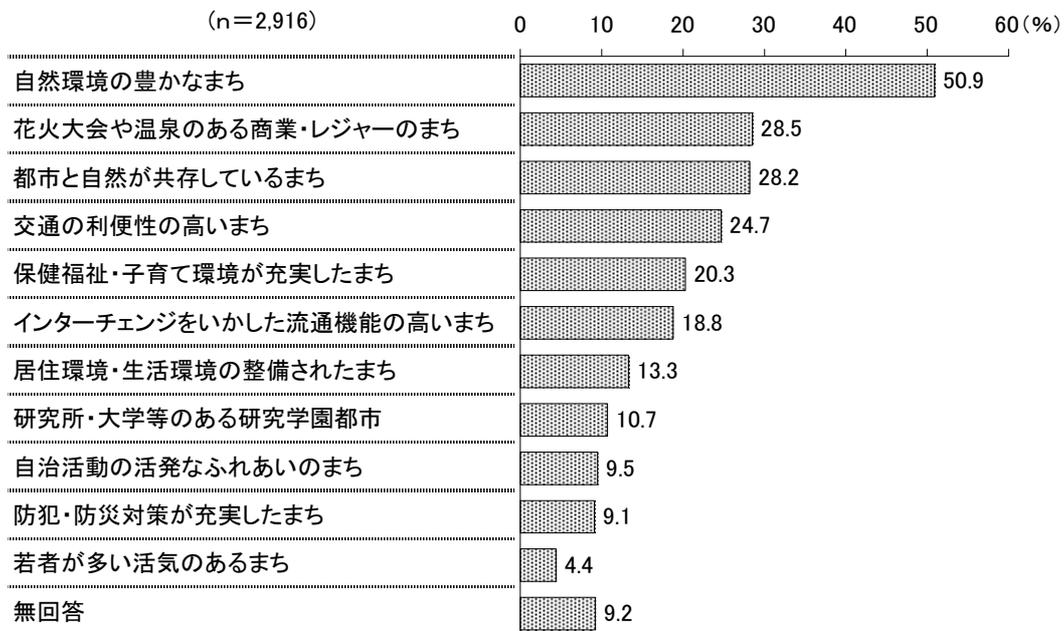
(注) 平成23年度調査以降、「子育て環境が不十分」を追加しているため、平成21年度以前は参考に掲載する。

2 市の現状と将来

(1) 現在のイメージ (A・B：問4①)

問. 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。(3つまで)

図2-1-1 現在のイメージ



【全体】

市の現在のイメージについて聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(50.9%) が約5割で最も高く、次いで「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」(28.5%)、「都市と自然が共存しているまち」(28.2%)、「交通の利便性の高いまち」(24.7%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(20.3%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位4項目は平成23年度調査以降同じ順位となっている。また、「都市と自然が共存しているまち」(28.2%)は前回調査(24.7%)より3.5ポイント増加している。

表2-1-1 現在のイメージ経年変化(上位5項目)

(%)

順位	平成27年度 (n=2,916)		平成25年度 (n=2,554)		平成23年度 (n=1,629)		平成21年度 (n=3,218)		平成19年度 (n=3,006)		平成17年度 (n=2,010)	
1	自然環境の豊かなまち	50.9	自然環境の豊かなまち	48.7	自然環境の豊かなまち	42.4	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち	45.7	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち	46.5	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち	49.0
2	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	28.5	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	30.1	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	14.0	恵まれた自然環境をもつまち	41.1	恵まれた自然環境をもつまち	42.9	恵まれた自然環境をもつまち	43.4
3	都市と自然が共存しているまち	28.2	都市と自然が共存しているまち	24.7	都市と自然が共存するまち	24.7	都市と自然が共存するまち	22.6	都市と自然が共存するまち	23.3	都市と自然が共存するまち	25.7
4	交通の利便性の高いまち	24.7	交通の利便性の高いまち	23.6	交通の利便性の高いまち	19.3	交通の利便性の高いまち	16.4	交通の利便性の高いまち	17.6	交通の利便性の高いまち	20.6
5	保健福祉・子育て環境が充実したまち	20.3	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	18.4	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	17.0	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち	6.7	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち	6.2	自治活動の活発なふれあいのまち	5.8

(注) 平成21年度調査以前は選択肢内容が異なるため、参考に掲載する。

【属性別】

性別で見ると、男性では「都市と自然が共存しているまち」（32.3%）が女性（24.8%）より7.5ポイント、「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（22.4%）が女性（16.2%）より6.2ポイント、「交通の利便性の高いまち」（27.7%）が女性（22.1%）より5.6ポイント高くなっている。一方、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（24.1%）が男性（15.7%）より8.4ポイント、「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」（31.6%）が男性（25.0%）より6.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳以上で「自然環境豊かなまち」が5割台と高くなっている。30～39歳では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（46.4%）が5割近くと高くなっている。

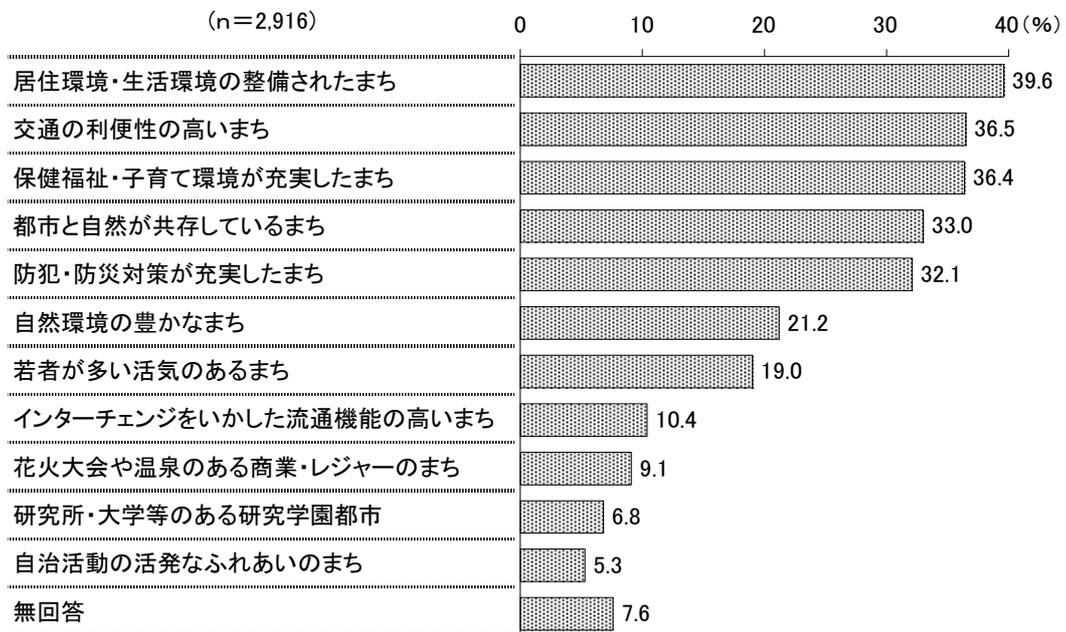
表2-1-2 現在のイメージ性別、年齢別

		(%)												
		n	自然環境の豊かなまち	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	学園都市・大学等のある研究都市	自治活動の活発なふれあいのまち	防犯・防災対策が充実したまち	若者が多い活気のあるまち	無回答
全 体		2,916	50.9	28.5	28.2	24.7	20.3	18.8	13.3	10.7	9.5	9.1	4.4	9.2
性別	男 性	1,292	51.1	25.0	32.3	27.7	15.7	22.4	14.6	11.3	8.4	9.1	4.5	8.4
	女 性	1,586	50.4	31.6	24.8	22.1	24.1	16.2	12.2	10.3	10.2	9.0	4.4	9.8
年齢別	20歳未満	21	47.6	23.8	38.1	9.5	14.3	14.3	14.3	28.6	-	14.3	-	-
	20～29歳	181	40.9	36.5	26.0	23.8	28.7	17.1	13.3	13.3	7.2	5.0	11.0	6.6
	30～39歳	379	50.1	38.3	26.4	21.1	46.4	18.5	12.4	7.4	6.9	5.3	4.0	4.0
	40～49歳	472	50.4	35.0	28.6	19.5	31.8	19.7	11.4	10.4	9.3	6.4	3.8	7.2
	50～59歳	430	52.6	37.2	32.3	24.9	10.9	28.1	11.9	14.0	9.3	5.6	2.8	4.7
	60～69歳	656	52.9	25.3	29.0	28.2	10.7	19.8	13.4	10.7	10.8	9.6	2.9	10.1
	70～79歳	546	51.1	16.5	25.3	27.7	12.8	14.1	15.6	10.1	10.8	15.8	5.1	16.3
	80歳以上	206	50.5	14.1	26.2	25.7	8.7	10.7	15.0	8.3	10.7	13.1	7.3	15.0

(2) 将来のイメージ (A・B：問4②)

問. 将来どのようなまちになってほしいですか。(3つまで)

図2-2-1 将来のイメージ



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(39.6%)が約4割で最も高く、次いで「交通の利便性の高いまち」(36.5%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(36.4%)、「都市と自然が共存しているまち」(33.0%)、「防犯・防災対策が充実したまち」(32.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は前回調査と同じ順位となっている。また、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(36.4%)は前回調査(32.5%)より3.9ポイント増加している。

表2-2-1 将来のイメージ経年変化(上位5項目)

(%)

順位	平成27年調査 (n=2,916)		平成25年度 (n=2,554)		平成23年度 (n=1,629)		平成21年度 (n=3,218)		平成19年度 (n=3,006)		平成17年度 (n=2,010)	
1	居住環境・生活環境の整備されたまち	39.6	居住環境・生活環境の整備されたまち	39.3	都市と自然が共存しているまち	39.0	自然環境の豊かな都市	56.3	自然環境の豊かな都市	61.3	自然環境の豊かな都市	75.3
2	交通の利便性の高いまち	36.5	交通の利便性の高いまち	33.6	居住環境・生活環境の整備されたまち	35.4	居住環境・生活環境の整備されたまち	49.7	居住環境・生活環境の整備されたまち	52.3	保険福祉都市	35.5
3	保健福祉・子育て環境が充実したまち	36.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち	32.5	交通の利便性の高いまち	34.5	防犯・防災対策が充実したまち	47.3	防犯・防災対策が充実したまち	47.3	心のふれあいのある交流都市	30.4
4	都市と自然が共存しているまち	33.0	都市と自然が共存しているまち	31.9	防犯・防災対策が充実したまち	32.5	保険福祉都市	23.2	保険福祉都市	26.4	居住環境・生活環境の整備されたまち	29.9
5	防犯・防災対策が充実したまち	32.1	防犯・防災対策が充実したまち	30.5	保健福祉・子育て環境が充実したまち	31.4	若者が多い活気のあるまち	20.4	若者が多い活気のあるまち	17.7	若者が多い活気のあるまち	20.8

(注) 平成21年度調査以前は選択肢内容が異なるため、参考に掲載する。

【属性別】

性別で見ると、男性では「都市と自然が共存しているまち」（35.3%）が女性（31.2%）より4.1ポイント、「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（12.6%）が女性（8.6%）より4.0ポイント高くなっている。一方、女性では「防犯・防災対策が充実したまち」（34.6%）が男性（29.0%）より5.6ポイント、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（38.4%）が男性（34.1%）より4.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「居住環境・生活環境の整備されたまち」（46.5%）が5割近くと高くなっている。30～39歳では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（49.6%）が約5割と高くなっている。

表2-2-2 将来のイメージ性別、年齢別

(%)

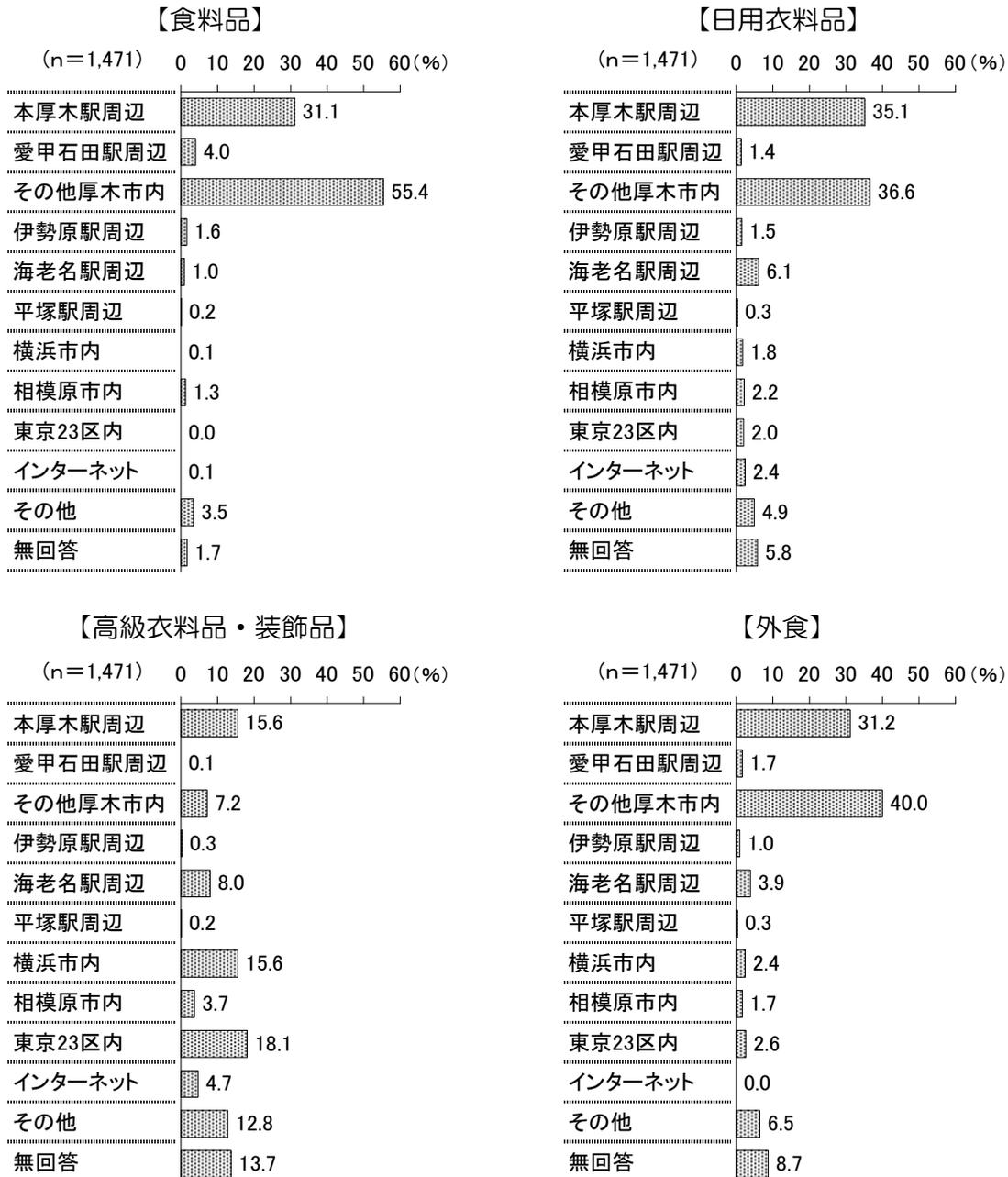
		n	居住環境・生活環境の整備されたまち	交通の利便性の高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	都市と自然が共存しているまち	防犯・防災対策が充実したまち	自然環境の豊かなまち	若者が多い活気のあるまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	学園都市・大学等のある研究都市	自治活動の活発なふれあいのまち	無回答
全 体		2,916	39.6	36.5	36.4	33.0	32.1	21.2	19.0	10.4	9.1	6.8	5.3	7.6
性別	男 性	1,292	38.5	35.3	34.1	35.3	29.0	22.2	20.0	12.6	8.8	8.9	5.6	6.4
	女 性	1,586	40.4	37.5	38.4	31.2	34.6	20.2	18.3	8.6	9.3	5.1	5.1	8.6
年齢別	20歳未満	21	19.0	52.4	9.5	47.6	19.0	19.0	33.3	9.5	19.0	14.3	4.8	4.8
	20～29歳	181	38.1	48.1	43.6	34.8	26.5	12.2	13.8	8.3	20.4	5.0	1.7	4.4
	30～39歳	379	39.1	38.3	49.6	34.8	36.9	14.8	17.4	14.0	11.9	4.2	3.4	3.7
	40～49歳	472	42.8	37.9	41.3	37.5	33.7	17.4	18.9	9.1	14.8	7.6	3.6	4.2
	50～59歳	430	46.5	34.4	37.0	39.1	34.7	21.4	20.9	12.6	7.0	9.1	4.2	3.5
	60～69歳	656	42.8	33.5	36.6	31.1	32.6	22.1	20.9	10.5	6.1	6.1	6.7	7.6
	70～79歳	546	31.1	36.1	26.0	27.3	28.6	27.7	20.7	8.2	4.9	7.0	8.4	15.2
80歳以上	206	33.0	33.5	22.8	24.8	27.2	28.6	12.6	9.7	4.9	7.3	6.3	15.0	

3 産業・商業

(1) 買い物をする場所 (A: 問5)

問. ふだんどこのお店を利用していますか。(それぞれ該当するものを1つ選んでください)

図3-1-1 買い物をする場所



【全体】

買い物をする場所について4つの品目別に聞いたところ、【食料品】は「その他厚木市内」(55.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(31.1%)が3割を超えている。【日用衣料品】は「その他厚木市内」(36.6%)が4割近く、「本厚木駅周辺」(35.1%)が3割半ばとなっている。【高級衣料品・装飾品】は「東京23区内」(18.1%)が2割近くで最も高く、「本厚木駅周辺」と「横浜市内」(ともに15.6%)がともに1割半ばとなっている。【外食】は「その他厚木市内」(40.0%)が4割で最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(31.2%)が3割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、【食料品】は「その他厚木市内」(55.4%)が前回調査(52.0%)より3.4ポイント増加し、「本厚木駅周辺」(31.1%)が前回調査(37.2%)より6.1ポイント減少している。【日用衣料品】は「その他厚木市内」(36.6%)が前回調査(30.0%)より6.6ポイント増加している。【高級衣料品・装飾品】では大きな差異はみられない。

表3-1-1 買い物をする場所—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	平成27年度 (n=1,417)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=815)		平成21年度 (n=1,608)		
食料品	1	その他厚木市内	55.4	その他厚木市内	52.0	その他厚木市内	56.8	その他厚木市内	52.3
	2	本厚木駅周辺	31.1	本厚木駅周辺	37.2	本厚木駅周辺	30.3	本厚木駅周辺	33.1
	3	愛甲石田駅周辺	4.0	愛甲石田駅周辺	2.6	愛甲石田駅周辺	3.1	愛甲石田駅周辺	3.2
	4	伊勢原駅周辺	1.6	海老名駅周辺	1.8	海老名駅周辺	1.0	海老名駅周辺	0.9
	5	相模原市内	1.3	伊勢原駅周辺	1.4	伊勢原駅周辺	0.7	伊勢原駅周辺	0.7
日用衣料品	1	その他厚木市内	36.6	本厚木駅周辺	38.8	本厚木駅周辺	38.2	本厚木駅周辺	40.2
	2	本厚木駅周辺	35.1	その他厚木市内	30.0	その他厚木市内	36.4	その他厚木市内	38.1
	3	海老名駅周辺	6.1	海老名駅周辺	8.0	海老名駅周辺	5.2	海老名駅周辺	3.6
	4	インターネット	2.4	町田市内	5.0	町田市内	3.3	町田市内	2.1
	5	相模原市内	2.2	インターネットショッピング	4.3	インターネットショッピング	2.1	インターネットショッピング	1.1
高級衣料品・装飾品	1	東京23区内	18.1	東京23区内	19.8	本厚木駅周辺	20.0	本厚木駅周辺	23.6
	2	本厚木駅周辺／ 横浜市内(同率)	15.6	横浜市内	18.1	横浜市内	15.5	東京23区内	13.7
	3			本厚木駅周辺	16.1	東京23区内	13.5	横浜市内	13.4
	4	海老名駅周辺	8.0	町田市内	12.3	町田市内	10.2	その他厚木市内	11.0
	5	その他厚木市内	7.2	海老名駅周辺	7.4	その他厚木市内	8.6	町田市内	9.6

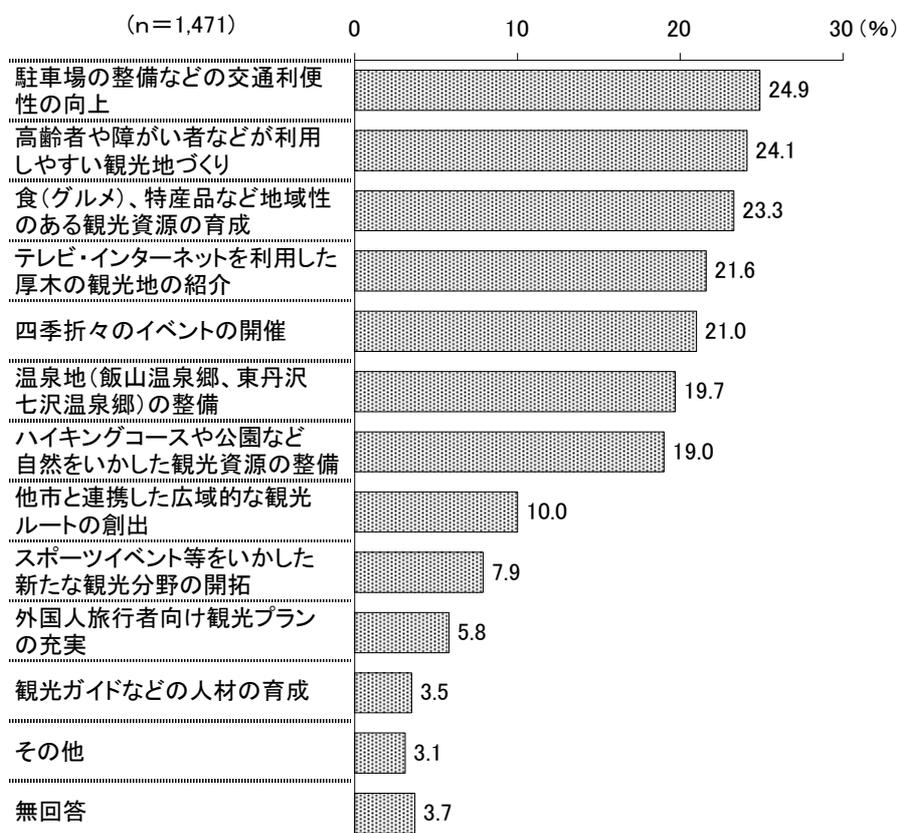
(注) 平成27年度調査では、【外食】の項目を追加している。

また、平成27年度調査では、「相模原市内」を追加し、「町田市内」を削除している。

(2) 観光地活性化のための取組 (A: 問6)

問. 自然に恵まれ温泉もある厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要だと思いますか。(2つまで選んでください。)

図3-2-1 観光地活性化のための取組



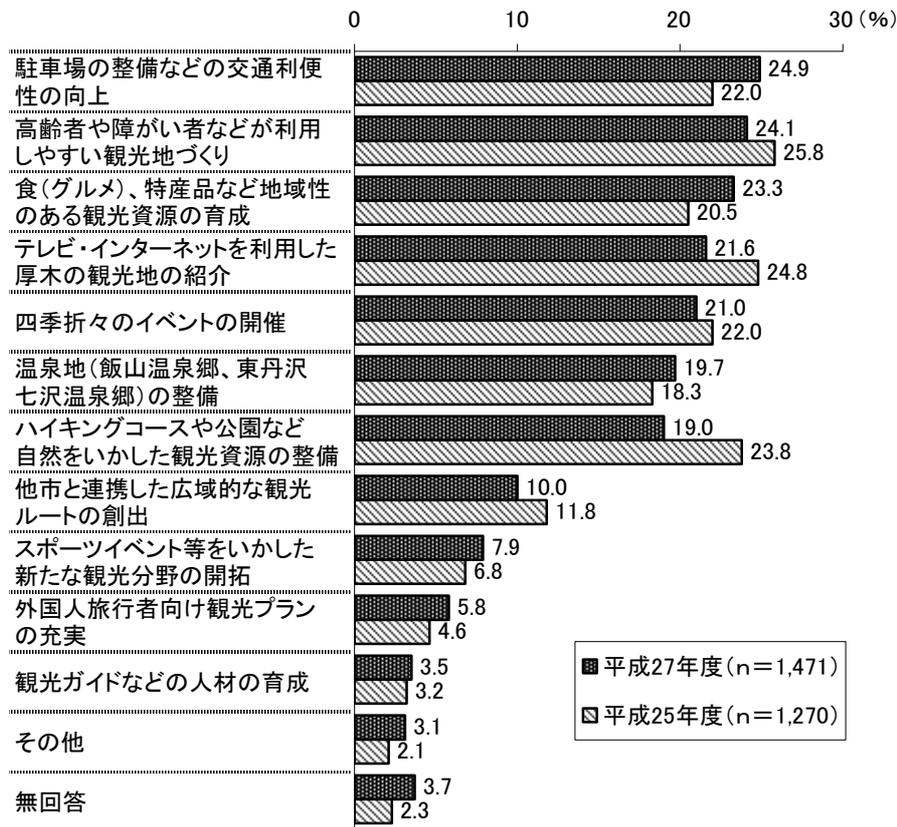
【全体】

観光地活性化のための取組について聞いたところ、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(24.9%)と「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(24.1%)がともに2割半ばで高く、次いで「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(23.3%)、「テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介」(21.6%)、「四季折々のイベントの開催」(21.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「ハイキングコースや公園など自然をいかした観光資源の整備」(19.0%)は前回調査(23.8%)より4.8ポイント減少し、「テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介」(21.6%)は前回調査(24.8%)より3.2ポイント減少している。

図3-2-2 観光地活性化のための取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(26.7%)が男性(20.6%)より6.1ポイント、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(26.7%)が男性(22.5%)より4.2ポイント高くなっている。一方、男性では「スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓」(10.6%)が女性(5.8%)より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(33.3%)が3割を超えて高くなっている。70歳以上の年代では「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」が約4割と高くなっている。30～39歳では「温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備」(32.8%)が3割を超えて高くなっている。

表3-2-1 観光地活性化のための取組一性別、年齢別

		(%)																	
		n	の駐車場の整備などの交通利便性の向上	や高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	性のある観光資源の育成	食(グルメ)、特産品など地域性	テレビ・厚木の観光地を紹介したインターネット	四季折々のイベントの開催	温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備	然をいかした観光資源の整備	ハイキングコースや公園など自然をいかした観光資源の整備	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	新たな観光分野の開拓	スポーツイベント等をいかした	充実	外国人旅行者向け観光プランの	観光ガイドなどの人材の育成	その他	無回答
全 体		1,471	24.9	24.1	23.3	21.6	21.0	19.7	19.0	10.0	7.9	5.8	3.5	3.1	3.7				
性別	男 性	649	22.5	20.6	21.6	21.9	21.3	21.7	19.1	12.2	10.6	5.2	3.2	3.7	3.4				
	女 性	804	26.7	26.7	25.0	21.5	20.9	18.2	18.9	8.3	5.8	5.8	3.9	2.6	4.0				
年齢別	20歳未満	7	57.1	14.3	42.9	14.3	14.3	28.6	-	14.3	-	-	14.3	-	-				
	20～29歳	90	33.3	10.0	28.9	22.2	17.8	24.4	16.7	8.9	10.0	6.7	3.3	1.1	-				
	30～39歳	195	27.7	14.9	22.6	23.6	22.6	32.8	15.9	9.2	6.7	9.2	3.6	2.1	1.0				
	40～49歳	228	26.3	11.8	21.5	22.4	23.7	25.4	14.9	11.0	10.1	10.5	5.7	4.4	2.2				
	50～59歳	223	19.3	17.9	27.8	21.5	27.4	23.3	17.0	10.8	10.8	5.8	1.8	5.4	2.2				
	60～69歳	323	26.6	28.5	26.3	20.7	20.1	12.1	23.8	11.8	7.4	3.4	3.7	1.5	3.7				
	70～79歳	286	23.1	39.2	19.6	21.7	15.4	11.9	20.3	8.4	6.3	2.1	3.8	3.1	7.7				
80歳以上	110	20.0	39.1	15.5	19.1	19.1	14.5	22.7	7.3	4.5	3.6	0.9	4.5	8.2					

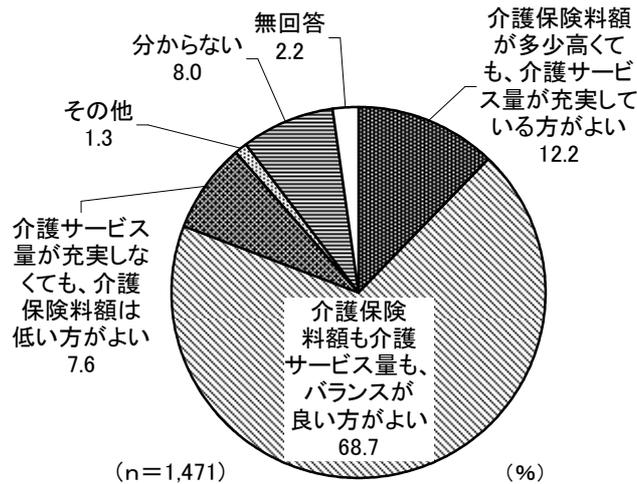
4 福祉・人権

(1) 介護保険料の金額設定 (A: 問7)

問. 平成27年度に改正された介護保険制度の介護保険料の額は、見込まれる介護サービスの総量によって決まる仕組みとなっています。介護保険料額と介護サービス量のバランスについて、どう考えますか。(1つだけ選んでください)

(対象年齢でない方は、対象者になることを想定して回答してください。)

図4-1-1 介護保険料の金額設定



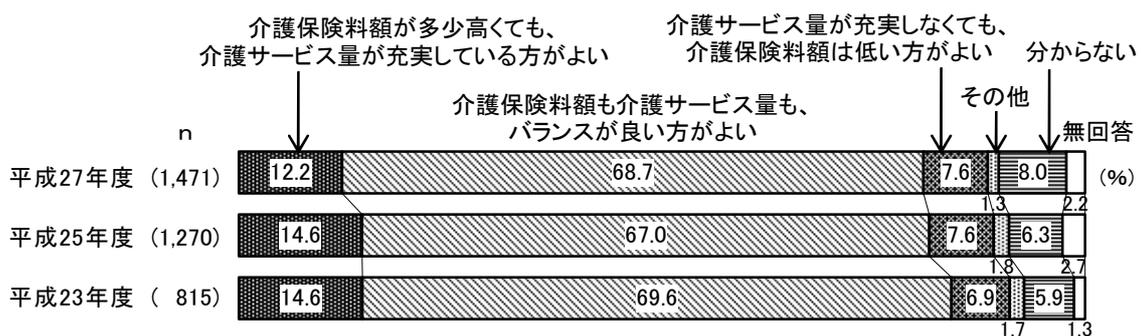
【全体】

介護保険料額と介護サービス量のバランスについてどう考えるか聞いたところ、「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(68.7%)が7割近くで最も高くなっている。「介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい」(12.2%)は1割を超え、「介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい」(7.6%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、大きな差異はみられない。

図4-1-2 介護保険料の金額設定—経年変化

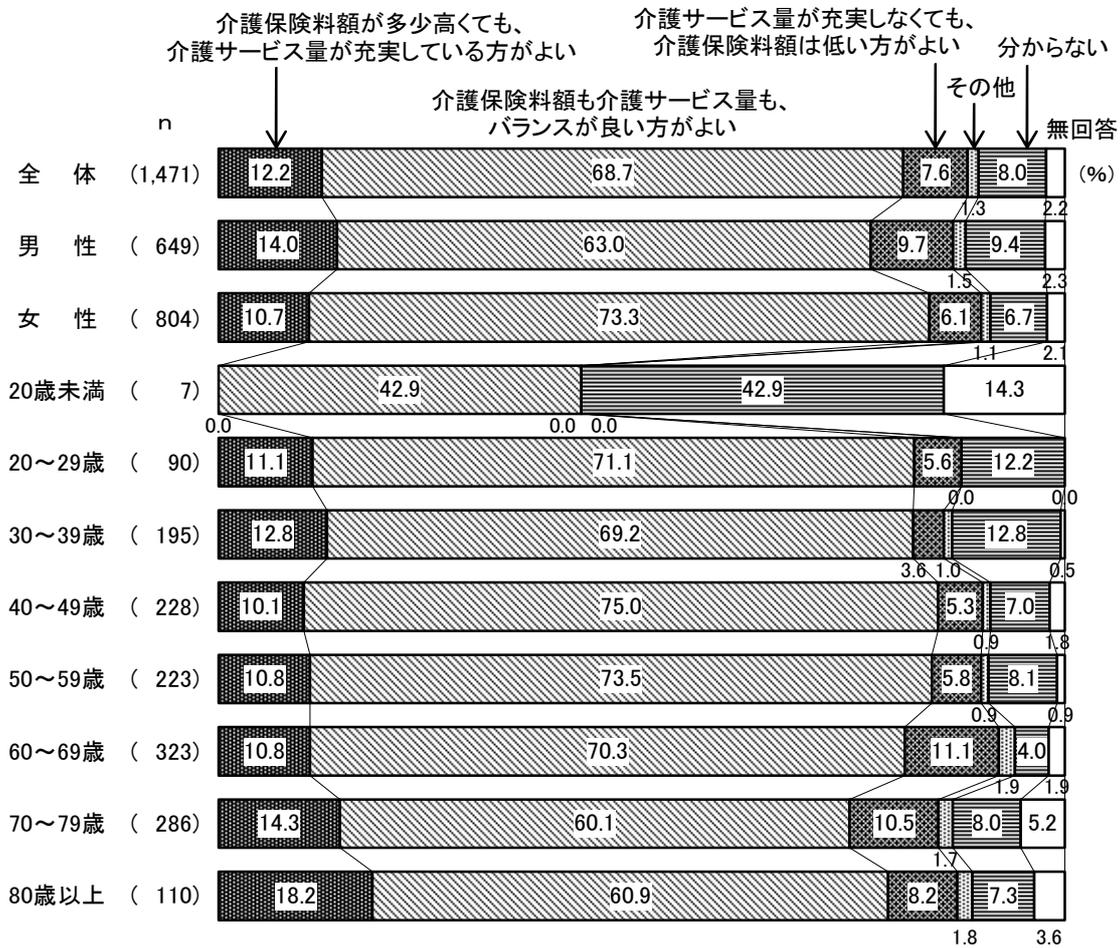


【属性別】

性別で見ると、女性では「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(73.3%)が男性(63.0%)より10.3ポイント高くなっている。一方、男性では「介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい」(9.7%)が女性(6.1%)より3.6ポイント、「介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい」(14.0%)が女性(10.7%)より3.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(75.0%)が7割半ばと高くなっている。80歳以上では「介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい」(18.2%)が2割近くと高くなっている。

図4-1-3 介護保険料の金額設定一性別、年齢別

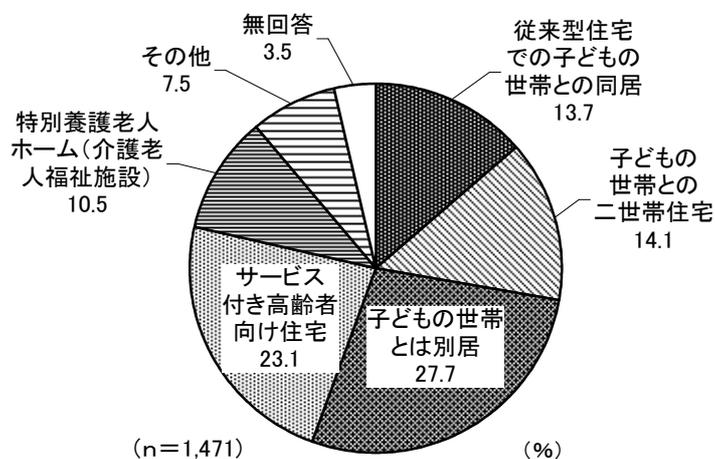


(2) 高齢時の居住形態 (A:問8)

問. あなた自身が高齢になった場合、どのような居住形態を望んでいますか。

(現在65歳以上の方は、どのような居住形態を望んでいますか。)(1つだけ選んでください)

図4-2-1 高齢時の居住形態



【全体】

高齢になった場合、どのような居住形態を望んでいるか聞いたところ、「子どもの世帯とは別居」(27.7%)が3割近くで最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅」(23.1%)、「子どもの世帯との二世帯住宅」(14.1%)、「従来型住宅での子どもの世帯との同居」(13.7%)、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」(10.5%)となっている。

【経年変化】

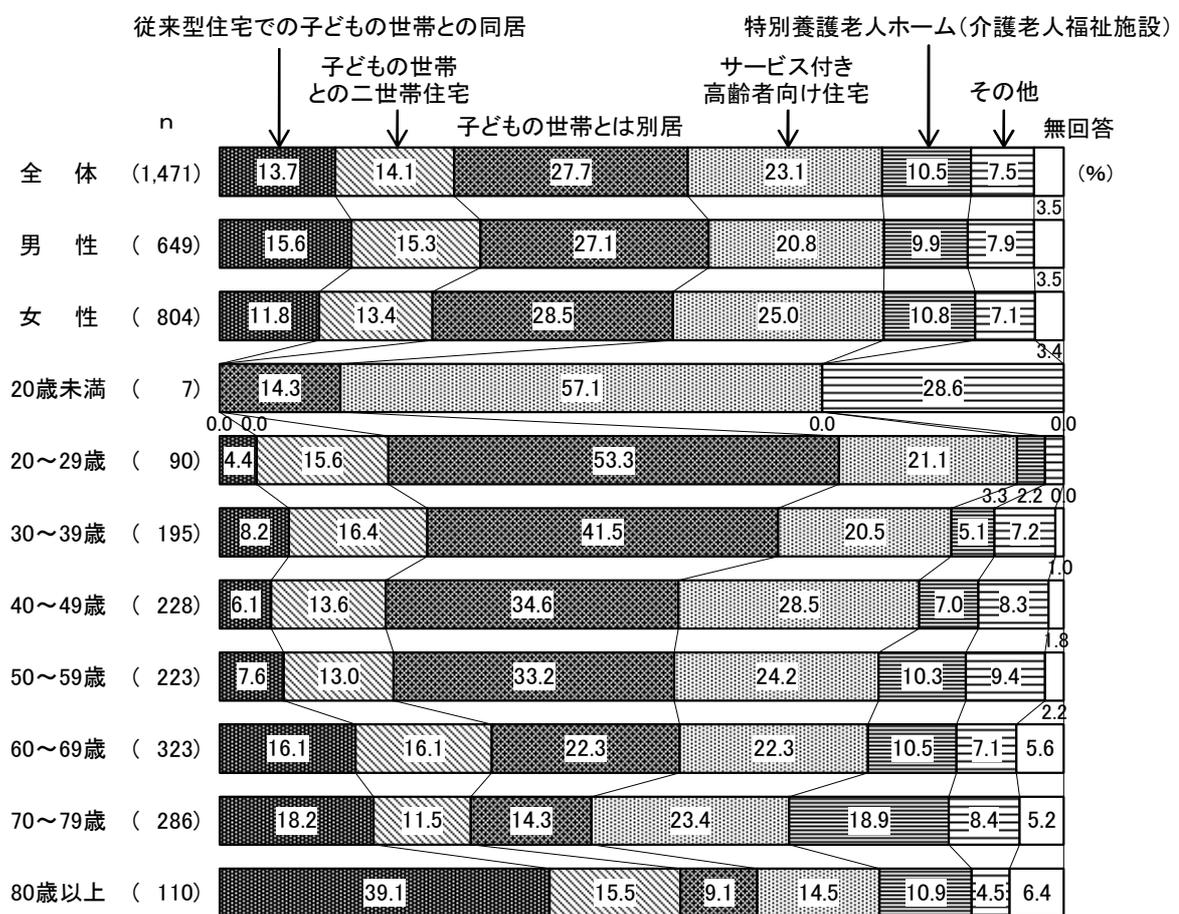
選択肢が異なるため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「サービス付き高齢者向け住宅」(25.0%)が男性(20.8%)より4.2ポイント高くなっている。一方、男性では「従来型住宅での子どもの世帯との同居」(15.6%)が女性(11.8%)より3.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「子どもの世帯とは別居」(53.3%)が5割を超えて高くなっている。80歳以上では「従来型住宅での子どもの世帯との同居」(39.1%)が約4割と高くなっている。70～79歳では「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」(18.9%)が2割近くと高くなっている。

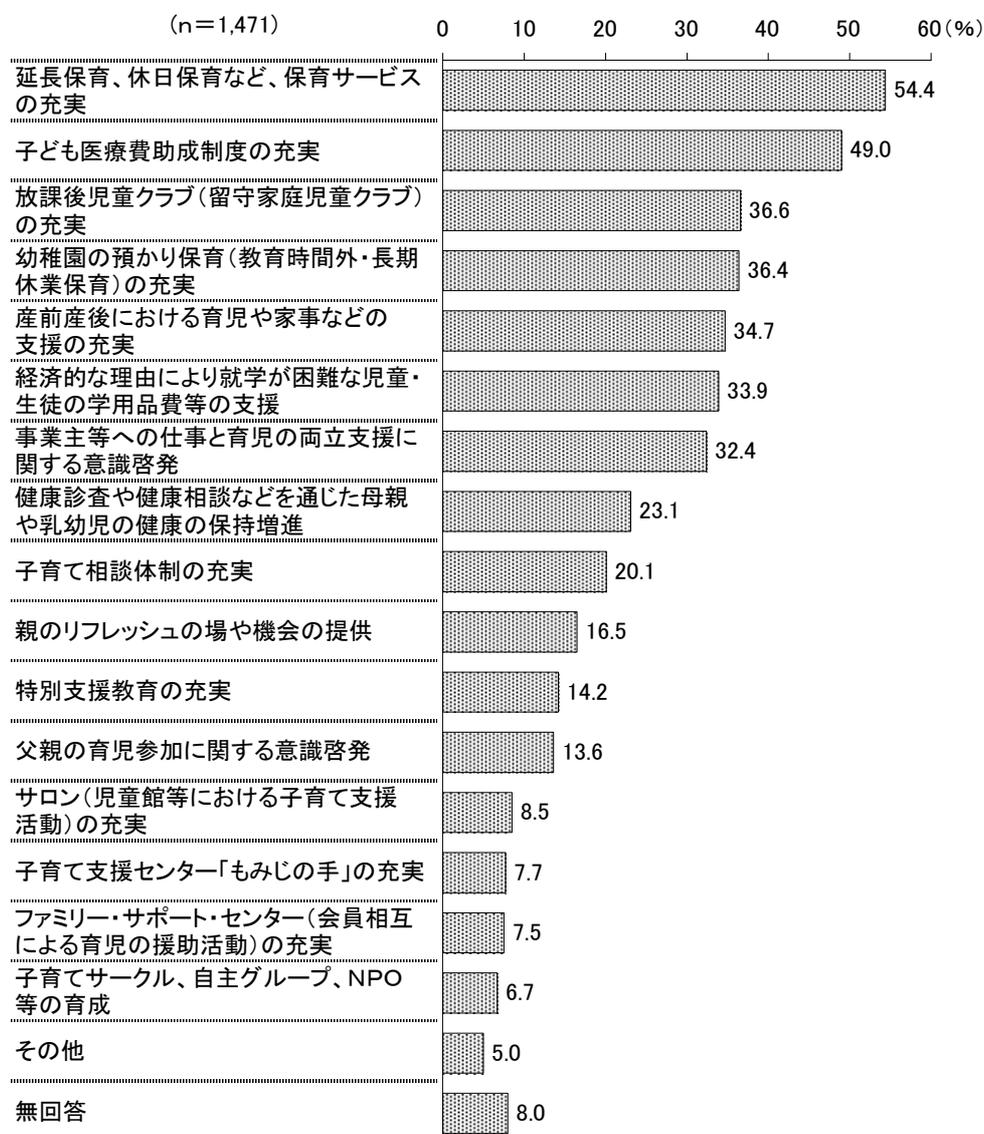
図4-2-2 高齢時の居住形態一性別、年齢別



(3) 子どもを産み育てられる環境（A：問9）

問. 厚木市では「子育て・教育環境日本一」を目指していますが、安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、必要だと思うことは何ですか。（5つまで選んでください）

図4-3-1 子どもを産み育てられる環境



【全体】

安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、必要だと思うことを聞いたところ、「延長保育、休日保育など、保育サービスの充実」（54.4%）が5割半ばで最も高く、次いで「子ども医療費助成制度の充実」（49.0%）、「放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実」（36.6%）、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（36.4%）、「産前産後における育児や家事などの支援の充実」（34.7%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「子ども医療費助成制度の充実」と「放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実」は前回調査より順位が上昇している。「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（36.4％）は前回調査（49.9％）より13.5ポイント減少している。「産前産後における育児や家事などの支援の充実」（34.7％）は前回調査（44.6％）より9.9ポイント減少している。

表4-3-1 子どもを産み育てられる環境—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成27年度 (n=1,471)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=815)		平成21年度 (n=1,608)		平成19年度 (n=1,500)	
1	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	54.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	56.7	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	67.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	64.6	小児医療の充実	38.7
2	子ども医療費助成制度の充実	49.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	49.9	小児医療(子ども医療費の助成等)の充実	49.0	小児医療体制(小児救急医療などの整備)の充実	59.6	子どもが安心して外出できる環境の整備	37.7
3	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	36.6	子ども医療費助成制度の充実	49.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	42.2	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	41.0	保育サービスの充実	35.1
4	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	36.4	産前産後における育児や家事などの支援の充実	44.6	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	40.0	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	35.6	安心・安全のまちづくりの推進	33.3
5	産前産後における育児や家事などの支援の充実	34.7	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	37.8	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	32.9	健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保	29.7	職業生活と家庭生活の両立の支援	27.4

(注1) 平成27年度調査では、「経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の学用品費等の支援」と「特別支援教育の充実」を追加している。

(注2) 平成21年度調査以降は選択可能数が5つまで、平成19年度調査では選択可能数が3つまでとしていた。

(注3) 「子ども医療費助成制度の充実」は、平成23年度調査では「小児医療（子ども医療費の助成等）の充実」、平成21年度調査では「小児医療体制（小児救急医療などの整備）の充実」、平成19年度調査では「小児医療の充実」となっていた。

(注4) 「健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進」は、平成25年度調査までは「健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保」となっていた。

(注5) 平成19年度調査は選択肢内容が異なるため、参考に掲載する。

【属性別】

性別で見ると、女性では「放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実」（43.5%）が男性（27.9%）より15.6ポイント高くなっている。一方、男性では「健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進」（27.3%）が女性（20.0%）より7.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳から59歳では「延長保育、休日保育など、保育サービスの充実」が6割台と高くなっている。また、20歳から39歳で「子ども医療費助成制度の充実」が6割台と高くなっている。

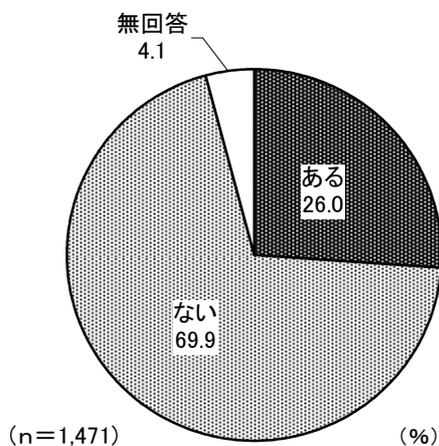
表4-3-2 子どもを産み育てられる環境—性別、年齢別

		n	(%)																	
			延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	子ども医療費助成制度の充実	放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実	幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実	産前産後における育児や家事などの支援の充実	経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の学用品費等の支援	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進	子育て相談体制の充実	親のリフレキシユの場や機会の提供	特別支援教育の充実	父親の育児参加に関する意識啓発	サロン（児童館等）における子育て支援活動の充実	子育て支援センター「もみじの手」の充実	ファミリー・サポート・センター（会員相互による育児の援助活動）の充実	子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成	その他	無回答
全 体		1,471	54.4	49.0	36.6	36.4	34.7	33.9	32.4	23.1	20.1	16.5	14.2	13.6	8.5	7.7	7.5	6.7	5.0	8.0
性別	男 性	649	55.9	51.3	27.9	37.9	35.4	34.5	30.5	27.3	21.7	16.0	12.8	11.7	7.9	9.4	8.5	8.0	5.7	7.1
	女 性	804	53.9	47.5	43.5	35.2	34.2	33.5	34.1	20.0	18.9	16.7	15.3	15.0	9.1	6.5	6.8	5.8	4.4	8.3
年齢別	20歳未満	7	42.9	71.4	28.6	71.4	57.1	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	-	14.3	-
	20～29歳	90	58.9	60.0	23.3	42.2	52.2	36.7	24.4	27.8	17.8	31.1	10.0	20.0	11.1	11.1	1.1	6.7	7.8	-
	30～39歳	195	60.0	62.1	43.1	47.7	37.4	33.8	39.5	22.6	17.9	21.5	12.3	7.7	7.7	6.7	7.2	4.1	6.2	0.5
	40～49歳	228	61.4	57.9	44.7	42.5	30.3	31.6	28.1	20.6	17.5	14.5	18.0	11.0	9.2	3.5	8.8	6.6	5.3	2.6
	50～59歳	223	63.7	48.4	41.7	41.7	28.3	32.3	35.4	23.8	24.7	16.1	17.5	11.2	9.4	4.0	9.0	4.9	5.4	1.3
	60～69歳	323	54.8	45.2	35.6	32.2	35.3	37.8	33.7	23.5	26.9	15.2	16.4	15.5	9.6	13.6	9.6	10.8	3.7	6.2
	70～79歳	286	43.7	40.2	31.1	25.2	33.9	31.8	31.8	22.4	16.1	14.7	11.5	16.4	6.6	6.3	5.9	5.2	3.5	19.9
80歳以上	110	35.5	32.7	24.5	24.5	37.3	33.6	27.3	25.5	13.6	10.0	7.3	14.5	5.5	9.1	5.5	8.2	6.4	26.4	

(4) 人権侵害を受けた経験 (A: 問11)

問. 自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(1つだけ選んでください)

図4-4-1 人権侵害を受けた経験



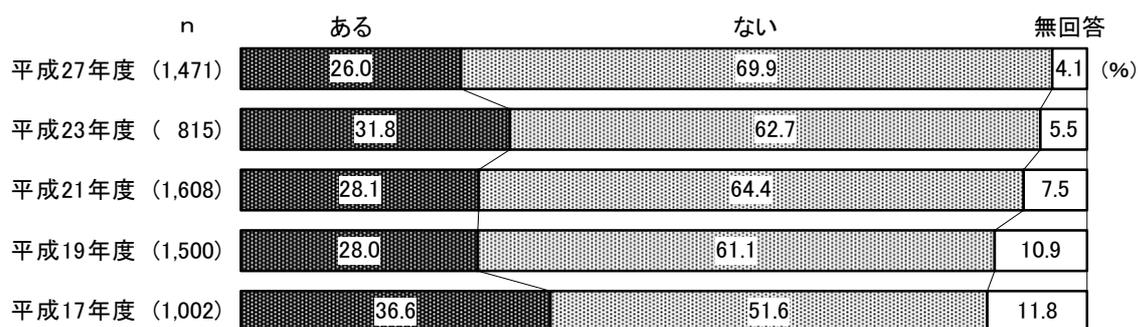
【全体】

人権侵害を受けた経験について聞いたところ、「ある」(26.0%)が3割近く、「ない」(69.9%)は約7割となっている。

【経年変化】

過去の調査とは質問の形式が異なるため、参考までに掲載する。

図4-4-2 人権侵害を受けた経験—経年変化

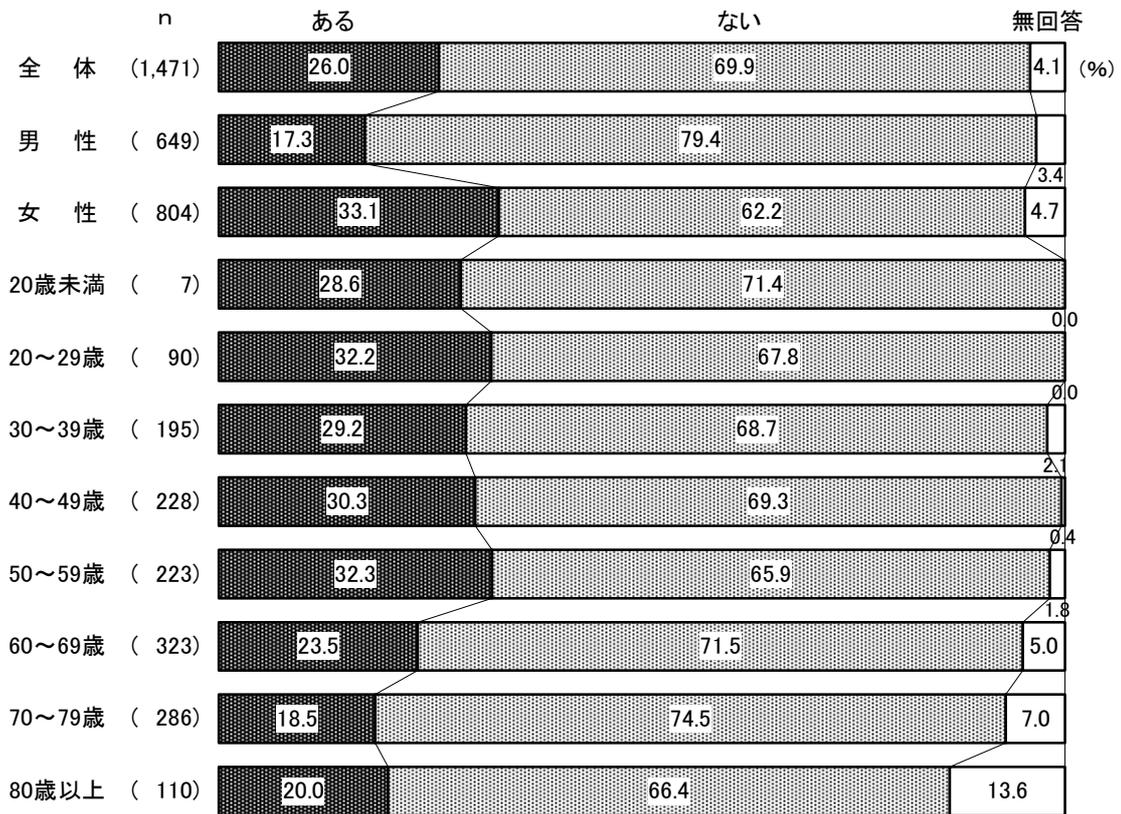


【属性別】

性別で見ると、女性では「ある」(33.1%)が男性(17.3%)より15.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳から59歳では約3割が「ある」と答えている。

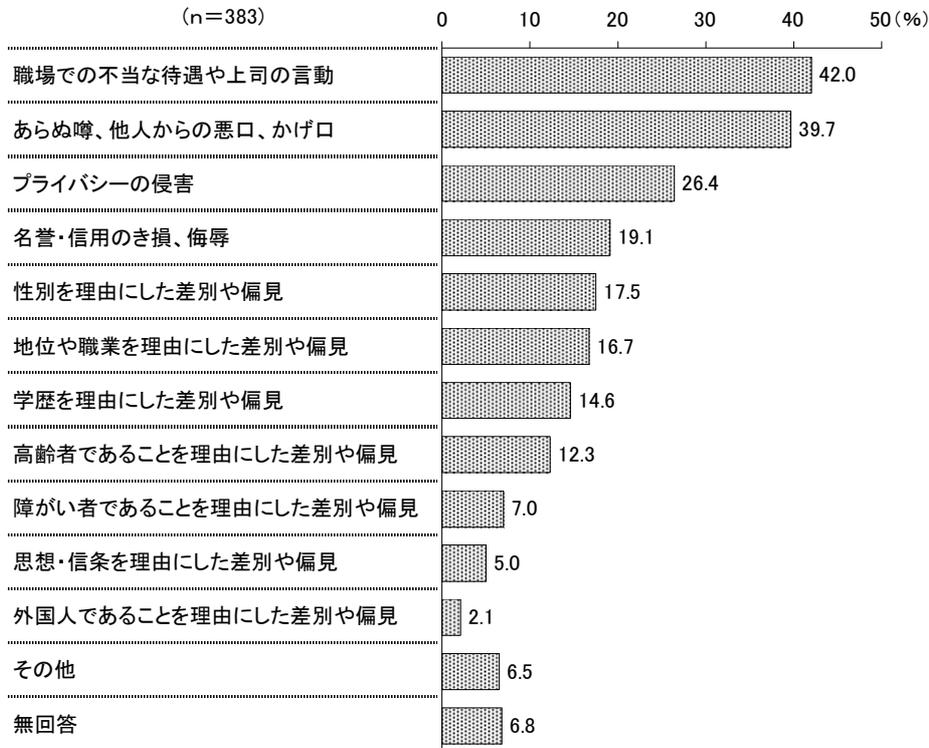
図4-4-3 人権侵害を受けた経験—性別、年齢別



(5) 経験した人権侵害の内容 (A: 問12)

問. 人権侵害を受けた経験が「ある」とお答えの方にお聞きします。それはどのような人権侵害ですか。(いくつでも選んでください)

図4-5-1 経験した人権侵害の内容



【全体】

人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた383人に、経験した人権侵害の内容について聞いたところ、「職場での不当な待遇や上司の言動」(42.0%)が4割を超えて最も高く、次いで「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(39.7%)、「プライバシーの侵害」(26.4%)、「名誉・信用のき損、侮辱」(19.1%)、「性別を理由にした差別や偏見」(17.5%)となっている。

【経年変化】

過去の調査とは質問の形式が異なるため、参考までに掲載する。

図4-5-2 経験した人権侵害の内容—経年変化

調査年	n	(%)													
		職場での不当な待遇や上司の言動	あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	プライバシーの侵害	名誉・信用のき損、侮辱	性別を理由にした差別や偏見	地位や職業を理由にした差別や偏見	学歴を理由にした差別や偏見	高齢者であることを理由にした差別や偏見	障がい者であることを理由にした差別や偏見	思想・信条を理由にした差別や偏見	外国人であることを理由にした差別や偏見	その他	無回答	
平成27年度	383	42.0	39.7	26.4	19.1	17.5	16.7	14.6	12.3	7.0	5.0	2.1	6.5	6.8	
平成23年度	304	27.6	34.5	18.8	11.2	8.6	11.5	9.2	8.2	6.6	3.9	3.9	6.9	14.8	
平成21年度	573	29.1	29.7	16.2	11.9	10.6	10.6	11.2	7.3	4.9	3.1	2.1	5.8	21.1	
平成19年度	583	20.6	30.4	16.8	10.6	7.4	8.1	8.4	10.8	4.3	3.4	0.9	3.8	28.0	
平成17年度	485	25.8	33.4	20.4	11.3	11.1	10.7	9.1	7.2	3.7	5.4	1.2	3.3	24.3	

【属性別】

性別で見ると、女性では「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(45.9%)が男性(25.9%)より20.0ポイント、「性別を理由にした差別や偏見」(22.2%)が男性(5.4%)より16.8ポイント、「プライバシーの侵害」(28.6%)が男性(19.6%)より9.0ポイント高くなっている。一方、男性では「学歴を理由にした差別や偏見」(20.5%)が女性(11.3%)より9.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「職場での不当な待遇や上司の言動」(55.1%)が5割半ばと高くなっている。30～39歳では「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(57.9%)が6割近くと高くなっている。70～79歳では「プライバシーの侵害」(35.8%)が3割半ばと高くなっている。

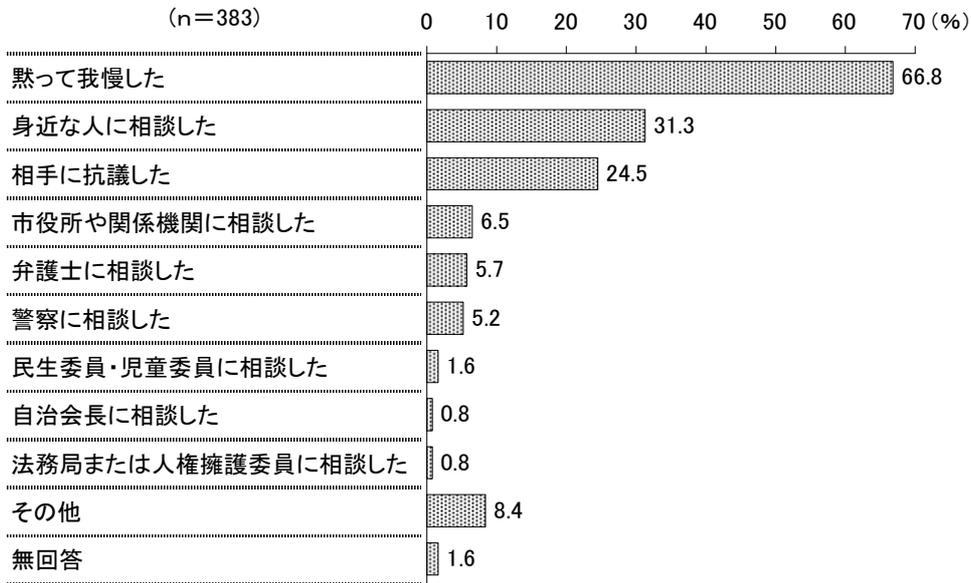
表4-5-1 経験した人権侵害の内容—性別、年齢別

			職場での不当な待遇や上司の言動	あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	プライバシーの侵害	名誉・信用のき損、侮辱	性別を理由にした差別や偏見	地位や職業を理由にした差別や偏見	学歴を理由にした差別や偏見	高齢者であることを理由にした差別や偏見	障がい者であることを理由にした差別や偏見	思想・信条を理由にした差別や偏見	外国人であることを理由にした差別や偏見	その他	無回答
		n													(%)
全 体		383	42.0	39.7	26.4	19.1	17.5	16.7	14.6	12.3	7.0	5.0	2.1	6.5	6.8
性別	男 性	112	42.9	25.9	19.6	17.0	5.4	17.9	20.5	17.0	6.3	5.4	0.9	8.9	9.8
	女 性	266	41.4	45.9	28.6	19.9	22.2	16.2	11.3	10.5	6.8	4.9	2.6	5.6	5.6
年 齢 別	20歳未満	2	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	20～29歳	29	31.0	37.9	24.1	6.9	34.5	13.8	24.1	-	10.3	6.9	6.9	3.4	3.4
	30～39歳	57	45.6	57.9	28.1	21.1	19.3	21.1	15.8	-	5.3	1.8	-	1.8	7.0
	40～49歳	69	55.1	46.4	27.5	21.7	15.9	14.5	8.7	2.9	5.8	5.8	4.3	11.6	11.6
	50～59歳	72	50.0	38.9	27.8	30.6	22.2	16.7	13.9	5.6	1.4	4.2	-	6.9	4.2
	60～69歳	76	50.0	35.5	19.7	14.5	14.5	19.7	14.5	22.4	7.9	3.9	2.6	7.9	5.3
	70～79歳	53	15.1	32.1	35.8	11.3	11.3	17.0	13.2	32.1	11.3	9.4	1.9	1.9	5.7
	80歳以上	22	13.6	13.6	13.6	18.2	-	4.5	22.7	31.8	9.1	4.5	-	9.1	13.6

(6) 人権侵害を受けたときの対応 (A: 問13)

問. 人権侵害を受けた経験が「ある」とお答えの方にお聞きします。人権侵害を受けたとき、どのように対応されましたか。(いくつでも選んでください)

図4-6-1 人権侵害を受けたときの対応



【全体】

人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた383人に、人権侵害を受けたときの対応について聞いたところ、「黙って我慢した」(66.8%)が7割近くで最も高く、次いで「身近な人に相談した」(31.3%)、「相手に抗議した」(24.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「身近な人に相談した」(31.3%)は平成23年度調査(36.3%)より5.0ポイント減少している。

表4-6-1 人権侵害を受けたときの対応—経年変化(上位5項目)

順位	平成27年度 (n=383)		平成23年度 (n=259)		平成21年度 (n=452)		平成19年度 (n=420)	
	対応方法	割合 (%)						
1	黙って我慢した	66.8	黙って我慢した	64.9	黙って我慢した	55.3	黙って我慢した	62.6
2	身近な人に相談した	31.3	身近な人に相談した	36.3	身近な人に相談した	33.4	身近な人に相談した	26.9
3	相手に抗議した	24.5	相手に抗議した	21.6	相手に抗議した	24.6	相手に抗議した	24.3
4	市役所や関係機関に相談した	6.5	市役所や関係機関に相談した	4.2	弁護士に相談した	4.0	弁護士に相談した	2.9
5	弁護士に相談した	5.7	弁護士に相談した	3.1	市役所や関係機関に相談した	5.1	市役所や関係機関に相談した	2.6

(注) 平成25年度調査では、この設問はなかった。

【属性別】

性別で見ると、女性では「身近な人に相談した」（35.0%）が男性（23.2%）より11.8ポイント、「黙って我慢した」（68.0%）が男性（62.5%）より5.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳と60～69歳では「黙って我慢した」（75.4%・73.7%）が7割台と高くなっている。20～29歳では「身近な人に相談した」（41.4%）が4割を超えて高くなっている。

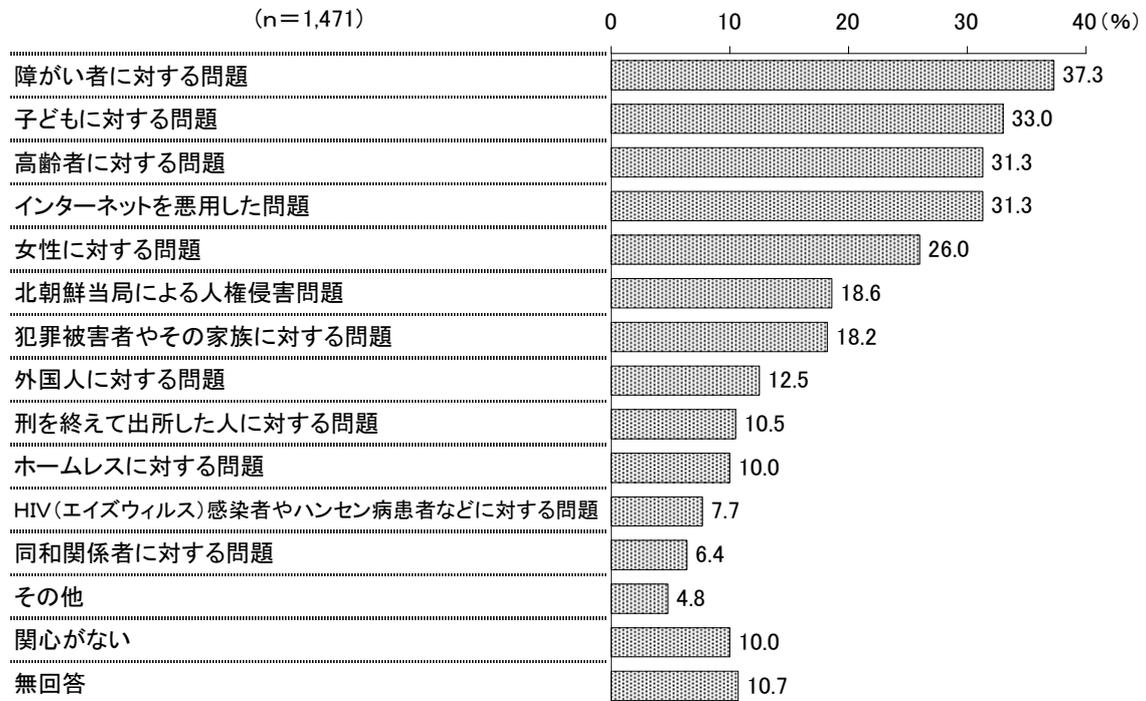
表4-6-2 人権侵害を受けたときの対応—性別、年齢別

		n	黙って我慢した	身近な人に相談した	相手に抗議した	市役所や関係機関に相談した	弁護士に相談した	警察に相談した	民生委員・児童委員に相談した	自治会長に相談した	法務局または人権擁護委員に相談した	その他	無回答
全 体		383	66.8	31.3	24.5	6.5	5.7	5.2	1.6	0.8	0.8	8.4	1.6
性別	男 性	112	62.5	23.2	26.8	3.6	7.1	3.6	0.9	-	-	12.5	2.7
	女 性	266	68.0	35.0	24.1	7.9	5.3	6.0	1.9	1.1	1.1	6.8	1.1
年 齢 別	20歳未満	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	20～29歳	29	51.7	41.4	31.0	3.4	-	3.4	-	-	3.4	6.9	-
	30～39歳	57	75.4	36.8	24.6	7.0	7.0	5.3	-	-	-	3.5	-
	40～49歳	69	63.8	39.1	29.0	13.0	1.4	5.8	1.4	-	-	14.5	1.4
	50～59歳	72	61.1	33.3	26.4	6.9	11.1	2.8	1.4	-	1.4	8.3	2.8
	60～69歳	76	73.7	30.3	27.6	2.6	6.6	7.9	1.3	-	-	6.6	2.6
	70～79歳	53	66.0	20.8	18.9	7.5	7.5	5.7	3.8	3.8	1.9	5.7	-
	80歳以上	22	68.2	4.5	4.5	-	-	4.5	4.5	4.5	-	13.6	4.5

(7) 人権や差別に対する関心 (A: 問14)

問. 人権や差別に対して関心がありますか。ある場合、どのような問題に関心がありますか。
(ある場合はいくつでもお選びください)

図4-7-1 人権や差別に対する関心



【全体】

人権や差別に対する関心について聴いたところ、「障がい者に対する問題」(37.3%)が4割近くで最も高く、次いで「子どもに対する問題」(33.0%)、「高齢者に対する問題」と「インターネットを悪用した問題」(ともに31.3%)、「女性に対する問題」(26.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「女性に対する問題」(26.0%)は平成23年度調査(16.9%)より9.1ポイント、「高齢者に対する問題」(31.3%)は平成23年度調査(23.8%)より7.5ポイント、「インターネットを悪用した問題」(31.3%)は平成23年度調査(25.3%)より6.0ポイント、それぞれ増加している。

表4-7-1 人権や差別に対する関心—経年変化(上位5項目)

順位	平成27年度 (n=1,417)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	障がい者に対する問題 37.3	子どもに対する問題 31.7	高齢者に対する問題 30.0	高齢者に対する問題 29.4
2	子どもに対する問題 33.0	障がい者に対する問題 31.4	障害者に対する問題 29.4	障害者に対する問題 27.8
3	高齢者に対する問題/ インターネットを悪用 した問題(同率) 31.3	インターネットを悪用 した問題 25.3	子どもに対する問題 27.3	子どもに対する問題 26.4
4		高齢者に対する問題 23.8	北朝鮮当局による 人権侵害問題 25.4	インターネットを悪用 した問題 23.1
5	女性に対する問題 26.0	女性に対する問題 16.9	インターネットを悪用 した問題 24.9	北朝鮮当局による 人権侵害問題 19.2

(注) 平成25年度調査では、この設問はなかった。

【属性別】

性別で見ると、女性では「女性に対する問題」（31.8％）が男性（18.8％）より13.0ポイント高くなっている。一方、男性では「北朝鮮当局による人権侵害問題」（22.7％）が女性（15.3％）より7.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50歳から69歳では「障がい者に対する問題」が4割を超えて高く、60歳から79歳では「高齢者に対する問題」が約4割と高くなっている。30～39歳では「子どもに対する問題」（53.3％）が5割を超えて高く、「インターネットを悪用した問題」（39.5％）が約4割と高くなっている。

表4-7-2 人権や差別に対する関心—性別、年齢別

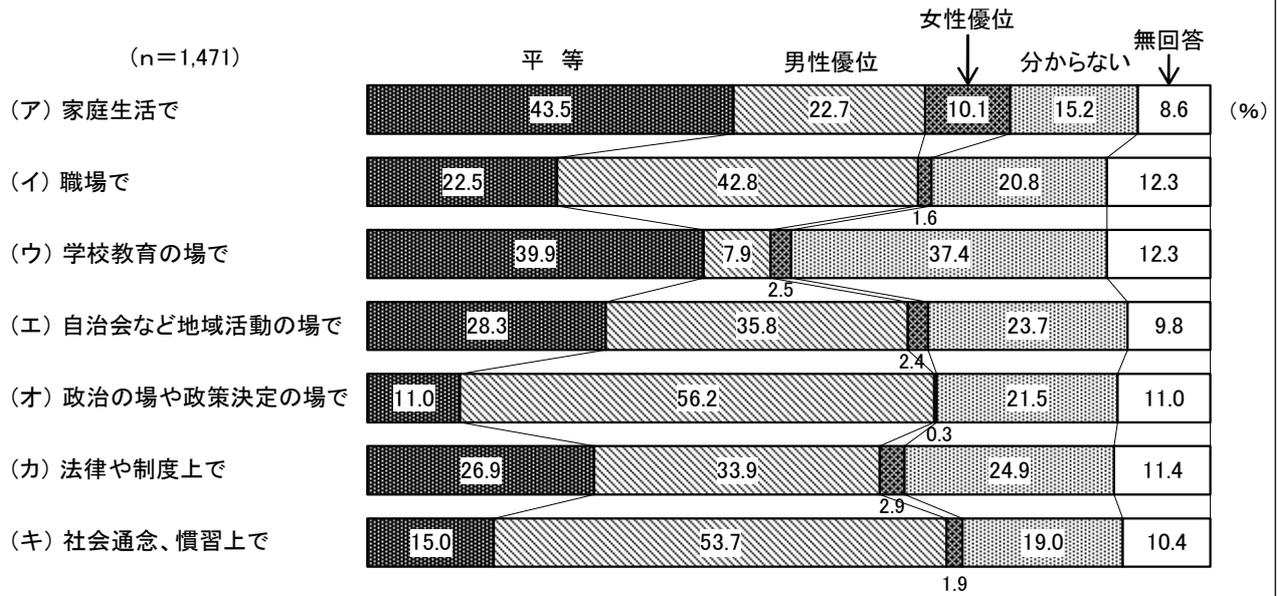
		(%)															
		n	障がい者に対する問題	子どもに対する問題	高齢者に対する問題	インターネットを悪用した問題	女性に対する問題	北朝鮮当局による人権侵害問題	犯罪被害者やその家族に対する問題	外国人に対する問題	刑を終えて出所した人に対する問題	ホームレスに対する問題	HIV（エイズウイルス）感染者やハンセン病患者などに対する問題	同和関係者に対する問題	その他	関心がない	無回答
全 体		1,471	37.3	33.0	31.3	31.3	26.0	18.6	18.2	12.5	10.5	10.0	7.7	6.4	4.8	10.0	10.7
性別	男 性	649	37.0	31.9	30.7	31.9	18.8	22.7	17.6	13.9	8.9	10.6	6.3	7.1	5.5	12.9	9.7
	女 性	804	37.6	34.2	32.1	31.2	31.8	15.3	18.8	11.2	11.7	9.5	8.7	5.6	4.0	7.8	11.2
年 齢 別	20歳未満	7	85.7	42.9	14.3	57.1	28.6	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	71.4	14.3	42.9	-	-
	20～29歳	90	37.8	40.0	14.4	36.7	34.4	5.6	20.0	13.3	12.2	11.1	11.1	3.3	2.2	7.8	6.7
	30～39歳	195	39.0	53.3	19.5	39.5	37.4	10.8	22.6	15.9	16.4	7.2	10.8	5.1	4.1	9.7	4.1
	40～49歳	228	38.2	41.2	23.7	33.3	32.0	15.4	21.1	16.7	8.3	7.5	6.6	8.3	5.3	11.4	6.6
	50～59歳	223	40.8	39.0	32.7	37.2	32.3	20.6	20.2	13.9	11.7	9.4	8.5	7.6	6.7	9.0	2.7
	60～69歳	323	41.8	26.0	39.9	33.1	22.3	24.5	18.0	11.8	12.1	14.9	9.0	8.0	5.6	7.4	10.5
	70～79歳	286	30.8	21.0	38.8	20.6	14.7	21.0	11.9	7.7	5.6	8.4	3.5	3.1	2.4	12.9	20.3
	80歳以上	110	25.5	14.5	36.4	18.2	14.5	22.7	16.4	8.2	8.2	10.9	3.6	8.2	4.5	12.7	27.3

5 男女共同参画社会

(1) 男女の地位 (A:問10)

問. 厚木市では、男女がお互いを尊重し、生き生きと暮らせる社会を目指していますが、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれア～キについて、①～④の中から該当するものを1つ選び○印を記入してください)

図5-1-1 男女の地位



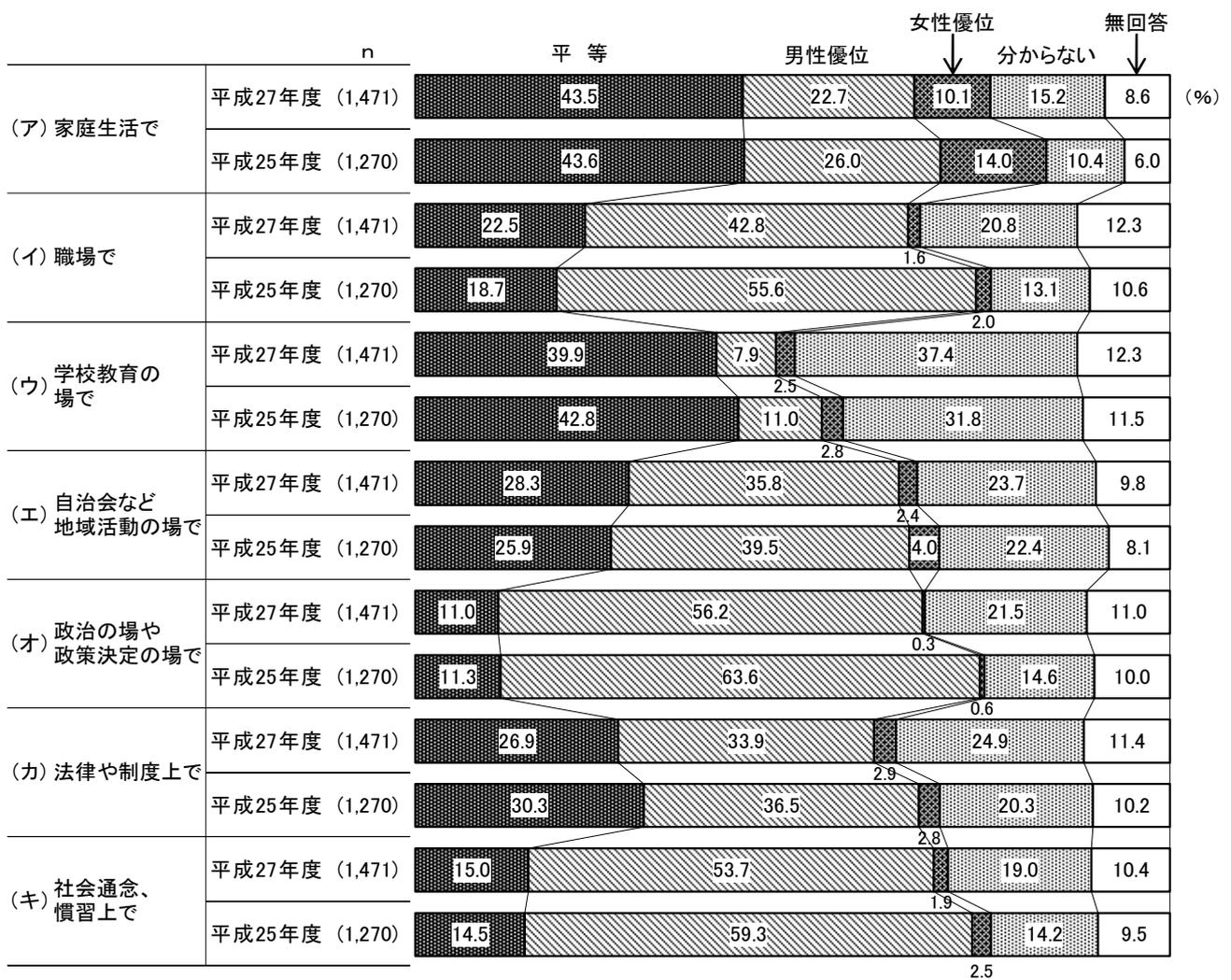
【全体】

男女の地位について7項目に分けて聞いたところ、「平等」は、(ア) 家庭生活上で(43.5%)が4割を超えて最も高く、次いで(ウ) 学校教育の場で(39.9%)、(エ) 自治会など地域活動の場で(28.3%)となっている。「男性優位」は、(オ) 政治の場や政策決定の場で(56.2%)が6割近くで最も高く、次いで(キ) 社会通念、慣習上で(53.7%)、(イ) 職場で(42.8%)、(エ) 自治会など地域活動の場で(35.8%)、(カ) 法律や制度上で(33.9%)となっている。「女性優位」は、(ア) 家庭生活上で(10.1%)が約1割で最も高くなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「平等」は、(イ) 職場で (22.5%) は前回調査 (18.7%) より3.8ポイント増加し、(カ) 法律や制度上で (26.9%) は前回調査 (30.3%) より3.4ポイント減少している。「男性優位」は、(イ) 職場で (42.8%) は前回調査 (55.6%) より12.8ポイント、(オ) 政治の場や政策決定の場で (56.2%) は前回調査 (63.6%) より7.4ポイント、(キ) 社会通念、慣習上で (53.7%) は前回調査 (59.3%) より5.6ポイント、それぞれ減少している。「女性優位」は、(ア) 家庭生活で (10.1%) は前回調査 (14.0%) より3.9ポイント減少している。

図5-1-2 男女の地位—経年変化



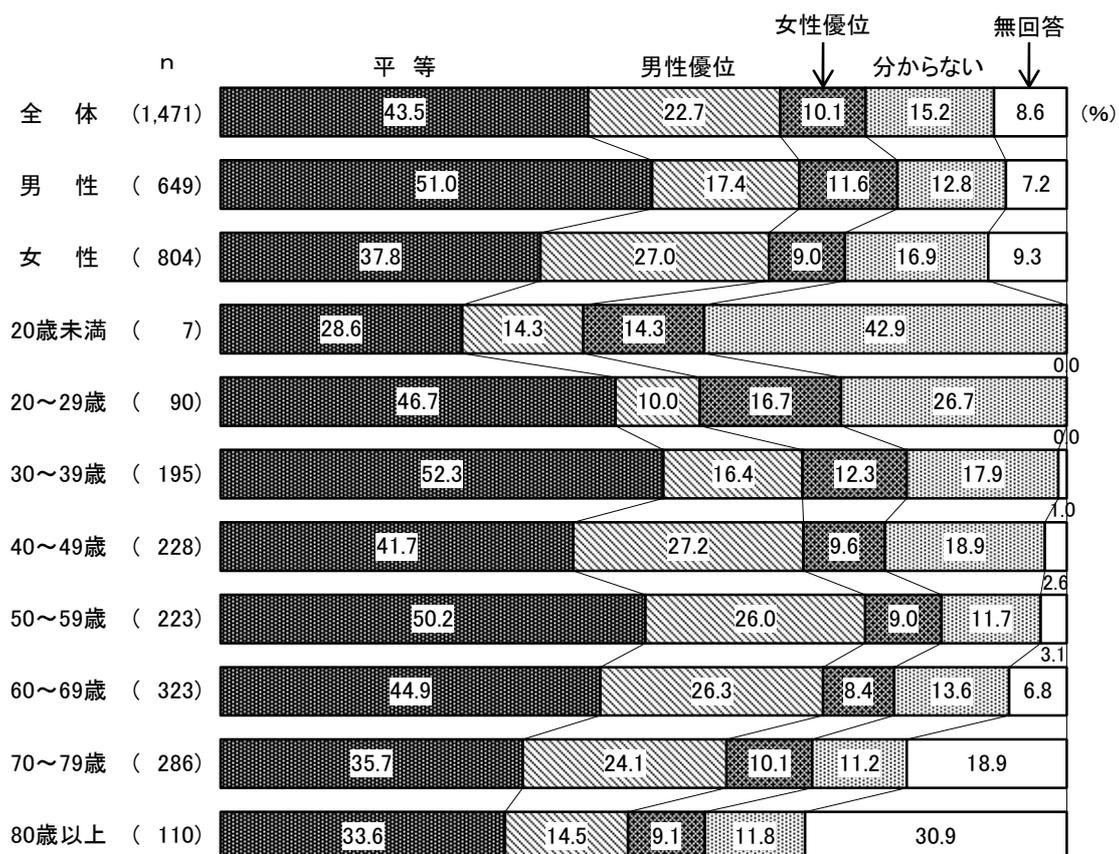
(ア) 家庭生活で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(51.0%)が女性(37.8%)より13.2ポイント高くなっている。一方、女性では「男性優位」(27.0%)が男性(17.4%)より9.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳と50～59歳では「平等」(52.3%・50.2%)が5割台と高くなっている。40歳から69歳では「男性優位」が3割近くと高くなっている。

図5-1-3 男女の地位 (ア) 家庭生活で—性別、年齢別



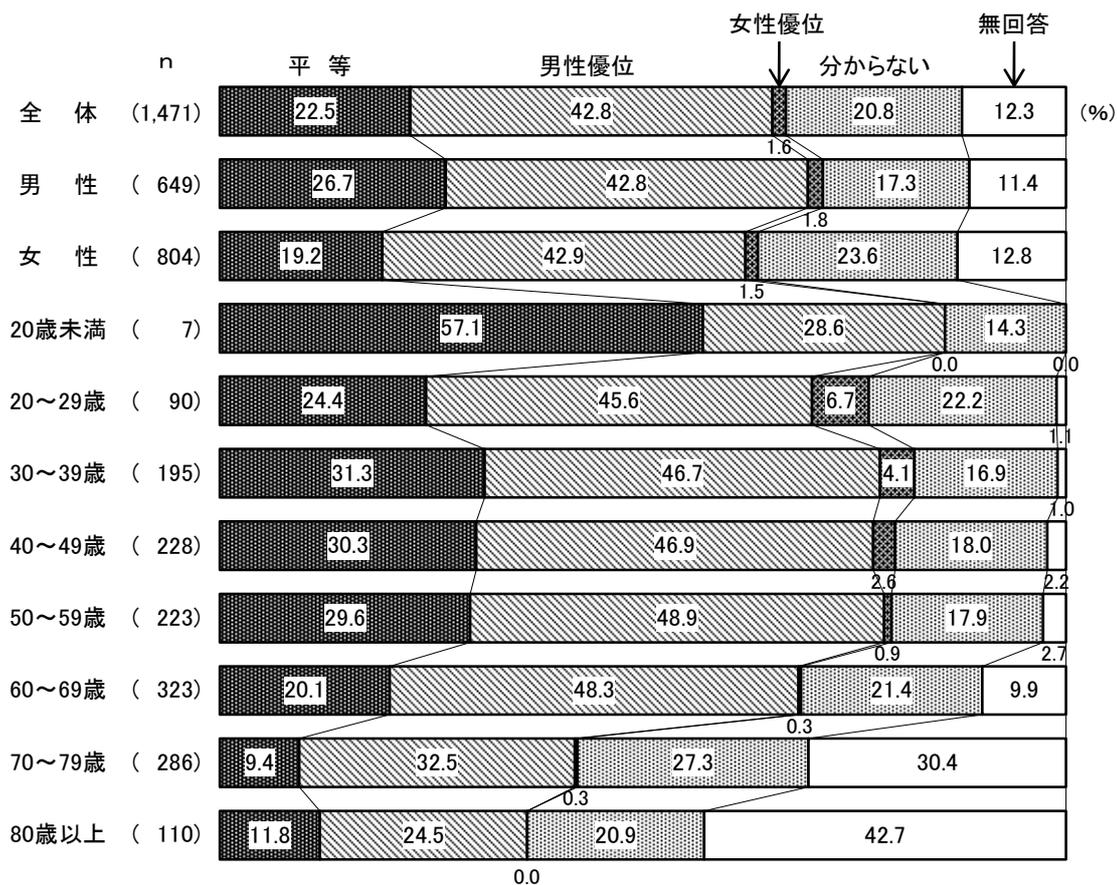
(イ) 職場で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(26.7%)が女性(19.2%)より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳から69歳では「男性優位」が5割近くと高くなっている。30歳から59歳では「平等」が3割前後と高くなっている。

図5-1-4 男女の地位 (イ) 職場で一性別、年齢別

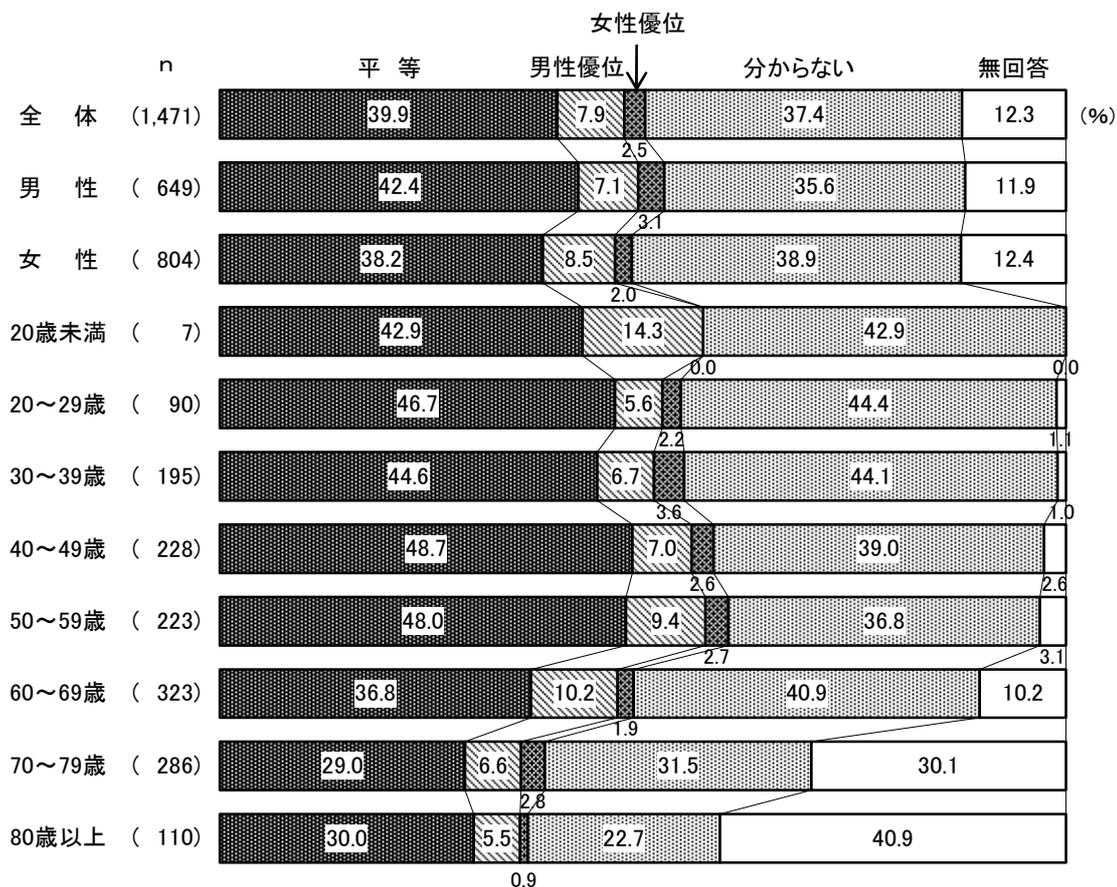


(ウ) 学校教育の場で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(42.4%)が女性(38.2%)より4.2ポイント高くなっている。
 年齢別で見ると、20歳から59歳では「平等」が4割台と高くなっている。

図5-1-5 男女の地位 (ウ) 学校教育の場で一性別、年齢別



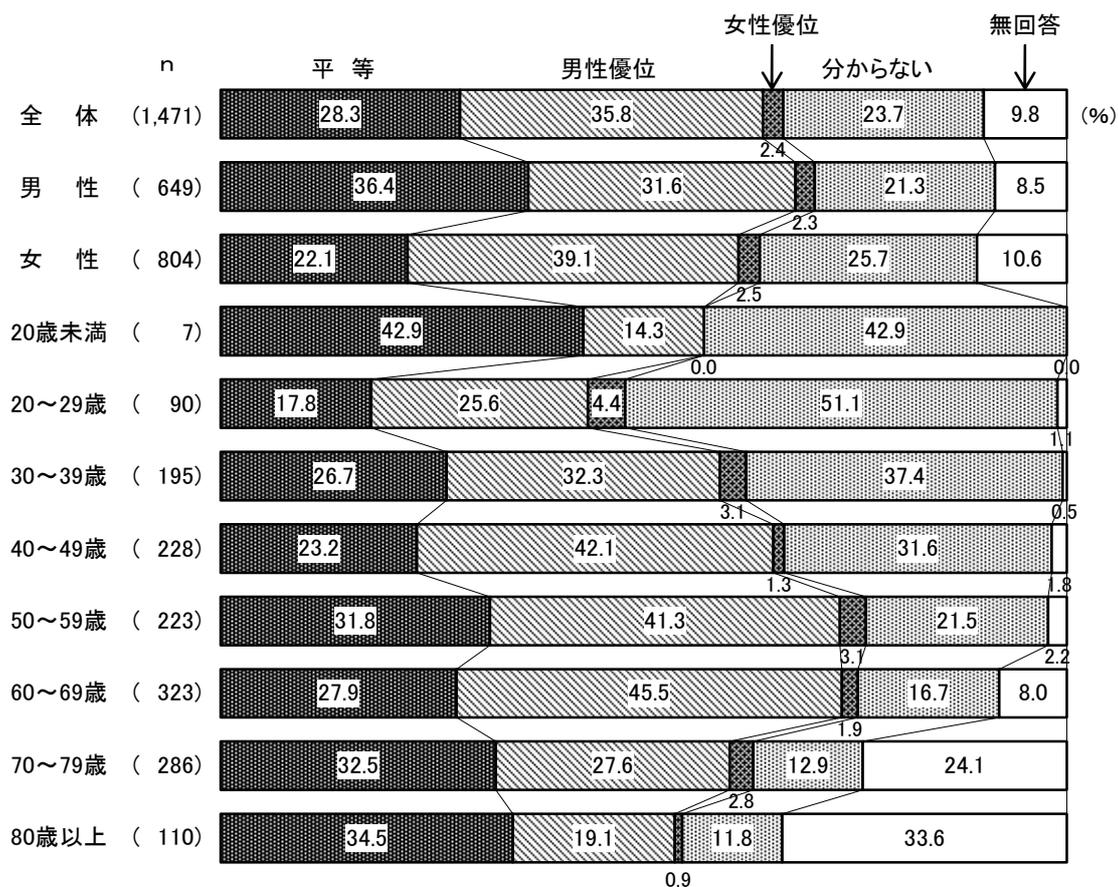
(工) 自治会など地域活動の場で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(36.4%)が女性(22.1%)より14.3ポイント高くなっている。一方、女性では「男性優位」(39.1%)が男性(31.6%)より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～69歳では「男性優位」(45.5%)が4割半ばと高くなっている。80歳以上では「平等」(34.5%)が3割半ばと高くなっている。

図5-1-6 男女の地位 (工) 自治会など地域活動の場で一性別、年齢別

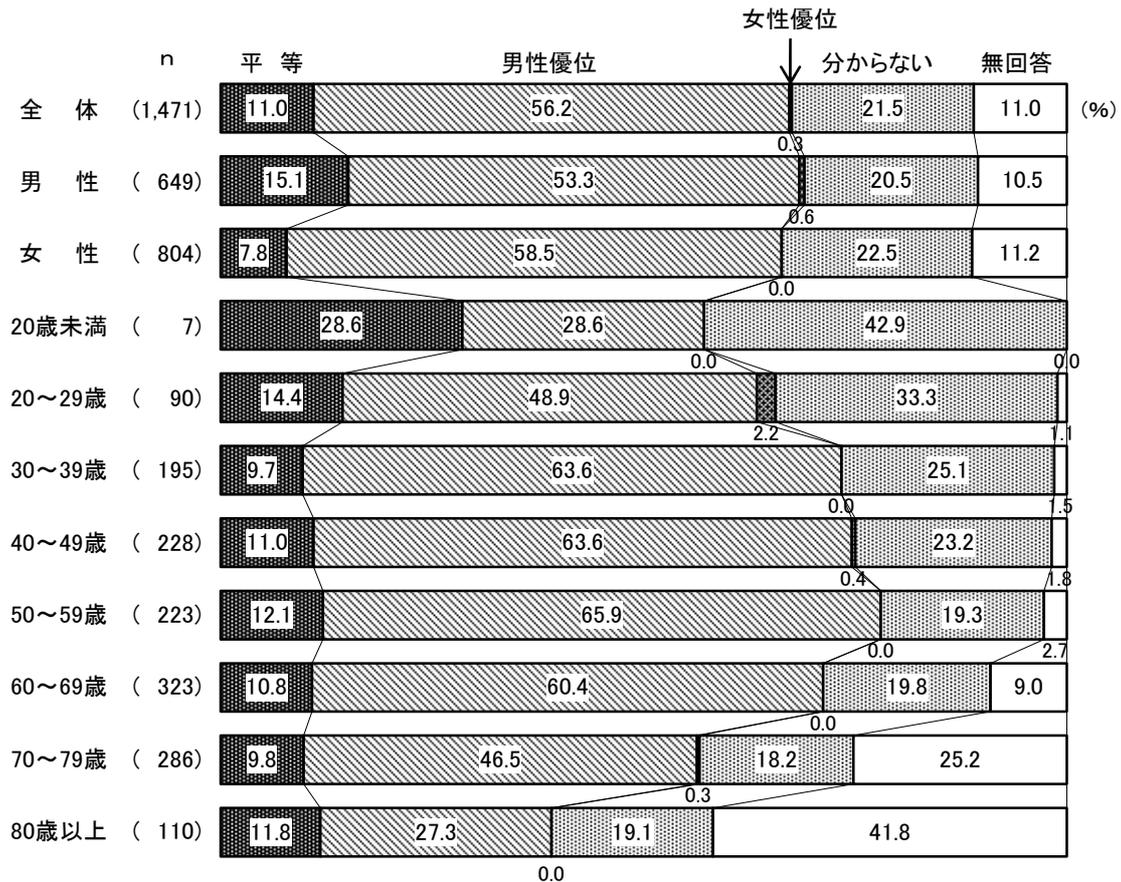


(オ) 政治の場や政策決定の場で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(15.1%)が女性(7.8%)より7.3ポイント高くなっている。一方、女性では「男性優位」(58.5%)が男性(53.3%)より5.2ポイント高くなっている。年齢別で見ると、30歳から69歳では「男性優位」が6割台と高くなっている。

図5-1-7 男女の地位 (オ) 政治の場や政策決定の場で一性別、年齢別



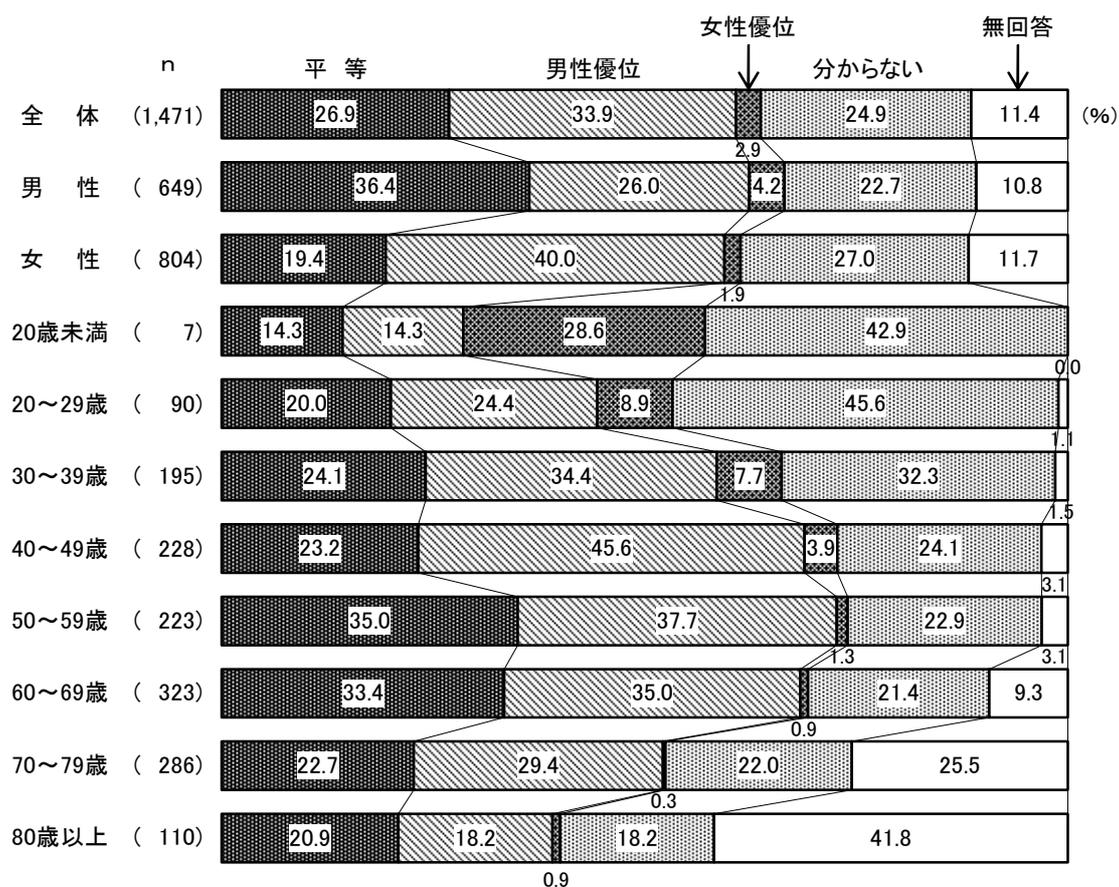
(カ) 法律や制度上で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(36.4%)が女性(19.4%)より17.0ポイント高くなっている。一方、女性では「男性優位」(40.0%)が男性(26.0%)より14.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「男性優位」(45.6%)が4割半ばと高くなっている。50～59歳では「平等」(35.0%)が3割半ばと高くなっている。

図5-1-8 男女の地位 (カ) 法律や制度上で—性別、年齢別

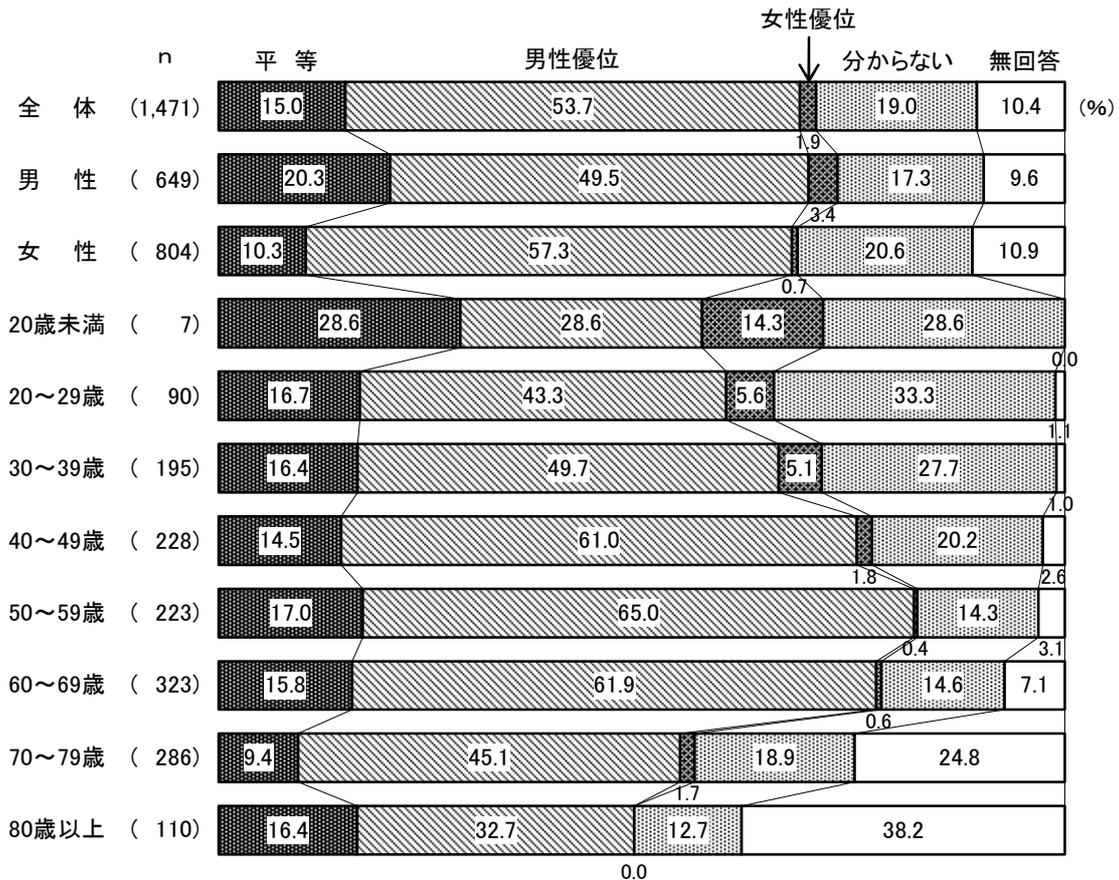


(キ) 社会通念、慣習上で

【属性別】

性別で見ると、男性では「平等」(20.3%)が女性(10.3%)より10.0ポイント高くなっている。一方、女性では「男性優位」(57.3%)が男性(49.5%)より7.8ポイント高くなっている。年齢別で見ると、40歳から69歳では「男性優位」が6割以上と高くなっている。

図5-1-9 男女の地位(キ)社会通念、慣習上で一性別、年齢別

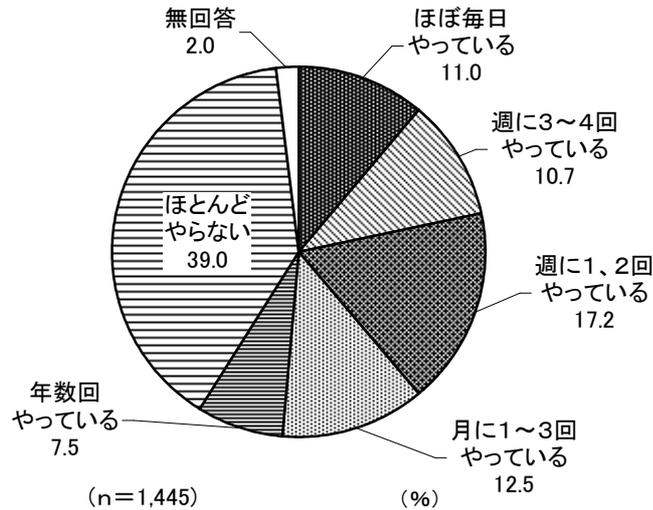


6 スポーツ

(1) スポーツをする頻度 (B:問9)

問. 健康意識やスポーツへの関心が高まる中、あなたはスポーツ(運動)をどの程度やっていますか。(1つだけ選んでください)

図6-1-1 スポーツをする頻度



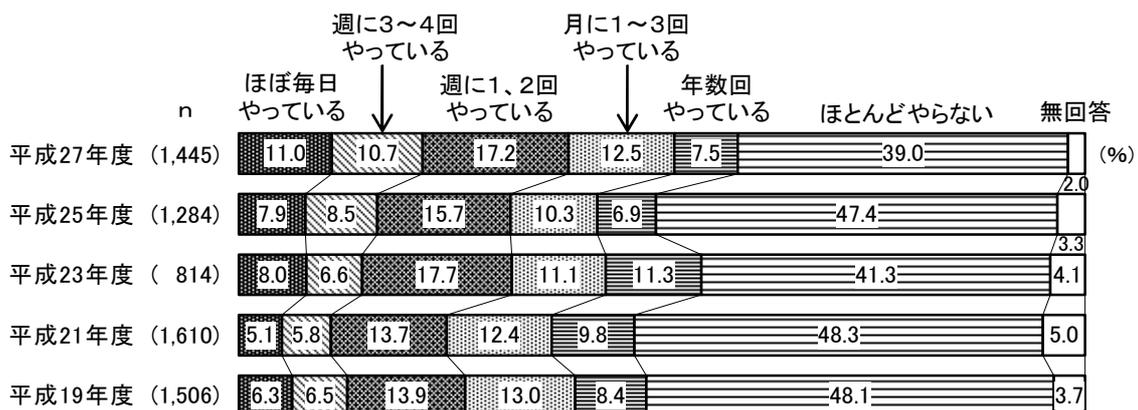
【全体】

スポーツをする頻度について聞いたところ、「ほとんどやらない」(39.0%)が約4割で最も高くなっている。「ほぼ毎日やっている」(11.0%)は1割を超え、「週に3~4回やっている」(10.7%)は約1割、「週に1、2回やっている」(17.2%)は2割近くとなっており、この3つを合わせた『週に1回以上やっている』(38.9%)は4割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『週に1回以上やっている』(38.9%)は前回調査(32.1%)より6.8ポイント増加している。一方、「ほとんどやらない」(39.0%)は前回調査(47.4%)より8.4ポイント減少している。

図6-1-2 スポーツをする頻度—経年変化

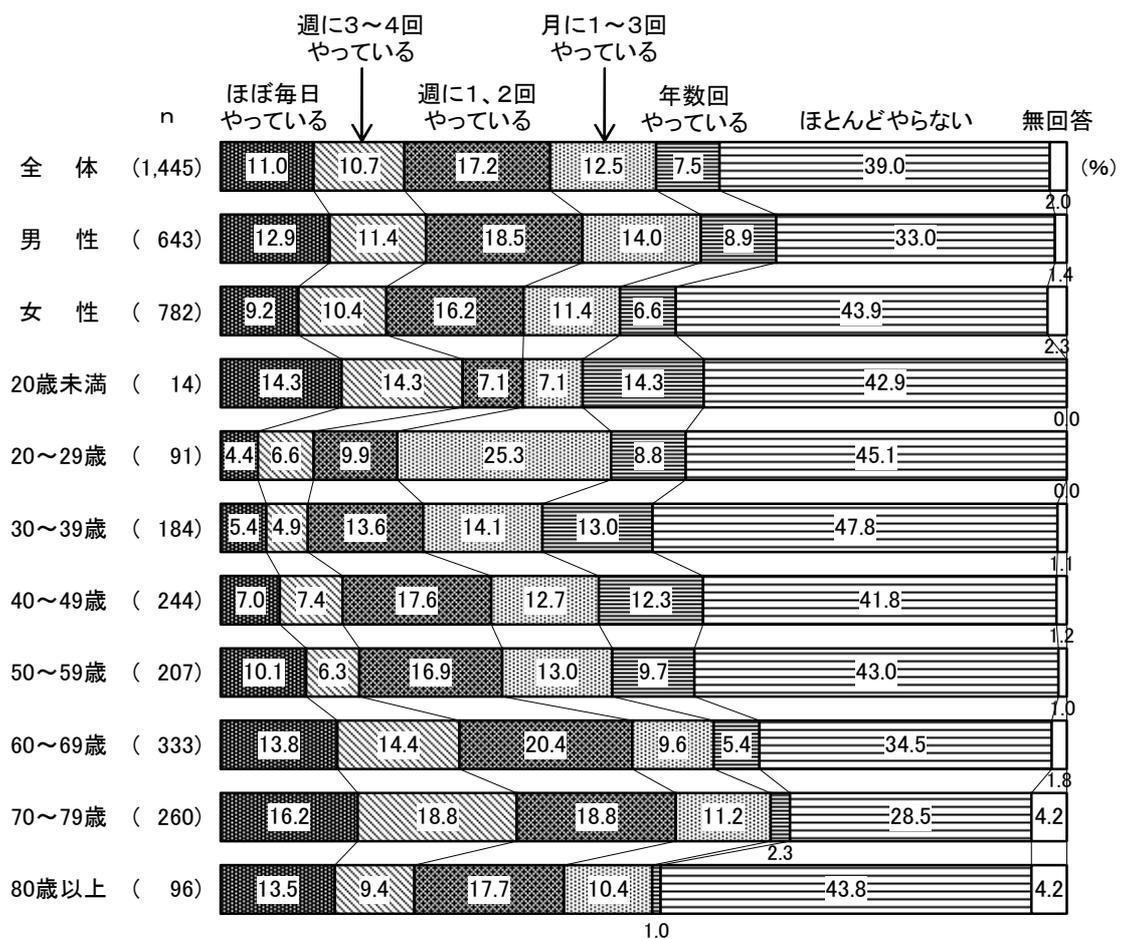


【属性別】

性別で見ると、男性では『週に1回以上やっている』(42.8%)が女性(35.8%)より7.0ポイント高くなっている。一方、女性では「ほとんどやらない」(43.9%)が男性(33.0%)より10.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『週に1回以上やっている』は70~79歳(53.8%)で5割を超え、60~69歳(48.6%)で5割近くと高くなっている。

図6-1-3 スポーツをする頻度—性別、年齢別

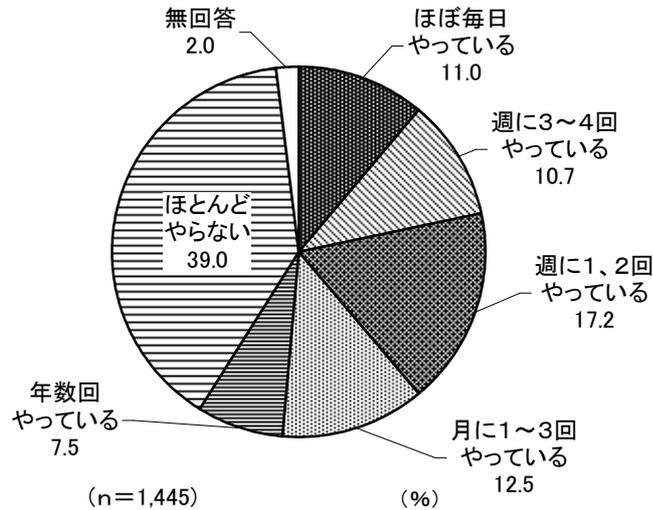


6 スポーツ

(1) スポーツをする頻度 (B:問9)

問. 健康意識やスポーツへの関心が高まる中、あなたはスポーツ(運動)をどの程度やっていますか。(1つだけ選んでください)

図6-1-1 スポーツをする頻度



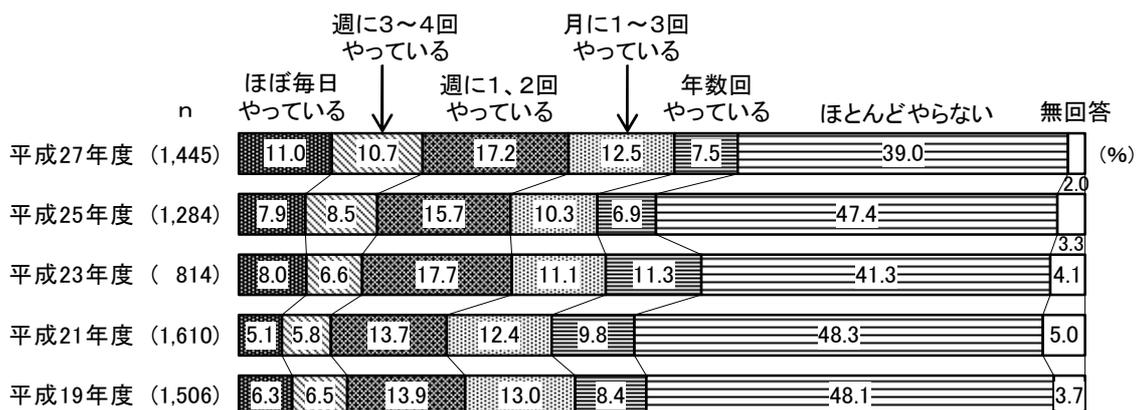
【全体】

スポーツをする頻度について聞いたところ、「ほとんどやらない」(39.0%)が約4割で最も高くなっている。「ほぼ毎日やっている」(11.0%)は1割を超え、「週に3~4回やっている」(10.7%)は約1割、「週に1, 2回やっている」(17.2%)は2割近くとなっており、この3つを合わせた『週に1回以上やっている』(38.9%)は4割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『週に1回以上やっている』(38.9%)は前回調査(32.1%)より6.8ポイント増加している。一方、「ほとんどやらない」(39.0%)は前回調査(47.4%)より8.4ポイント減少している。

図6-1-2 スポーツをする頻度—経年変化

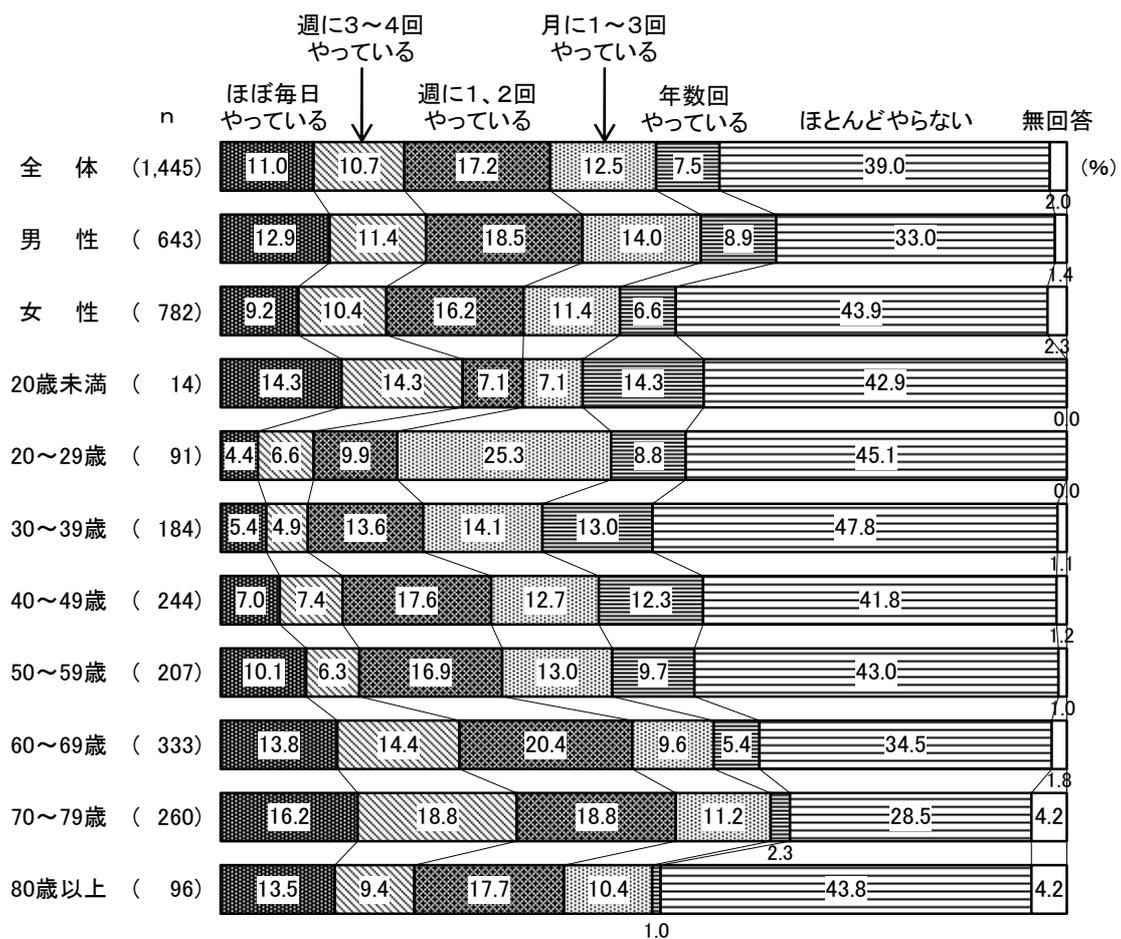


【属性別】

性別で見ると、男性では『週に1回以上やっている』(42.8%)が女性(35.8%)より7.0ポイント高くなっている。一方、女性では「ほとんどやらない」(43.9%)が男性(33.0%)より10.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『週に1回以上やっている』は70~79歳(53.8%)で5割を超え、60~69歳(48.6%)で5割近くと高くなっている。

図6-1-3 スポーツをする頻度—性別、年齢別



(2) 取り組んでいるスポーツの種目 (B:問10)

問. スポーツ(運動)を行っているとお答えの方にお聞きします。現在、あなたが行っているスポーツの種目は何ですか。(いくつでも選んでください)

図6-2-1 取り組んでいるスポーツの種目

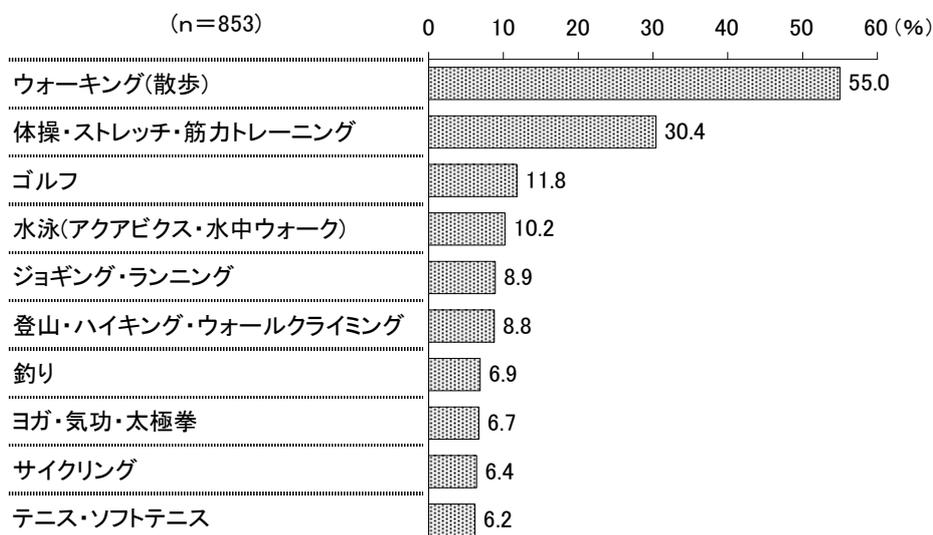


表6-2-1 取り組んでいるスポーツの種目(回答一覧)

(n=853)			
種目名	(%)	種目名	(%)
ウォーキング(散歩)	55.0	ターゲットバードゴルフ	1.8
体操・ストレッチ・筋力トレーニング	30.4	バレーボール・ソフトバレーボール	1.3
ゴルフ	11.8	バスケットボール	1.2
水泳(アクアビクス・水中ウォーク)	10.2	ゲートボール	1.1
ジョギング・ランニング	8.9	ダイビング	0.8
登山・ハイキング・ウォールクライミング	8.8	サーフィン・ウインドサーフィン	0.6
釣り	6.9	弓道・アーチェリー	0.5
ヨガ・気功・太極拳	6.7	陸上競技	0.4
サイクリング	6.4	柔道・剣道・空手・少林寺拳法・ボクシング	0.4
テニス・ソフトテニス	6.2	スケートボード・インラインスケート	0.2
スキー・スノーボード	4.5	乗馬	0.1
グラウンドゴルフ	3.6	なぎなた	0.1
サッカー・フットサル	3.2	ラグビー・アメフト	0.1
ボウリング	2.7	バウンドテニス	0.1
社交ダンス・エアロビクス・ジャズダンス	2.7	クレール射撃	0.0
バドミントン	2.5	アイススケート・アイスホッケー	0.0
ソフトボール	2.1	その他	6.8
野球	2.0	無回答	0.5
卓球	1.8		

【全体】（グラフ・表は前ページにあり）

スポーツ（運動）を行っていると感じた853人に、取り組んでいるスポーツの種目について聞いたところ、「ウォーキング（散歩）」（55.0%）が5割半ばで最も高く、次いで「体操・ストレッチ・筋力トレーニング」（30.4%）、「ゴルフ」（11.8%）、「水泳（アクアビクス・水中ウォーク）」（10.2%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位4項目は前回調査と同じ順位となっている。

表6-2-2 取り組んでいるスポーツの種目—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成27年度 (n=853)		平成25年度 (n=1,284)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)	
1	ウォーキング (散歩)	55.0	ウォーキング (散歩)	36.4	ウォーキング (散歩)	42.6	ウォーキング・散歩	42.6
2	体操・ストレッチ・筋力 トレーニング	30.4	体操・ストレッチ・筋力 トレーニング	16.9	体操・ストレッチ・筋力 トレーニング	19.5	体操・ストレッチ	13.3
3	ゴルフ	11.8	ゴルフ	7.6	ゴルフ	7.1	ゴルフ	8.2
4	水泳(アクアビクス・水 中ウォーク)	10.2	水泳(アクアビクス・ 水中ウォーク)	7.4	水泳(アクアビクス・ 水中ウォーク)	6.8	ジョギング・ランニング	7.1
5	ジョギング・ランニング	8.9	登山・ハイキング・ ウォールクライミング	6.5	登山・ハイキング・ ウォールクライミング	6.6	水泳	6.8

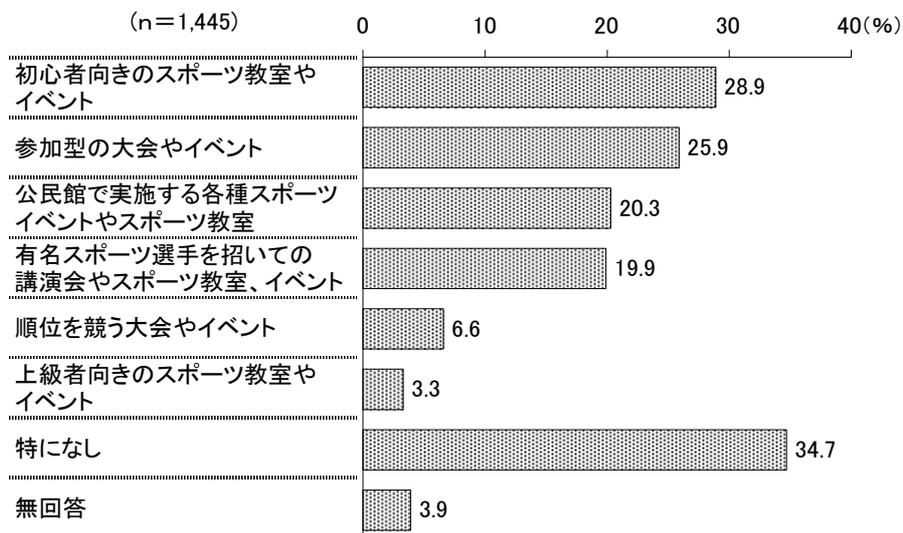
（注）平成25年度調査以前では、回答の対象が異なる（全員に質問していた）ため、参考に掲載する。

(3) 参加してみたいスポーツイベント (B:問11)

問. 今後、参加してみたいと思うスポーツイベントは何ですか。

(いくつでも選んでください)

図6-3-1 参加してみたいスポーツイベント



【全体】

今後参加してみたいスポーツイベントについて聞いたところ、「初心者向けのスポーツ教室やイベント」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「参加型の大会やイベント」(25.9%)、「公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室」(20.3%)、「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」(19.9%)となっている。また、「特になし」(34.7%)は3割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は前回調査と同じ順位となっているが、中でも「参加型の大会やイベント」(25.9%)は前回調査(18.1%)より7.8ポイント増加し、「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」(19.9%)も前回調査(13.3%)より6.6ポイント増加している。

表6-3-1 参加してみたいスポーツイベントー経年変化(上位5項目)

(%)

順位	平成27年度 (n=1,445)		平成25年度 (n=1,284)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)	
1	初心者向きの スポーツ教室や イベント	28.9	初心者向きの スポーツ教室や イベント	24.1	参加型の大会や イベント	24.4	初心者向きの スポーツ教室や イベント	22.5	初心者を対象と したスポーツ大 会やイベント	20.2
2	参加型の大会や イベント	25.9	参加型の大会や イベント	18.1	初心者向きの スポーツ教室や イベント	22.5	参加型の大会や イベント	18.8	有名スポーツ選手 を招いて行うス ポーツに関する講 演やスポーツ教 室、イベント	16.1
3	公民館で実施す る各種スポーツ イベントやスポ ーツ教室	20.3	公民館で実施す る各種スポーツ イベントやスポ ーツ教室	16.6	有名スポーツ選 手を招いての講 演会やスポーツ 教室、イベント	18.8	有名スポーツ選 手を招いての講 演会やスポーツ 教室、イベント	18.3	公民館で実施す る各種スポーツ イベントやスポ ーツ教室	12.4
4	有名スポーツ選 手を招いての講 演会やスポーツ 教室、イベント	19.9	有名スポーツ選 手を招いての講 演会やスポーツ 教室、イベント	13.3	公民館で実施す る各種スポーツ イベントやスポ ーツ教室	15.0	公民館で実施す る各種スポーツ イベントやスポ ーツ教室	14.2	勝敗を競うこと を 主な目的としな い大会やイベント	10.5
5	順位を競う大会 やイベント	6.6	順位を競う大会 やイベント	4.0	順位を競う大会 やイベント	4.3	順位を競う大会 やイベント	4.5	勝敗を競うこと を 主な目的とした 大会やイベント	6.8

(注) 平成19年度調査は選択肢内容が異なるため、参考に掲載する。

【属性別】

性別で見ると、女性では「初心者向きのスポーツ教室やイベント」(33.9%)が男性(22.9%)より11.0ポイント高くなっている。一方、男性では「参加型の大会やイベント」(30.3%)が女性(22.4%)より7.9ポイント、「順位を競う大会やイベント」(10.1%)が女性(3.8%)より6.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「参加型の大会やイベント」(36.3%)が4割近くと高くなっている。60～69歳では「公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室」(25.5%)が2割半ばと高くなっている。30～39歳では「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」(34.8%)が3割半ばと高くなっている。

表6-3-2 参加してみたいスポーツイベントー性別、年齢別

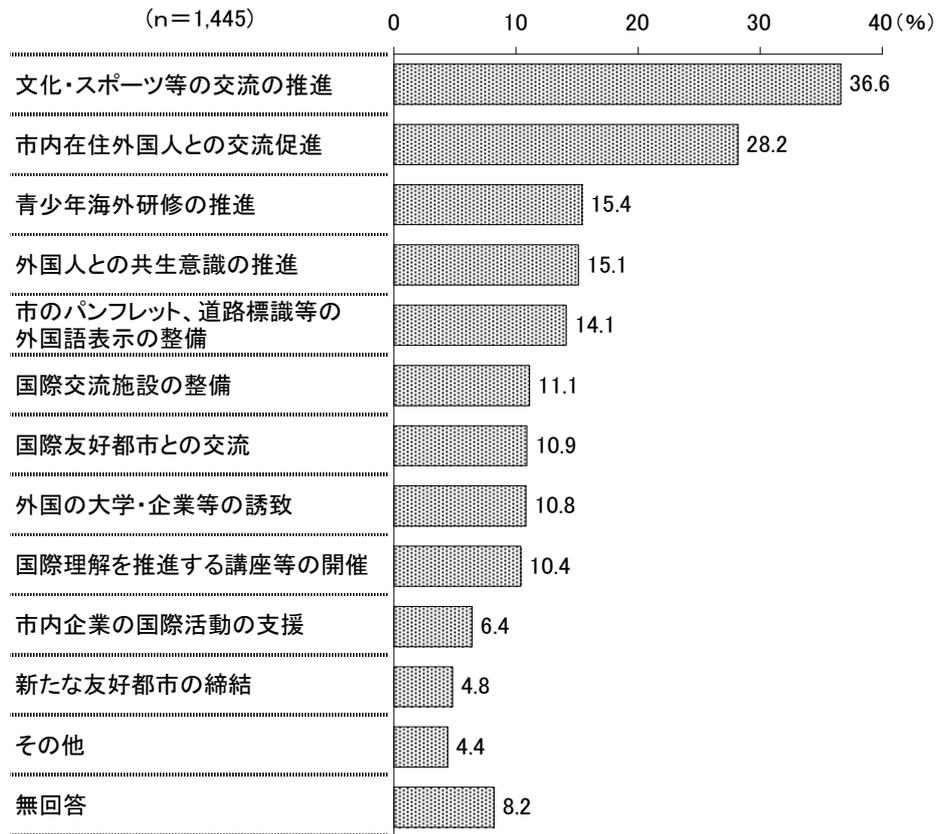
			(%)								
		n	初心者向きのスポーツ教室やイベント	参加型の大会やイベント	公民館で実施する各種スポーツ教室	講演会やスポーツ教室、イベント	有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント	順位を競う大会やイベント	上級者向きのスポーツ教室やイベント	特になし	無回答
全 体		1,445	28.9	25.9	20.3	19.9	6.6	3.3	34.7	3.9	
性別	男 性	643	22.9	30.3	18.0	20.1	10.1	5.6	33.7	3.6	
	女 性	782	33.9	22.4	22.6	19.7	3.8	1.5	35.3	4.0	
年 齢 別	20歳未満	14	21.4	21.4	7.1	28.6	7.1	-	28.6	-	
	20～29歳	91	33.0	36.3	15.4	27.5	16.5	5.5	28.6	-	
	30～39歳	184	33.2	33.2	17.9	34.8	11.4	7.6	23.9	1.6	
	40～49歳	244	34.0	33.2	19.7	27.0	7.8	5.7	28.7	1.6	
	50～59歳	207	30.9	24.2	19.8	22.7	6.8	3.4	33.3	2.9	
	60～69歳	333	27.9	24.6	25.5	11.4	3.3	1.5	37.8	3.0	
	70～79歳	260	26.2	19.6	22.7	10.8	3.5	1.2	38.8	8.5	
	80歳以上	96	11.5	10.4	12.5	11.5	5.2	-	57.3	10.4	

7 国際交流

(1) 国際交流の取組 (B: 問8)

問. 異文化への理解を深め、国際化に対応するためには、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。(2つまで選んでください)

図7-1-1 国際交流の取組



【全体】

国際化に対応するために必要な取組について聞いたところ、「文化・スポーツ等の交流の推進」(36.6%)が4割近くで最も高く、次いで「市内在住外国人との交流促進」(28.2%)、「青少年海外研修の推進」(15.4%)、「外国人との共生意識の推進」(15.1%)、「市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備」(14.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「文化・スポーツ等の交流の推進」(36.6%)は前回調査(30.2%)より6.4ポイント増加し、「市内在住外国人との交流促進」(28.2%)は前回調査(24.7%)より3.5ポイント増加している。

表7-1-1 国際交流の取組—経年変化

調査年	n	(%)												
		文化・スポーツ等の交流の推進	市内在住外国人との交流促進	青少年海外研修の推進	外国人との共生意識の推進	市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備	国際交流施設の整備	国際友好都市との交流	外国の大学・企業等の誘致	国際理解を推進する講座等の開催	市内企業の国際活動の支援	新たな友好都市の締結	その他	無回答
平成27年度	1,445	36.6	28.2	15.4	15.1	14.1	11.1	10.9	10.8	10.4	6.4	4.8	4.4	8.2
平成25年度	1,270	30.2	24.7	17.7	17.4	15.6	10.1	10.1	13.4	9.6	9.2	3.9	4.0	9.8
平成23年度	815	38.5	25.8	16.3	11.9	11.4	9.9	12.6	11.4	9.1	7.4	4.7	4.3	5.2
平成21年度	1,608	44.1	22.6	15.3	13.2	12.3	10.6	15.0	9.1	11.4	7.2	-	5.6	5.3
平成19年度	1,500	40.1	21.6	14.7	14.7	13.7	9.0	11.0	7.5	9.7	4.5	-	2.9	12.3
平成17年度	1,002	44.3	25.4	17.4	-	14.9	11.8	13.5	11.9	16.1	6.3	-	3.1	7.8

(注1) 平成19年度調査以降、「外国人との共生意識の推進」を追加している。

(注2) 平成23年度調査以降、「新たな友好都市の締結」を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「文化・スポーツ等の交流の推進」(38.4%)が女性(34.8%)より3.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「文化・スポーツ等の交流の推進」(41.0%)が4割を超えて高く、「市内在住外国人との交流促進」(33.6%)が3割を超えて高くなっている。70～79歳では「青少年海外研修の推進」(22.7%)が2割を超えて高くなっている。

表7-1-2 国際交流の取組—性別、年齢別

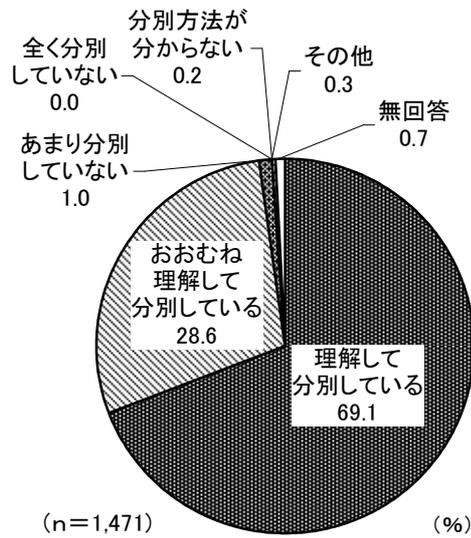
			(%)												
		n	文化・スポーツ等の交流の推進	市内在住外国人との交流促進	青少年海外研修の推進	外国人との共生意識の推進	市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備	国際交流施設の整備	国際友好都市との交流	外国の大学・企業等の誘致	国際理解を推進する講座等の開催	市内企業の国際活動の支援	新たな友好都市の締結	その他	無回答
全 体		1,445	36.6	28.2	15.4	15.1	14.1	11.1	10.9	10.8	10.4	6.4	4.8	4.4	8.2
性別	男 性	643	38.4	28.0	16.2	15.7	15.4	11.7	10.9	11.5	8.7	7.0	5.0	4.8	6.5
	女 性	782	34.8	28.6	14.7	14.8	13.2	10.9	10.7	10.5	11.5	6.0	4.6	3.8	9.6
年 齢 別	20歳未満	14	28.6	21.4	14.3	7.1	28.6	7.1	-	14.3	7.1	7.1	7.1	-	14.3
	20～29歳	91	38.5	28.6	12.1	15.4	6.6	14.3	8.8	14.3	7.7	11.0	8.8	6.6	2.2
	30～39歳	184	39.1	27.7	15.2	12.5	13.6	15.2	8.7	17.9	6.0	9.8	4.3	6.0	2.2
	40～49歳	244	41.0	33.6	11.5	19.3	15.2	11.9	9.0	13.9	7.8	6.6	3.7	2.9	4.5
	50～59歳	207	33.3	30.4	14.5	19.3	12.1	7.7	18.4	15.0	9.2	6.8	6.8	4.8	3.4
	60～69歳	333	36.3	30.9	12.6	15.6	15.9	13.8	9.0	7.8	14.4	2.7	3.9	4.2	9.0
	70～79歳	260	35.4	23.5	22.7	13.1	13.5	6.9	10.8	3.8	11.2	6.5	4.6	3.8	16.5
	80歳以上	96	29.2	15.6	19.8	6.3	17.7	9.4	13.5	7.3	12.5	7.3	3.1	4.2	19.8

8 環境

(1) 資源とごみの分別 (A: 問15)

問. 紙類、びん類、缶類など、きちんと分別すれば資源に生まれ変わります。そこで、資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別していますか。(1つだけ選んでください)

図8-1-1 資源とごみの分別



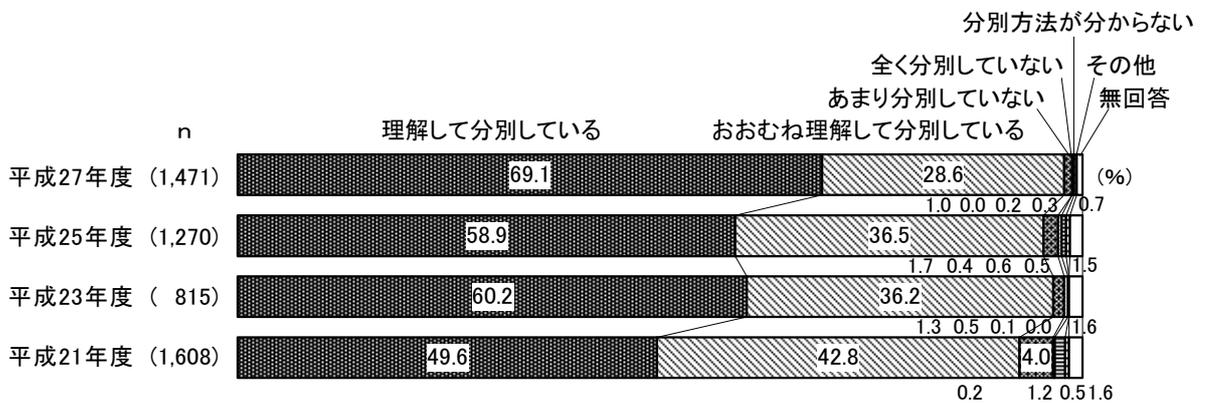
【全体】

資源とごみの分別について聞いたところ、「理解して分別している」(69.1%)が約7割、「おおむね理解して分別している」(28.6%)が3割近くとなっており、ほとんどの方が理解をしている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「理解して分別している」(69.1%)は前回調査(58.9%)より10.2ポイント増加している。

図8-1-2 資源とごみの分別—経年変化

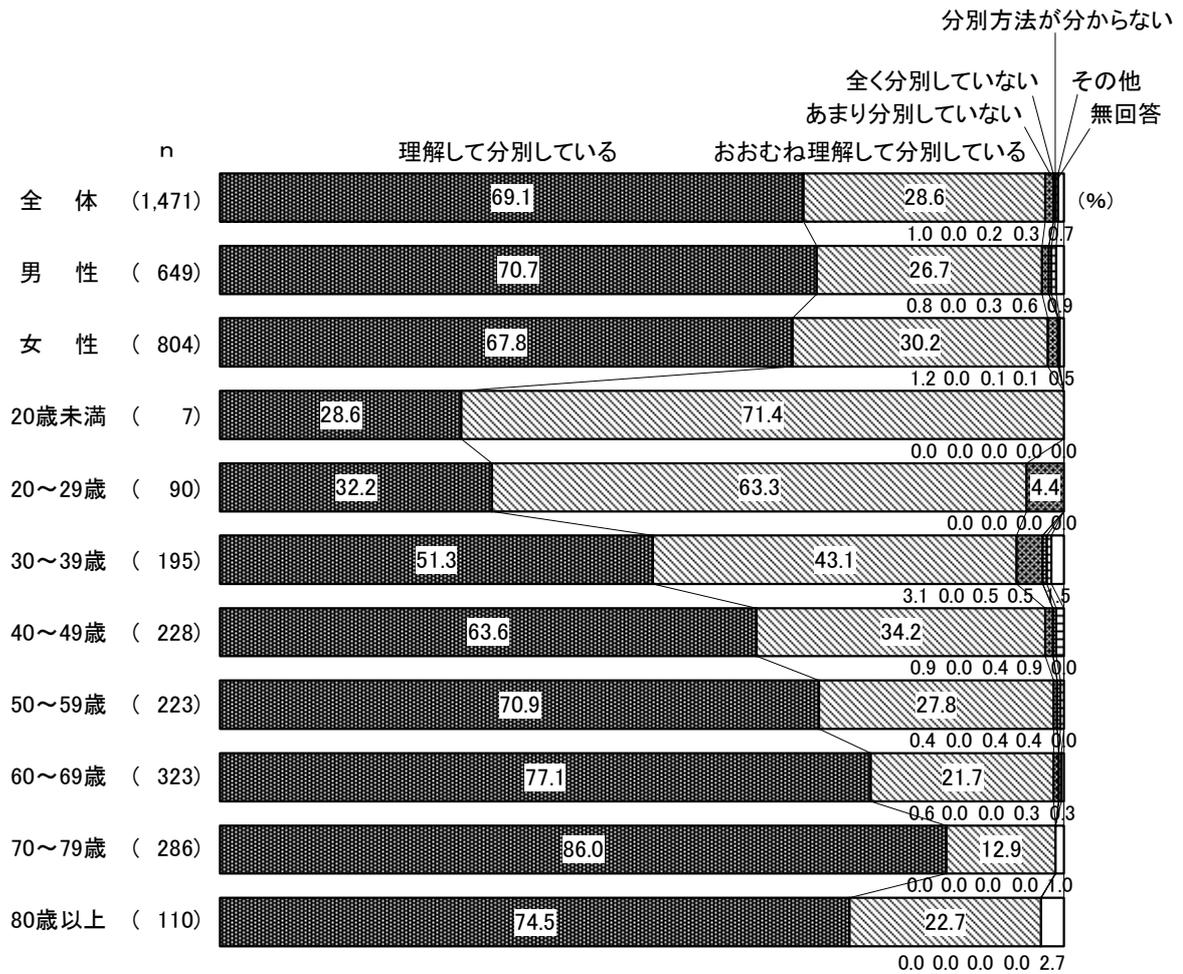


【属性別】

性別で見ると、男性では「理解して分別している」(70.7%)が女性(67.8%)より2.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70～79歳では「理解して分別している」(86.0%)が9割近くとなっており、おおむね年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

図8-1-3 資源とごみの分別—性別、年齢別

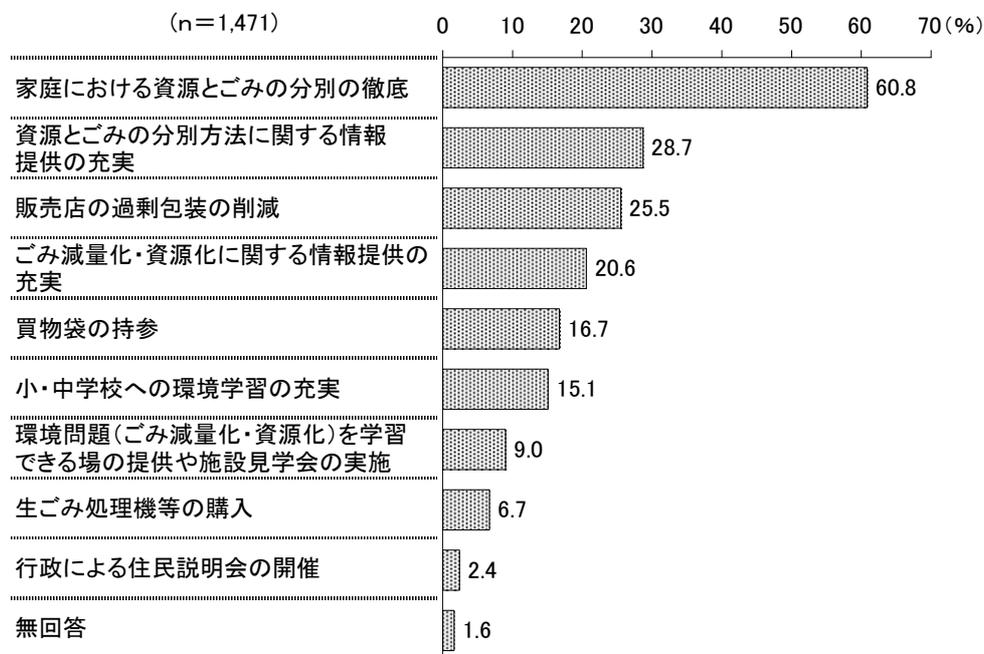


(2) ごみの減量化・資源化の推進 (A:問16)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、特に重要だと思うことは何ですか。

(2つまで選んでください)

図8-2-1 ごみの減量化・資源化の推進



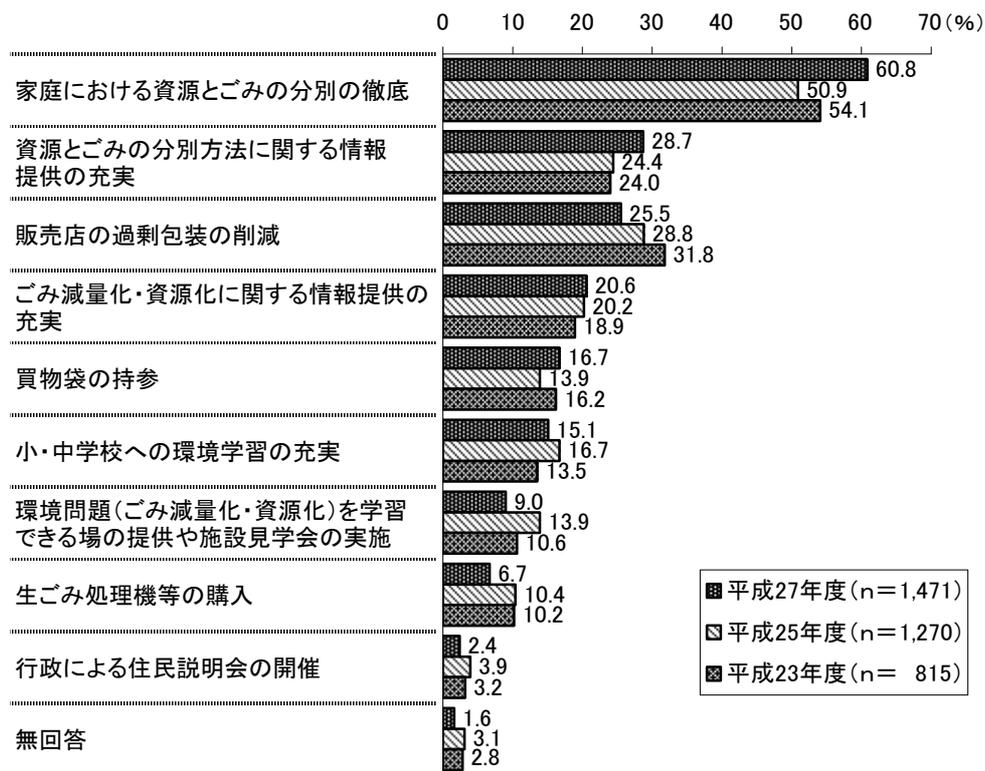
【全体】

ごみの減量化・資源化を推進する上で特に重要だと思うことを聞いたところ、「家庭における資源とごみの分別の徹底」(60.8%)が約6割で最も高く、次いで「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(28.7%)、「販売店の過剰包装の削減」(25.5%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(20.6%)、「買物袋の持参」(16.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「家庭における資源とごみの分別の徹底」(60.8%)は前回調査(50.9%)より9.9ポイント増加し、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(28.7%)は前回調査(24.4%)より4.3ポイント増加している。一方、「販売店の過剰包装の削減」(25.5%)は平成23年度調査(31.8%)以降減少傾向にあるほか、「環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施」(9.0%)は前回調査(13.9%)より4.9ポイント減少している。

図8-2-2 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「販売店の過剰包装の削減」(29.5%)が男性(20.6%)より8.9ポイント、「買物袋の持参」(19.2%)が男性(13.9%)より5.3ポイント高くなっている。一方、男性では「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(23.7%)が女性(18.3%)より5.4ポイント、「小・中学校への環境学習の充実」(17.9%)が女性(12.8%)より5.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「家庭における資源とごみの分別の徹底」(75.5%)が7割半ばと高くなっている。20～29歳と50～59歳では「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(36.7%・37.2%)が4割近くと高くなっている。

表8-2-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

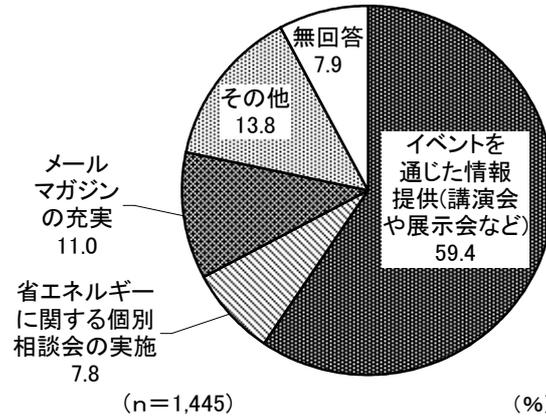
			別家庭の徹底	る資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	販売店の過剰包装の削減	情報提供の充実	ごみ減量化・資源化に関する	買物袋の持参	小・中学校への環境学習の充実	施(化)環境問題(を)見(を)学(を)習(を)会(を)の(を)実(を)施(を)場(を)の(を)提(を)供(を)や(を)源	生ごみ処理機等の購入	行政による住民説明会の開催	無回答
		n											
全 体		1,471	60.8	28.7	25.5	20.6	16.7	15.1	9.0	6.7	2.4	1.6	
性別	男 性	649	61.2	27.4	20.6	23.7	13.9	17.9	8.9	7.1	3.1	1.8	
	女 性	804	60.4	29.5	29.5	18.3	19.2	12.8	9.3	6.2	1.9	1.4	
年 齢 別	20歳未満	7	57.1	14.3	14.3	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	-	-	
	20～29歳	90	48.9	36.7	22.2	12.2	21.1	21.1	8.9	7.8	1.1	-	
	30～39歳	195	47.7	34.4	30.3	20.5	9.7	18.5	10.3	11.3	1.0	2.1	
	40～49歳	228	58.8	31.1	29.8	18.4	11.4	14.5	8.8	8.3	1.3	0.9	
	50～59歳	223	58.3	37.2	28.3	17.5	14.8	15.7	9.4	4.9	3.1	0.9	
	60～69歳	323	63.8	22.9	25.1	26.3	18.0	14.2	11.5	7.1	2.2	1.2	
	70～79歳	286	67.8	22.4	22.0	21.0	22.0	14.0	7.7	3.8	3.1	1.7	
80歳以上	110	75.5	21.8	15.5	20.9	20.9	10.0	3.6	4.5	5.5	5.5		

(3) 地球温暖化防止に関する情報の提供方法 (B: 問12)

問. 厚木市では、市民の方に地球温暖化防止に関する情報を広報紙やホームページなどで提供していますが、他にはどのような提供方法が必要だと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図8-3-1 地球温暖化防止に関する情報の提供方法



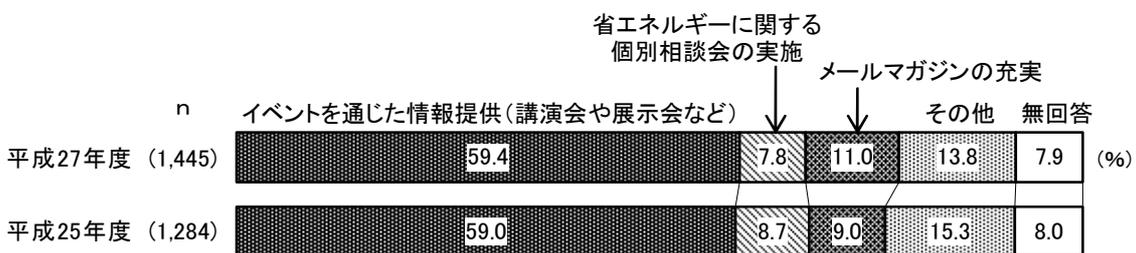
【全体】

地球温暖化防止に関する情報の提供方法について聞いたところ、「イベントを通じた情報提供(講演会や展示会など)」(59.4%)が約6割で最も高く、次いで「メールマガジンの充実」(11.0%)、「省エネルギーに関する個別相談会の実施」(7.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、大きな差異はみられない。

図8-3-2 地球温暖化防止に関する情報の提供方法—経年変化

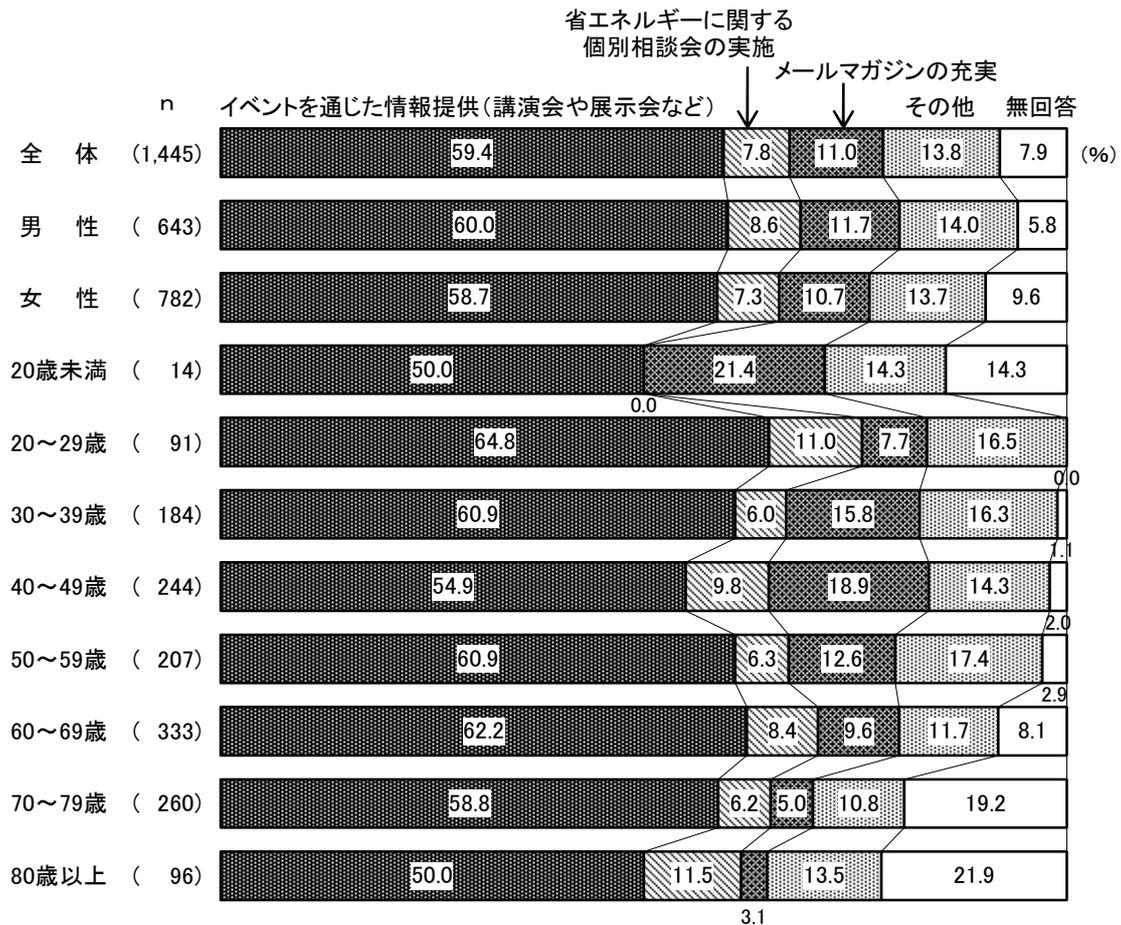


【属性別】

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、20～29歳では「イベントを通じた情報提供（講演会や展示会など）」（64.8%）が6割半ばと高くなっている。40～49歳では「メールマガジンの充実」（18.9%）が2割近くと高くなっている。

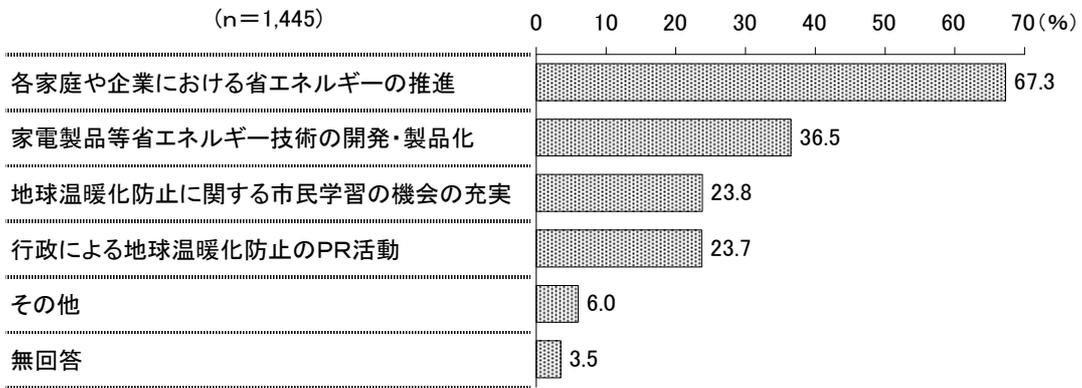
図8-3-3 地球温暖化防止に関する情報の提供方法—性別、年齢別



(4) 地球温暖化防止のための取組 (B: 問13)

問. 地球温暖化防止への取組について、特に必要だと思うものは何ですか。
(2つまで選んでください)

図8-4-1 地球温暖化防止のための取組



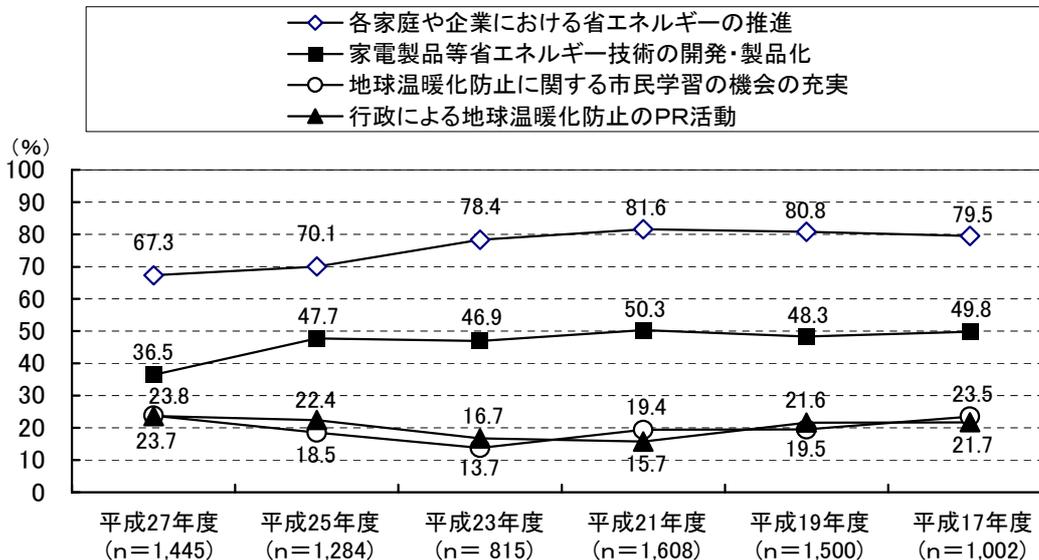
【全体】

地球温暖化防止のための取組について特に必要だと思うものを聞いたところ、「各家庭や企業における省エネルギーの推進」(67.3%)が7割近くで最も高く、次いで「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」(36.5%)、「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」(23.8%)、「行政による地球温暖化防止のPR活動」(23.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」(23.8%)は前回調査(18.5%)より5.3ポイント増加している。一方、「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」(36.5%)は前回調査(47.7%)より11.2ポイント減少している。

図8-4-2 地球温暖化防止のための取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」(25.1%)が男性(21.9%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳から49歳では「各家庭や企業における省エネルギーの推進」が約7割と高くなっている。20～29歳では「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」(47.3%)が5割近くと高くなっている。

表8-4-1 地球温暖化防止のための取組—性別、年齢別 (%)

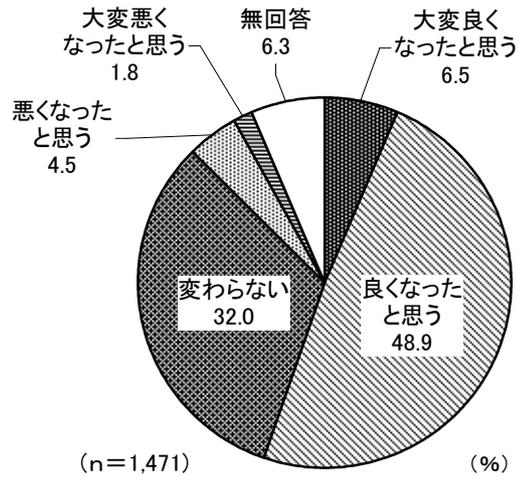
		n	各家庭や企業における省エネルギーの推進	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化	地球温暖化防止に関する市民学習の機会充実	行政による地球温暖化防止のPR活動	その他	無回答
全 体		1,445	67.3	36.5	23.8	23.7	6.0	3.5
性別	男 性	643	67.3	36.1	21.9	24.9	6.1	2.3
	女 性	782	67.5	37.1	25.1	22.9	5.9	4.3
年齢別	20歳未満	14	78.6	42.9	14.3	14.3	7.1	7.1
	20～29歳	91	56.0	47.3	15.4	25.3	9.9	-
	30～39歳	184	70.7	45.7	21.2	14.1	6.5	0.5
	40～49歳	244	70.1	34.4	26.2	23.4	5.3	1.6
	50～59歳	207	66.7	40.1	20.3	25.6	8.7	1.0
	60～69歳	333	68.5	34.5	27.3	22.5	6.0	2.1
	70～79歳	260	66.9	31.2	26.2	31.9	3.8	7.7
80歳以上	96	61.5	26.0	19.8	21.9	3.1	15.6	

9 交通・安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (A:問17)

問. 本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください)

図9-1-1 本厚木駅周辺の治安



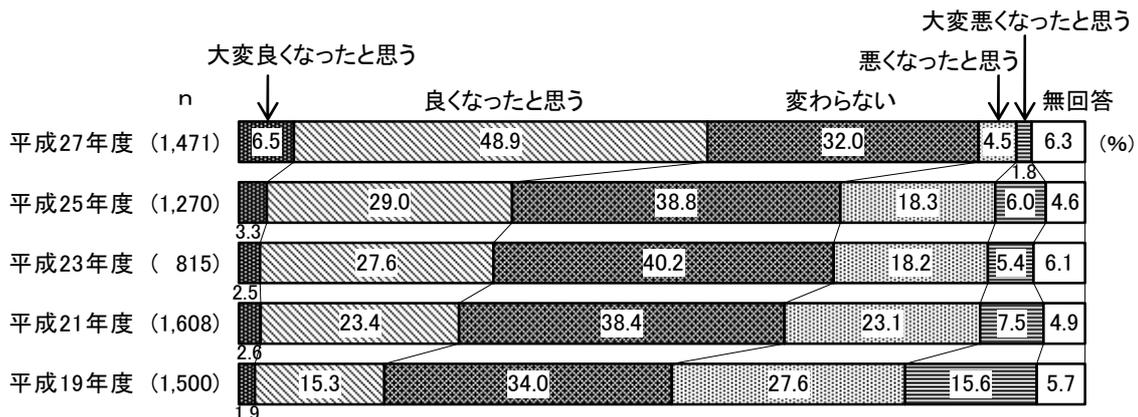
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「良くなったと思う」(48.9%)が5割近くで、これに「大変良くなったと思う」(6.5%)を合わせた『改善したと思う方』(55.4%)は5割半ばとなっている。一方、「悪くなったと思う」(4.5%)と「大変悪くなったと思う」(1.8%)を合わせた『悪化したと思う方』(6.3%)は1割未満となっている。また、「変わらない」(32.0%)は3割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『改善したと思う方』(55.4%)は前回調査(32.3%)より23.1ポイント増加している。一方、『悪化したと思う方』(6.3%)は前回調査(24.3%)より18.0ポイント減少している。

図9-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化

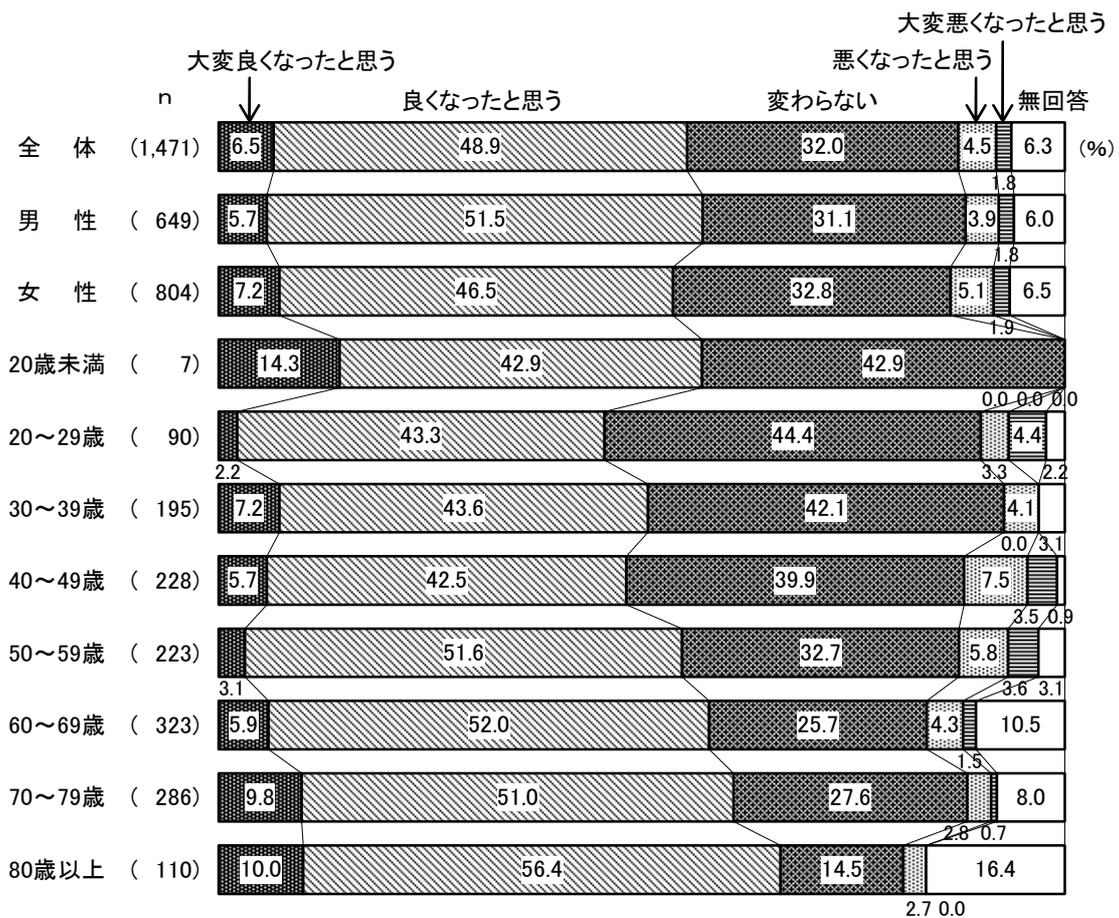


【属性別】

性別で見ると、男性では『改善したと思う方』（57.2%）が女性（53.7%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では『改善したと思う方』（66.4%）が7割近くと高くなっている。20～29歳では「変わらない」（44.4%）が4割半ばと高くなっている。40～49歳では『悪化したと思う方』（11.0%）が1割を超えて高くなっている。

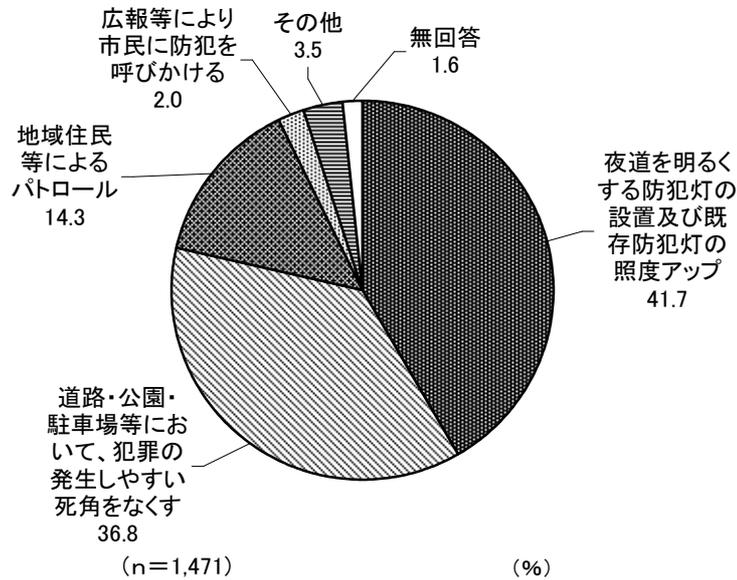
図9-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別



(2) 防犯対策に効果的なもの (A: 問18)

問. 防犯対策について、どの取組が効果的だと思いますか。(1つだけ選んでください)

図9-2-1 防犯対策に効果的なもの



【全体】

防犯対策に効果的な取組について聞いたところ、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(41.7%)が4割を超えて最も高く、次いで「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(36.8%)、「地域住民等によるパトロール」(14.3%)となっている。

【経年変化】

平成27年度調査では、質問が過去と異なっているため、参考に記載する。

表9-2-1 防犯対策に効果的なもの—経年変化

調査年	n	夜道の照明アップ及び既存防犯灯の設置	道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	地域住民等によるパトロール	広報等により市民に呼びかける	その他	無回答
平成27年度	1,471	41.7	36.8	14.3	2.0	3.5	1.6
平成25年度	1,270	41.9	39.1	10.9	2.0	3.8	2.3
平成23年度	815	70.7	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
平成21年度	1,608	72.7	76.2	39.6	21.0	5.8	2.2
平成19年度	1,500	67.1	77.3	40.3	22.3	9.1	2.5

(%)

(注1) 平成25年度調査までは、「防犯対策に望むもの」としていた。

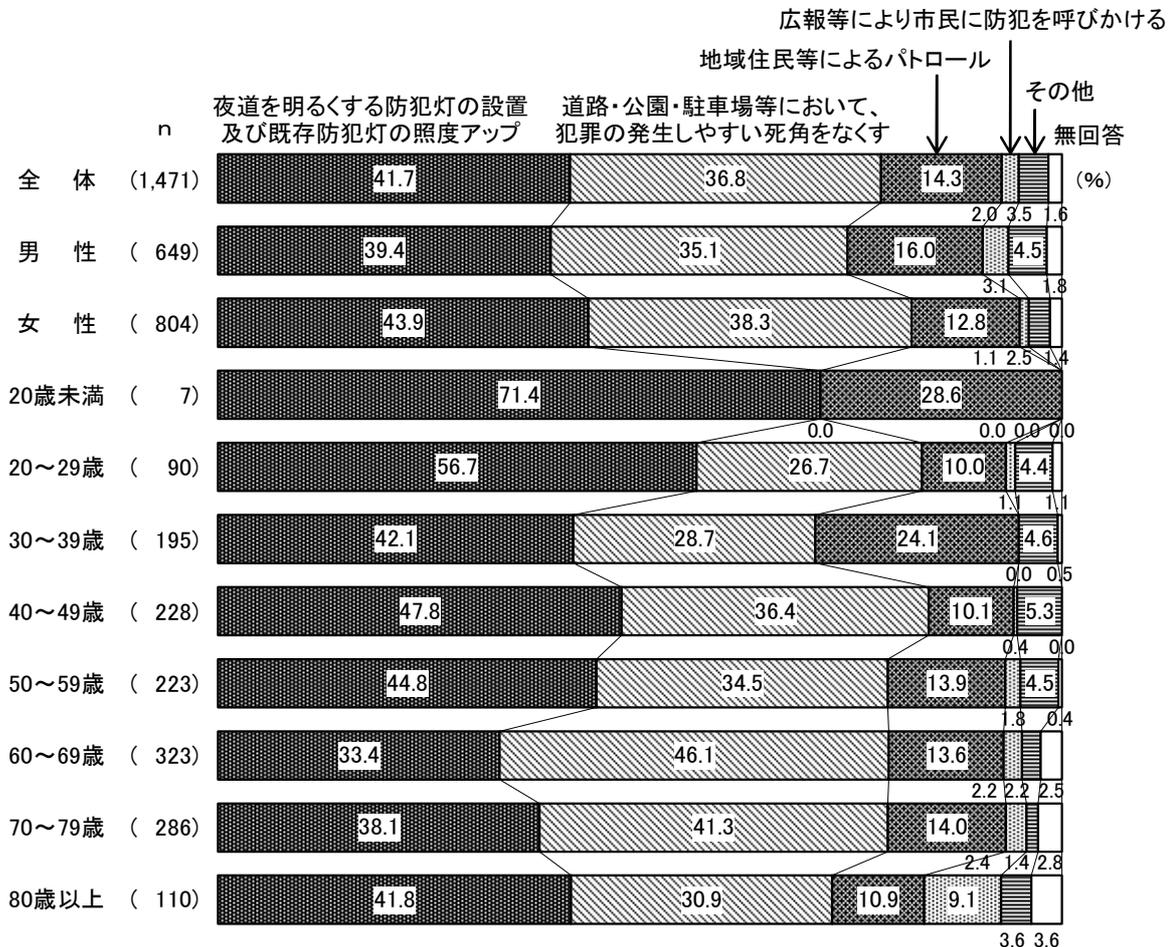
(注2) 平成25年度調査以降は単数回答、平成23年度調査までは複数回答で聴いていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(43.9%)が男性(39.4%)より4.5ポイント、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(38.3%)が男性(35.1%)より3.2ポイント高くなっている。一方、男性では「地域住民等によるパトロール」(16.0%)が女性(12.8%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(56.7%)が6割近くと高くなっている。60～69歳では「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(46.1%)が5割近くと高くなっている。30～39歳では「地域住民等によるパトロール」(24.1%)が2割半ばと高くなっている。

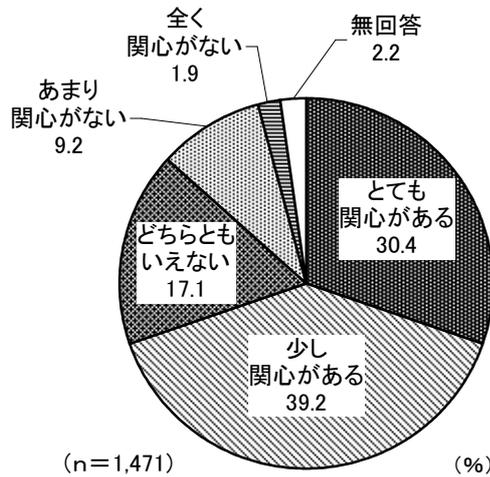
図9-2-2 防犯対策に効果的なもの一性別、年齢別



(3) セーフコミュニティの考え方 (A:問19)

問. 厚木市は、平成22年11月19日にWHOが推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。(1つだけ選んでください)

図9-3-1 セーフコミュニティの考え方



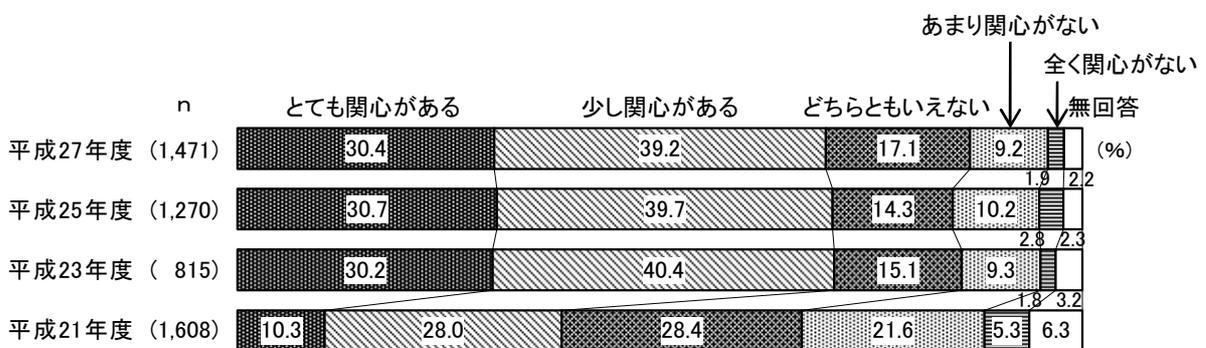
【全体】

セーフコミュニティの考え方について関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」(30.4%)と「少し関心がある」(39.2%)を合わせた『関心がある』(69.6%)は約7割となっている。一方、「あまり関心がない」(9.2%)と「全く関心がない」(1.9%)を合わせた『関心がない』(11.1%)は1割程度となっている。また、「どちらともいえない」(17.1%)は2割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、平成23年度調査以降、大きな差異はみられない。

図9-3-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化

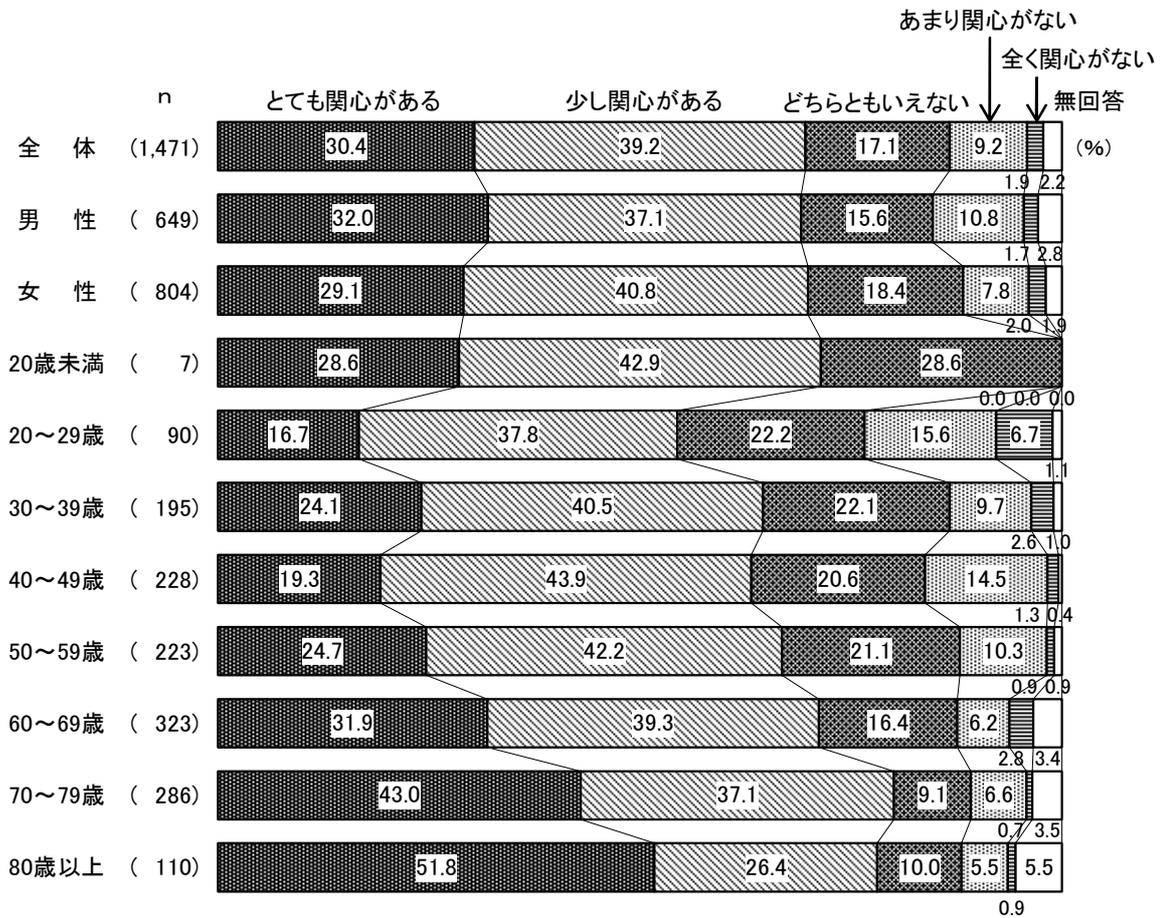


【属性別】

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、70～79歳では『関心がある』(80.1%)が約8割と高くなっている。20～29歳では『関心がない』(22.3%)が2割を超えて高くなっている。

図9-3-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別

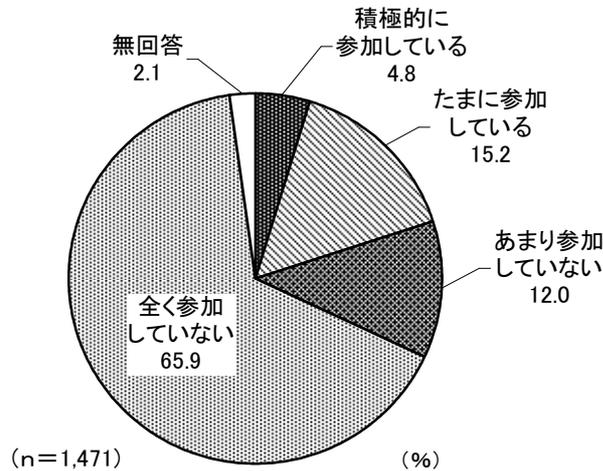


(4) 地域の防犯活動 (A: 問20)

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加していますか。

(1つだけ選んでください)

図9-4-1 地域の防犯活動



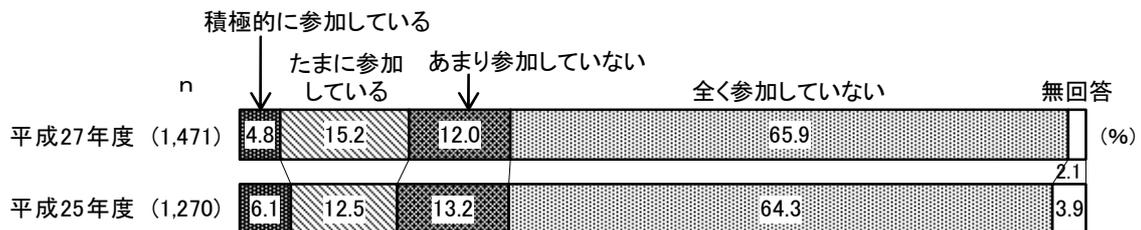
【全体】

地域の防犯活動に参加しているか聞いたところ、「積極的に参加している」(4.8%)、「たまに参加している」(15.2%)、「あまり参加していない」(12.0%)の3つを合わせた『参加』(32.0%)は3割を超えている。一方、「全く参加していない」(65.9%)は6割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、大きな差異はみられない。

図9-4-2 地域の防犯活動—経年変化

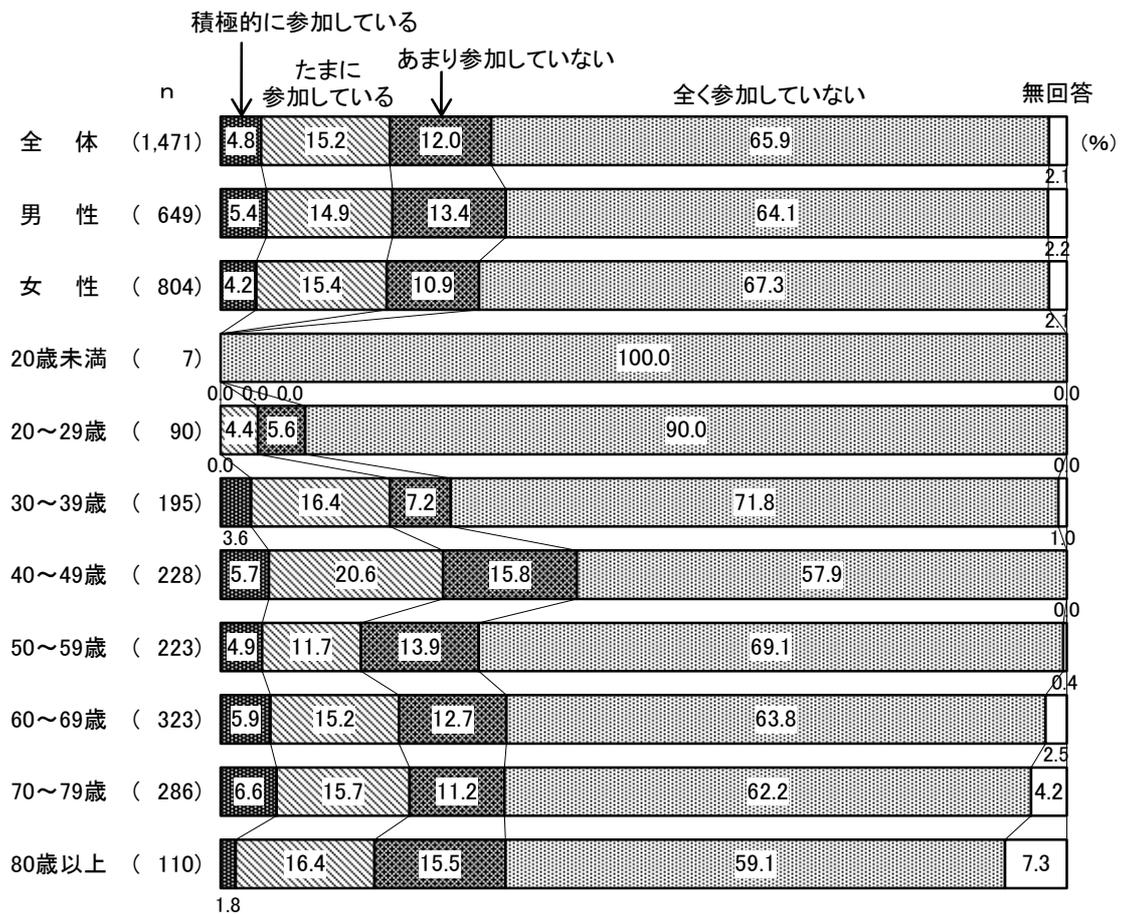


【属性別】

性別で見ると、男性では『参加』（33.7%）が女性（30.5%）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では『参加』（42.1%）が4割を超えて高くなっている。20～29歳では「全く参加していない」（90.0%）が9割と高くなっている。

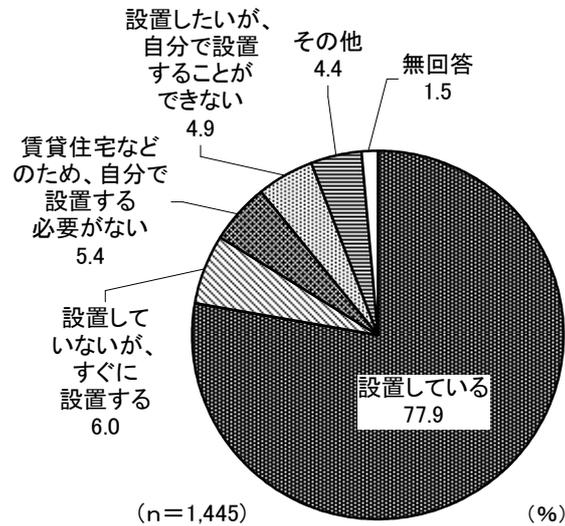
図9-4-3 地域の防犯活動—性別、年齢別



(5) 住宅用火災警報器の設置 (B:問14)

問. 平成23年に全ての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられましたが、あなたの家には設置されていますか。(1つだけ選んでください)

図9-5-1 住宅用火災警報器の設置



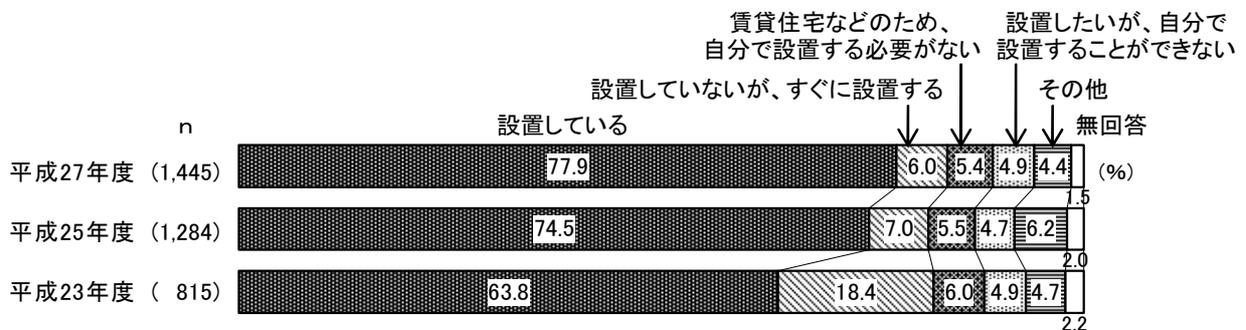
【全体】

住宅用火災警報器の設置について聞いたところ、「設置している」(77.9%)は8割近くと高くなっている。「設置していないが、すぐに設置する」(6.0%)、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(5.4%)、「設置したいが、自分で設置することができない」(4.9%)はいずれも1割未満となっている。

【経年変化】

平成27年度調査では、質問が過去と異なっているため、参考に記載する。

図9-5-2 住宅用火災警報器の設置—経年変化



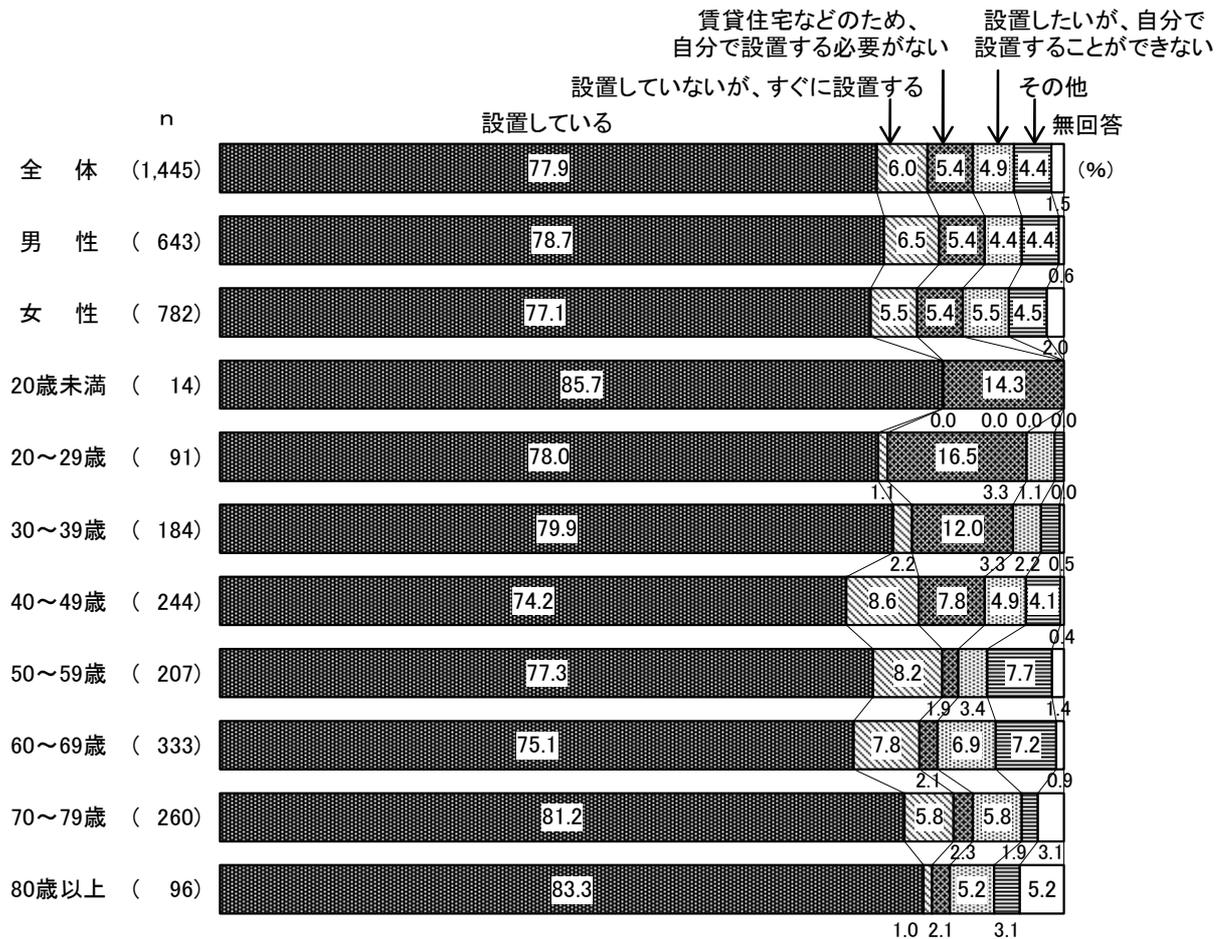
(注) 平成25年度調査までは、「住宅用火災報知器を寝室・階段に設置しているか」としていた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、70歳以上では「設置している」が8割を超えて高くなっている。20～29歳では「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(16.5%)が2割近くと高くなっている。

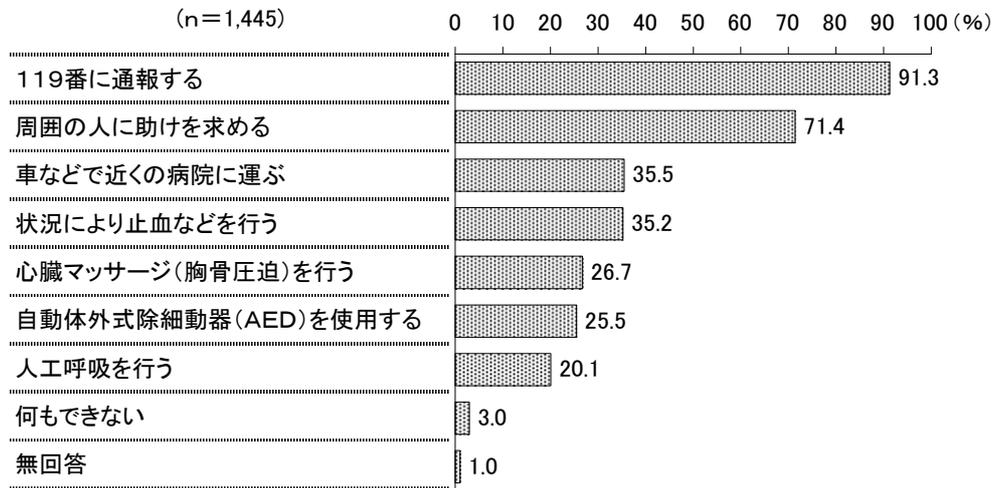
図9-5-3 住宅用火災警報器の設置—性別、年齢別



(6) 実行可能な応急手当 (B:問15)

問. 救急車が到着するまでの間の応急手当は、傷病者の生存率を高めるためにとても重要であり、そのための知識も必要とされています。あなたは次の応急手当のうち、いざというときに実行できるものはどれですか。(いくつでも選んでください)

図9-6-1 実行可能な応急手当



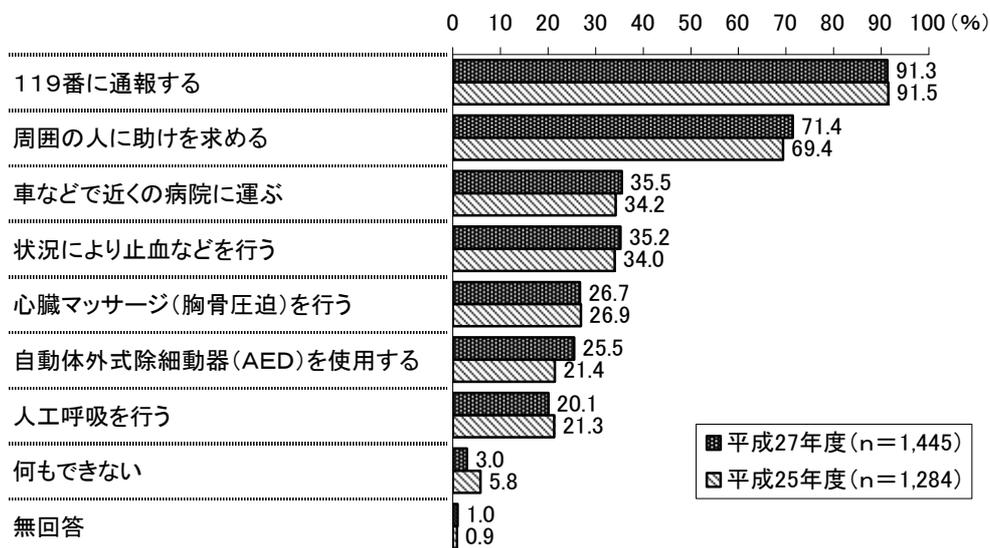
【全体】

いざというときに実行できる応急手当について聞いたところ、「119番に通報する」(91.3%)が9割を超えて最も高く、次いで「周囲の人に助けを求める」(71.4%)、「車などで近くの病院に運ぶ」(35.5%)、「状況により止血などを行う」(35.2%)、「心臓マッサージ(胸骨圧迫)を行う」(26.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自動体外式除細動器(AED)を使用する」(25.5%)は前回調査(21.4%)より4.1ポイント増加している。

図9-6-2 実行可能な応急手当—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「車などで近くの病院に運ぶ」（43.4％）が女性（29.4％）より14.0ポイント、「人工呼吸を行う」（26.1％）が女性（15.2％）より10.9ポイント、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」（31.4％）が女性（22.9％）より8.5ポイント、「状況により止血などを行う」（39.8％）が女性（31.5％）より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性では「周囲の人に助けを求める」（74.8％）が男性（67.8％）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳から39歳では「周囲の人に助けを求める」が8割を超えて高くなっているほか、「状況により止血などを行う」（42.9％）、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」（41.8％）、「自動体外式除細動器（AED）を使用する」（44.0％）、「人工呼吸を行う」（33.0％）が他の年代に比べて高くなっている。30～39歳では「周囲の人に助けを求める」（83.2％）が8割を超えて高く、「車などで近くの病院に運ぶ」（45.7％）が4割半ばと高くなっている。

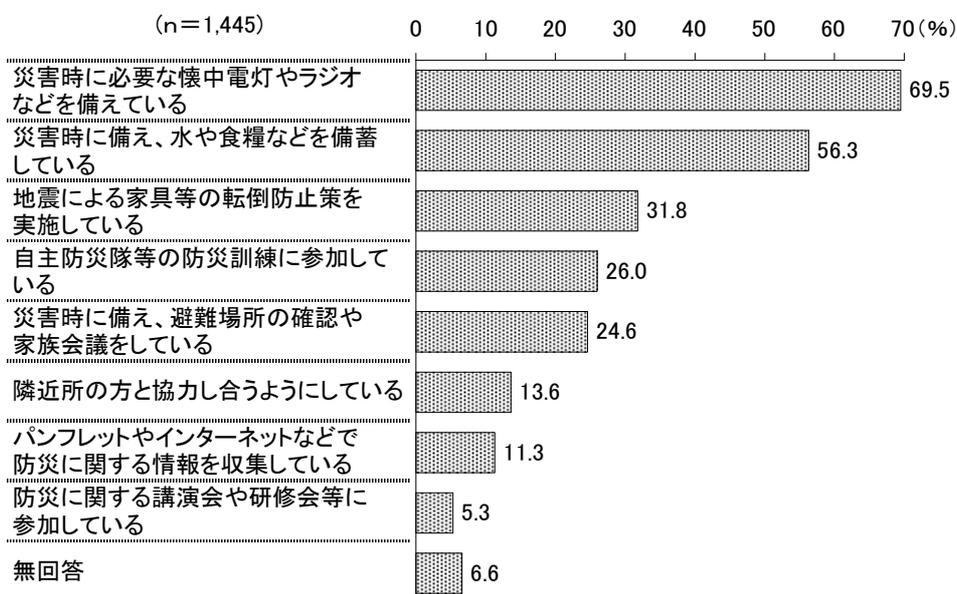
表9-6-1 実行可能な応急手当—性別、年齢別

			(%)								
		n	119番に通報する	周囲の人に助けを求める	車などで近くの病院に運ぶ	状況により止血などを行う	心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う	自動体外式除細動器（AED）を使用する	人工呼吸を行う	何もしない	無回答
全 体		1,445	91.3	71.4	35.5	35.2	26.7	25.5	20.1	3.0	1.0
性別	男 性	643	91.0	67.8	43.4	39.8	31.4	28.6	26.1	2.3	0.5
	女 性	782	91.8	74.8	29.4	31.5	22.9	22.9	15.2	3.5	1.2
年 齢 別	20歳未満	14	100.0	78.6	21.4	57.1	71.4	57.1	64.3	-	-
	20～29歳	91	95.6	82.4	29.7	42.9	41.8	44.0	33.0	1.1	-
	30～39歳	184	97.3	83.2	45.7	37.5	32.6	37.0	27.7	-	0.5
	40～49歳	244	94.7	77.9	39.8	39.3	32.8	34.8	22.1	1.6	0.4
	50～59歳	207	93.7	71.0	40.6	40.6	29.0	30.0	20.3	1.0	1.0
	60～69歳	333	90.7	69.4	37.8	33.9	26.1	21.9	17.4	2.1	0.6
	70～79歳	260	87.7	63.8	26.5	30.0	13.5	9.6	12.7	5.4	1.2
	80歳以上	96	72.9	51.0	19.8	17.7	11.5	2.1	10.4	15.6	4.2

(7) 家庭で行っている災害対策 (B:問16)

問. 厚木市では、大規模地震災害等に備え地域防災計画の見直しをしています。あなたの家庭ではどのような災害対策をしていますか。(いくつでも選んでください)

図9-7-1 家庭で行っている災害対策



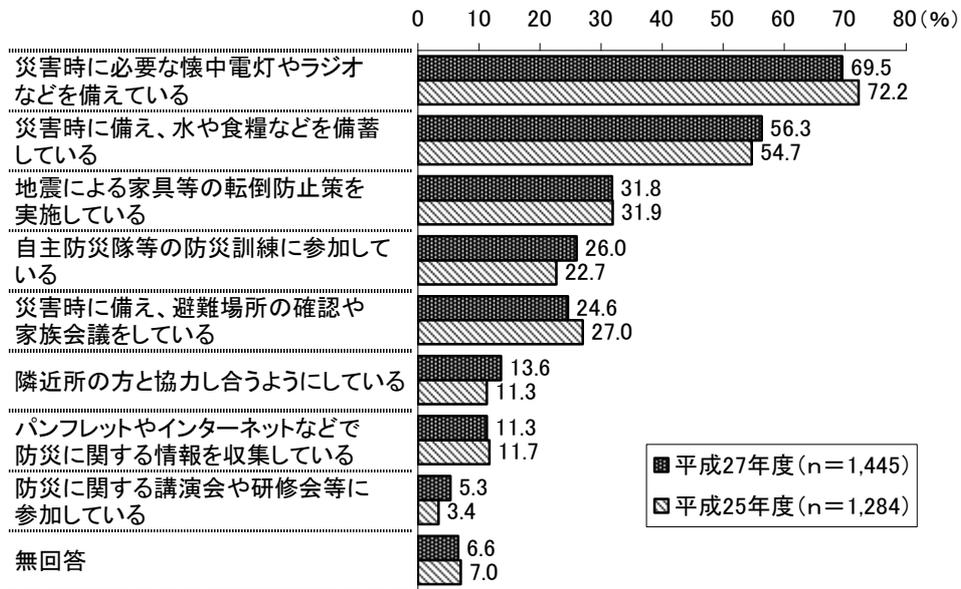
【全体】

家庭で行っている災害対策について聞いたところ、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている」(69.5%)が約7割で最も高く、次いで「災害時に備え、水や食糧などを備蓄している」(56.3%)、「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(31.8%)、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(26.0%)、「災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている」(24.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」（26.0％）は前回調査（22.7％）より3.3ポイント増加している。

図9-7-2 家庭で行っている災害対策—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(30.0%)が女性(22.4%)より7.6ポイント、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている」(71.4%)が女性(68.0%)より3.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70～79歳では「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている」(81.5%)が8割を超えて高く、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(38.8%)が4割近くと高くなっている。60～69歳では「災害時に備え、水や食糧などを備蓄している」(61.3%)が6割を超えて高くなっている。80歳以上では「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(42.7%)が4割を超えて高く、「隣近所の方と協力し合うようにしている」(31.3%)が3割を超えて高くなっている。

表9-7-1 家庭で行っている災害対策—性別、年齢別

		n	災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている	災害時に備え、水や食糧などを備蓄している	地震による家具等の転倒防止策を実施している	自主防災隊等の防災訓練に参加している	災害時に備え、避難場所の確認や家族会議を避ける	隣近所の方と協力し合うようにしている	パンフレットやインターネットで防災に関する情報を収集している	防災に関する講演会や研修会等に参加している	無回答
全体		1,445	69.5	56.3	31.8	26.0	24.6	13.6	11.3	5.3	6.6
性別	男性	643	71.4	55.8	33.1	30.0	24.1	14.2	10.6	6.7	6.4
	女性	782	68.0	57.4	30.6	22.4	25.3	12.9	12.0	4.1	6.9
年齢別	20歳未満	14	57.1	42.9	21.4	7.1	14.3	-	14.3	-	28.6
	20～29歳	91	47.3	39.6	23.1	4.4	13.2	4.4	17.6	2.2	15.4
	30～39歳	184	54.9	55.4	23.9	10.3	26.6	10.9	13.6	1.1	9.8
	40～49歳	244	63.9	58.2	29.1	20.1	31.6	6.6	15.2	3.7	8.6
	50～59歳	207	70.0	58.0	30.0	23.2	27.5	9.7	11.1	5.8	3.4
	60～69歳	333	78.1	61.3	34.2	34.8	26.1	14.7	9.0	5.1	3.0
	70～79歳	260	81.5	56.2	37.3	38.8	20.4	20.8	8.1	8.8	6.2
	80歳以上	96	70.8	54.2	42.7	32.3	16.7	31.3	8.3	10.4	5.2

〔居住地区別の結果〕

表9-7-2 家庭で行っている災害対策—居住地区別

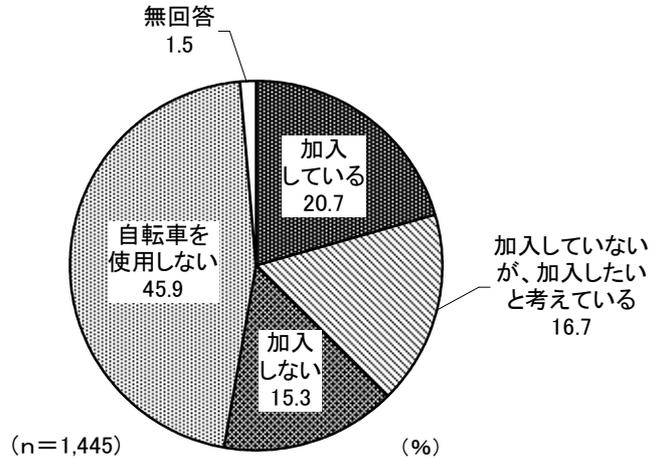
(%)

	n	災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている	災害時に備え、水や食糧などを備蓄している	地震による家具等の転倒防止策を実施している	自主防災隊等の防災訓練に参加している	災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている	隣近所の方と協力し合うようしている	パンフレットやインターネットなどで防災に関する情報を収集している	防災に関する講演会や研修会等に参加している	無回答	
全 体	1,445	69.5	56.3	31.8	26.0	24.6	13.6	11.3	5.3	6.6	
居 住 地 区 別	厚 木 北	154	65.6	63.0	29.9	14.3	22.1	4.5	13.6	2.6	7.1
	厚 木 南	90	72.2	53.3	28.9	16.7	23.3	6.7	5.6	6.7	3.3
	依 知 北	122	62.3	40.2	25.4	24.6	21.3	9.8	11.5	1.6	13.9
	依 知 南	57	68.4	50.9	28.1	29.8	22.8	15.8	10.5	3.5	8.8
	睦 合 北	58	67.2	53.4	29.3	29.3	25.9	20.7	10.3	10.3	6.9
	睦 合 南	119	73.1	52.1	32.8	21.8	28.6	7.6	14.3	5.9	4.2
	睦 合 西	46	76.1	67.4	30.4	34.8	17.4	17.4	8.7	4.3	6.5
	荻 野	54	70.4	68.5	35.2	31.5	27.8	7.4	16.7	3.7	1.9
	小 鮎	162	71.0	63.0	31.5	34.6	24.7	17.3	14.2	6.2	6.8
	南 毛 利	243	71.2	61.3	29.6	18.9	25.5	14.4	9.5	2.5	5.3
	南毛利南	100	72.0	57.0	37.0	28.0	29.0	15.0	17.0	9.0	7.0
	玉 川	96	70.8	54.2	36.5	43.8	30.2	26.0	5.2	11.5	4.2
	相 川	60	63.3	48.3	33.3	26.7	16.7	16.7	8.3	6.7	8.3
	緑ヶ丘	30	66.7	43.3	43.3	30.0	23.3	6.7	6.7	-	6.7
森の里	36	75.0	58.3	44.4	33.3	25.0	30.6	13.9	8.3	8.3	

(8) 自転車保険への加入 (B:問17)

問. 自転車に関係する事故は、交通事故全体に対して高い割合を占めています。
 あなたは自転車事故を対象にした保険等に参加していますか。(1つだけ選んでください)

図9-8-1 自転車保険への加入



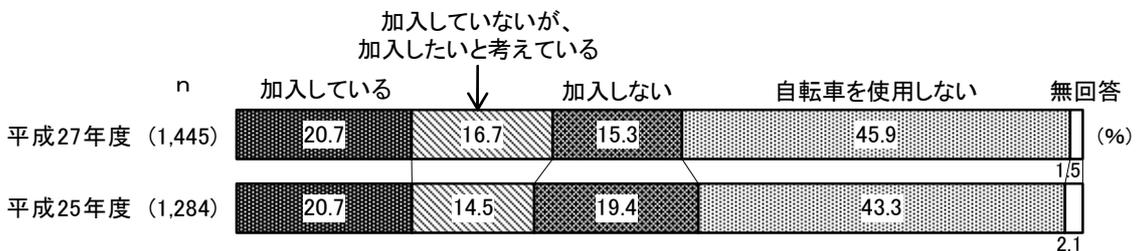
【全体】

自転車保険への加入状況について聞いたところ、「加入している」(20.7%)は約2割となっている。「加入していないが、加入したいと考えている」(16.7%)は2割近く、「加入しない」(15.3%)は1割半ばで、「自転車を使用しない」(45.9%)は4割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「加入しない」(15.3%)は前回調査(19.4%)より4.1ポイント減少している。

図9-8-2 自転車保険への加入一経年変化

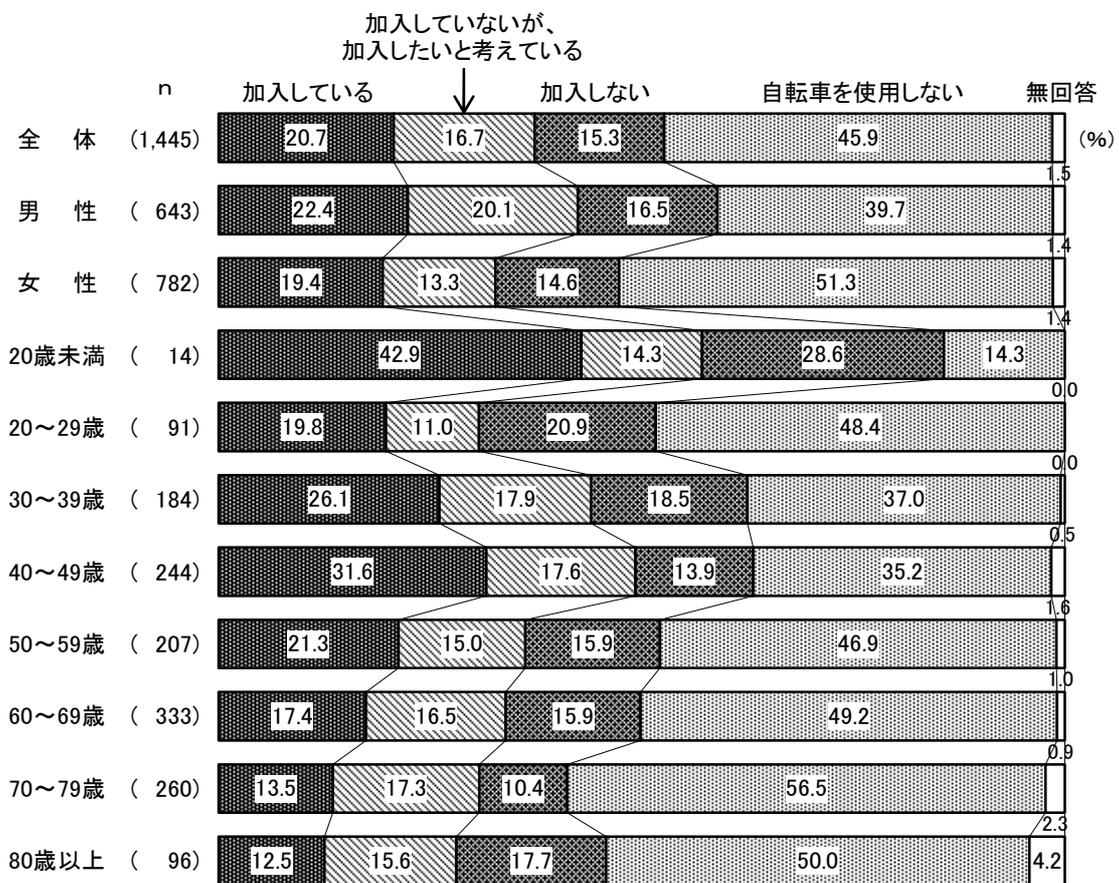


【属性別】

性別で見ると、男性では「加入していないが、加入したいと考えている」(20.1%)が女性(13.3%)より6.8ポイント、「加入している」(22.4%)が女性(19.4%)より3.0ポイント高くなっている。一方、女性では「自転車を使用しない」(51.3%)が男性(39.7%)より11.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「加入している」(31.6%)が3割を超えて高くなっている。20～29歳では「加入しない」(20.9%)が約2割と高くなっている。70～79歳では「自転車を使用しない」(56.5%)が6割近くと高くなっている。

図9-8-3 自転車保険への加入—性別、年齢別



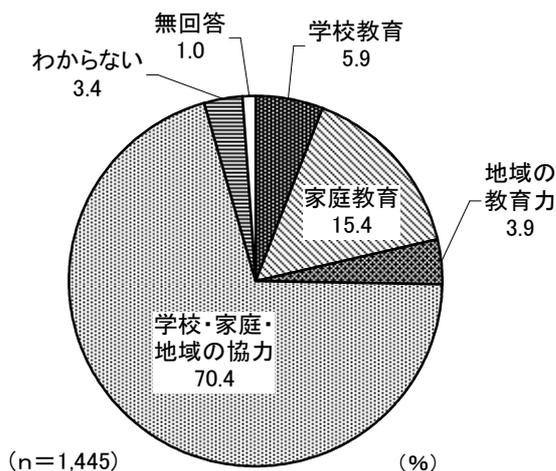
10 教育・生涯学習・文化

(1) 子どもの教育のために最も大切なこと (B:問5)

問. 豊かな心や健やかな体を育むため、子どもの教育には、何が大切だと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図10-1-1 子どもの教育のために最も大切なこと



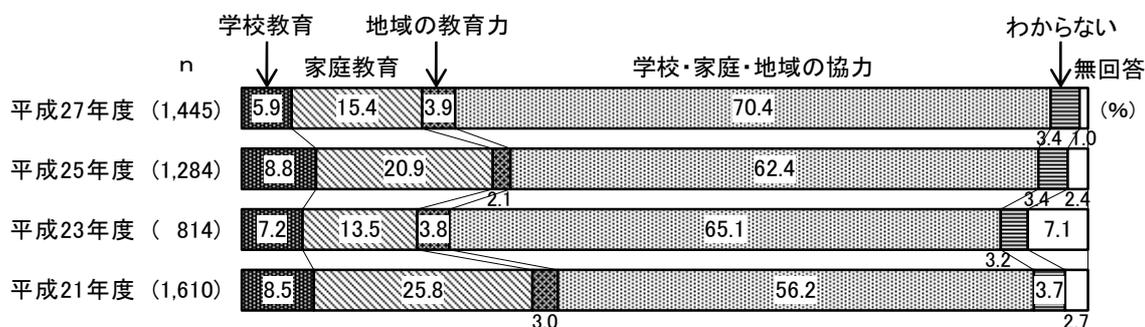
【全体】

子どもの教育のために最も大切なことについて聞いたところ、「学校・家庭・地域の協力」(70.4%)が約7割で最も高く、次いで「家庭教育」(15.4%)、「学校教育」(5.9%)、「地域の教育力」(3.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「学校・家庭・地域の協力」(70.4%)は前回調査(62.4%)より8.0ポイント増加している。一方、「家庭教育」(15.4%)は前回調査(20.9%)より5.5ポイント減少している。

図10-1-2 子どもの教育のために最も大切なこと—経年変化

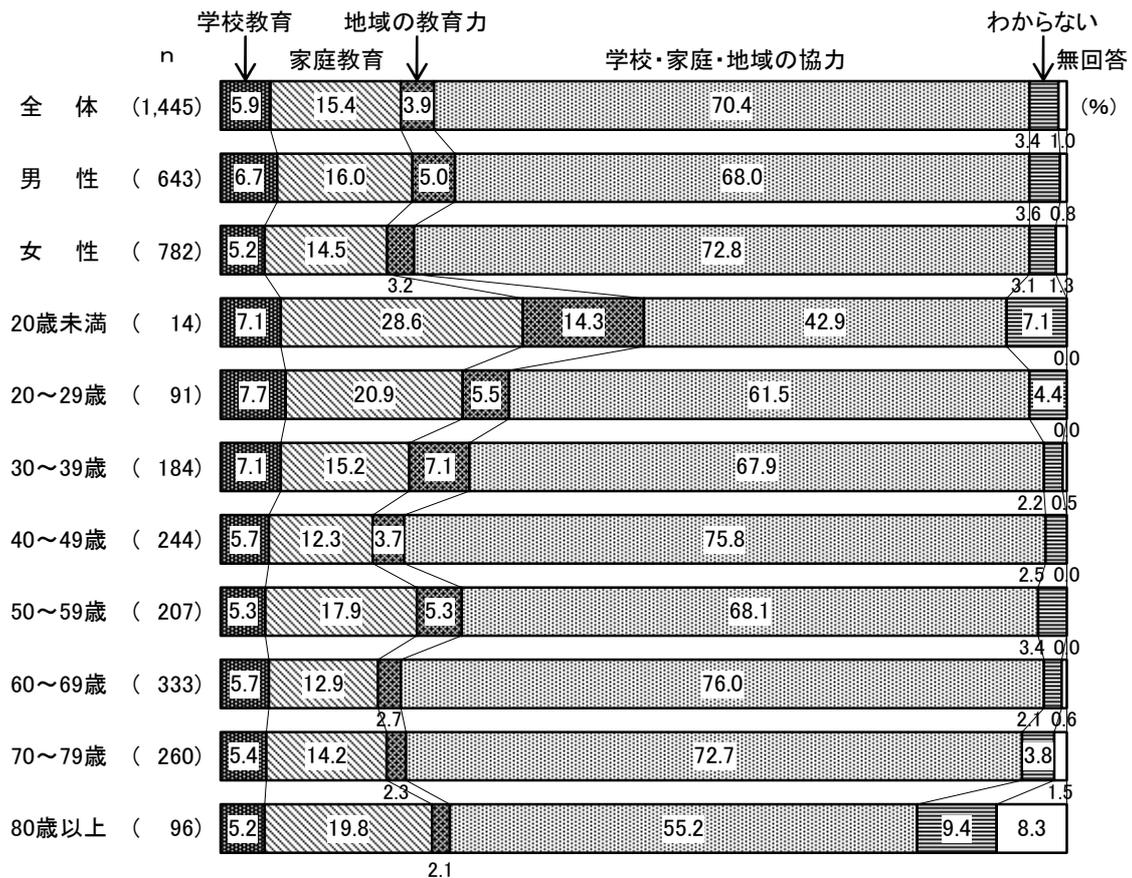


【属性別】

性別で見ると、女性では「学校・家庭・地域の協力」（72.8%）が男性（68.0%）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「学校・家庭・地域の協力」は60～69歳（76.0%）で8割近く、40～49歳（75.8%）で7割半ばと高くなっている。20～29歳では「家庭教育」（20.9%）が約2割と高くなっている。

図10-1-3 子どもの教育のために最も大切なこと—性別、年齢別

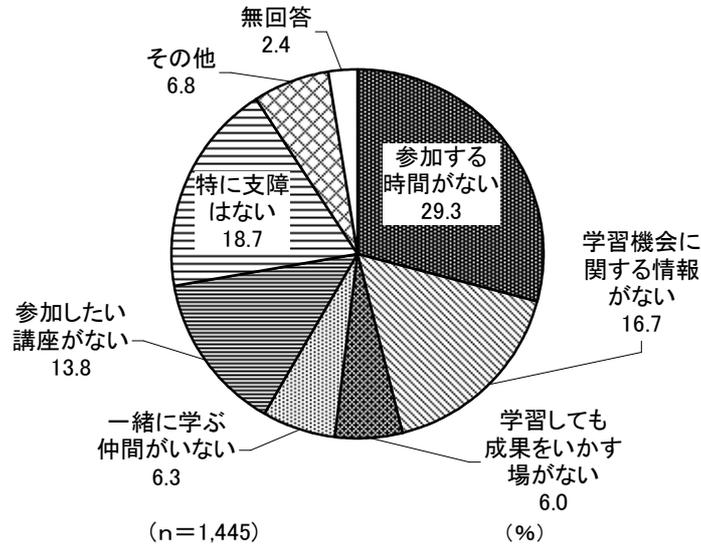


(2) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (B：問6)

問. 厚木市では、いつでも生涯学習に取り組むことができる社会の実現を目指しています。
講座、教育などの学習活動に参加する際、最も支障になるとと思われる理由はどれですか。

(1つだけ選んでください)

図10-2-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



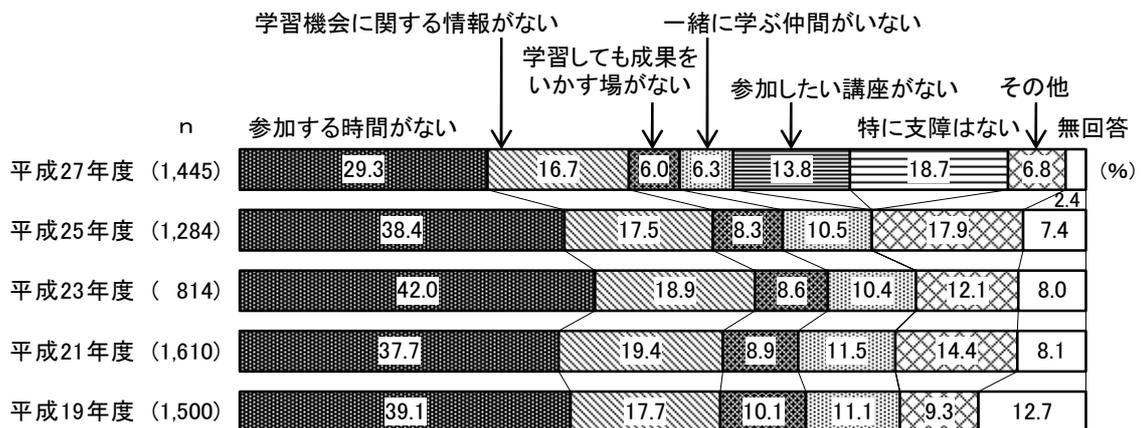
【全体】

生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(29.3%)が約3割で最も高く、次いで「学習機会に関する情報がない」(16.7%)、「参加したい講座がない」(13.8%)となっている。また、「特に支障はない」(18.7%)は2割近くとなっている。

【経年変化】

平成27年度調査では、「参加したい講座がない」と「特に支障はない」を追加しているため、参考に掲載する。

図10-2-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること一経年変化

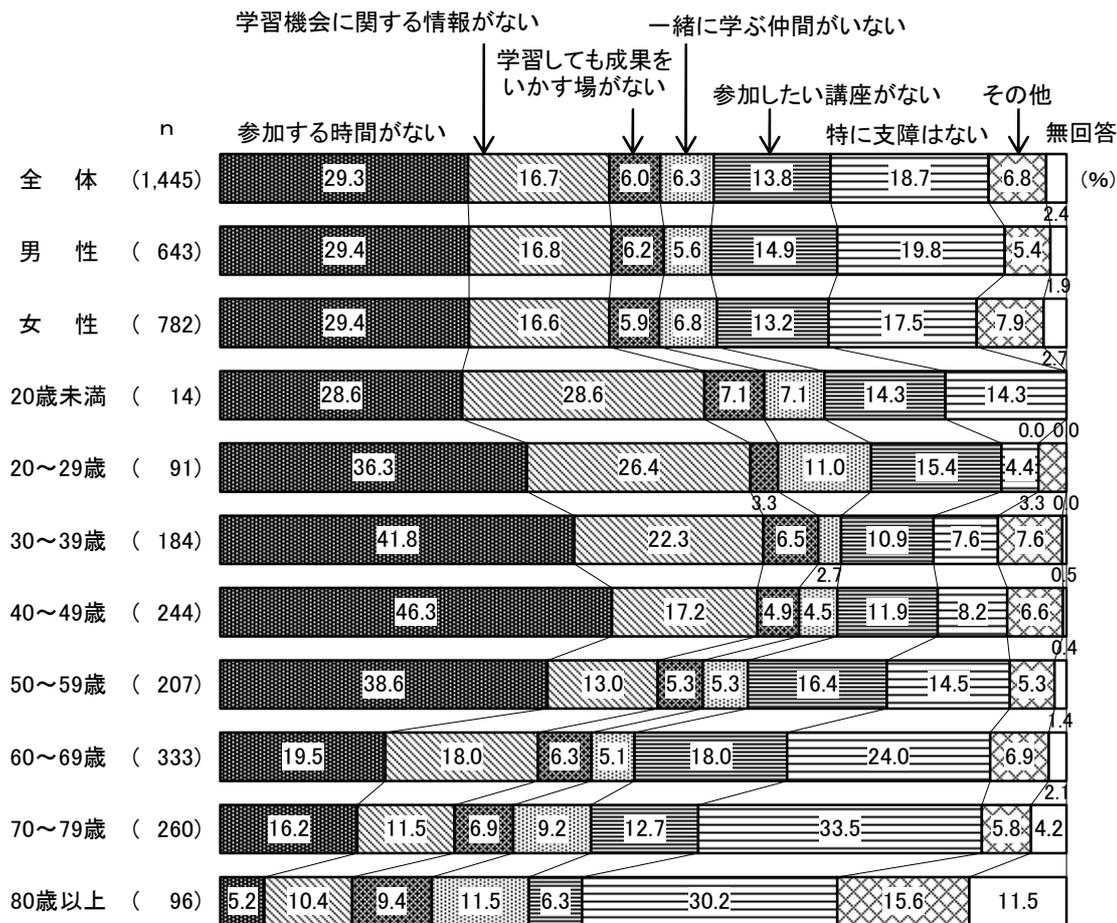


【属性別】

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、40～49歳では「参加する時間がない」(46.3%)が5割近くと高くなっている。20～29歳では「学習機会に関する情報がない」(26.4%)が3割近くと高くなっている。70～79歳では「特に支障はない」(33.5%)が3割を超えて高くなっている。

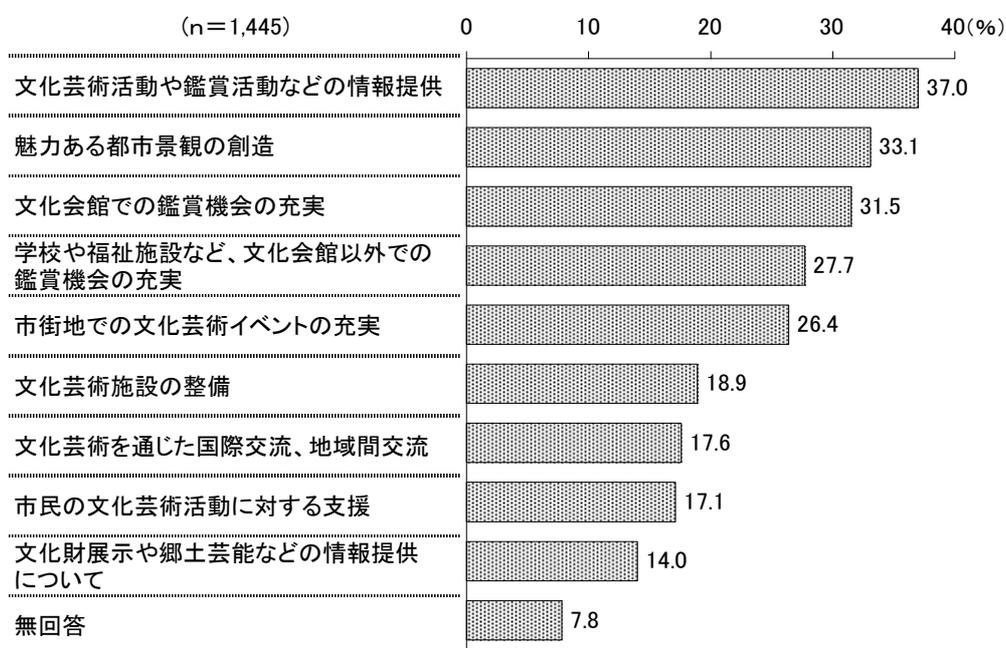
図10-2-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること一性別、年齢別



(3) 優先すべき文化芸術施策 (B:問7)

問. 価値観の多様化などにより、文化芸術や伝統芸能への関心・意識が変化しています。
あなたが優先的に取り組んでほしい文化芸術施策は何ですか。(3つまで選んでください)

図10-3-1 優先すべき文化芸術施策



【全体】

優先すべき文化芸術施策について聞いたところ、「文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供」(37.0%) が4割近くで最も高く、次いで「魅力ある都市景観の創造」(33.1%)、「文化会館での鑑賞機会の充実」(31.5%)、「学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実」(27.7%)、「市街地での文化芸術イベントの充実」(26.4%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は前回調査と同じ順位となっているが、中でも「市街地での文化芸術イベントの充実」(26.4%)は前回調査(22.8%)より3.6ポイント増加している。

表10-3-1 優先すべき文化芸術施策—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	平成27年度 (n=1,445)		平成25年度 (n=1,284)		平成23年度 (n=815)		平成21年度 (n=1,608)		平成19年度 (n=1,500)	
1	文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供	37.0	文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供	34.3	芸術文化活動や鑑賞活動などの情報提供	34.5	芸術文化活動や鑑賞活動などの情報提供	33.2	芸術文化活動や鑑賞活動などの情報提供	34.6
2	魅力ある都市景観の創造	33.1	魅力ある都市景観の創造	32.9	文化会館での鑑賞機会の充実	30.7	魅力ある都市景観の創造	30.8	文化会館での鑑賞機会の充実	32.4
3	文化会館での鑑賞機会の充実	31.5	文化会館での鑑賞機会の充実	30.1	魅力ある都市景観の創造	29.4	文化会館での鑑賞機会の充実	30.5	魅力ある都市景観の創造	28.2
4	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	27.7	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	26.5	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	25.3	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	26.7	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	27.8
5	市街地での文化芸術イベントの充実	26.4	市街地での文化芸術イベントの充実	22.8	市街地での文化芸術イベントの充実	22.9	文化財や伝統芸能などの保存・継承	20.1	文化財や伝統芸能などの保存・継承	24.1

(注1)「文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供」は、平成23年度調査以前は「芸術文化活動や鑑賞活動などの情報提供」となっていた。

(注2)「文化財展示や郷土芸能などの情報提供について」は、平成21年度調査以前は「文化財や伝統芸能などの保存・継承」となっていた。

(注3)平成21年度調査以前は、「その他」の選択肢を加えて聴いていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「魅力ある都市景観の創造」(36.5%)が女性(30.1%)より6.4ポイント、「文化財展示や郷土芸能などの情報提供について」(17.3%)が女性(11.1%)より6.2ポイント高くなっている。一方、女性では「文化会館での鑑賞機会の充実」(35.2%)が男性(27.4%)より7.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供」(42.9%)が4割を超えて高くなっている。50～59歳では「魅力ある都市景観の創造」(37.7%)が4割近くと高くなっている。30～39歳では「学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実」(37.0%)が4割近くと高くなっている。

表10-3-2 優先すべき文化芸術施策一性別、年齢別

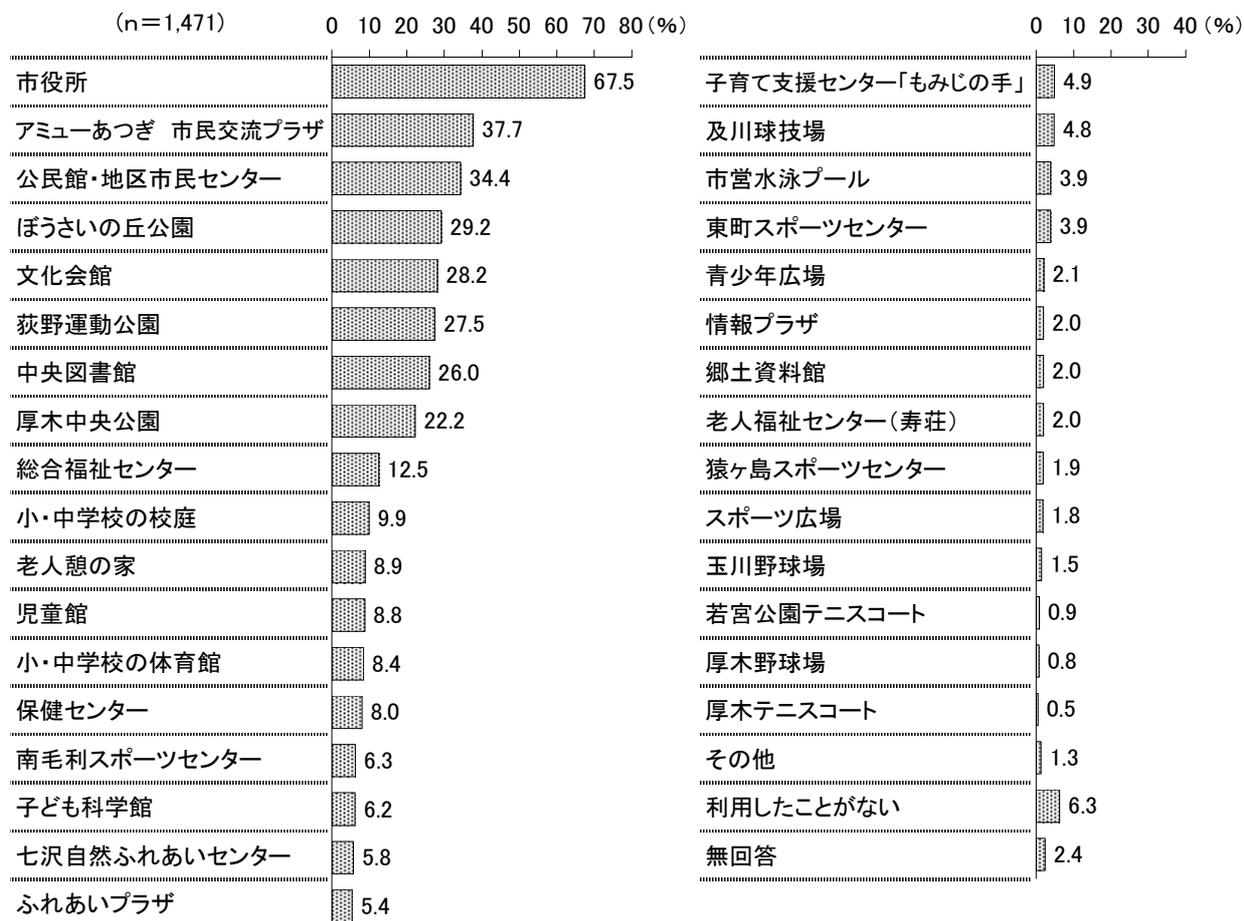
												(%)
		n	文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供	魅力ある都市景観の創造	文化会館での鑑賞機会の充実	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	市街地での文化芸術イベントの充実	文化芸術施設の整備	文化芸術を通じた国際交流、地域間交流	市民の文化芸術活動に対する支援	文化財展示や郷土芸能などの情報提供について	無回答
全体		1,445	37.0	33.1	31.5	27.7	26.4	18.9	17.6	17.1	14.0	7.8
性別	男性	643	38.3	36.5	27.4	26.4	27.8	19.8	18.8	19.8	17.3	7.0
	女性	782	36.1	30.1	35.2	28.9	25.3	18.3	16.4	15.1	11.1	8.3
年齢別	20歳未満	14	21.4	42.9	21.4	28.6	57.1	14.3	28.6	14.3	-	-
	20～29歳	91	42.9	31.9	23.1	30.8	34.1	14.3	24.2	8.8	6.6	3.3
	30～39歳	184	34.8	35.3	30.4	37.0	34.8	19.0	21.2	12.0	9.2	3.3
	40～49歳	244	34.4	31.6	25.8	32.8	29.5	18.4	19.7	17.2	11.9	4.1
	50～59歳	207	35.7	37.7	35.7	26.6	28.0	21.3	17.4	18.4	9.7	5.3
	60～69歳	333	39.9	30.3	35.4	23.4	23.1	22.2	18.0	20.1	19.8	6.6
	70～79歳	260	36.5	32.3	35.0	26.2	20.0	17.3	11.2	20.0	18.5	14.2
	80歳以上	96	36.5	34.4	26.0	16.7	15.6	13.5	11.5	14.6	12.5	22.9

11 市民生活

(1) 市の施設の利用状況 (A:問28)

問. この1年に、利用された「市の施設」をお答えください。(いくつでも選んでください)

図11-1-1 市の施設の利用状況



【全体】

この1年の市の施設の利用状況について聞いたところ、「市役所」(67.5%)が7割近くで最も高く、次いで「アミュあつぎ 市民交流プラザ」(37.7%)、「公民館・地区市民センター」(34.4%)、「ぼうさいの丘公園」(29.2%)、「文化会館」(28.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「公民館・地区市民センター」（34.4％）は前回調査（22.4％・第6位）より12.0ポイント増加し、「市役所」（67.5％）は前回調査（62.8％）より4.7ポイント増加している。

表11-1-1 市の施設の利用状況—経年変化（上位5項目と「利用したことがない」）

(%)

順位	平成27年度 (n=1,471)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,500)		平成17年度 (n=1,008)	
1	市役所	67.5	市役所	62.8	ぼうさいの丘公園	33.5	中央図書館	31.4	荻野運動公園	36.9	中央図書館	28.4
2	アミューあつぎ 市民交流プラザ	37.7	中央図書館	29.1	中央図書館	29.2	文化会館	31.1	中央図書館	34.2	荻野運動公園	28.1
3	公民館・地区市民センター	34.4	ぼうさいの丘公園	26.8	文化会館	26.8	ぼうさいの丘公園	30.7	文化会館	33.3	文化会館	27.8
4	ぼうさいの丘公園	29.2	荻野運動公園	25.7	荻野運動公園	26.3	荻野運動公園	25.7	ぼうさいの丘公園	28.1	総合福祉センター	17.1
5	文化会館	28.2	文化会館	25.6	厚木中央公園	24.0	市立公民館・地区市民センター	22.4	厚木中央公園	24.1	市立公民館・地区市民センター	17.0
	利用したことがない	6.3	利用したことがない	7.6	利用したことがない	15.6	利用したことがない	16.6	利用したことがない	12.7	利用したことがない	21.3

（注1）平成27年度調査では、「アミューあつぎ 市民交流プラザ」を追加している。

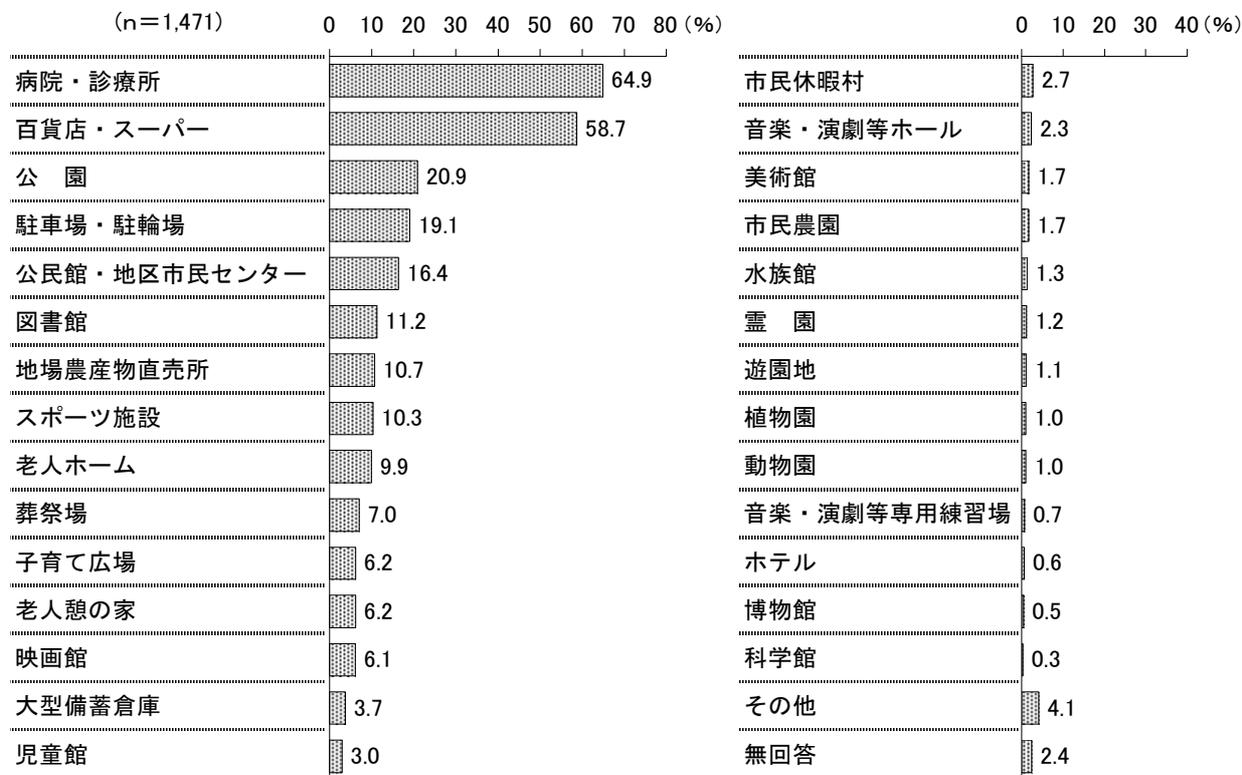
（注2）平成25年度調査以降、「市役所」を追加している。

（注3）平成17年度調査は選択肢内容が異なるため、参考に掲載する。

(2) 整備が必要な施設 (A: 問27)

問. 生活をする上で、特に必要な施設は何だと思いますか。(3つまで選んでください)

図11-2-1 整備が必要な施設



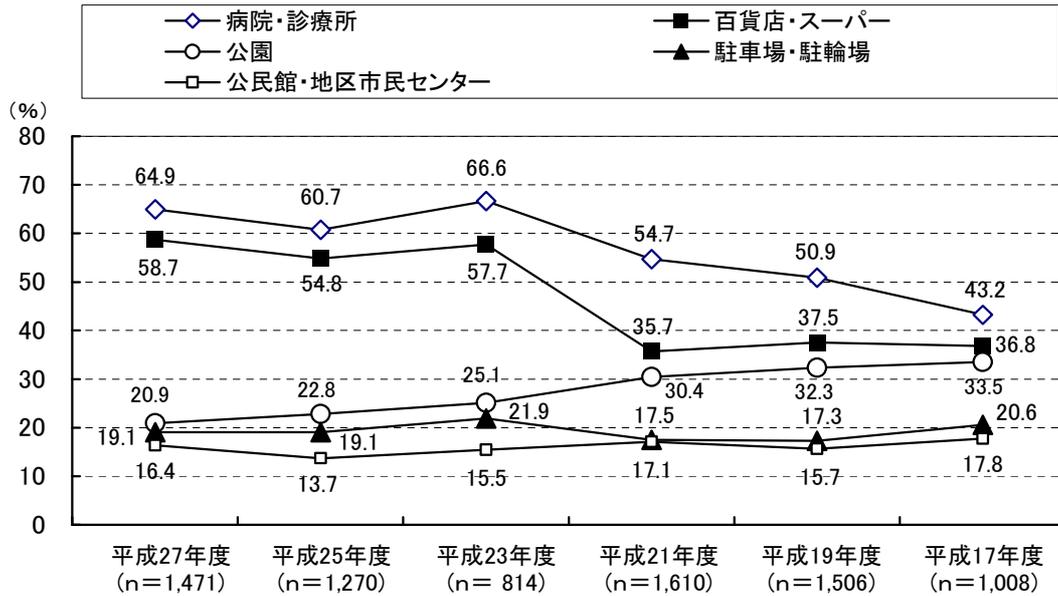
【全体】

整備が必要な施設について聞いたところ、「病院・診療所」(64.9%)が6割半ばで最も高く、次いで「百貨店・スーパー」(58.7%)、「公園」(20.9%)、「駐車場・駐輪場」(19.1%)、「公民館・地区市民センター」(16.4%)となっている。

【経年変化】(グラフは次ページにあり)

経年による変化を見ると、「病院・診療所」(64.9%)は前回調査(60.7%)より4.2ポイント増加し、「百貨店・スーパー」(58.7%)は前回調査(54.8%)より3.9ポイント増加している。

図11-2-2 整備が必要な施設一経年変化（上位5項目）



【属性別】

性別で見ると、男女ともに「病院・診療所」が第1位、「百貨店・スーパー」が第2位、「公園」が第3位となっている。

年齢別で見ると、59歳以下の年代では「百貨店・スーパー」が第1位、「病院・診療所」が第2位となっており、60歳以上の年代では「病院・診療所」が第1位、「百貨店・スーパー」が第2位となっている。

表11-2-1 整備が必要な施設一性別、年齢別（上位3項目）

		(%)	
順位	男性 (n=649)	女性 (n=804)	
1	病院・診療所 62.6	病院・診療所 67.0	
2	百貨店・スーパー 55.5	百貨店・スーパー 61.6	
3	公園 23.0	公園 19.3	

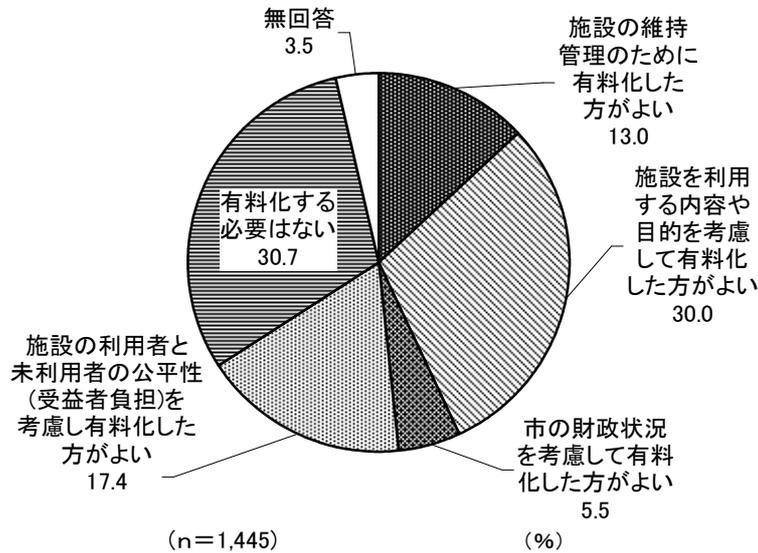
		(%)			
順位	20歳未満 (n=7)	20~29歳 (n=90)	30~39歳 (n=195)	40~49歳 (n=228)	
1	百貨店・スーパー 57.1	百貨店・スーパー 58.9	百貨店・スーパー 66.7	百貨店・スーパー 66.2	
2	病院・診療所 42.9	病院・診療所 53.3	病院・診療所 64.1	病院・診療所 63.2	
3	映画館 28.6	公園 27.8	公園 39.5	駐車場・駐輪場 29.4	

		(%)			
順位	50~59歳 (n=223)	60~69歳 (n=323)	70~79歳 (n=286)	80歳以上 (n=110)	
1	百貨店・スーパー 71.3	病院・診療所 63.8	病院・診療所 68.2	病院・診療所 62.7	
2	病院・診療所 70.9	百貨店・スーパー 57.6	百貨店・スーパー 45.8	百貨店・スーパー 40.0	
3	駐車場・駐輪場 22.4	公園 18.9	公民館・地区市民センター 26.6	公民館・地区市民センター 29.1	

(3) 市の施設の利用の有料化について (B:問23)

問. 厚木市の公民館など、現在使用料が無料の施設を有料化することについてどう思いますか。
(1つだけ選んでください)

図11-3-1 市の施設の利用の有料化について



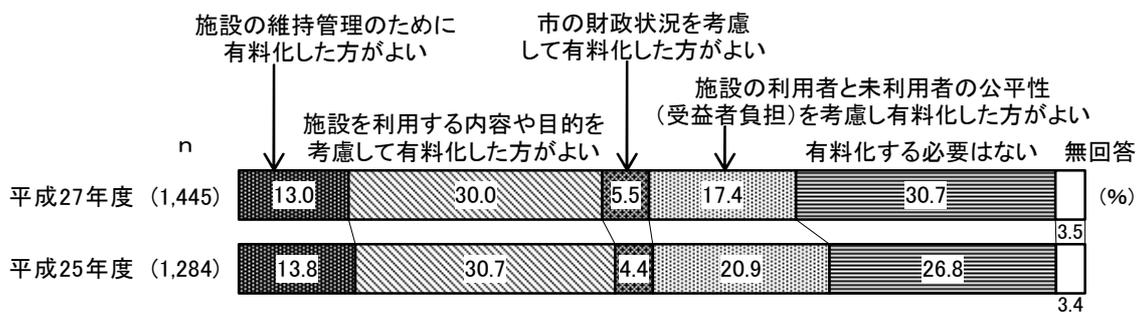
【全体】

市の施設の利用の有料化についてどう思うか聞いたところ、「有料化する必要はない」(30.7%)が約3割で最も高く、次いで「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい」(30.0%)、「施設の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」(17.4%)、「施設の維持管理のために有料化した方がよい」(13.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「有料化する必要はない」(30.7%)は前回調査(26.8%)より3.9ポイント増加している。一方、「施設の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」(17.4%)は前回調査(20.9%)より3.5ポイント減少している。

図11-3-2 市の施設の利用の有料化について—経年変化

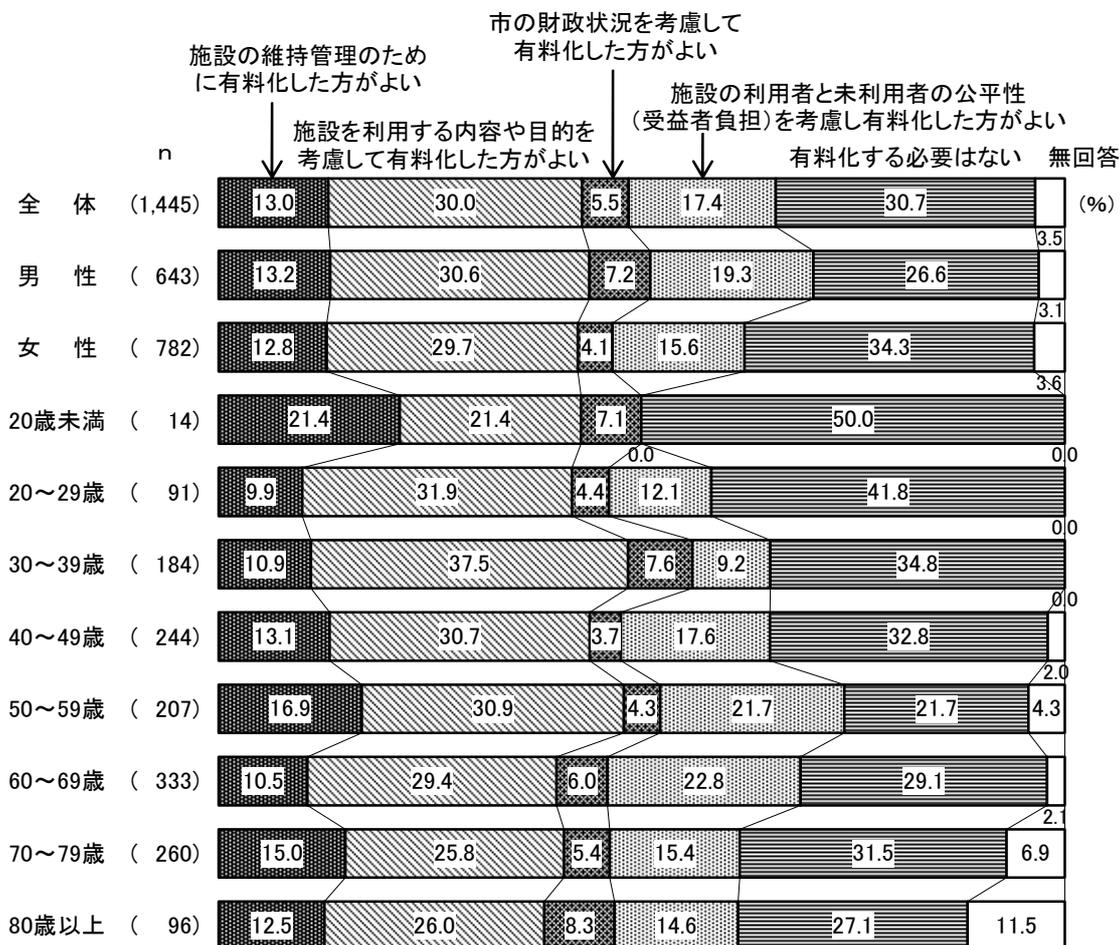


【属性別】

性別で見ると、女性では「有料化する必要はない」(34.3%)が男性(26.6%)より7.7ポイント高くなっている。一方、男性では「施設の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」(19.3%)が女性(15.6%)より3.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「有料化する必要はない」(41.8%)が4割を超えて高くなっている。30～39歳では「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい」(37.5%)が4割近くと高くなっている。50歳から69歳では「施設の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」が2割を超えて高くなっている。

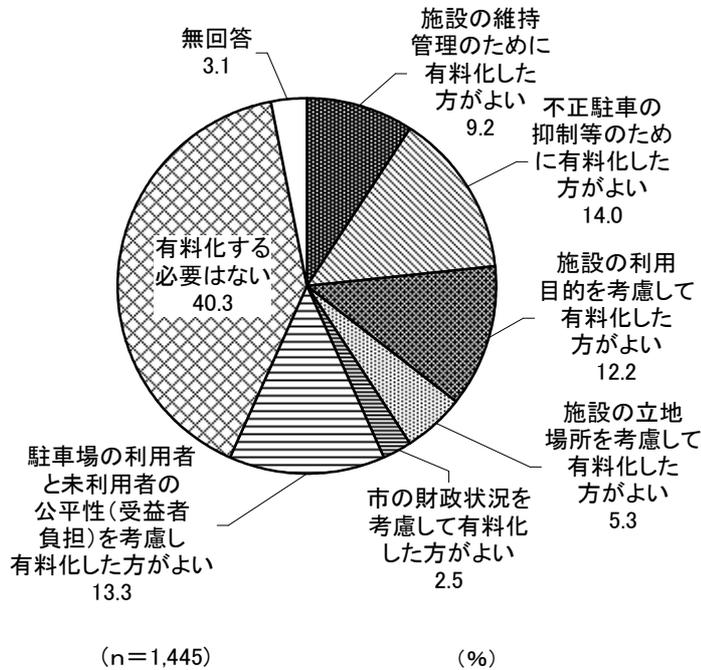
図11-3-3 市の施設の利用の有料化について一性別、年齢別



(4) 公共施設の駐車場の有料化について (B:問24)

問. 現在無料である公共施設の駐車場を有料化することについてどう思いますか。
(1つだけ選んでください)

図11-4-1 公共施設の駐車場の有料化について



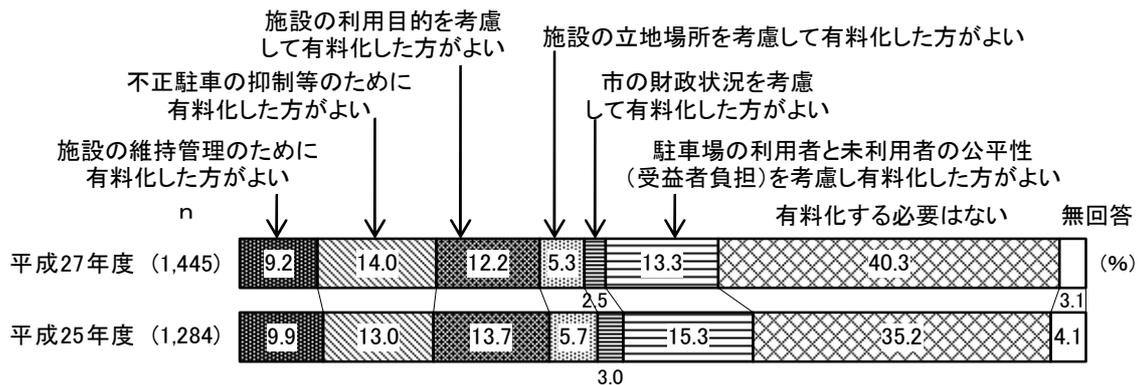
【全体】

公共施設の駐車場の有料化についてどう思うか聞いたところ、「有料化する必要はない」(40.3%)が約4割で最も高く、次いで「不正駐車抑制等のために有料化した方がよい」(14.0%)、「駐車場の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」(13.3%)、「施設の利用目的を考慮して有料化した方がよい」(12.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「有料化する必要はない」(40.3%)は前回調査(35.2%)より5.1ポイント増加している。

図11-4-2 公共施設の駐車場の有料化について—経年変化

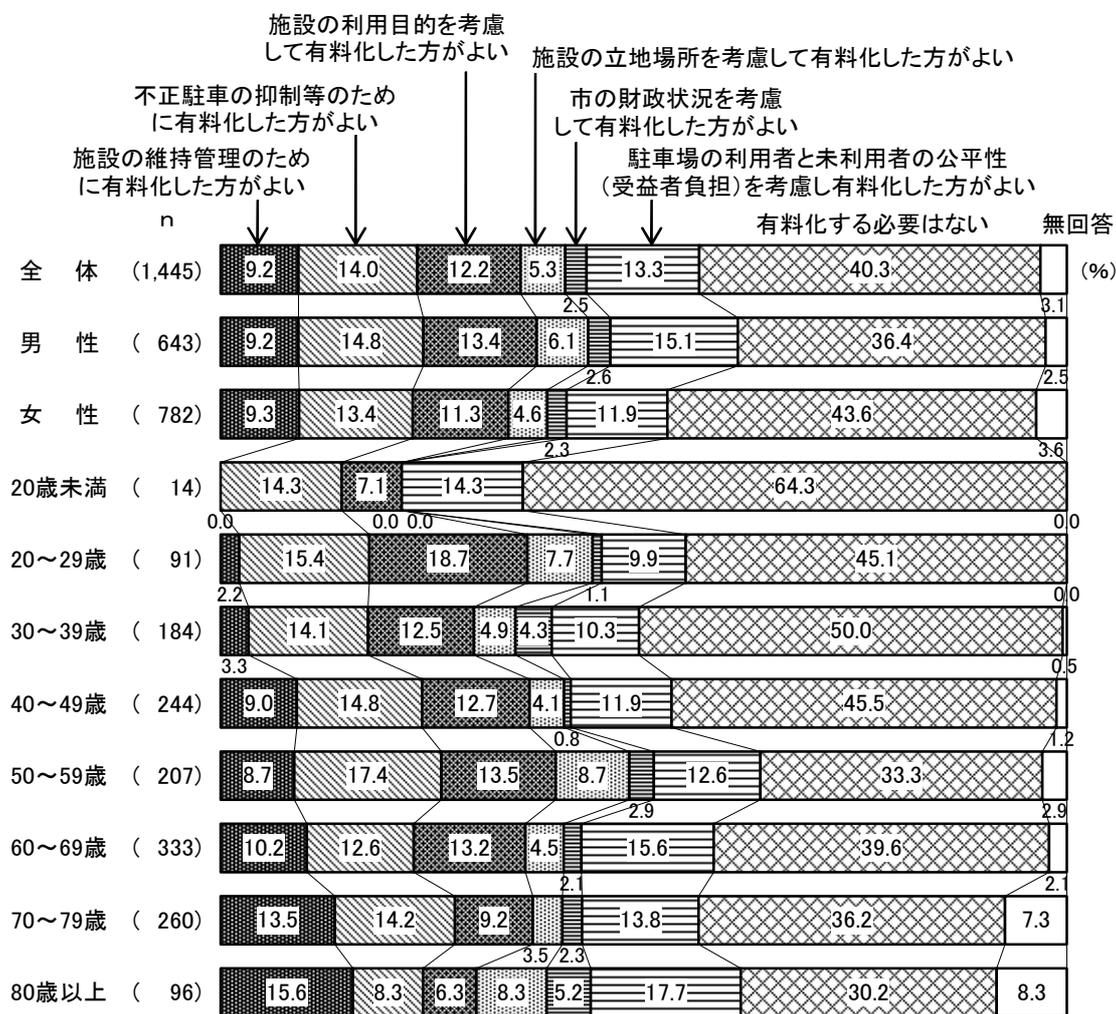


【属性別】

性別で見ると、女性では「有料化する必要はない」(43.6%)が男性(36.4%)より7.2ポイント高くなっている。一方、男性では「駐車場の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」(15.1%)が女性(11.9%)より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳では「有料化する必要はない」(50.0%)が5割と高くなっている。80歳以上では「駐車場の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し有料化した方がよい」(17.7%)が2割近くと高くなっている。20～29歳では「施設の利用目的を考慮して有料化した方がよい」(18.7%)が2割近くと高くなっている。

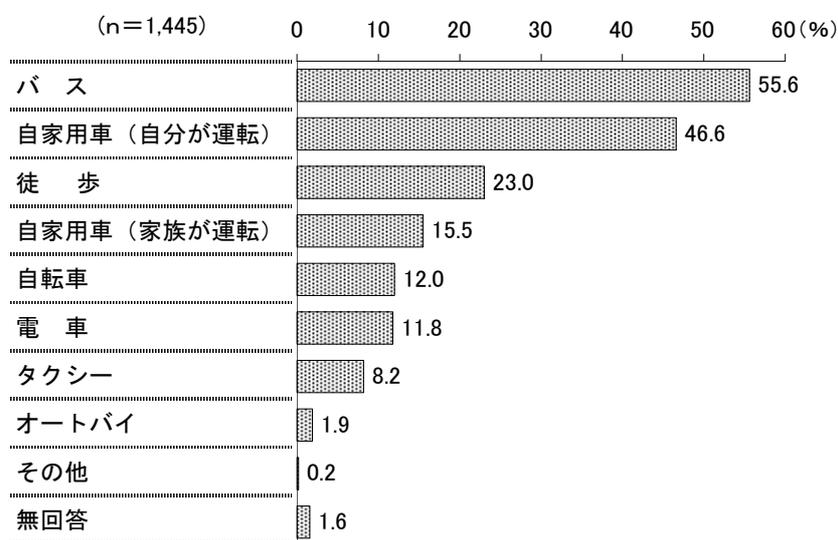
図11-4-3 公共施設の駐車場の有料化について一性別、年齢別



(5) 高齢時の交通手段 (B:問28)

問. あなたは将来 (65歳以降)、主にどのような交通手段を利用すると思いますか。(65歳以上の方は、現在どのような交通手段を主に利用していますか。)(2つまで選んでください)

図11-5-1 高齢時の交通手段



【全体】

高齢時の交通手段について聞いたところ、「バス」(55.6%)が5割半ばで最も高く、次いで「自家用車 (自分が運転)」(46.6%)、「徒歩」(23.0%)、「自家用車 (家族が運転)」(15.5%)、「自転車」(12.0%)、「電車」(11.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「バス」の利用は変わらず5割を超えて高い。「自家用車 (自分が運転)」(46.6%)は前回調査 (38.7%)より7.9ポイント増加している。一方、「タクシー」(8.2%)は前回調査 (11.8%)より3.6ポイント減少し、「電車」(11.8%)は前回調査 (14.8%)より3.0ポイント減少している。また、「自家用車 (家族が運転)」(15.5%)は平成21年度調査 (20.4%)以降減少傾向にある。

表11-5-1 高齢時の交通手段-経年変化

調査年	n	割合 (%)									
		バス	(自家用車が運転)	徒歩	(自家用車が運転)	自転車	電車	タクシー	オートバイ	その他	無回答
平成27年度	1,445	55.6	46.6	23.0	15.5	12.0	11.8	8.2	1.9	0.2	1.6
平成25年度	1,284	57.9	38.7	24.9	17.0	11.7	14.8	11.8	1.9	0.4	2.2
平成23年度	814	50.4	43.5	20.6	19.2	11.2	13.6	7.4	1.1	0.5	6.0
平成21年度	1,610	53.5	39.8	20.0	20.4	11.6	13.9	10.6	1.7	0.7	3.5
平成19年度	1,506	56.0	33.1	23.4	19.6	11.2	15.7	13.1	1.7	0.9	2.7

【属性別】

性別で見ると、女性では「自家用車（家族が運転）」（21.0%）が男性（8.9%）より12.1ポイント、「バス」（59.2%）が男性（51.6%）より7.6ポイント高くなっている。一方、男性では「自家用車（自分が運転）」（60.2%）が女性（35.2%）より25.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳未満の年代で「バス」は5割を超えて高くなっている。20～29歳では「徒歩」（30.8%）が約3割と高くなっている。80歳以上では「電車」は低いものの、「タクシー」（18.8%）、「自家用車（家族が運転）」（29.2%）が高くなっている。

表11-5-2 高齢時の交通手段—性別、年齢別

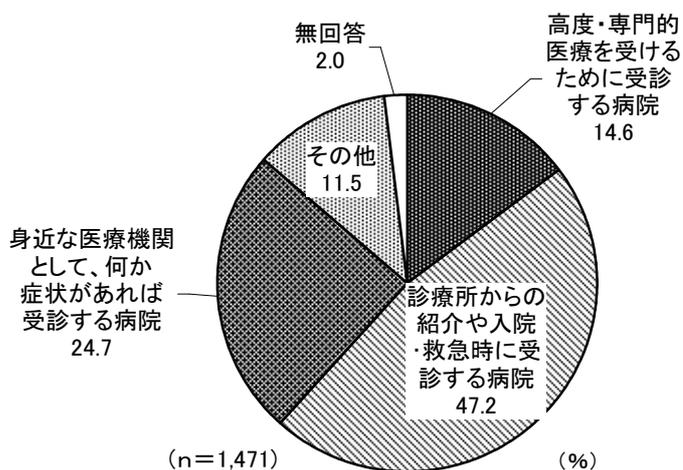
			(%)									
		n	バス	自家用車 (自分が運転)	徒歩	自家用車 (家族が運転)	自転車	電車	タクシー	オートバイ	その他	無回答
全 体		1,445	55.6	46.6	23.0	15.5	12.0	11.8	8.2	1.9	0.2	1.6
性別	男 性	643	51.6	60.2	22.2	8.9	14.6	11.4	5.3	2.2	0.2	1.6
	女 性	782	59.2	35.2	24.3	21.0	9.8	12.3	10.6	1.4	0.3	1.4
年 齢 別	20歳未満	14	50.0	28.6	21.4	14.3	21.4	21.4	14.3	7.1	-	-
	20～29歳	91	54.9	48.4	30.8	17.6	5.5	9.9	8.8	1.1	-	1.1
	30～39歳	184	54.9	50.5	23.4	17.4	4.9	10.9	8.7	1.6	1.6	1.6
	40～49歳	244	53.7	48.0	27.9	13.1	12.7	16.0	4.1	2.0	-	-
	50～59歳	207	56.0	50.2	21.3	13.0	10.1	15.5	8.2	2.9	-	1.4
	60～69歳	333	55.6	51.4	22.8	14.1	14.1	9.9	5.7	1.5	-	1.2
	70～79歳	260	60.8	40.4	21.5	15.0	15.4	10.8	10.8	1.2	-	1.9
80歳以上	96	49.0	26.0	15.6	29.2	15.6	5.2	18.8	1.0	-	6.3	

12 保健・健康

(1) 市立病院のイメージ (A:問21)

問. 平成27年3月に新市立病院（第1期）がオープンしました。市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。（1つだけ選んでください）

図12-1-1 市立病院のイメージ



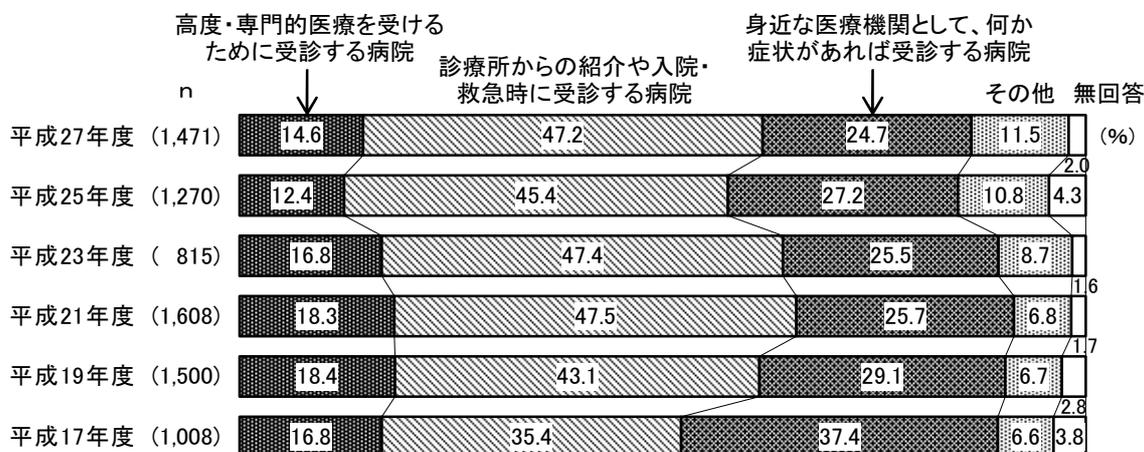
【全体】

市立病院のイメージについて聞いたところ、「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（47.2%）が5割近くで最も高く、次いで「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（24.7%）、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（14.6%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査と比べて大きな差異はみられない。

図12-1-2 市立病院のイメージ経年変化

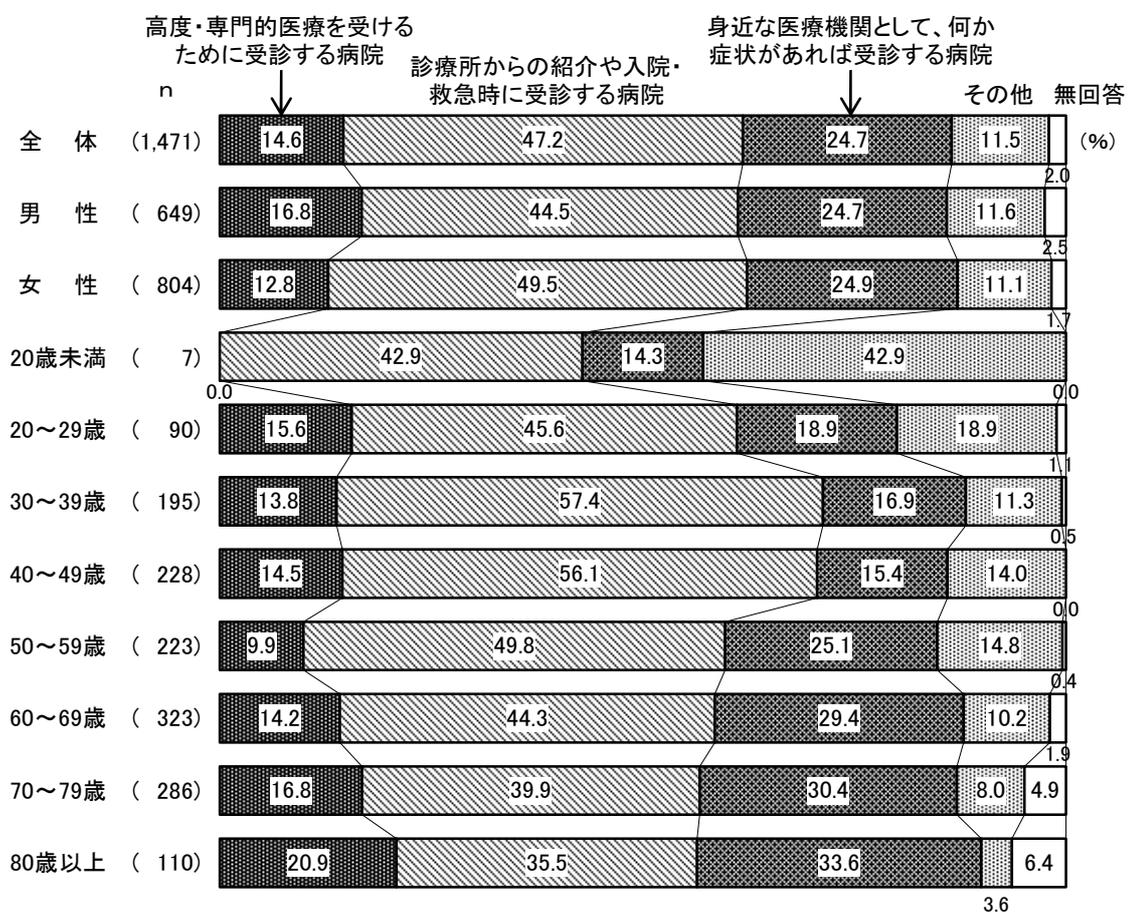


【属性別】

性別で見ると、女性では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（49.5%）が男性（44.5%）より5.0ポイント高くなっている。一方、男性では「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（16.8%）が女性（12.8%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳から49歳では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」が6割近くと高くなっている。80歳以上では「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（33.6%）が3割を超えて高く、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（20.9%）が約2割と高くなっている。

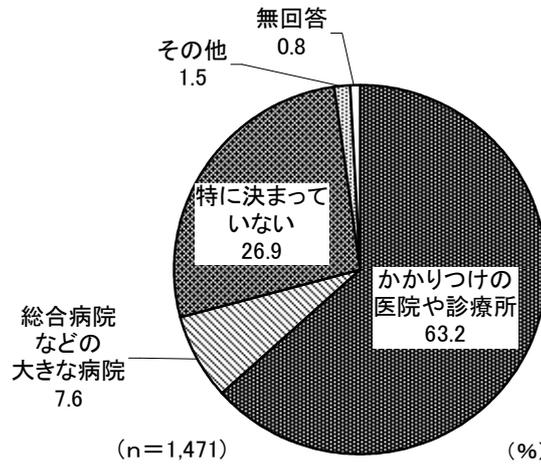
図12-1-3 市立病院のイメージ性別、年齢別



(2) かかりつけ医 (A: 問22)

問. かかりつけ医は、日ごろから医療や健康相談等を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担がありますが、あなたは風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。(1つだけ選んでください)

図12-2-1 かかりつけ医



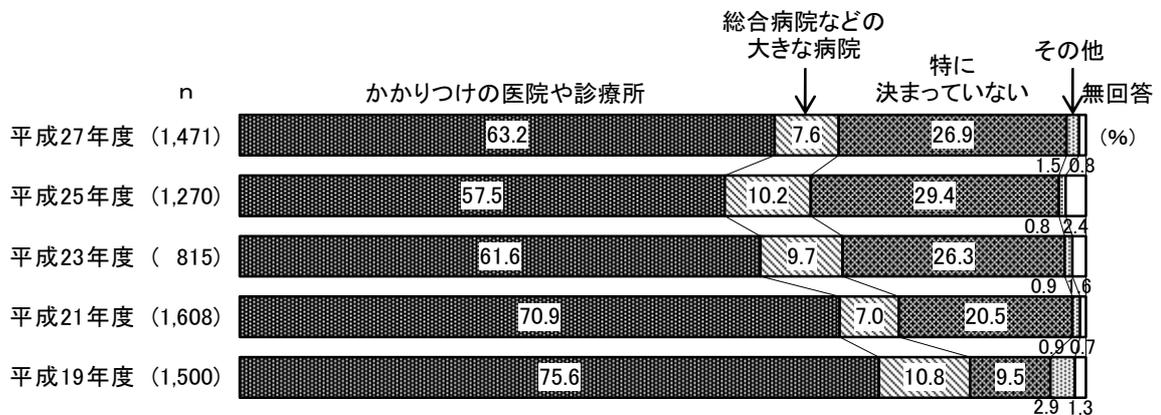
【全体】

風邪などにかかったとき、通院する医療機関を聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(63.2%)が6割を超え、「総合病院などの大きな病院」(7.6%)は1割未満となっている。一方、「特に決まっていない」(26.9%)は3割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「かかりつけの医院や診療所」(63.2%)は前回調査(57.5%)より5.7ポイント増加している。

図12-2-2 かかりつけ医—経年変化

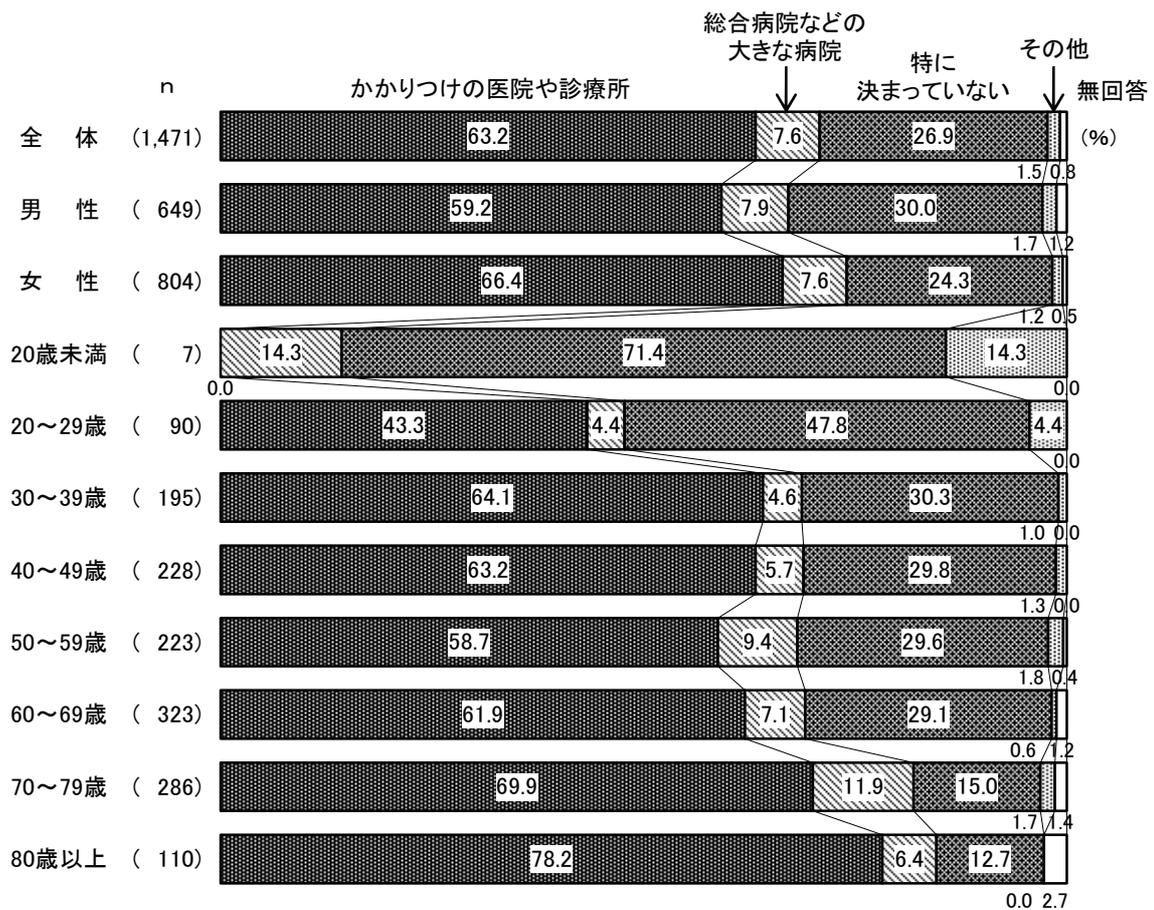


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」(66.4%)が男性(59.2%)より7.2ポイント高くなっている。一方、男性では「特に決まっていない」(30.0%)が女性(24.3%)より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「かかりつけの医院や診療所」(78.2%)が8割近くと高くなっている。20~29歳では「特に決まっていない」(47.8%)が5割近くと高くなっている。

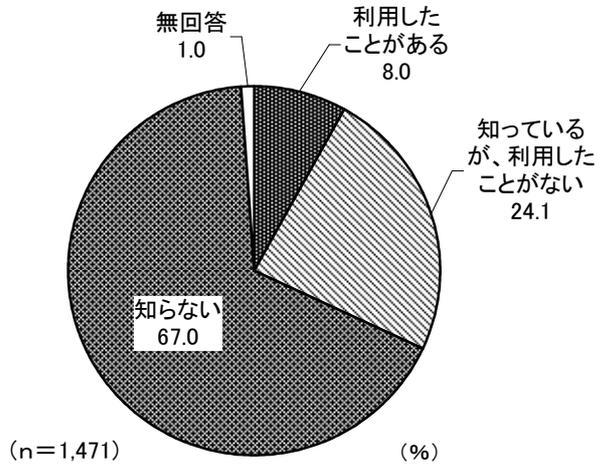
図12-2-3 かかりつけ医—性別、年齢別



(3) 「あつぎ健康相談ダイヤル24」(A：問23)

問. 24時間フリーダイヤルで医師やカウンセラーが健康相談や医療機関情報についてお答えする「あつぎ健康相談ダイヤル24」を知っていますか。(1つだけ選んでください)

図12-3-1 「あつぎ健康相談ダイヤル24」



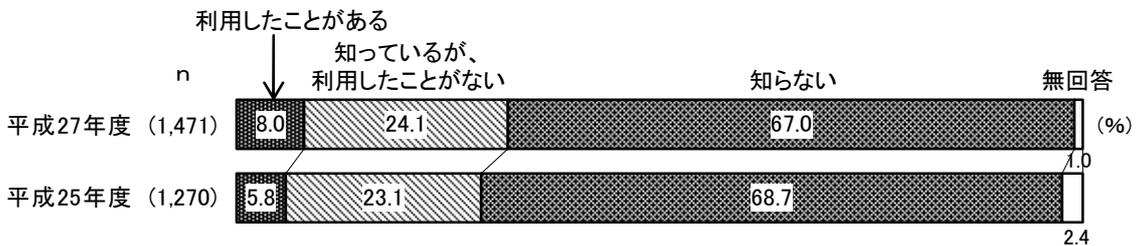
【全体】

「あつぎ健康相談ダイヤル24」について聞いたところ、「利用したことがある」(8.0%)と「知っているが、利用したことがない」(24.1%)を合わせた『知っている』(32.1%)は3割を超えている。一方、「知らない」(67.0%)は7割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『知っている』(32.1%)は前回調査(28.9%)より3.2ポイント増加している。

図12-3-2 「あつぎ健康相談ダイヤル24」—経年変化

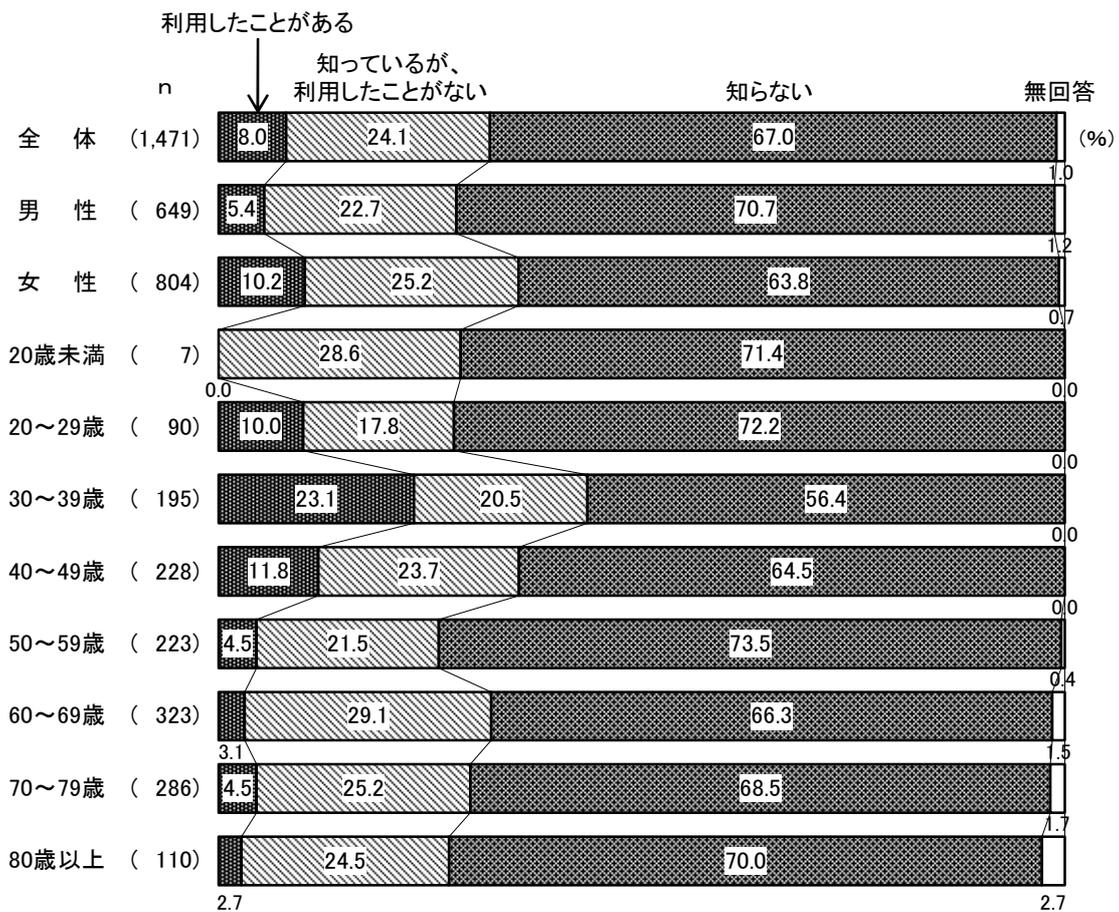


【属性別】

性別で見ると、女性では『知っている』(35.4%)が男性(28.1%)より7.3ポイント、「利用したことがある」(10.2%)が男性(5.4%)より4.8ポイント高くなっている。一方、男性では「知らない」(70.7%)が女性(63.8%)より6.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳では『知っている』(43.6%)が4割を超え、「利用したことがある」(23.1%)も2割を超えて高くなっている。20～29歳と50～59歳では「知らない」(72.2%・73.5%)が7割を超えて高くなっている。

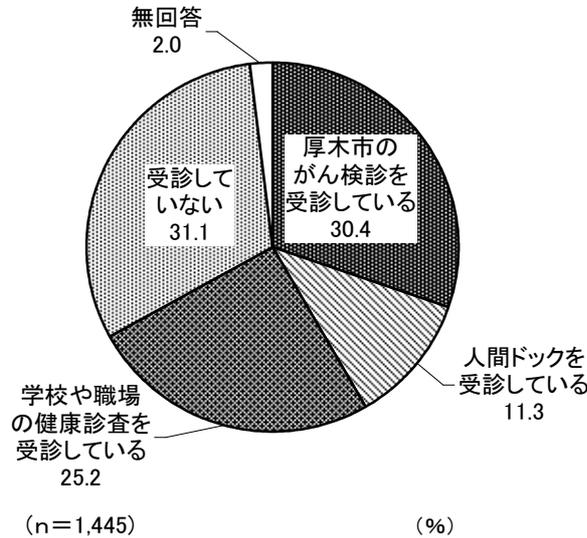
図12-3-3 「あつぎ健康相談ダイヤル24」—性別、年齢別



(4) がん検診の受診状況 (B:問18)

問. がんは、日本人の死因の第一位となる病気です。あなたはがん検診を受診していますか。
(主なものを1つだけ選んでください)

図12-4-1 がん検診の受診状況



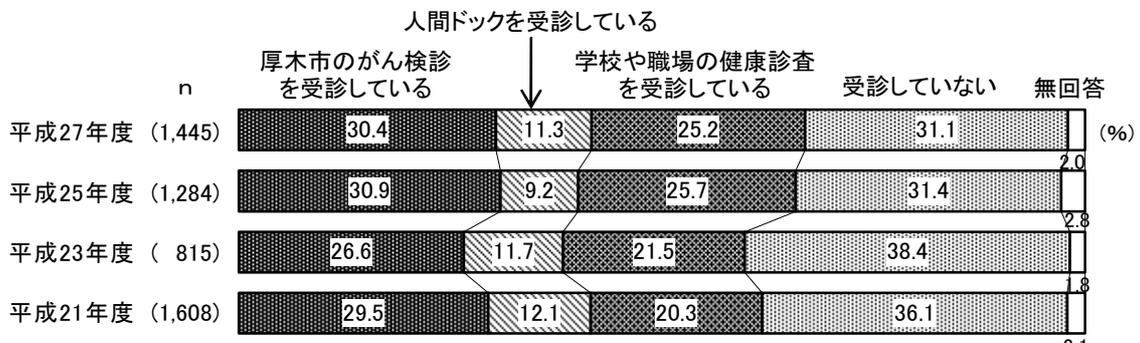
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(30.4%)が約3割、「学校や職場の健康診査を受診している」(25.2%)が2割半ば、「人間ドックを受診している」(11.3%)が1割を超えており、この3つを合わせた『受診している』(66.9%)は7割近くとなっている。一方、「受診していない」(31.1%)は3割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査と比べて大きな差異はみられない。

図12-4-2 がん検診の受診状況—経年変化

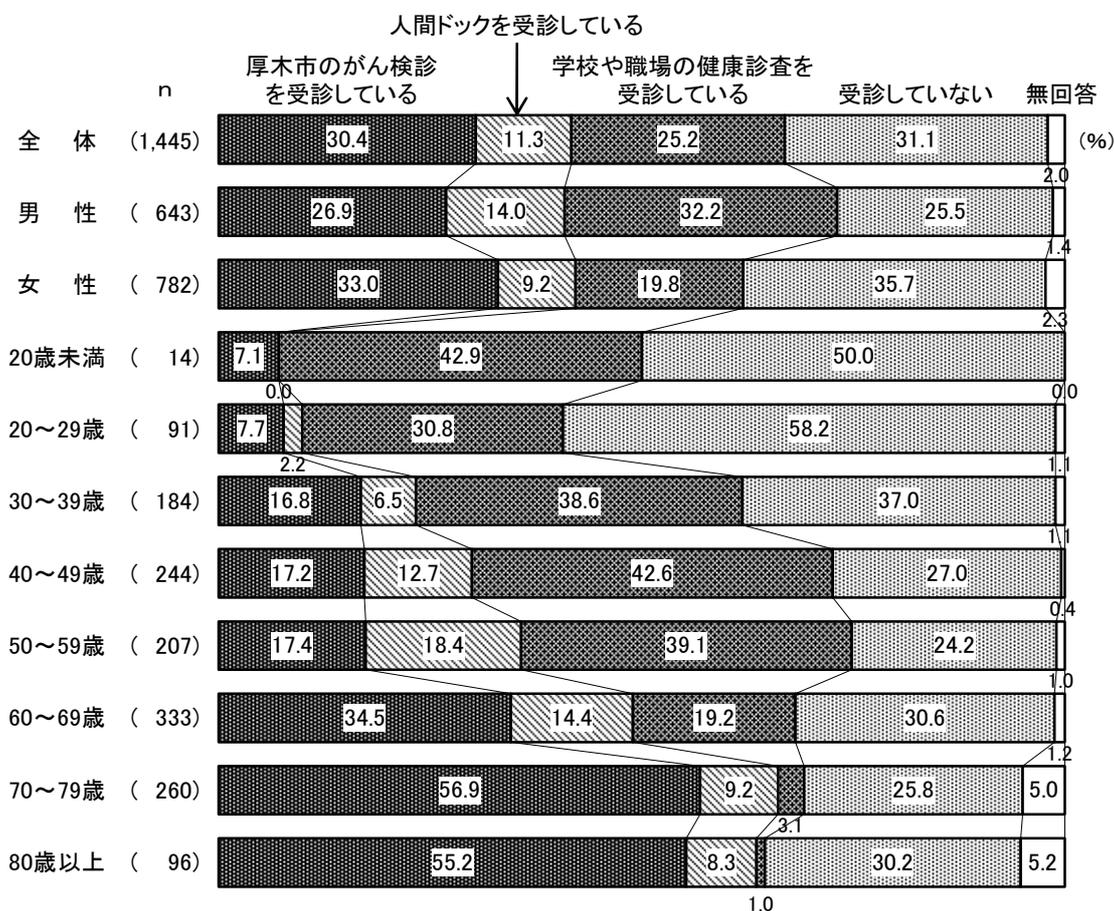


【属性別】

性別で見ると、女性では「受診していない」(35.7%)が男性(25.5%)より10.2ポイント、「厚木市のがん検診を受診している」(33.0%)が男性(26.9%)より6.1ポイント高くなっている。一方、男性では「学校や職場の健康診査を受診している」(32.2%)が女性(19.8%)より12.4ポイント、「人間ドックを受診している」(14.0%)が女性(9.2%)より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「厚木市のがん検診を受診している」は70～79歳(56.9%)で6割近く、80歳以上(55.2%)で5割半ばと高くなっている。40～49歳では「学校や職場の健康診査を受診している」(42.6%)が4割を超えて高くなっている。50～59歳では「人間ドックを受診している」(18.4%)が2割近くと高くなっている。20～29歳では「受診していない」(58.2%)が6割近くと高くなっている。

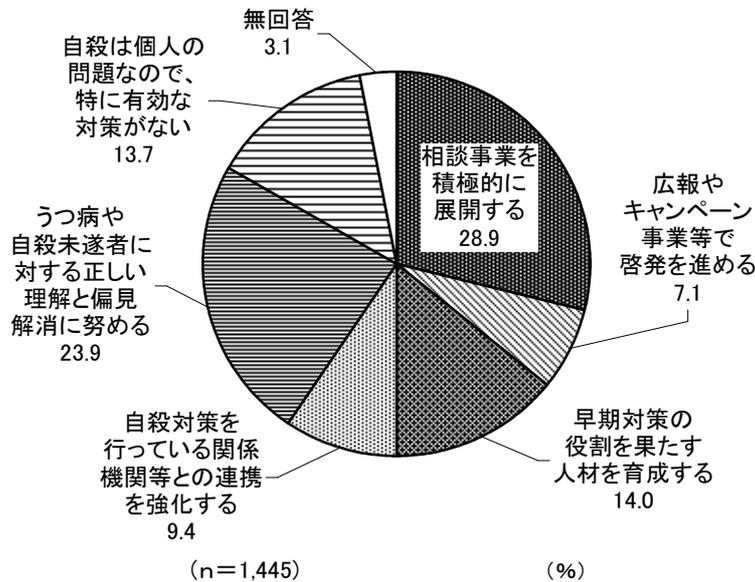
図12-4-3 がん検診の受診状況—性別、年齢別



(5) 自殺への対策 (B:問19)

問. 自殺で亡くなる方は全国で年間2万5千人を超え、厚木市でも少なくありません。
このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。(1つだけ選んでください)

図12-5-1 自殺への対策



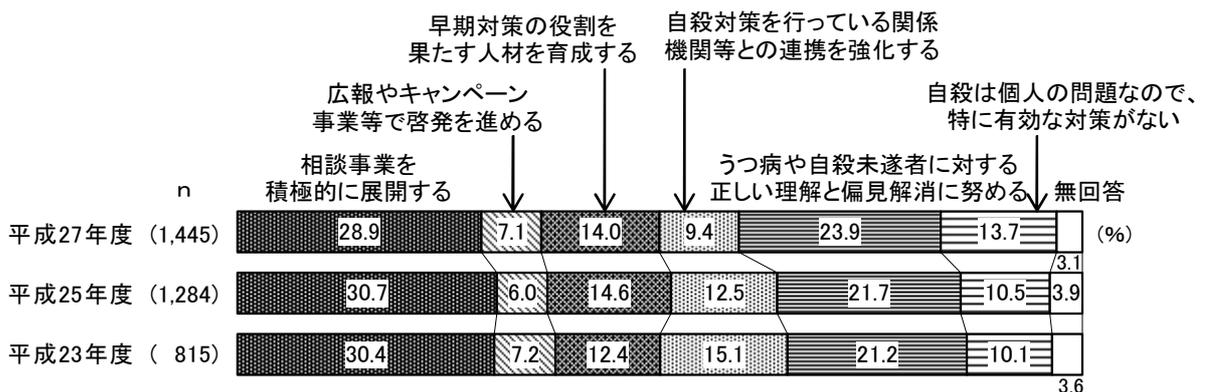
【全体】

自殺への対策について聞いたところ、「相談事業を積極的に展開する」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」(23.9%)、「早期対策の役割を果たす人材を育成する」(14.0%)、「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」(9.4%)となっている。一方、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」(13.7%)は1割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」(9.4%)は前回調査(12.5%)より3.1ポイント減少している。一方、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」(13.7%)は前回調査(10.5%)より3.2ポイント増加している。

図12-5-2 自殺への対策—経年変化

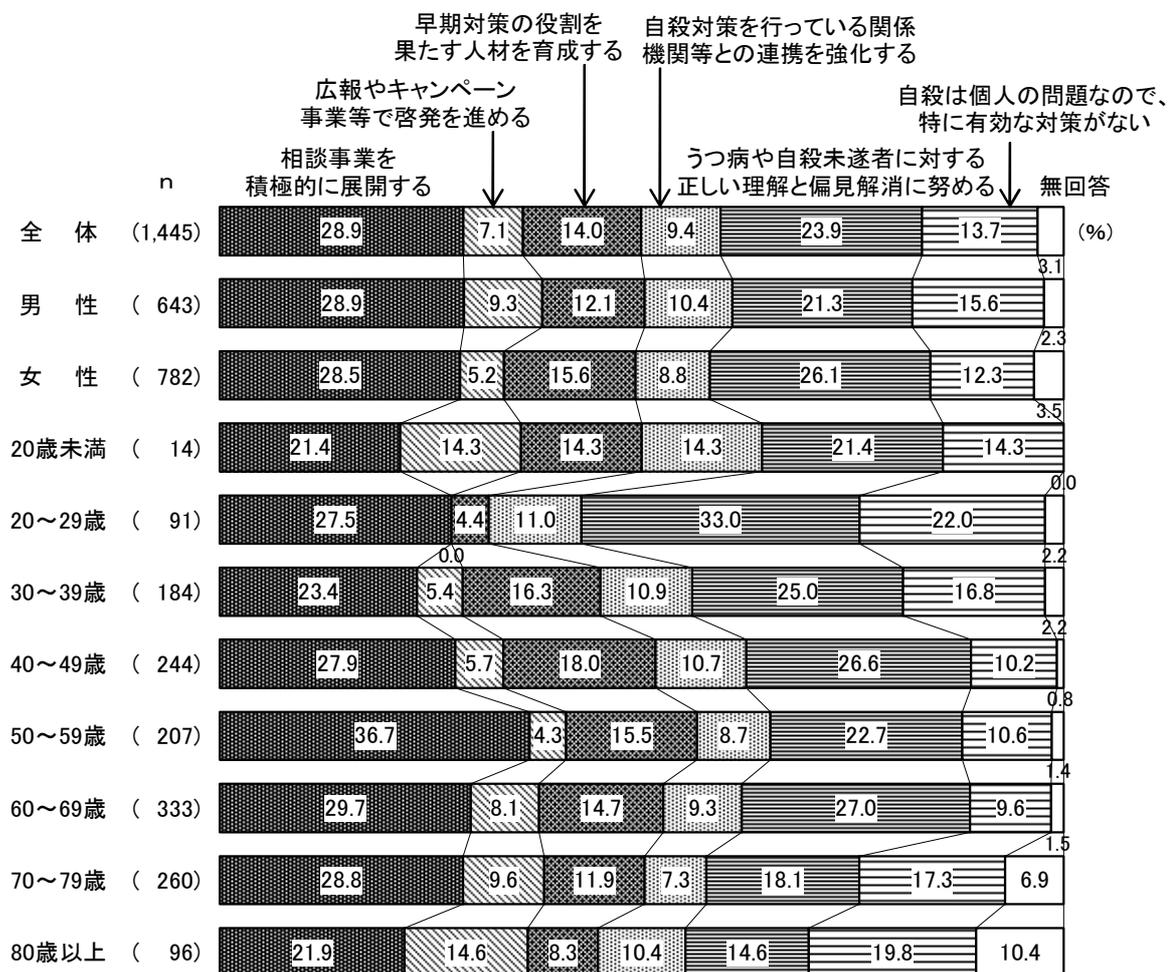


【属性別】

性別で見ると、女性では「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」(26.1%)が男性(21.3%)より4.8ポイント高くなっている。一方、男性では「広報やキャンペーン事業等で啓発を進める」(9.3%)が女性(5.2%)より4.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「相談事業を積極的に展開する」(36.7%)が4割近くと高くなっている。20～29歳では「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」(33.0%)が3割を超えて高く、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」(22.0%)が2割を超えて高くなっている。

図12-5-3 自殺への対策—経年変化

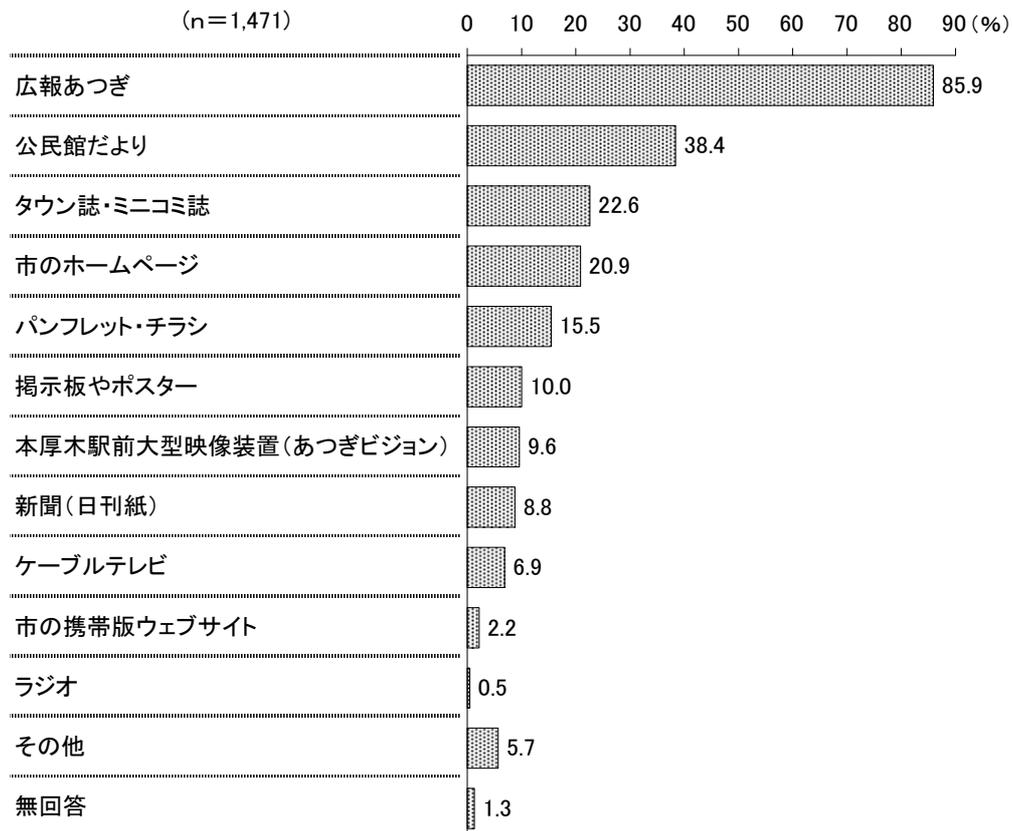


13 広報・広聴

(1) 市の情報の入手方法 (A: 問24)

問. 厚木市では広く市政を周知するために、様々な方法で情報を発信しています。
あなたは市の情報を何で入手していますか。(3つまで選んでください)

図13-1-1 市の情報の入手方法



【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ」(85.9%)が8割半ばで最も高く、次いで「公民館だより」(38.4%)、「タウン誌・ミニコミ誌」(22.6%)、「市のホームページ」(20.9%)、「パンフレット・チラシ」(15.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「パンフレット・チラシ」(15.5%)は前回調査(6.6%)より8.9ポイント増加し、「公民館だより」(38.4%)は前回調査(33.1%)より5.3ポイント増加している。

表13-1-1 市の情報の入手方法—経年変化

調査年	n	(%)												
		広報あつぎ	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	市のホームページ	パンフレット・チラシ	掲示板やポスター	本厚木駅前大型映像装置 (あつぎビジョン)	新聞(日刊紙)	ケーブルテレビ	市の携帯版ウェブサイト	ラジオ	その他	無回答
平成27年度	1,471	85.9	38.4	22.6	20.9	15.5	10.0	9.6	8.8	6.9	2.2	0.5	5.7	1.3
平成25年度	1,270	82.0	33.1	21.7	22.8	6.6	10.8	7.8	11.6	8.7	2.4	0.7	5.6	3.3
平成23年度	814	77.8	21.6	12.0	22.5	2.5	4.5	4.7	8.2	3.8	1.6	0.1	3.6	4.1
平成21年度	1,610	83.7	27.1	15.8	13.1	2.4	4.0	-	8.6	6.0	1.0	0.6	1.5	1.7
平成19年度	1,506	83.2	25.6	13.1	11.0	2.3	3.1	-	11.5	8.6	0.7	0.4	7.0	2.1
平成17年度	1,008	84.9	28.8	8.3	12.3	0.2	9.6	-	2.6	2.2	0.7	5.8	0.7	15.3

- (注1) 平成25年度調査以降は選択可能数が3つまで、平成23年度調査以前では選択可能数が2つまでとしていた。
- (注2) 平成23年度調査以降、「本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)」を追加し、「特に情報は得ていない」を削除している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「市のホームページ」(24.2%)が女性(17.9%)より6.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60歳以上で「広報あつぎ」が9割を超えて高くなっている。70～79歳と80歳以上では「公民館だより」(58.4%・58.2%)が6割近くと高くなっている。20～29歳では「本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)」(22.2%)が2割を超えて高くなっている。

表13-1-2 市の情報の入手方法-性別、年齢別

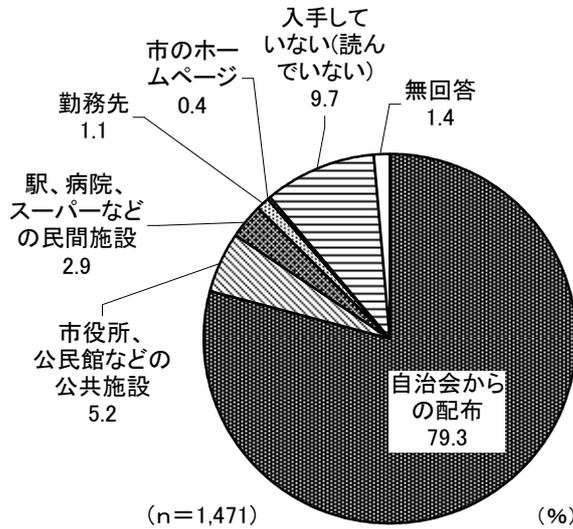
			(%)												
		n	広報あつぎ	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	市のホームページ	パンフレット・チラシ	掲示板やポスター	本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)	新聞(日刊紙)	ケーブルテレビ	市の携帯版ウェブサイト	ラジオ	その他	無回答
全 体		1,471	85.9	38.4	22.6	20.9	15.5	10.0	9.6	8.8	6.9	2.2	0.5	5.7	1.3
性別	男 性	649	84.9	38.5	21.9	24.2	16.0	10.3	8.3	9.9	6.2	2.0	-	5.7	1.5
	女 性	804	86.8	38.2	23.3	17.9	15.0	9.8	10.8	8.0	7.7	2.4	0.9	5.5	1.1
年齢別	20歳未満	7	42.9	-	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	-	-	14.3	-	28.6	-
	20～29歳	90	53.3	6.7	6.7	23.3	18.9	18.9	22.2	3.3	3.3	5.6	-	17.8	1.1
	30～39歳	195	76.4	24.1	16.9	30.3	12.3	12.8	12.8	2.1	4.6	6.2	1.0	8.2	1.0
	40～49歳	228	84.6	26.3	22.8	31.6	14.9	12.3	8.3	5.7	7.5	2.2	-	6.1	0.4
	50～59歳	223	89.7	35.0	26.0	30.0	10.3	9.0	13.5	7.6	9.0	0.9	0.4	2.7	0.9
	60～69歳	323	93.8	43.7	26.3	13.9	21.7	9.9	6.5	10.2	9.0	0.9	0.3	3.1	1.5
	70～79歳	286	90.2	58.4	25.2	9.1	15.7	5.2	7.7	13.6	5.2	0.7	0.7	4.9	2.1
	80歳以上	110	93.6	58.2	20.9	10.9	10.0	7.3	1.8	18.2	8.2	1.8	0.9	3.6	1.8

(2)「広報あつぎ」の入手方法 (A：問25)

問. 月に2回発行している「広報あつぎ」をどこから入手していますか。

(1つだけ選んでください)

図13-2-1 「広報あつぎ」の入手方法



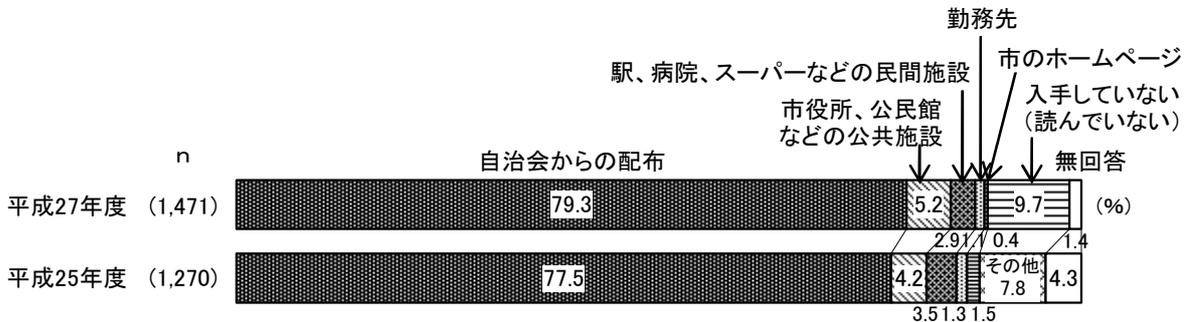
【全体】

「広報あつぎ」の入手方法について聞いたところ、「自治会からの配布」(79.3%)が約8割で最も高く、次いで「市役所、公民館などの公共施設」(5.2%)となっている。一方、「入手していない(読んでいない)」(9.7%)は約1割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、大きな差異はみられない。

図13-2-2 「広報あつぎ」の入手方法—経年変化



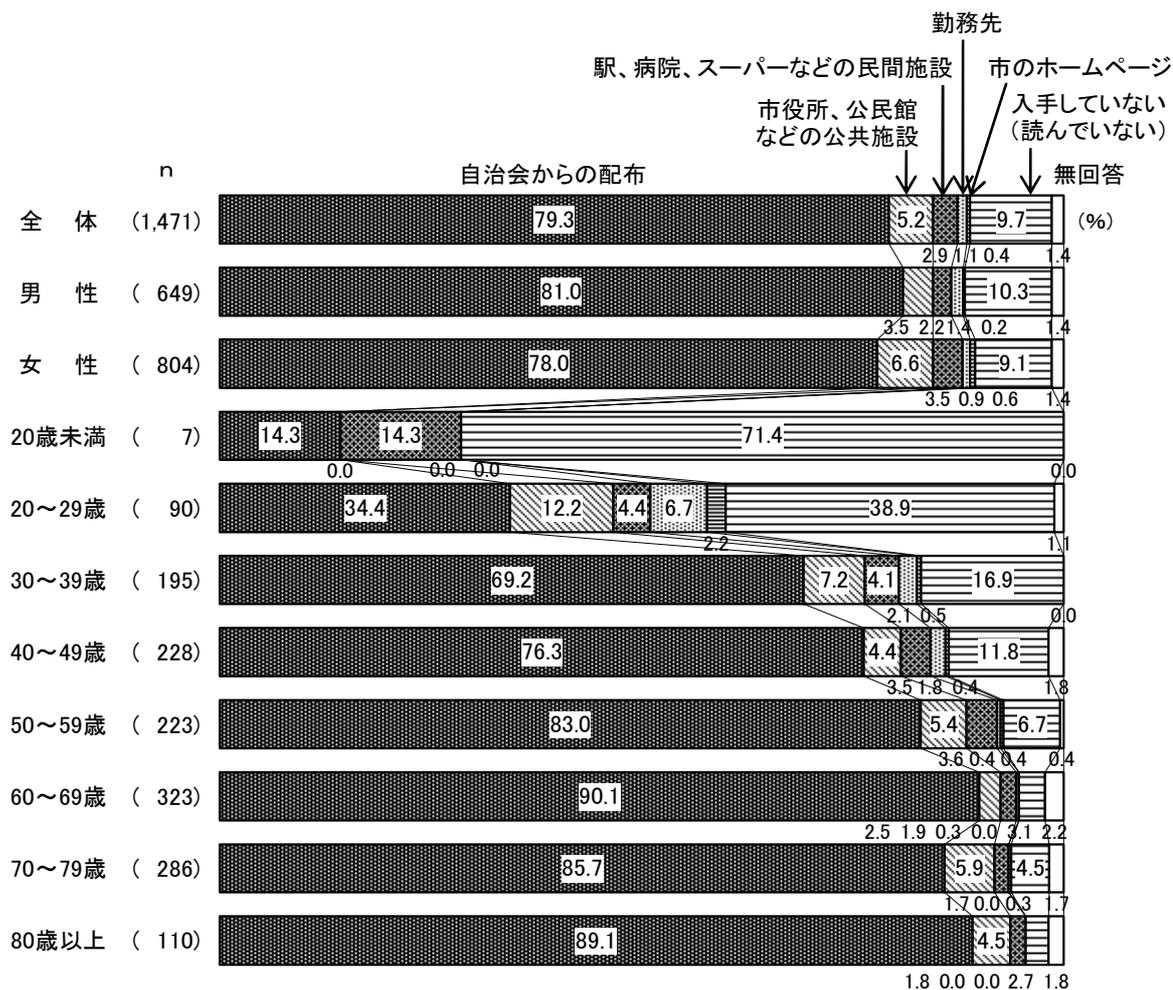
(注) 平成27年度調査では、「入手していない(読んでいない)」を追加し、「その他」を削除している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「市役所、公民館などの公共施設」(6.6%)が男性(3.5%)より3.1ポイント高くなっている。一方、男性では「自治会からの配布」(81.0%)が女性(78.0%)より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50歳以上の年代では「自治会からの配布」が8割以上と高くなっている。20～29歳では「市役所、公民館などの公共施設」(12.2%)が1割を超えて高く、「入手していない(読んでいない)」(38.9%)が4割近くと高くなっている。

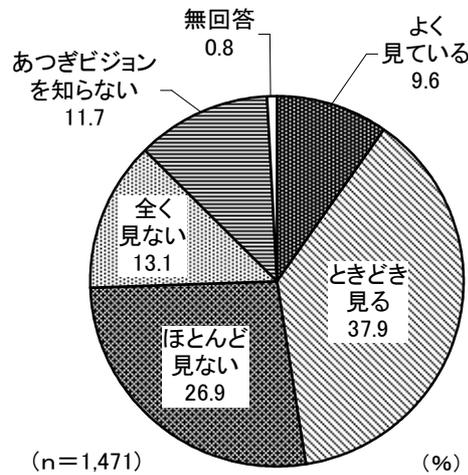
図13-2-3 「広報あつぎ」の入手方法—性別、年齢別



(3) 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度（A：問26）

問. 本厚木駅北口駅前に設置されている屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の放映を見たことがありますか。（1つだけ選んでください）

図13-3-1 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度



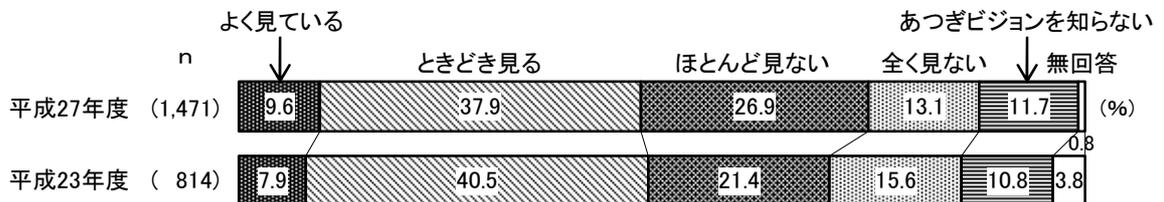
【全体】

屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度について聞いたところ、「よく見ている」（9.6%）と「ときどき見る」（37.9%）を合わせた『見ている』（47.5%）は5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ない」（26.9%）と「全く見ない」（13.1%）を合わせた『見ない』（40.0%）は4割となっている。また、「あつぎビジョンを知らない」（11.7%）は1割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『見ない』（40.0%）は前回調査（37.0%）より3.0ポイント増加している。

図13-3-2 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度—経年変化

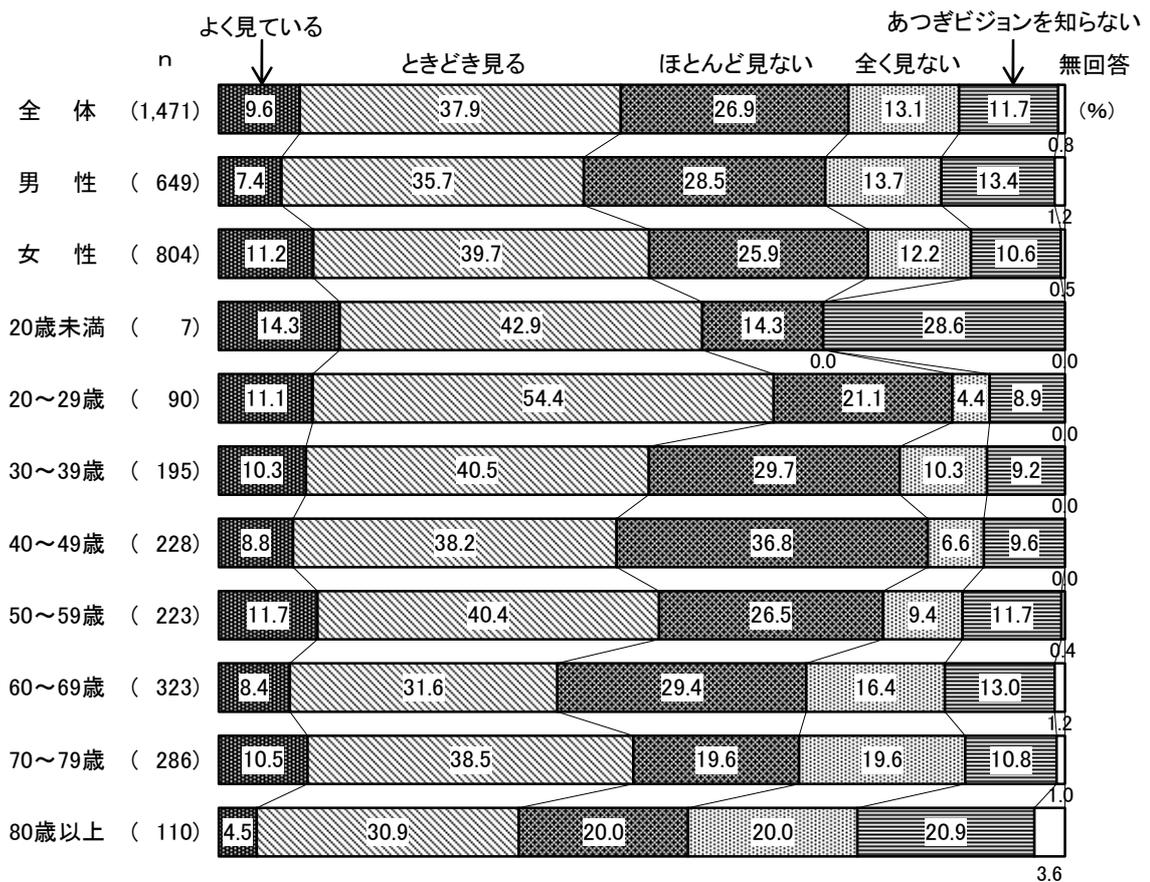


【属性別】

性別で見ると、女性では『見ている』(50.9%)が男性(43.1%)より7.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では『見ている』(65.5%)が6割半ばと高くなっている。60～69歳では『見ない』(45.8%)が4割半ばと高くなっている。80歳以上では「あつぎビジョンを知らない」(20.9%)が約2割と高くなっている。

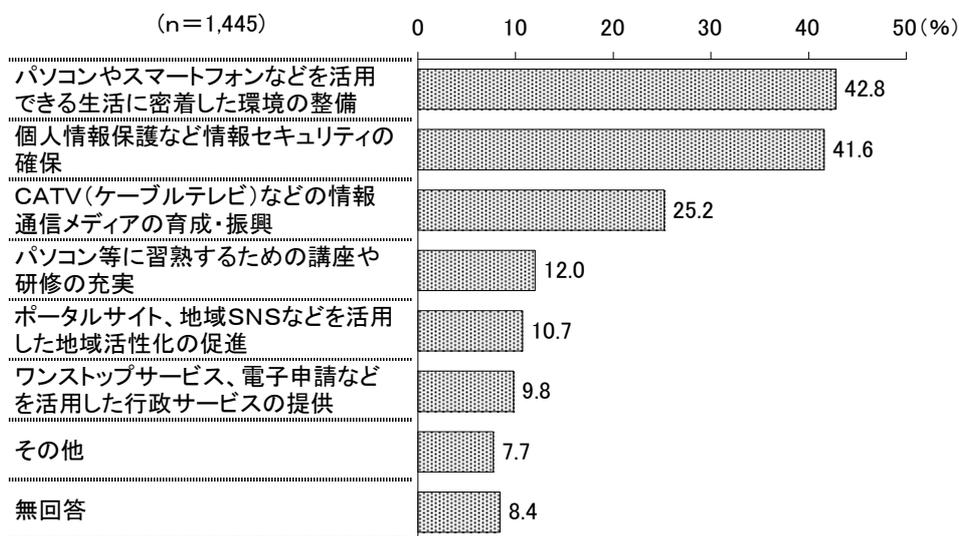
図13-3-3 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度—性別、年齢別



(4) 行政サービスの情報化・ICT化 (B:問20)

問. 厚木市では、様々な方法で市政情報を発信しています。あなたは行政サービスの情報化を推進するために何を優先するべきだと考えますか。(2つまで選んでください)

図13-4-1 行政サービスの情報化・ICT化



【全体】

行政サービスの情報化・ICT化について聞いたところ、「パソコンやスマートフォンなどを用いることができる生活に密着した環境の整備」(42.8%)と「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(41.6%)がともに4割を超えて高く、次いで「CATV(ケーブルテレビ)などの情報通信メディアの育成・振興」(25.2%)、「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」(12.0%)、「ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進」(10.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(42.8%)は前回調査(36.8%)より6.0ポイント増加し、「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(41.6%)は前回調査(35.9%)より5.7ポイント増加している。

表13-4-1 行政サービスの情報化・ICT化—経年変化

調査年	n	(%)							
		パソコンやスマートフォンに密着した環境の整備	個人情報保護など情報セキュリティの確保	CATV(ケーブルテレビ)などの情報通信メディアの育成・振興	パソコンや研修の充実のため	ポータルサイト、地域活性化	サービス提供	その他	無回答
平成27年度	1,445	42.8	41.6	25.2	12.0	10.7	9.8	7.7	8.4
平成25年度	1,284	36.8	35.9	26.0	14.9	11.0	12.7	7.6	11.4
平成23年度	814	22.0	34.0	27.9	17.7	9.1	17.0	9.5	13.3
平成21年度	1,610	8.0	29.4	19.1	13.4	-	23.1	3.2	15.7
平成19年度	1,506	7.1	26.6	20.3	14.3	-	16.4	2.7	18.6

(注1)「CATV(ケーブルテレビ)などの情報通信メディアの育成・振興」は、平成25年度調査以前は「CATV(ケーブルテレビ)や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興」となっていた。

(注2)平成21年度調査以前は選択肢内容が異なるため、参考に掲載する。

【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(47.1%)が女性(39.6%)より7.5ポイント、「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(12.6%)が女性(7.3%)より5.3ポイント高くなっている。一方、女性では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(43.0%)が男性(40.0%)より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(60.2%)が約6割と高くなっている。30歳から59歳では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」が4割を超えて高くなっている。

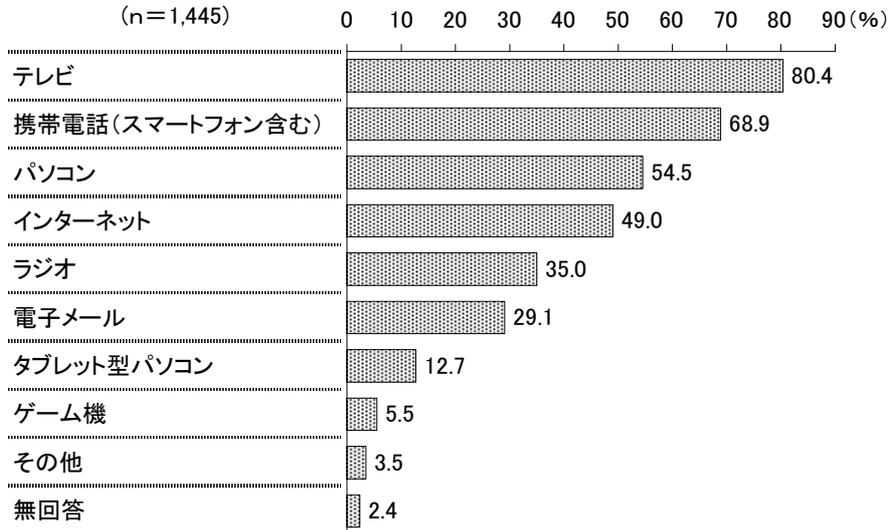
表13-4-2 行政サービスの情報化・ICT化—性別、年齢別

		(%)								
		n	用パ できる コン 生活 やス マ ー ト フ オ ン な ど を 活	の個人 情報 保護 など 情報 セキュ リ ティ	情C 報A 通T 信V メ(ケー デー アの 育 成・ 振 興)な どの	研 修 の 充 実	活ポ 用ー した 地タル 域サイト、 活活 性性 化の 促 進	ど を 活 用 し た ア ド ミ ニ ス ト ラ シ ョ ン サ ー ビ ス 、 電 子 申 請 な	そ の 他	無 回 答
全 体		1,445	42.8	41.6	25.2	12.0	10.7	9.8	7.7	8.4
性別	男 性	643	47.1	40.0	25.8	12.6	12.3	12.6	7.5	5.8
	女 性	782	39.6	43.0	24.6	11.4	9.5	7.3	7.5	10.6
年 齢 別	20歳未満	14	57.1	42.9	21.4	7.1	28.6	7.1	-	-
	20～29歳	91	58.2	33.0	24.2	4.4	25.3	11.0	7.7	1.1
	30～39歳	184	55.4	41.8	19.0	7.6	19.6	16.3	3.8	2.2
	40～49歳	244	60.2	47.1	18.4	5.7	13.5	12.3	4.1	3.7
	50～59歳	207	46.4	44.4	26.6	12.1	9.2	11.1	7.2	2.9
	60～69歳	333	35.4	39.6	32.1	16.8	5.7	9.9	8.4	9.3
	70～79歳	260	27.3	38.5	27.3	16.9	5.8	3.5	9.6	17.7
	80歳以上	96	17.7	42.7	24.0	12.5	4.2	3.1	15.6	26.0

(5) 家庭で利用する情報機器 (B:問21)

問. どのような情報機器やサービスを利用していますか。(いくつでも選んでください)

図13-5-1 家庭で利用する情報機器



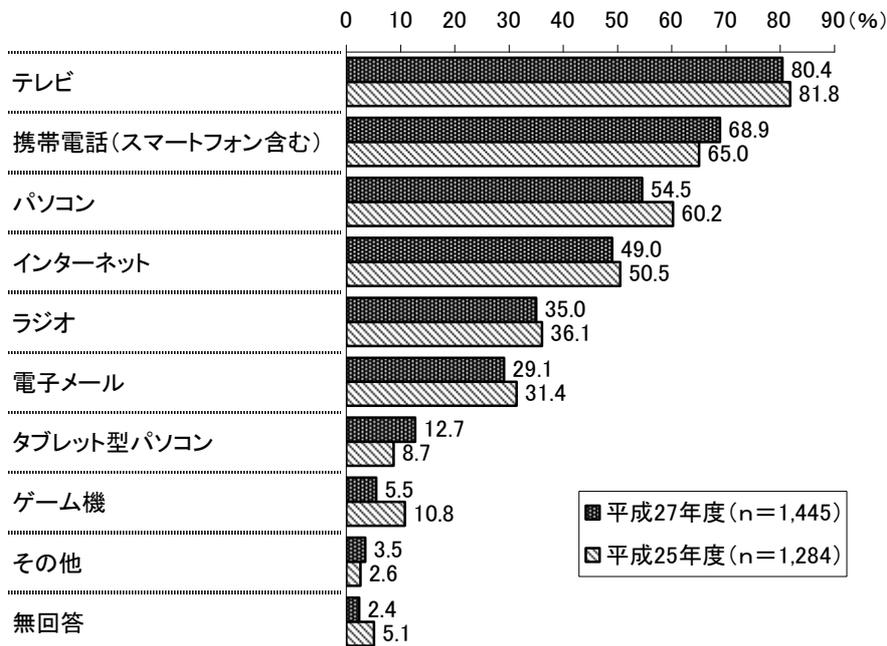
【全体】

家庭で利用する情報機器について聞いたところ、「テレビ」(80.4%)が約8割で最も高く、次いで「携帯電話(スマートフォン含む)」(68.9%)、「パソコン」(54.5%)、「インターネット」(49.0%)、「ラジオ」(35.0%)、「電子メール」(29.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「タブレット型パソコン」(12.7%)は前回調査(8.7%)より4.0ポイント増加し、「携帯電話(スマートフォン含む)」(68.9%)は前回調査(65.0%)より3.9ポイント増加している。一方、「パソコン」(54.5%)は前回調査(60.2%)より5.7ポイント減少し、「ゲーム機」(5.5%)は前回調査(10.8%)より5.3ポイント減少している。

図13-5-2 家庭で利用する情報機器—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコン」(63.0%)が女性(48.1%)より14.9ポイント、「インターネット」(56.6%)が女性(43.2%)より13.4ポイント、「電子メール」(34.2%)が女性(25.1%)より9.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性では「テレビ」(81.7%)が男性(78.4%)より3.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳から49歳では「携帯電話(スマートフォン含む)」が9割と高くなっている。

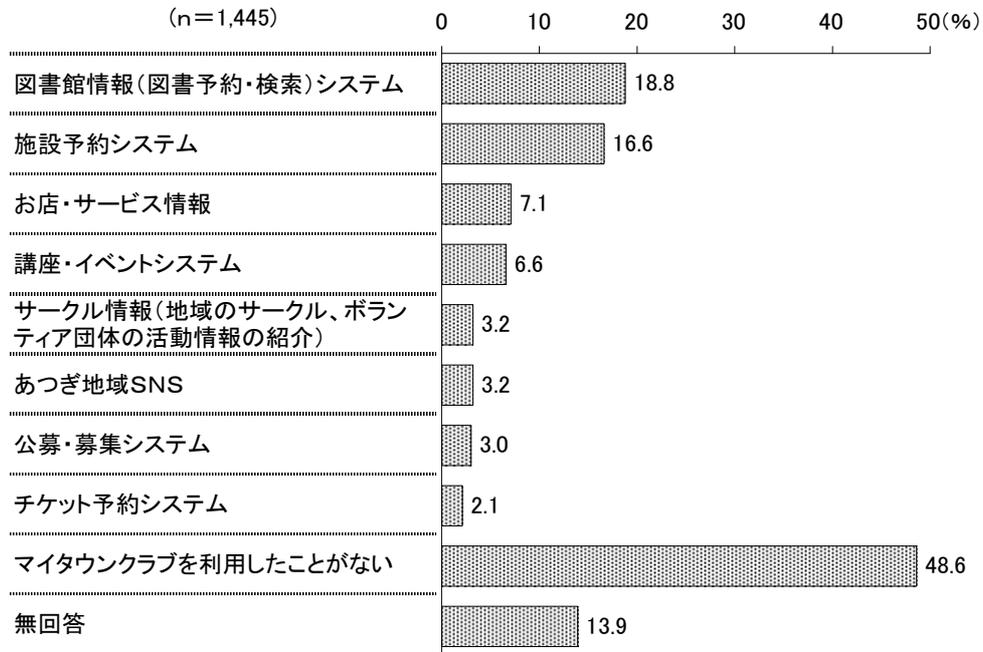
表13-5-1 家庭で利用する情報機器—性別、年齢別

			テレビ	携帯電話(スマートフォン含む)	パソコン	インターネット	ラジオ	電子メール	タブレット型パソコン	ゲーム機	その他	無回答
		n										
全体		1,445	80.4	68.9	54.5	49.0	35.0	29.1	12.7	5.5	3.5	2.4
性別	男性	643	78.4	68.3	63.0	56.6	36.5	34.2	15.4	6.5	2.5	1.7
	女性	782	81.7	70.2	48.1	43.2	33.9	25.1	10.6	4.6	4.3	2.8
年齢別	20歳未満	14	85.7	92.9	71.4	85.7	35.7	50.0	7.1	35.7	7.1	-
	20～29歳	91	80.2	96.7	60.4	64.8	17.6	35.2	13.2	16.5	1.1	-
	30～39歳	184	77.2	94.6	69.6	72.3	21.7	52.7	28.8	11.4	1.6	-
	40～49歳	244	74.6	89.8	75.0	67.6	32.4	45.5	18.0	12.3	2.0	0.4
	50～59歳	207	78.3	73.4	73.4	61.8	35.3	35.7	15.5	1.4	2.9	0.5
	60～69歳	333	83.5	58.0	48.0	37.5	38.1	15.9	9.0	0.3	5.1	2.1
	70～79歳	260	83.8	46.2	29.6	25.4	48.5	15.4	3.5	1.2	3.8	6.2
	80歳以上	96	82.3	31.3	16.7	13.5	35.4	2.1	1.0	-	7.3	9.4

(6)「マイタウンクラブ」で利用したことがあるサービス（B：問22）

問. 厚木市のインターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことがあるものは何ですか。（いくつでも選んでください）

図13-6-1 「マイタウンクラブ」で利用したことがあるサービス



【全体】

厚木市のインターネットサービス「マイタウンクラブ」で利用したことがあるサービスについて聞いたところ、「図書館情報（図書予約・検索）システム」（18.8%）が2割近くで最も高く、次いで「施設予約システム」（16.6%）、「お店・サービス情報」（7.1%）、「講座・イベントシステム」（6.6%）となっている。一方、「マイタウンクラブを利用したことがない」（48.6%）は5割近くとなっている。

【経年変化】

過去の調査とは、質問文の文言が一部異なる（利用したことがある、または知っているサービスを聴いていた）ため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、男性では「マイタウンクラブを利用したことがない」(50.9%)が女性(46.9%)より4.0ポイント高くなっている。一方、女性では「図書館情報(図書予約・検索)システム」(20.2%)が男性(17.1%)より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「図書館情報(図書予約・検索)システム」(29.9%)が約3割と高く、「施設予約システム」(26.2%)が3割近くと高くなっている。

表13-6-1 「マイタウンクラブ」で利用したことがあるサービス-性別、年齢別

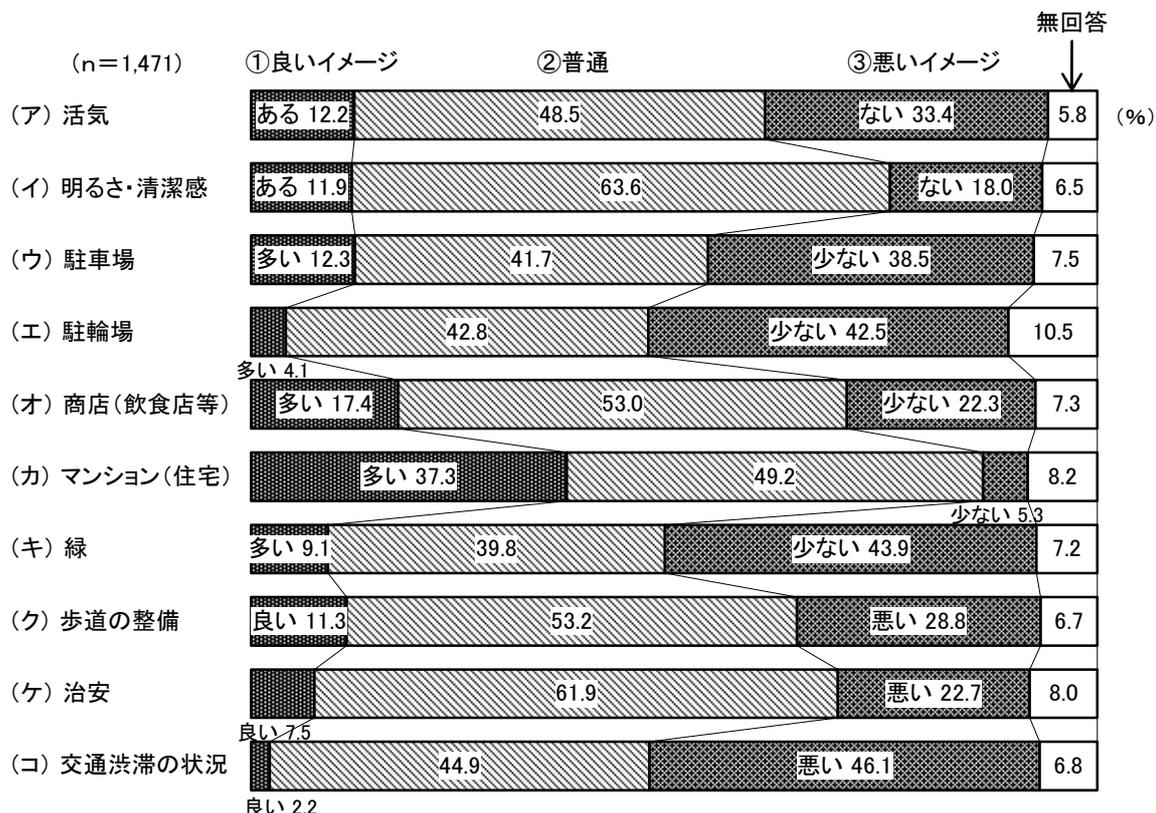
		(%)										
		n	図書館情報(図書予約・検索)システム	施設予約システム	お店・サービス情報	講座・イベントシステム	サークル情報(地域のサークル、ボランティア団体の活動情報の紹介)	あつぎ地域SNS	公募・募集システム	チケット予約システム	マイタウンクラブを利用したことがない	無回答
全 体		1,445	18.8	16.6	7.1	6.6	3.2	3.2	3.0	2.1	48.6	13.9
性別	男 性	643	17.1	16.6	5.9	7.3	3.0	3.7	2.8	2.0	50.9	13.2
	女 性	782	20.2	16.8	8.1	6.3	3.5	2.7	3.3	2.2	46.9	14.2
年 齢 別	20歳未満	14	35.7	14.3	-	-	-	-	-	-	57.1	7.1
	20～29歳	91	25.3	12.1	2.2	2.2	1.1	1.1	1.1	-	59.3	5.5
	30～39歳	184	26.1	16.8	7.1	8.2	2.2	3.3	3.3	2.2	53.8	2.7
	40～49歳	244	29.9	26.2	5.3	12.3	4.1	4.5	2.5	1.2	45.1	6.1
	50～59歳	207	20.8	19.8	7.2	5.3	2.9	3.9	2.9	2.4	50.7	6.3
	60～69歳	333	9.6	14.7	7.5	4.8	2.1	1.8	3.0	1.5	54.4	15.6
	70～79歳	260	13.1	13.5	10.4	6.5	6.2	3.8	5.0	3.8	38.5	28.5
80歳以上	96	10.4	5.2	7.3	5.2	2.1	3.1	2.1	3.1	40.6	33.3	

14 まちづくり

(1) 本厚木駅周辺のイメージ (A：問29)

問. 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、どう思いますか。
 （それぞれア～コについて、①～③の中から該当するものを1つ選び○で囲んでください）

図14-1-1 本厚木駅周辺のイメージ



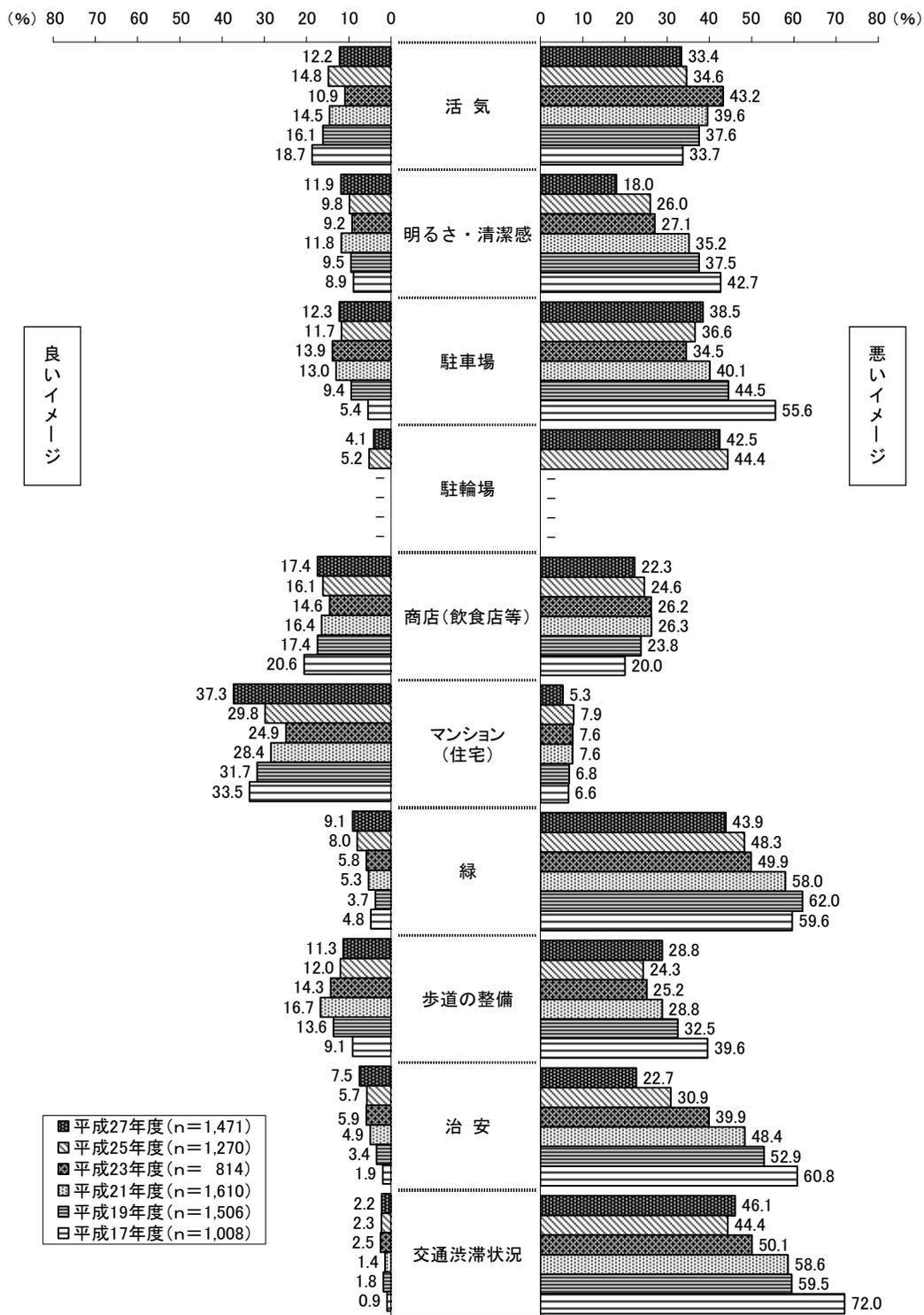
【全体】

本厚木駅周辺のイメージについて10項目（ア～コ）に分けて聞いたところ、良いイメージが最も高いのは「マンション（住宅）」（37.3%）で4割近くとなっており、次いで「商店（飲食店等）」（17.4%）となっている。一方、悪いイメージが最も高いのは「交通渋滞の状況」（46.1%）で5割近くとなっており、次いで「緑」（43.9%）、「駐輪場」（42.5%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、良いイメージでは、「マンション（住宅）」（37.3%）は前回調査（29.8%）より7.5ポイント増加し、平成23年度調査（24.9%）以降増加傾向にある。一方、悪いイメージでは、「明るさ・清潔感」と「治安」が平成17年度調査以降減少傾向にあり、「緑」も平成19年度調査以降減少傾向にある。

図14-1-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化



(注) 平成25年度調査以降、「駐輪場」を追加している。

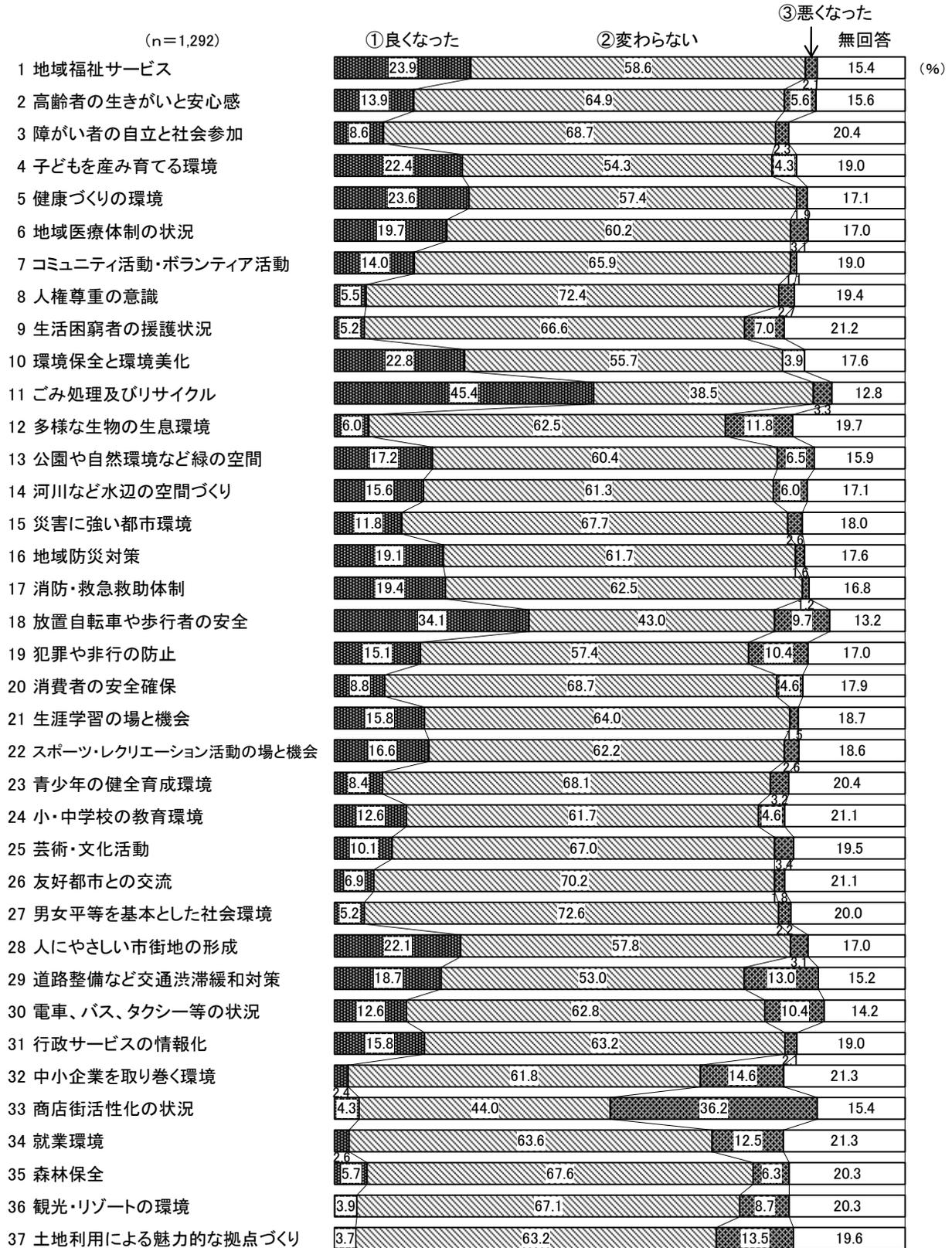
(2) まちづくり全般の変化 (A:問32)

問. まちづくり全般の変化について、どう思いますか。(5年前と比べ)

(それぞれ1~37について、①~③の中から該当するものを1つ選び○印を記入してください。)

(転入されて5年未満の方は、次問に進む)

図14-2-1 まちづくり全般の変化



【全体】

厚木市内に5年以上住んでいると答えた1,292人に、5年前と比べたまちづくり全般の変化について37項目に分けて聞いたところ、「良くなった」が最も高いのは「11 ごみ処理及びリサイクル」（45.4%）で4割半ばとなっており、次いで「18 放置自転車や歩行者の安全」（34.1%）、「1 地域福祉サービス」（23.9%）、「5 健康づくりの環境」（23.6%）、「10 環境保全と環境美化」（22.8%）となっている。

一方、「悪くなった」が最も高いのは「33 商店街活性化の状況」（36.2%）で4割近くとなっており、次いで「32 中小企業を取り巻く環境」（14.6%）、「37 土地利用による魅力的な拠点づくり」（13.5%）、「29 道路整備など交通渋滞緩和対策」（13.0%）、「34 就業環境」（12.5%）となっている。

また、「変わらない」は「27 男女平等を基本とした社会環境」（72.6%）、「8 人権尊重の意識」（72.4%）、「26 友好都市との交流」（70.2%）の3項目で7割台と高くなっている。

表14-2-1 まちづくり全般の変化－良くなったもの、変わらないもの、悪くなったもの（上位5項目）

(n=1,292)				(%)					
順位	良くなった		変わらない		悪くなった				
1	11	ごみ処理及びリサイクル	45.4	27	男女平等を基本とした社会環境	72.6	33	商店街活性化の状況	36.2
2	18	放置自転車や歩行者の安全	34.1	8	人権尊重の意識	72.4	32	中小企業を取り巻く環境	14.6
3	1	地域福祉サービス	23.9	26	友好都市との交流	70.2	37	土地利用による魅力的な拠点づくり	13.5
4	5	健康づくりの環境	23.6	3	障がい者の自立と社会参加 ／20 消費者の安全確保 (同率)	68.7	29	道路整備など交通渋滞緩和対策	13.0
5	10	環境保全と環境美化	22.8				34	就業環境	12.5

【経年変化】（表は次ページにあり）

「良くなった」の経年による変化を見ると、上位2項目は前回調査と同じ順位となっているが、「ごみ処理及びリサイクル」（45.4%）は前回調査（56.3%）より10.9ポイント減少している。また、「環境保全と環境美化」（22.8%）は前回調査（27.1%）より4.3ポイント減少し、順位も前回調査の第3位から今回調査では第5位となっている。

「悪くなった」の経年による変化を見ると、「商店街活性化の状況」（36.2%）は平成19年度調査以降第1位となっているが、前回調査（43.4%）より7.2ポイント減少している。また、「就業環境」（12.5%）は前回調査（24.3%）より11.8ポイント減少し、順位も平成21年度調査から前回調査までは第2位であったが、今回調査では第5位となっている。

表14-2-2 まちづくり全般の変化—経年変化/良くなったもの(上位5項目)

(%)

順位	平成27年度 (n=1,292)		平成25年度 (n=1,111)		平成23年度 (n=699)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)		平成17年度 (n=1,008)	
1	11 ごみ処理及 びリサイクル	45.4	ごみ処理及 びリサイクル	56.3	ごみ処理及 びリサイクル	67.5	ごみ処理及 びリサイクル	51.5	ごみ処理及 びリサイクル	46.7	ごみ処理及 びリサイクル	53.1
2	18 放置自転車 や歩行者の 安全	34.1	放置自転車 や歩行者の 安全	32.8	環境保全と 環境美化	34.8	人にやさしい 市街地の形 成(ハリアフ リ等)	33.3	人にやさしい 市街地の形 成(ハリアフ リ等)	31.3	地域福祉 サービス	27.6
3	1 地域福祉 サービス	23.9	環境保全と 環境美化	27.1	放置自転車 や歩行者の 安全	32.6	環境保全と 環境美化	31.2	放置自転車 や歩行者の 安全	28.8	消防・救急救 助体制	27.0
4	5 健康づくり の環境	23.6	人にやさしい 市街地の形 成	26.0	人にやさしい 市街地の形 成	30.6	放置自転車 や歩行者の 安全	29.6	環境保全と 環境美化	25.6	人にやさしい 市街地の形 成(ハリアフ リ等)	26.5
5	10 環境保全 と環境美化	22.8	地域福祉 サービス	24.4	子どもを産み 育てる環境	28.0	公園や自然 環境など緑の 空間	27.5	公園や自然 環境など緑の 空間	24.8	地域防災 対策	24.0

表14-2-3 まちづくり全般の変化—経年変化/悪くなったもの(上位5項目)

(%)

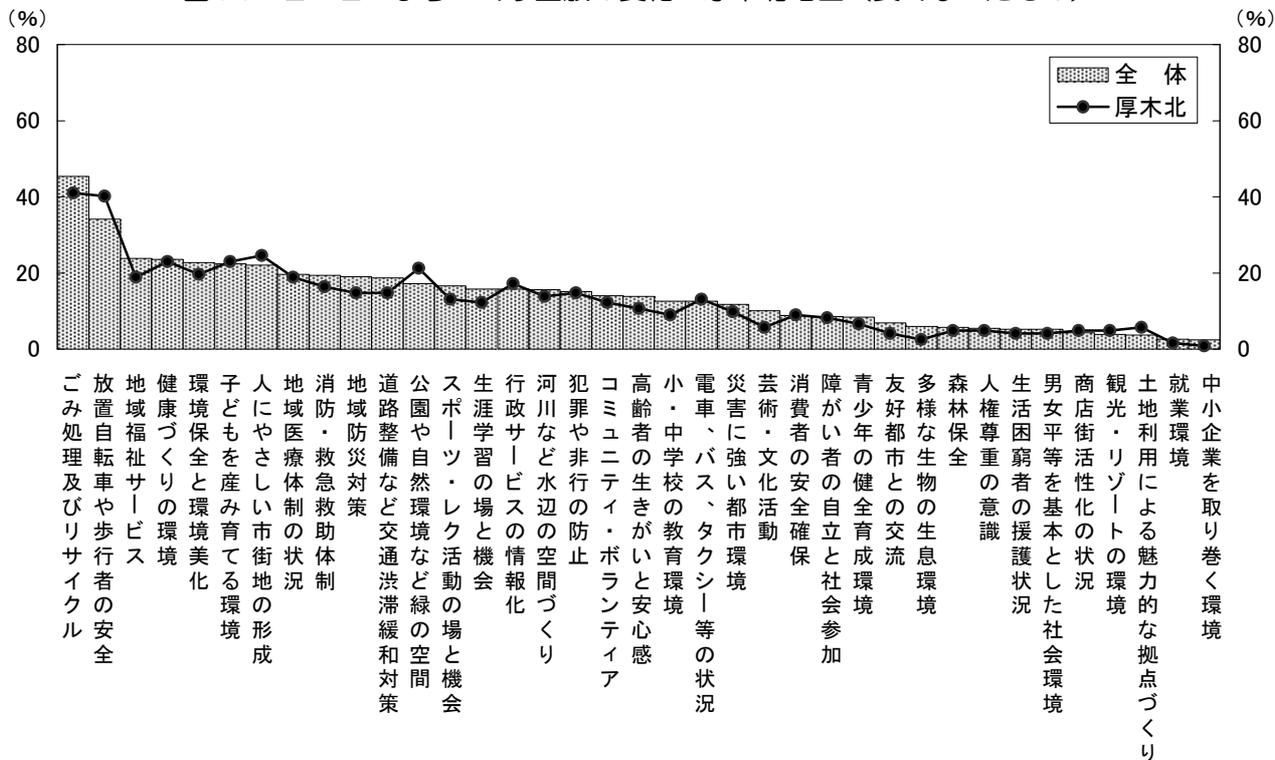
順位	平成27年度 (n=1,292)		平成25年度 (n=1,111)		平成23年度 (n=699)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)		平成17年度 (n=1,008)	
1	33 商店街活性 化の状況	36.2	商店街活性 化の状況	43.4	商店街活性 化の状況	48.8	商店街活性 化の状況	43.3	商店街活性 化の状況	44.2	犯罪や非行 の防止	54.2
2	32 中小企業を 取り巻く環境	14.6	就業環境	24.3	就業環境	37.9	就業環境	36.8	犯罪や非行 の防止	36.4	商店街活性 化の状況	48.0
3	37 土地利用に よる魅力的な 拠点づくり	13.5	中小企業を 取り巻く環境	19.5	中小企業を 取り巻く環境	28.3	中小企業を 取り巻く環境	27.5	地域医療体 制の状況/ 多様な生物 の生息環境 (同率)	26.2	放置自転車 や歩行者の 安全	33.3
4	29 道路整備な ど交通渋滞 緩和対策	13.0	犯罪や非行 の防止	15.9	犯罪や非行 の防止	21.2	犯罪や非行 の防止	27.2			道路整備など 交通渋滞緩和 対策	32.9
5	34 就業環境	12.5	多様な生物 の生息環境	15.8	多様な生物 の生息環境	17.0	多様な生物 の生息環境	22.8	子どもを産み 育てる環境	25.5	就業環境	29.7

【地区ごとの傾向】

〔厚木北地区〕

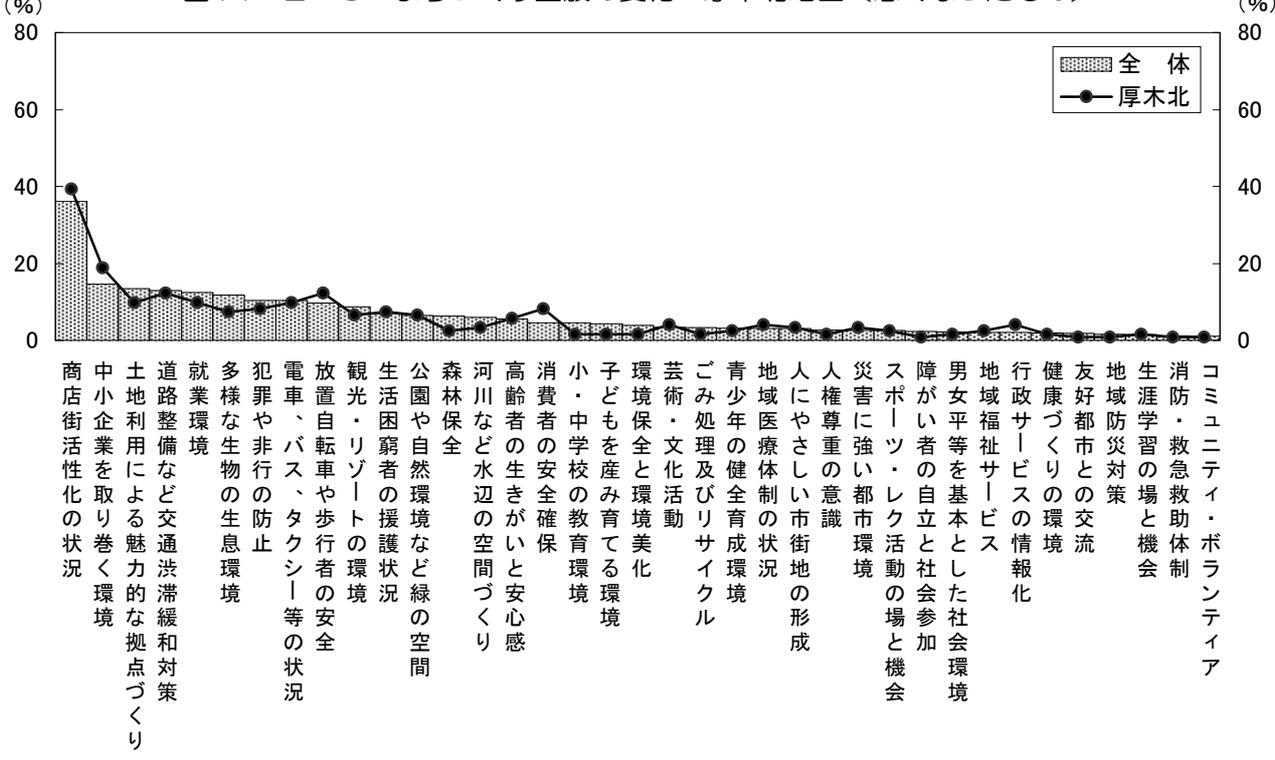
「良くなったもの」では、全体と比べて、「放置自転車や歩行者の安全」が高くなっている。一方、「地域福祉サービス」が低くなっている。

図14-2-2 まちづくり全般の変化—厚木北地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「商店街活性化の状況」と「中小企業を取り巻く環境」がやや高くなっている。一方、「多様な生物の生息環境」と「土地利用による魅力的な拠点づくり」がやや低くなっている。

図14-2-3 まちづくり全般の変化—厚木北地区（悪くなったもの）

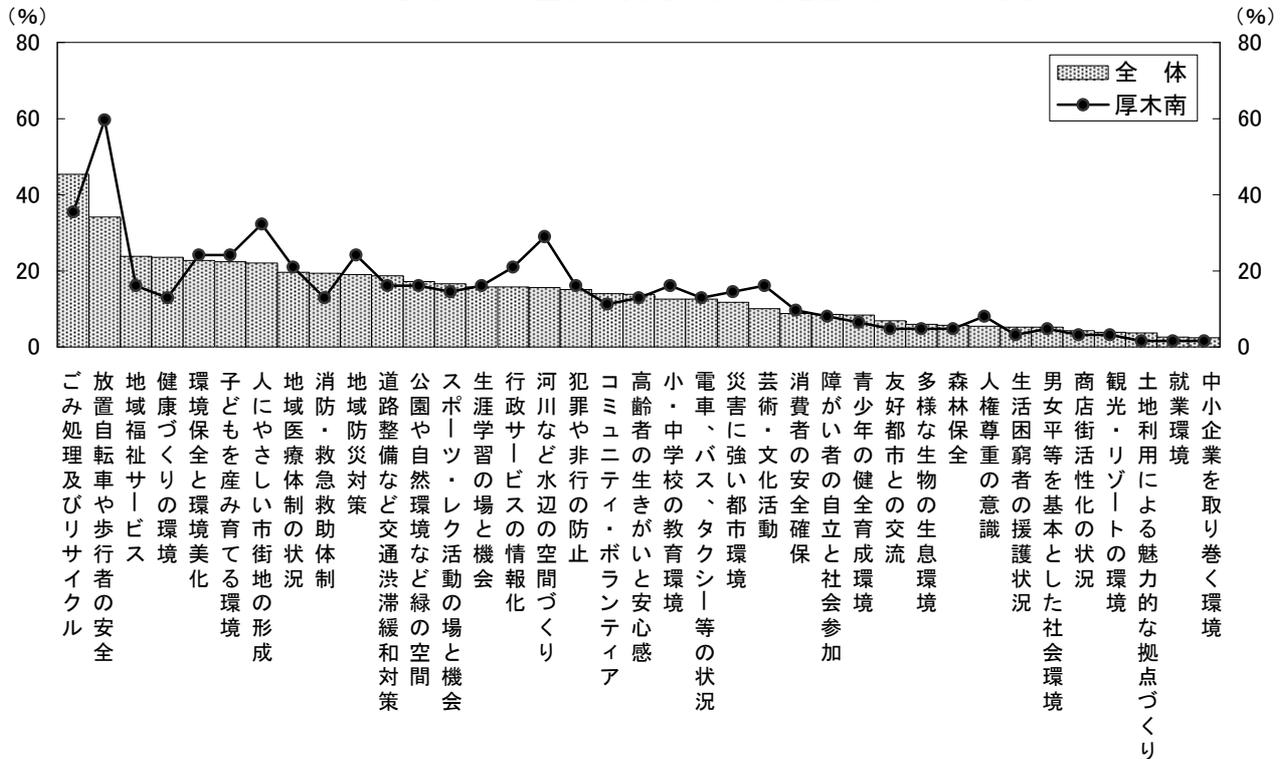


【地区ごとの傾向】

〔厚木南地区〕

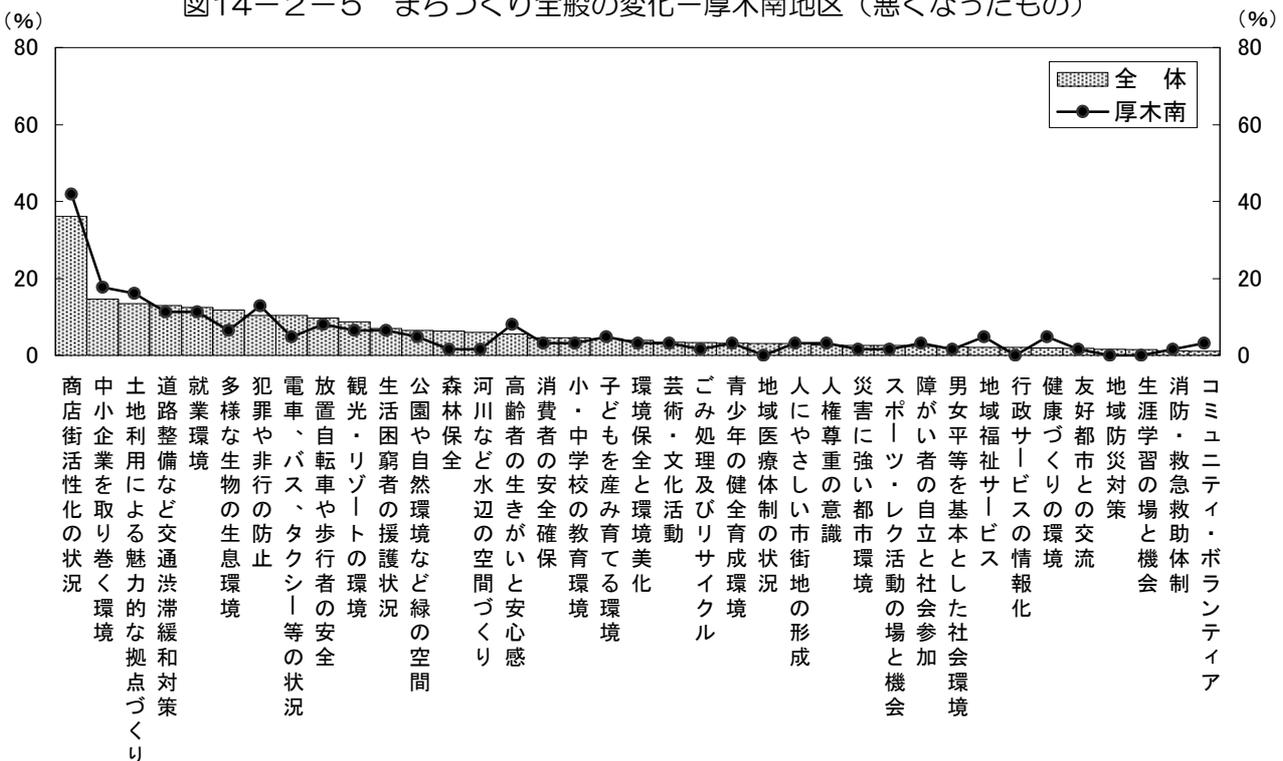
「良くなったもの」では、全体と比べて、「放置自転車や歩行者の安全」、「河川など水辺の空間づくり」、「人にやさしい市街地の形成」が特に高くなっている。一方、「健康づくりの環境」が特に低くなっている。

図14-2-4 まちづくり全般の変化－厚木南地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「商店街活性化の状況」が高くなっている。一方、「電車、バス、タクシー等の状況」と「多様な生物の生息環境」が低くなっている。

図14-2-5 まちづくり全般の変化－厚木南地区（悪くなったもの）

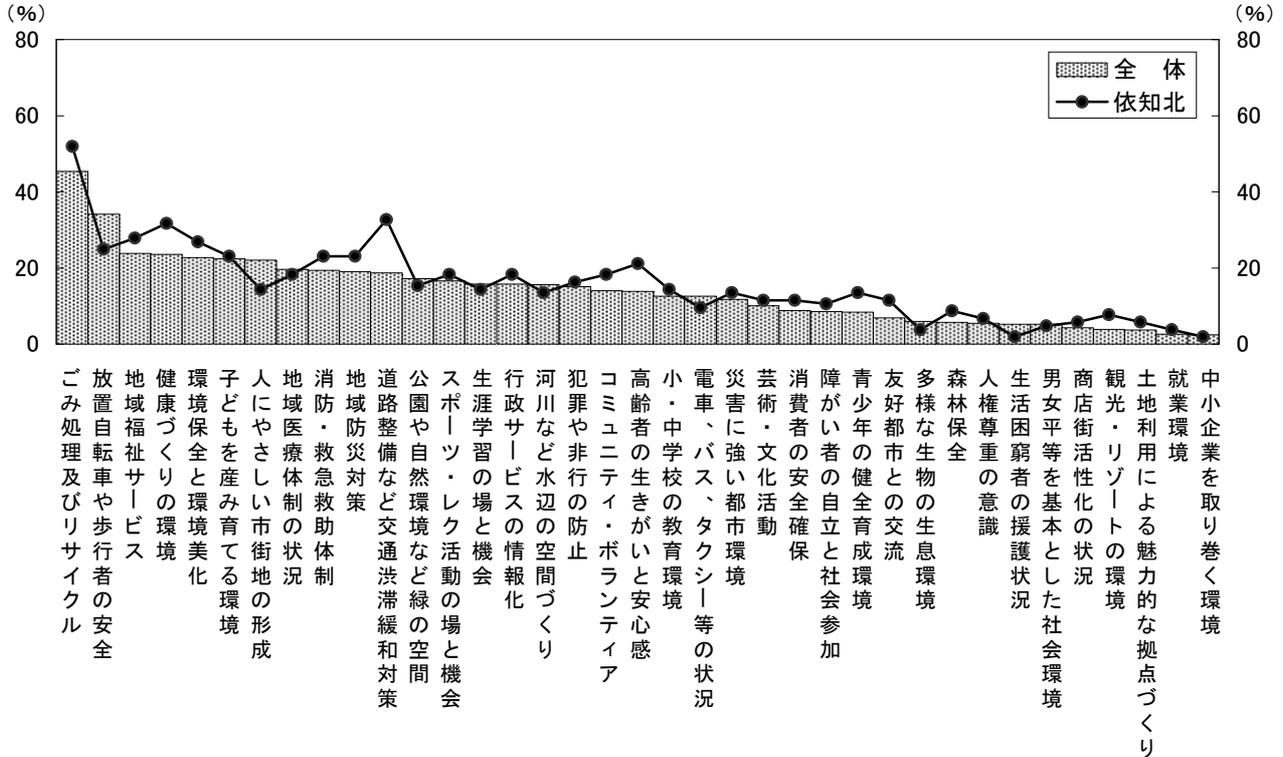


【地区ごとの傾向】

〔依知北地区〕

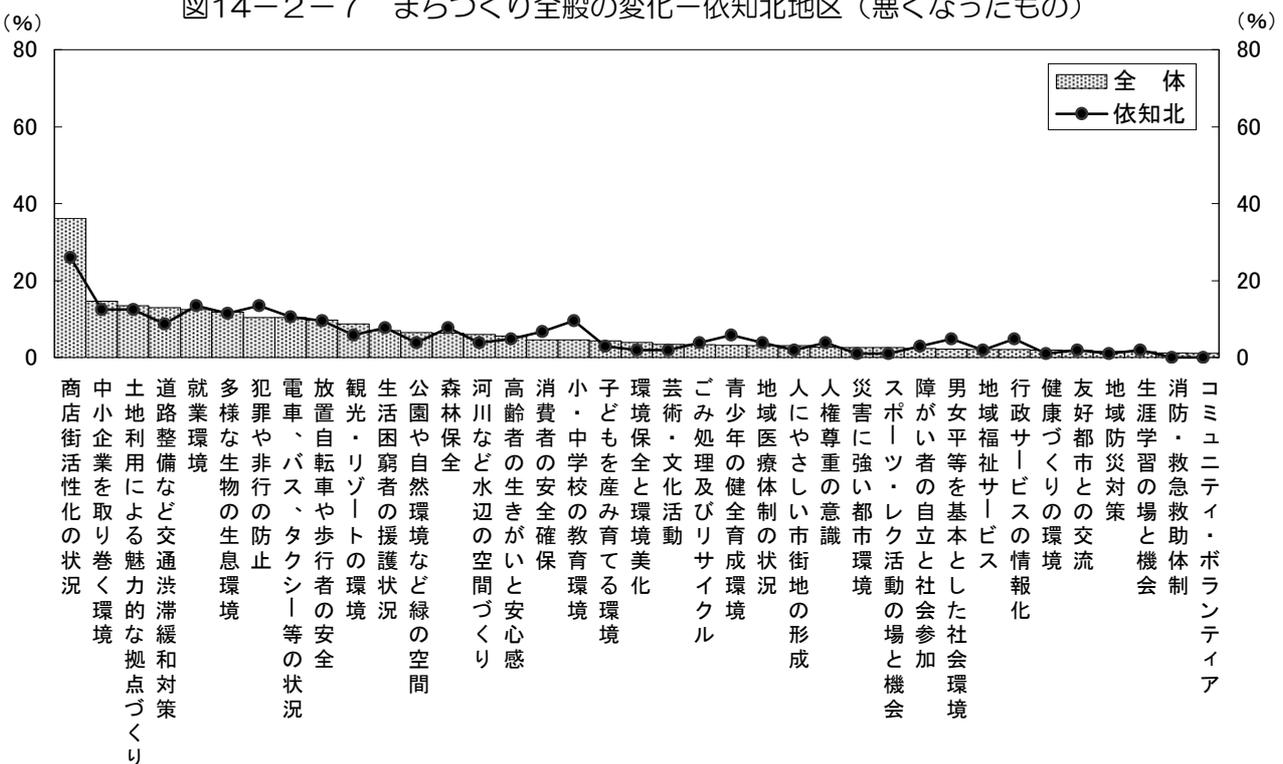
「良くなったもの」では、全体と比べて、「道路整備など交通渋滞緩和対策」が特に高くなっている。一方、「放置自転車や歩行者の安全」と「人にやさしい市街地の形成」が低くなっている。

図14-2-6 まちづくり全般の変化—依知北地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「小・中学校の教育環境」が高くなっている。一方、「商店街活性化の状況」が特に低くなっている。

図14-2-7 まちづくり全般の変化—依知北地区（悪くなったもの）

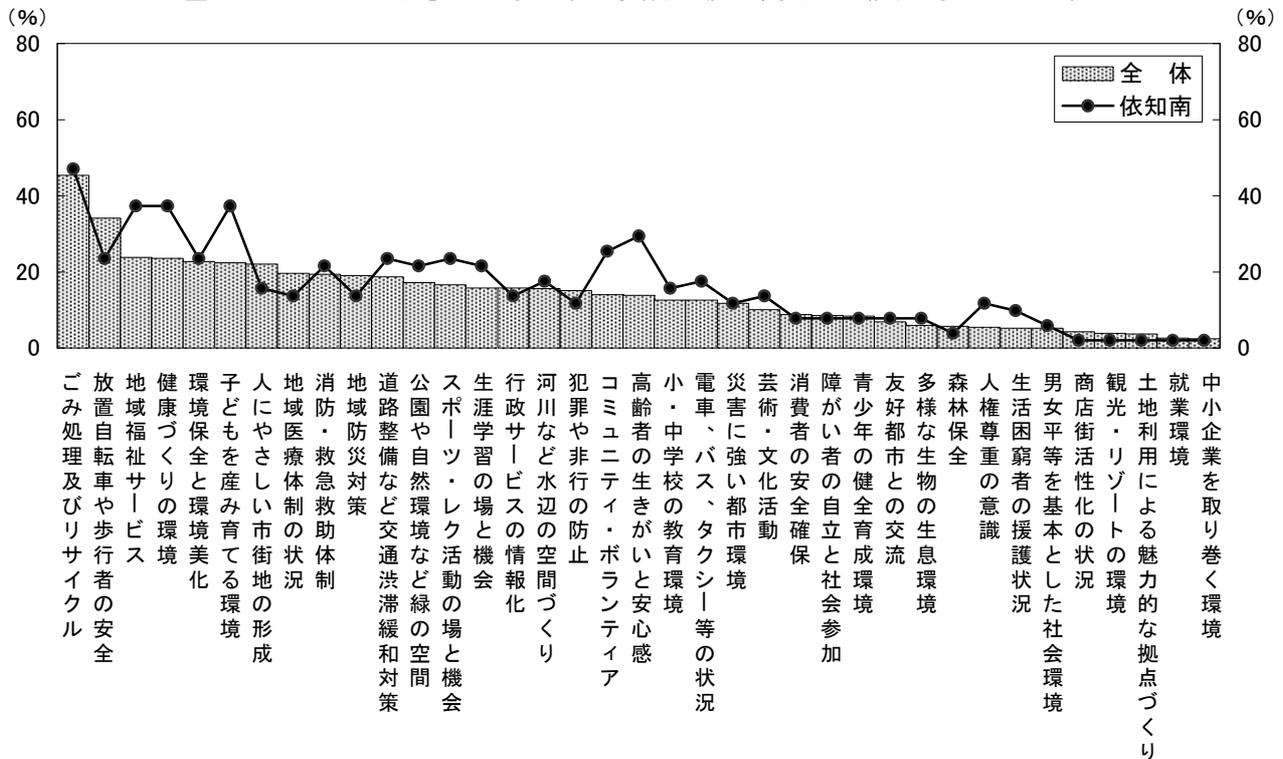


【地区ごとの傾向】

〔依知南地区〕

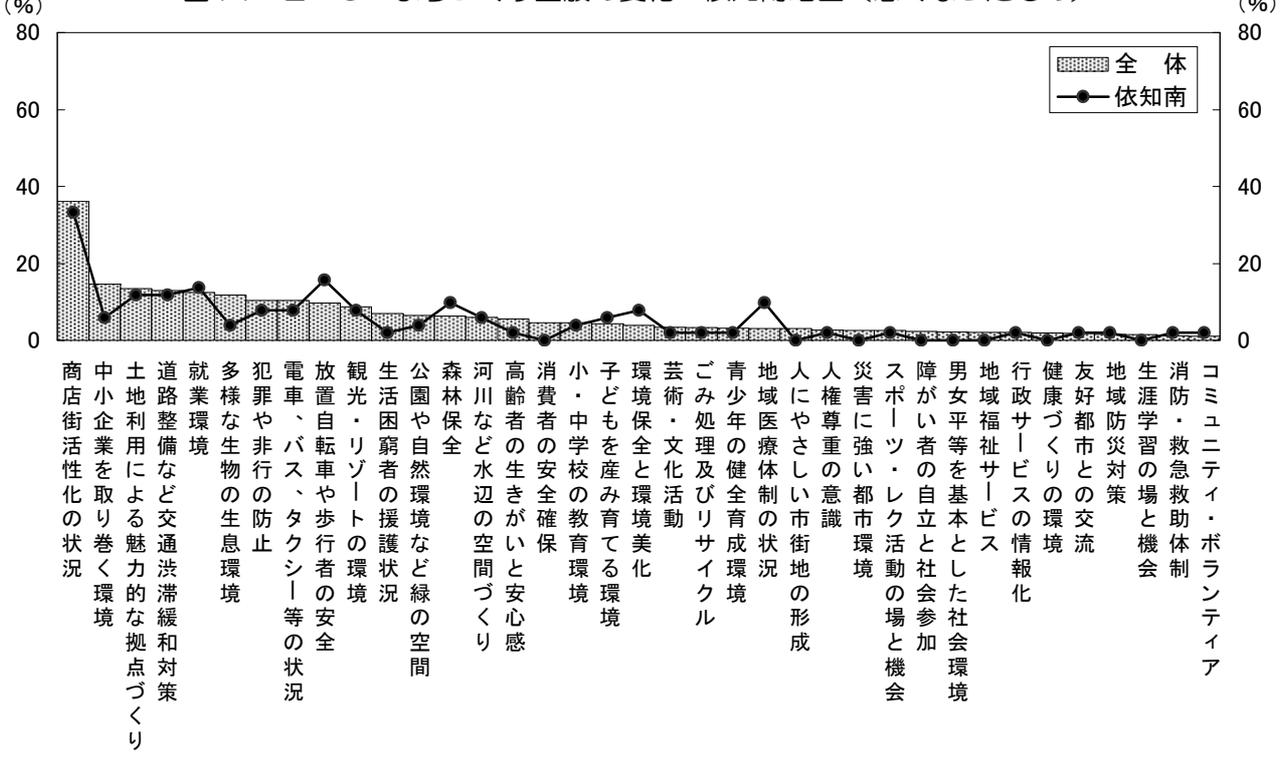
「良くなったもの」では、全体と比べて、「高齢者の生きがいと安心感」、「子どもを産み育てる環境」、「健康づくりの環境」、「地域福祉サービス」、「コミュニティ活動・ボランティア活動」が特に高くなっている。一方、「放置自転車や歩行者の安全」が特に低くなっている。

図14-2-8 まちづくり全般の変化—依知南地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「地域医療体制の状況」と「放置自転車や歩行者の安全」が高くなっている。一方、「中小企業を取り巻く環境」、「多様な生物の生息環境」、「生活困窮者の援護状況」が低くなっている。

図14-2-9 まちづくり全般の変化—依知南地区（悪くなったもの）

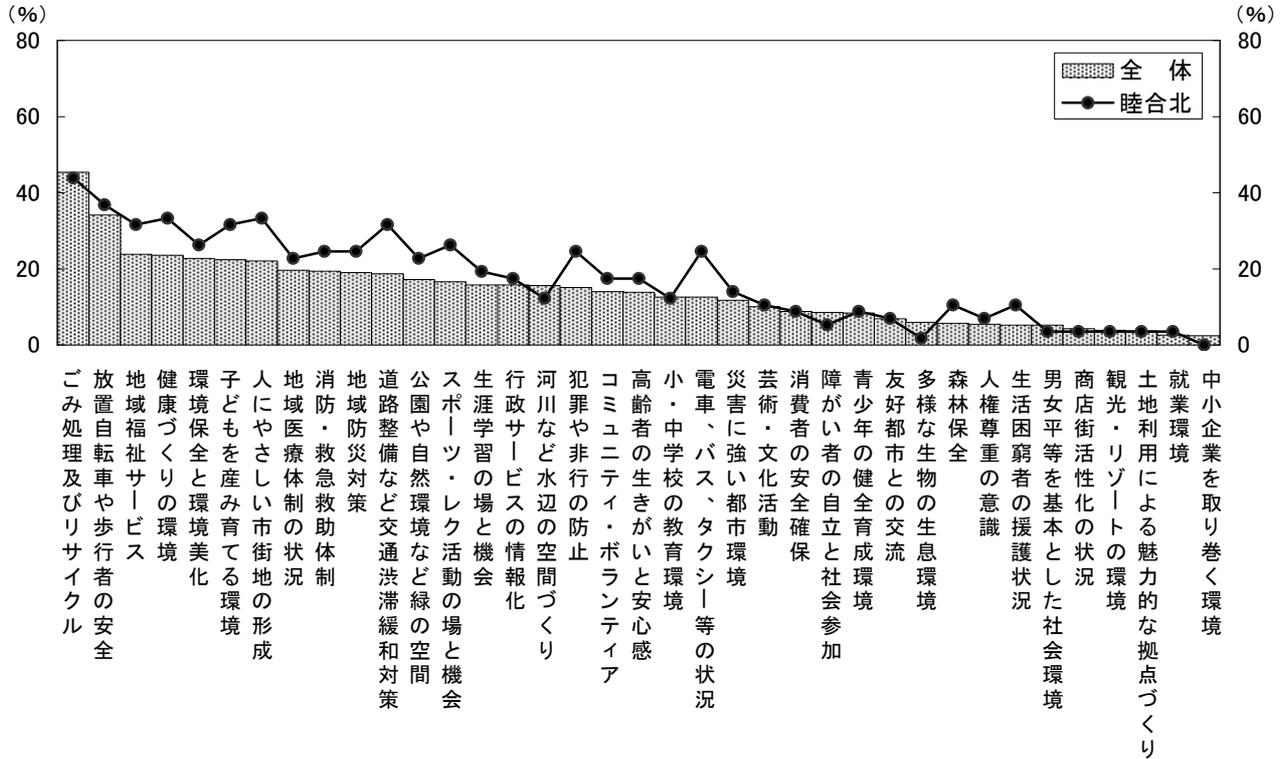


【地区ごとの傾向】

〔睦合北地区〕

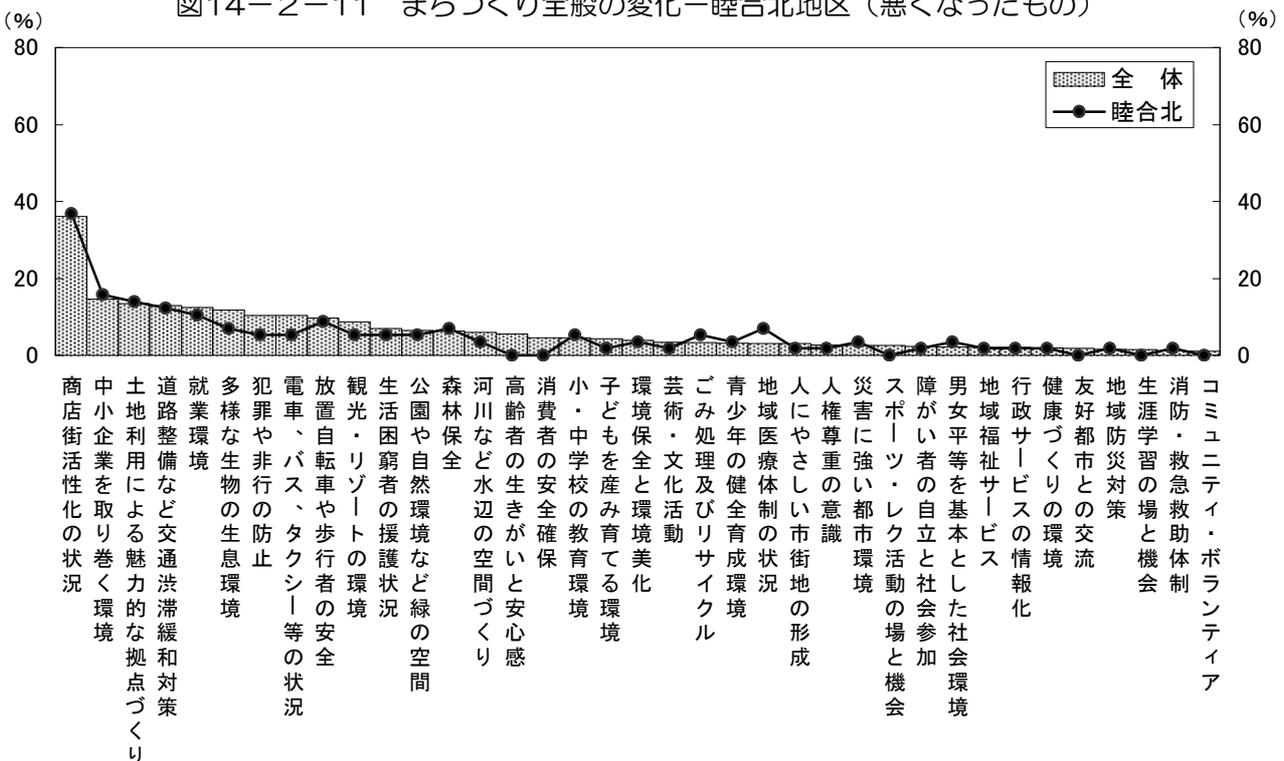
「良くなったもの」では、全体と比べて、「道路整備など交通渋滞緩和対策」、「電車、バス、タクシー等の状況」、「人にやさしい市街地の形成」が高くなっている。一方、「多様な生物の生息環境」がやや低くなっている。

図14-2-10 まちづくり全般の変化—睦合北地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「地域医療体制の状況」がやや高くなっている。一方、「犯罪や非行の防止」と「電車、バス、タクシー等の状況」が低くなっている。

図14-2-11 まちづくり全般の変化—睦合北地区（悪くなったもの）

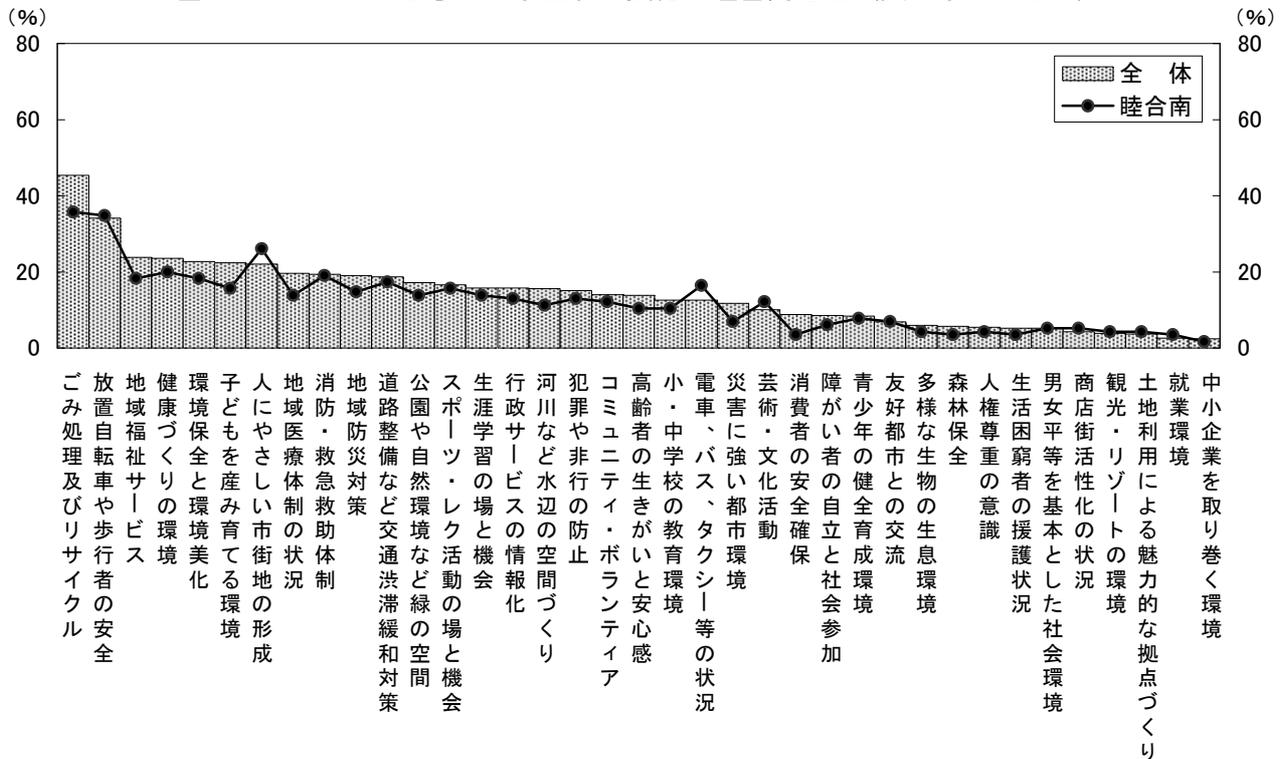


【地区ごとの傾向】

〔睦合南地区〕

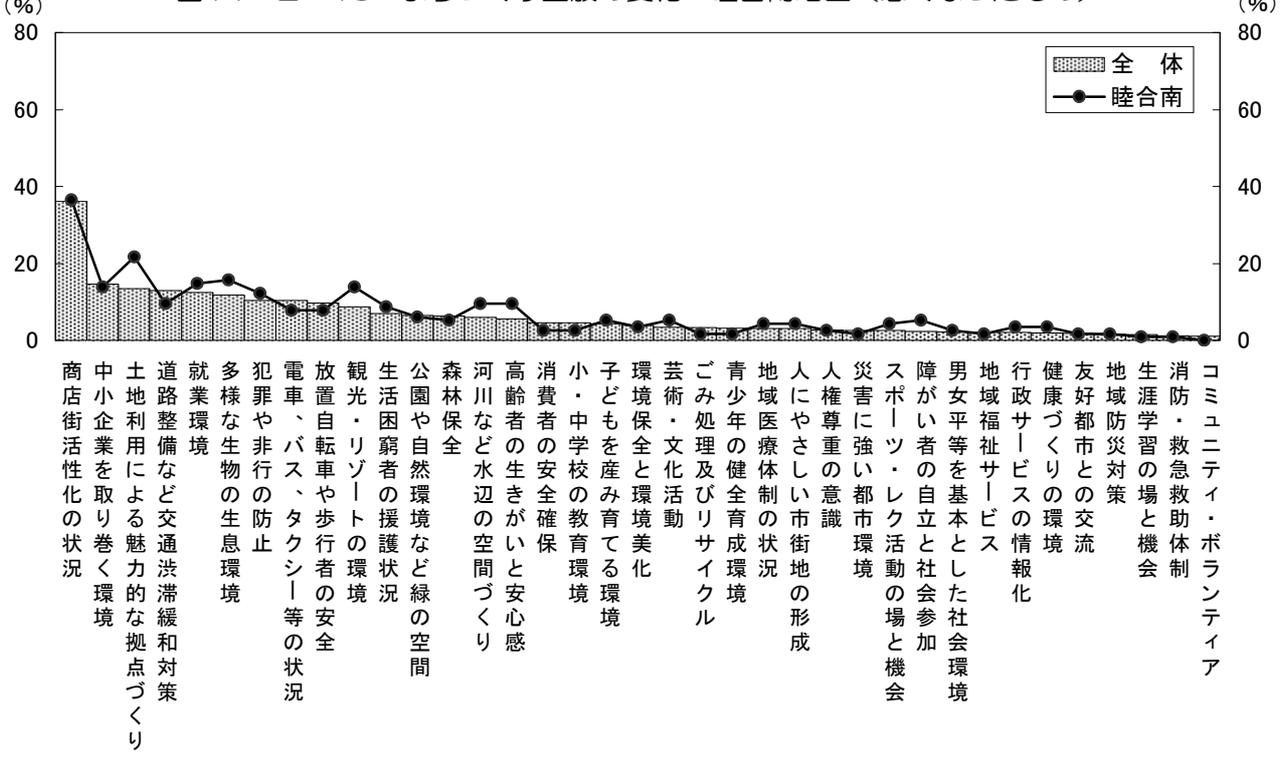
「良くなったもの」では、全体と比べて、「人にやさしい市街地の形成」と「電車、バス、タクシー等の状況」がやや高くなっている。一方、「ごみ処理及びリサイクル」、「子どもを産み育てる環境」、「地域医療体制の状況」、「地域福祉サービス」、「消費者の安全確保」が低くなっている。

図14-2-12 まちづくり全般の変化－睦合南地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「土地利用による魅力的な拠点づくり」と「観光・リゾートの環境」が高くなっている。一方、「道路整備など交通渋滞緩和対策」がやや低くなっている。

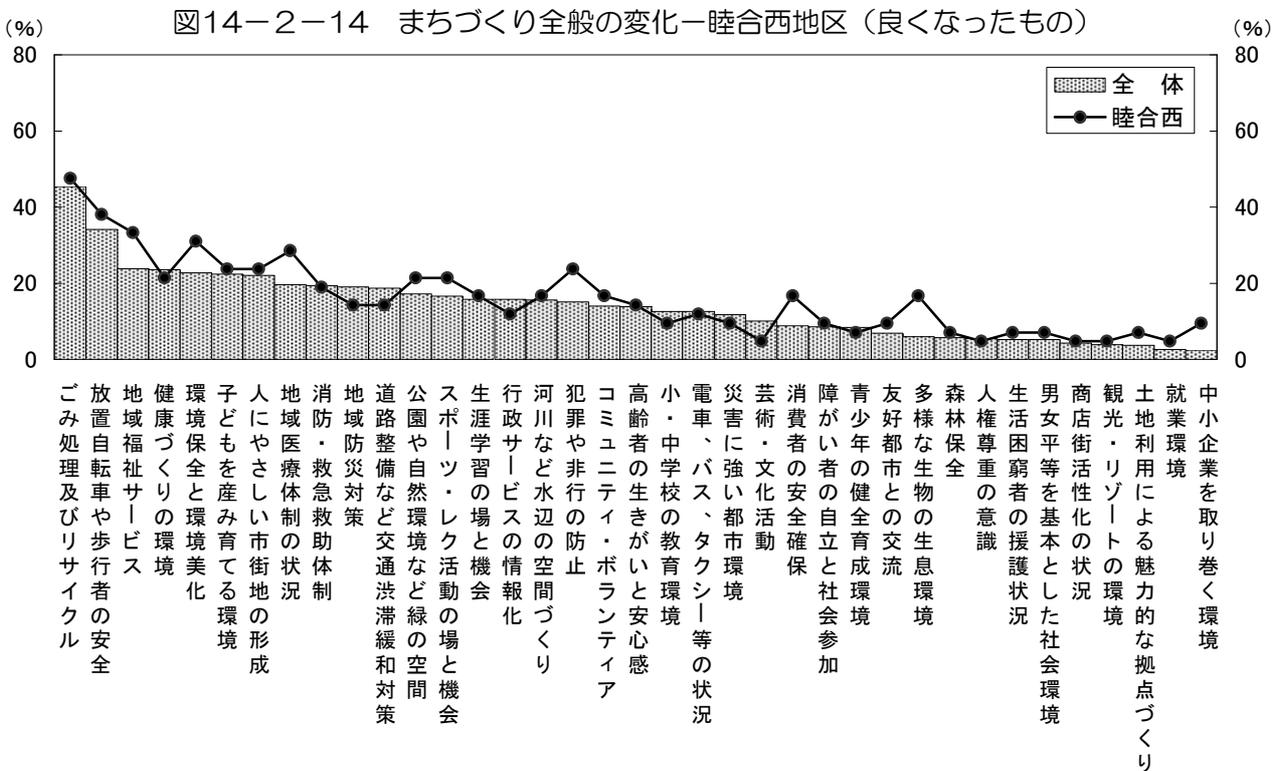
図14-2-13 まちづくり全般の変化－睦合南地区（悪くなったもの）



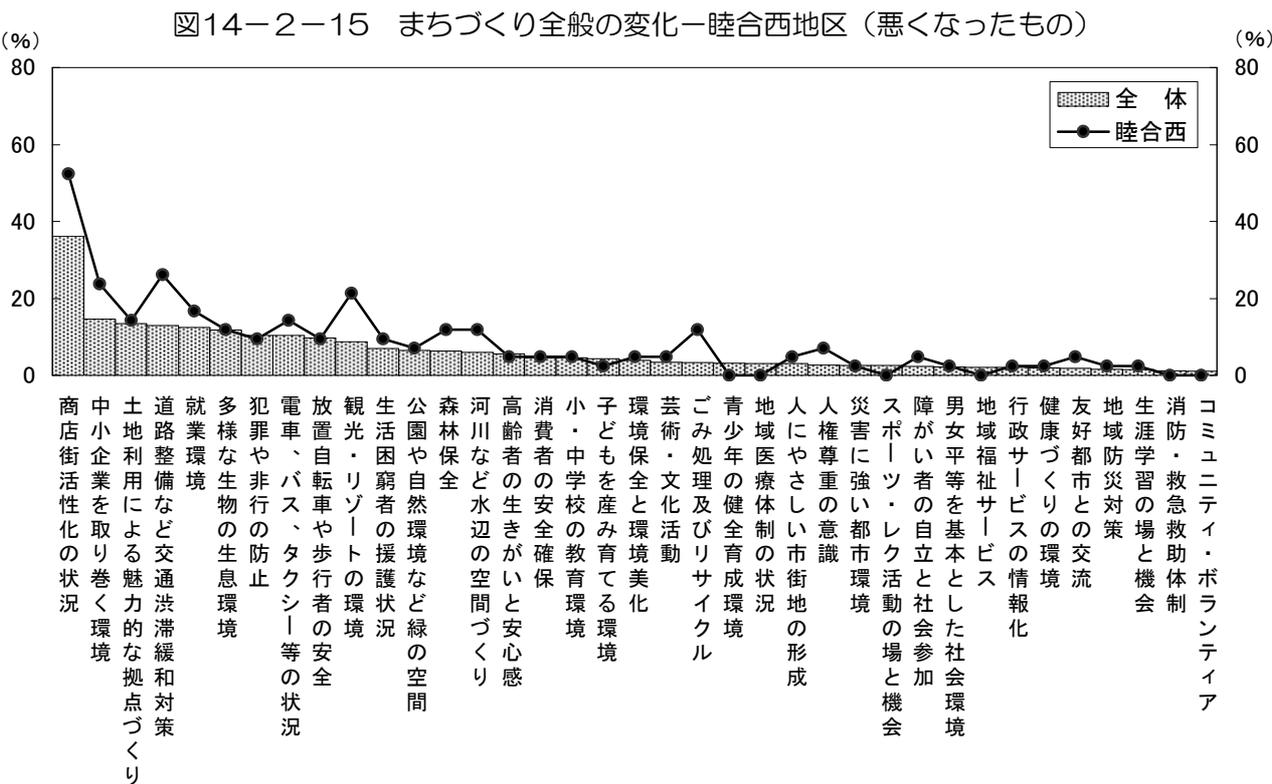
【地区ごとの傾向】

〔睦合西地区〕

「良くなったもの」では、全体と比べて、「環境保全と環境美化」、「地域医療体制の状況」、「犯罪や非行の防止」、「多様な生物の生息環境」が特に高くなっている。一方、「芸術・文化活動」が低くなっている。



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「商店街活性化の状況」、「道路整備など交通渋滞緩和対策」、「観光・リゾートの環境」、「ごみ処理及びリサイクル」が特に高くなっている。一方、「青少年の健全育成環境」、「地域医療体制の状況」、「スポーツ・レク活動の場と機会」、「地域福祉サービス」がやや低くなっている。

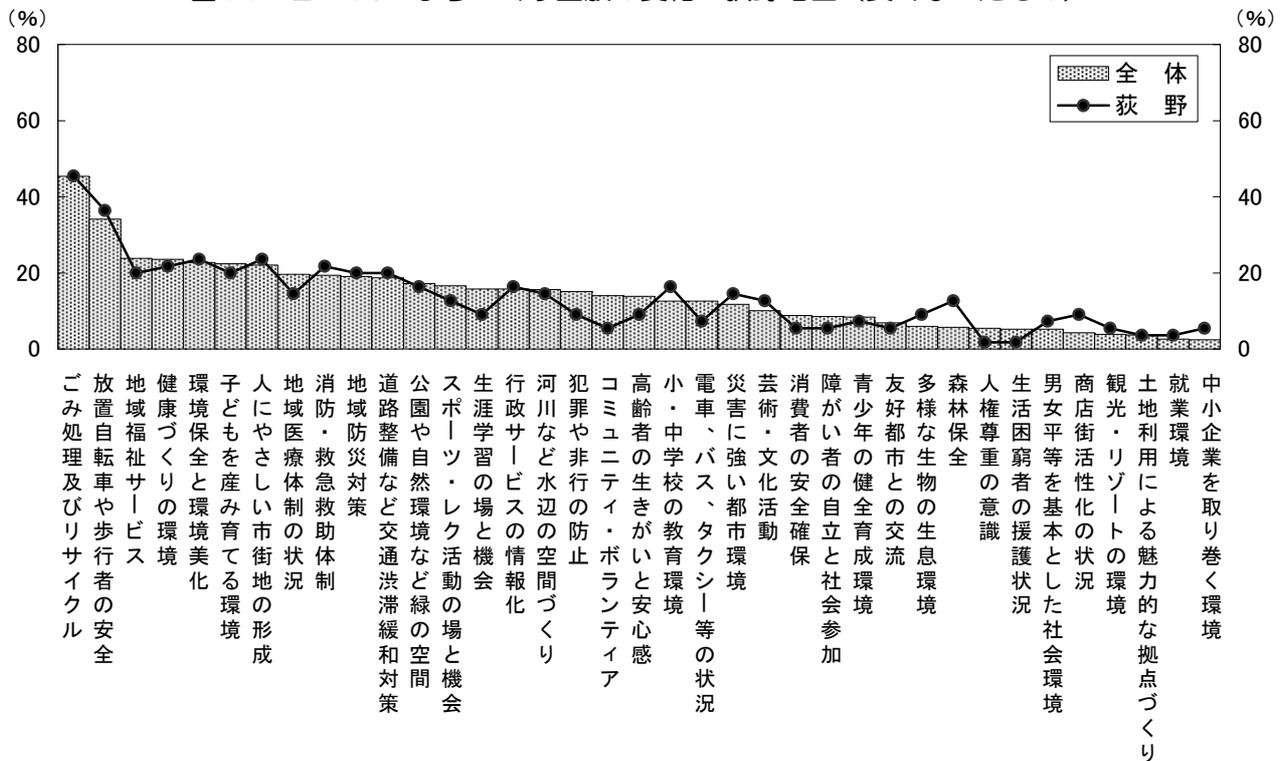


【地区ごとの傾向】

〔荻野地区〕

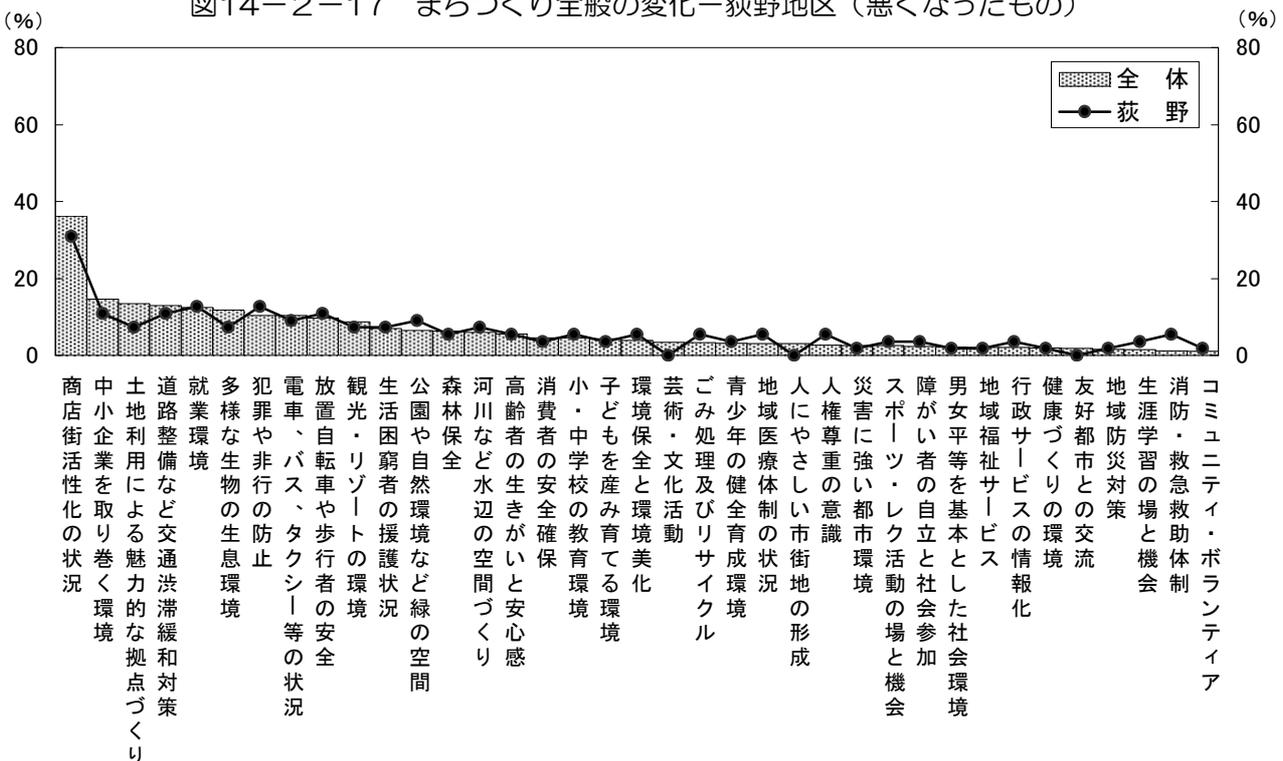
「良くなったもの」では、全体と比べて、「森林保全」が高くなっている。一方、「コミュニティ活動・ボランティア活動」、「生涯学習の場と機会」、「犯罪や非行の防止」、「電車、バス、タクシー等の状況」、「地域医療体制の状況」が低くなっている。

図14-2-16 まちづくり全般の変化—荻野地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「消防・救急救助体制」がやや高くなっている。一方、「土地利用による魅力的な拠点づくり」と「商店街活性化の状況」が低くなっている。

図14-2-17 まちづくり全般の変化—荻野地区（悪くなったもの）

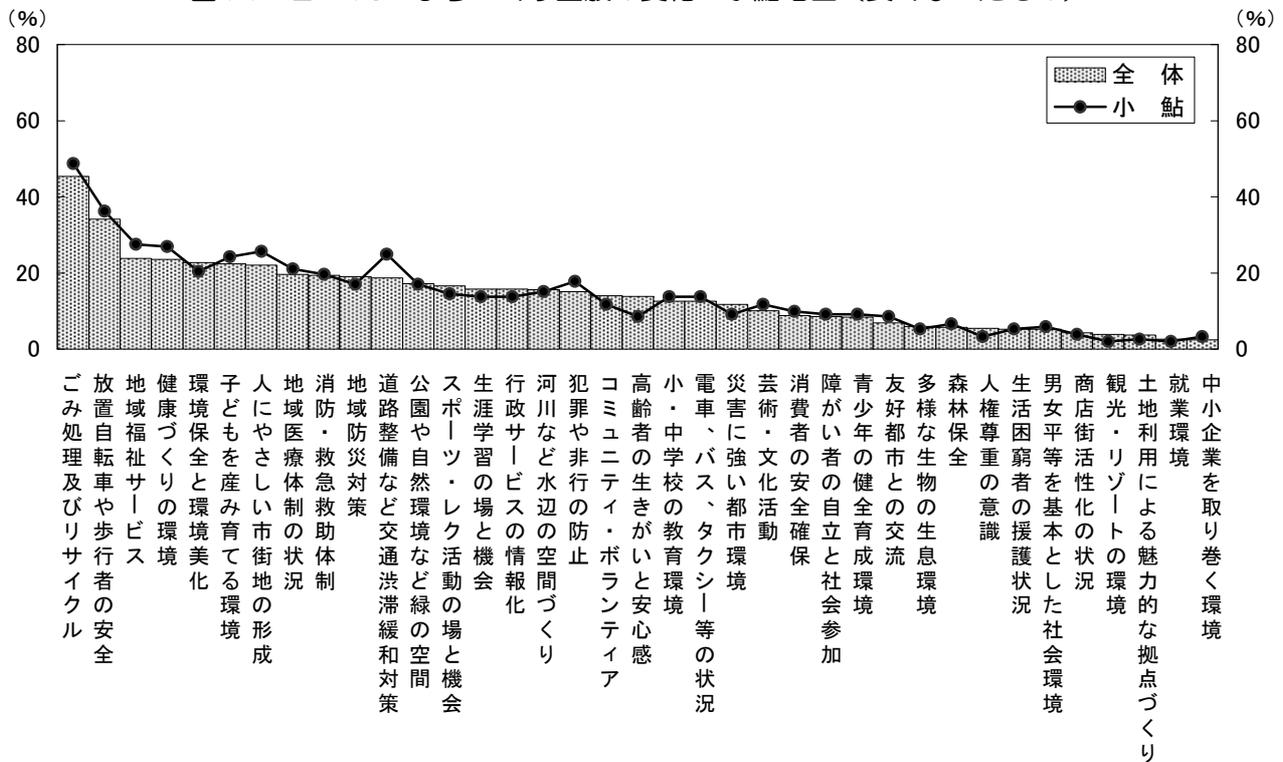


【地区ごとの傾向】

〔小鮎地区〕

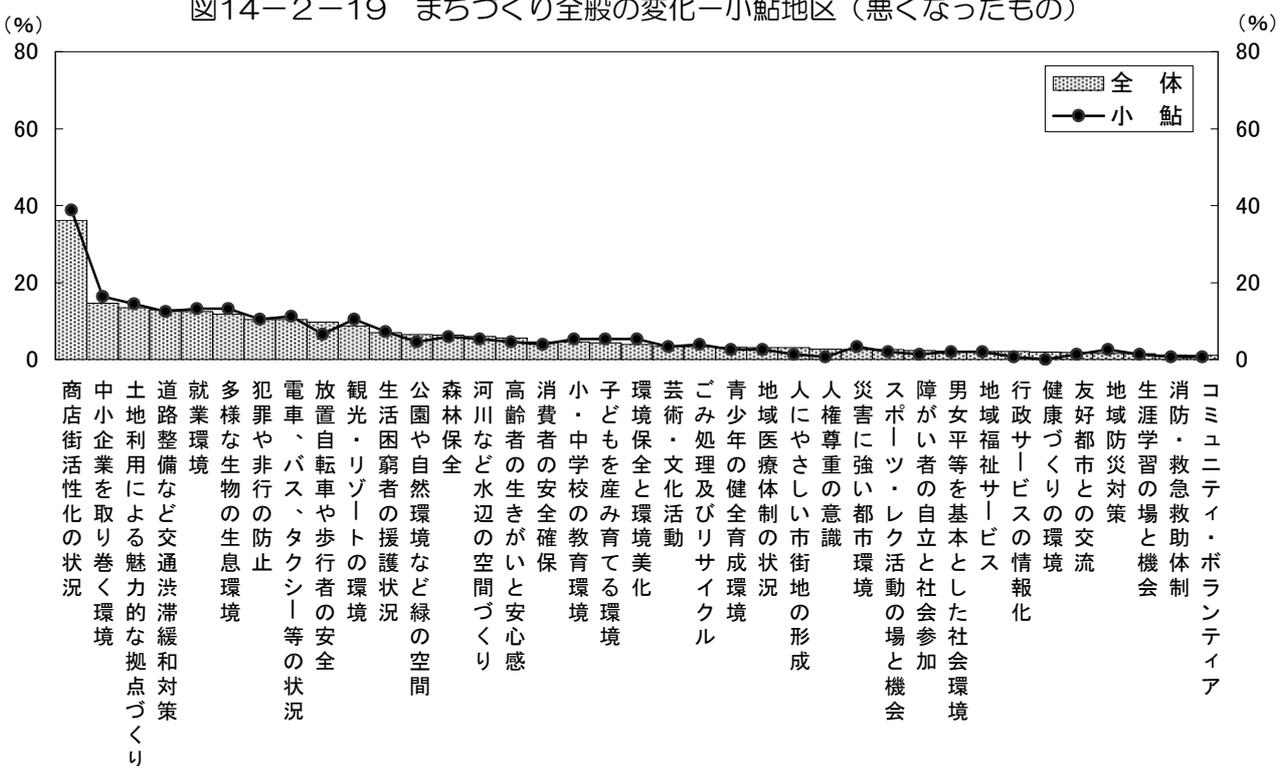
「良くなったもの」では、全体と比べて、「道路整備など交通渋滞緩和対策」が高くなっている。一方、「高齢者の生きがいと安心感」が低くなっている。

図14-2-18 まちづくり全般の変化—小鮎地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「商店街活性化の状況」がやや高くなっている。一方、「放置自転車や歩行者の安全」がやや低くなっている。

図14-2-19 まちづくり全般の変化—小鮎地区（悪くなったもの）

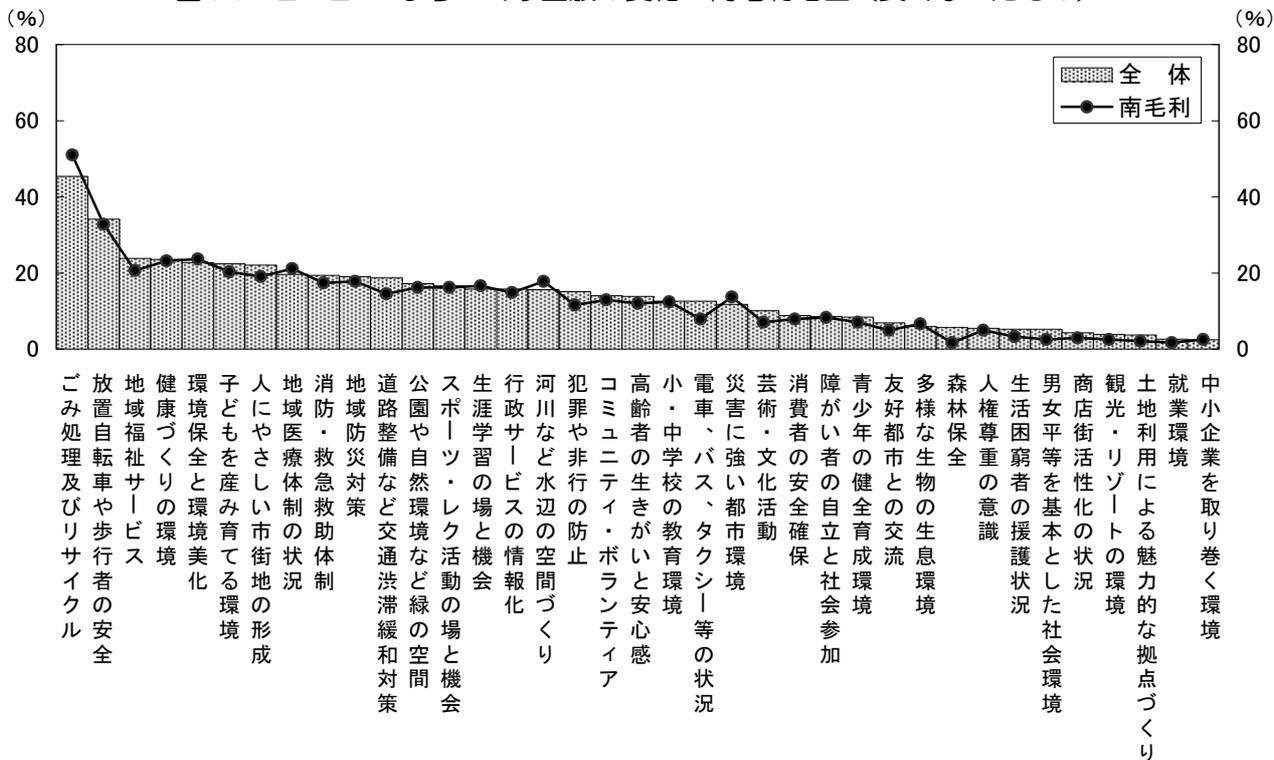


【地区ごとの傾向】

〔南毛利地区〕

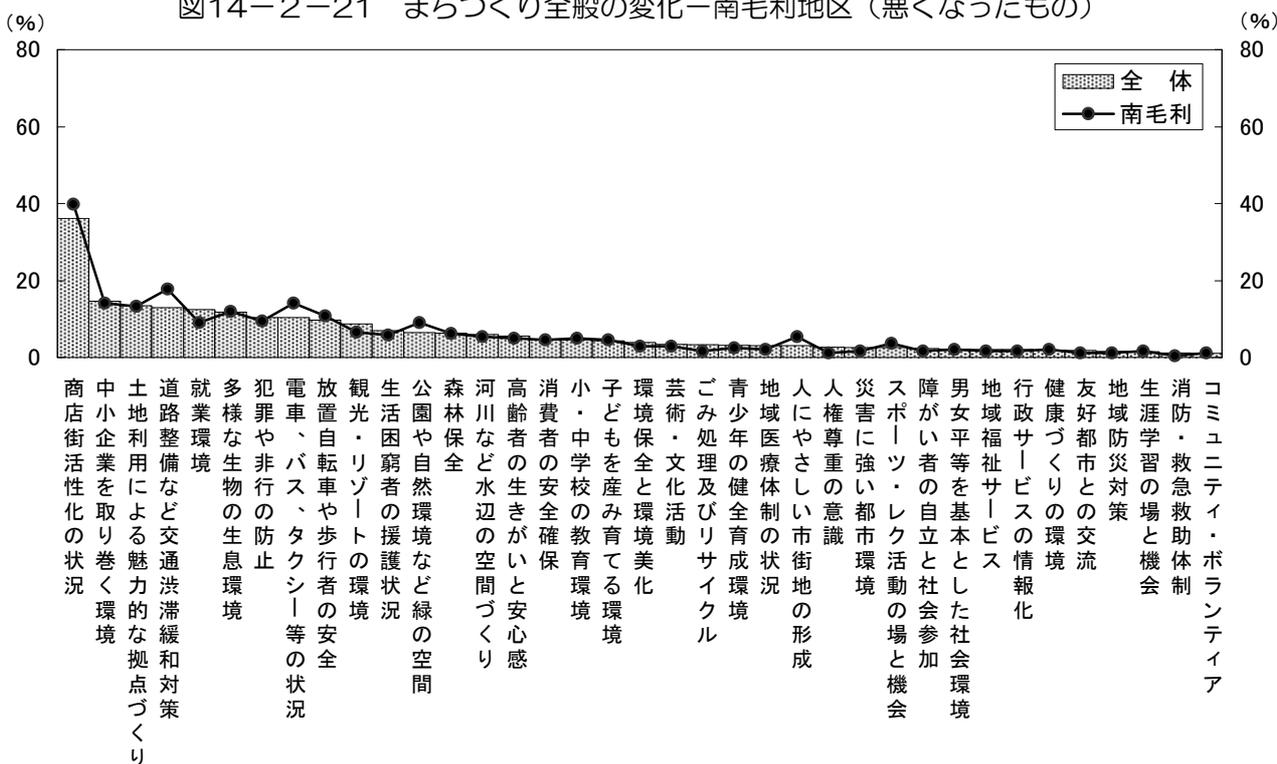
「良くなったもの」では、全体と比べて、「ごみ処理及びリサイクル」が高くなっている。一方、「電車、バス、タクシー等の状況」がやや低くなっている。

図14-2-20 まちづくり全般の変化—南毛利地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「道路整備など交通渋滞緩和対策」と「商店街活性化の状況」がやや高くなっている。一方、「就業環境」がやや低くなっている。

図14-2-21 まちづくり全般の変化—南毛利地区（悪くなったもの）

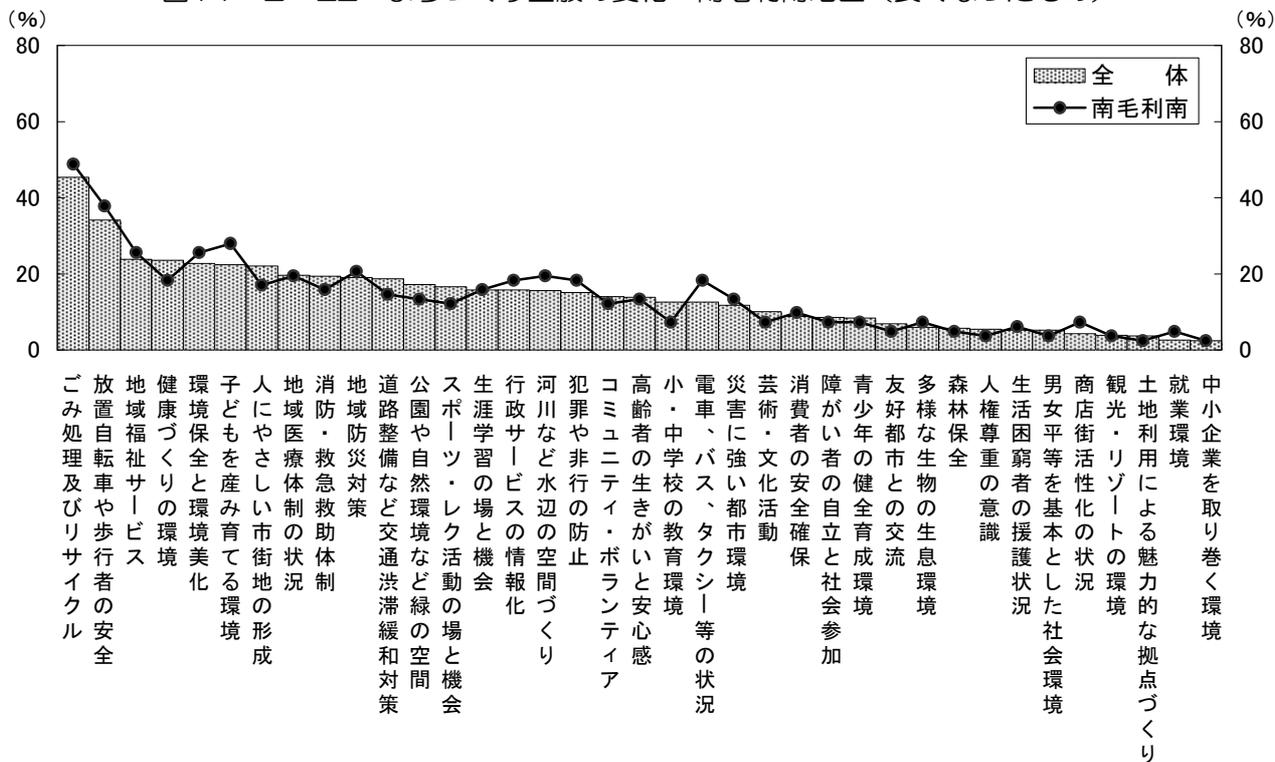


【地区ごとの傾向】

〔南毛利南地区〕

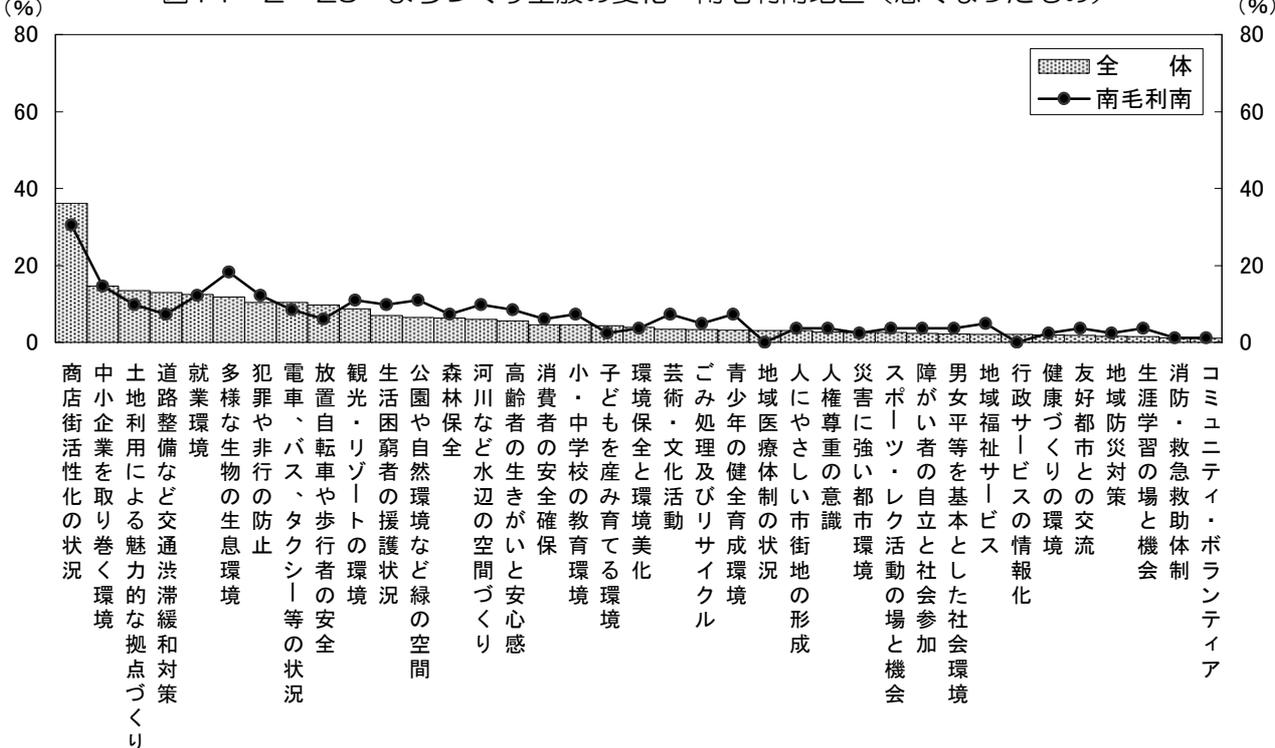
「良くなったもの」では、全体と比べて、「電車、バス、タクシー等の状況」、「子どもを産み育てる環境」が高くなっている。一方、「健康づくりの環境」、「小・中学校の教育環境」、「人にやさしい市街地の形成」が低くなっている。

図14-2-22 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「多様な生物の生息環境」が高くなっている。一方、「商店街活性化の状況」と「道路整備など交通渋滞緩和対策」が低くなっている。

図14-2-23 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（悪くなったもの）

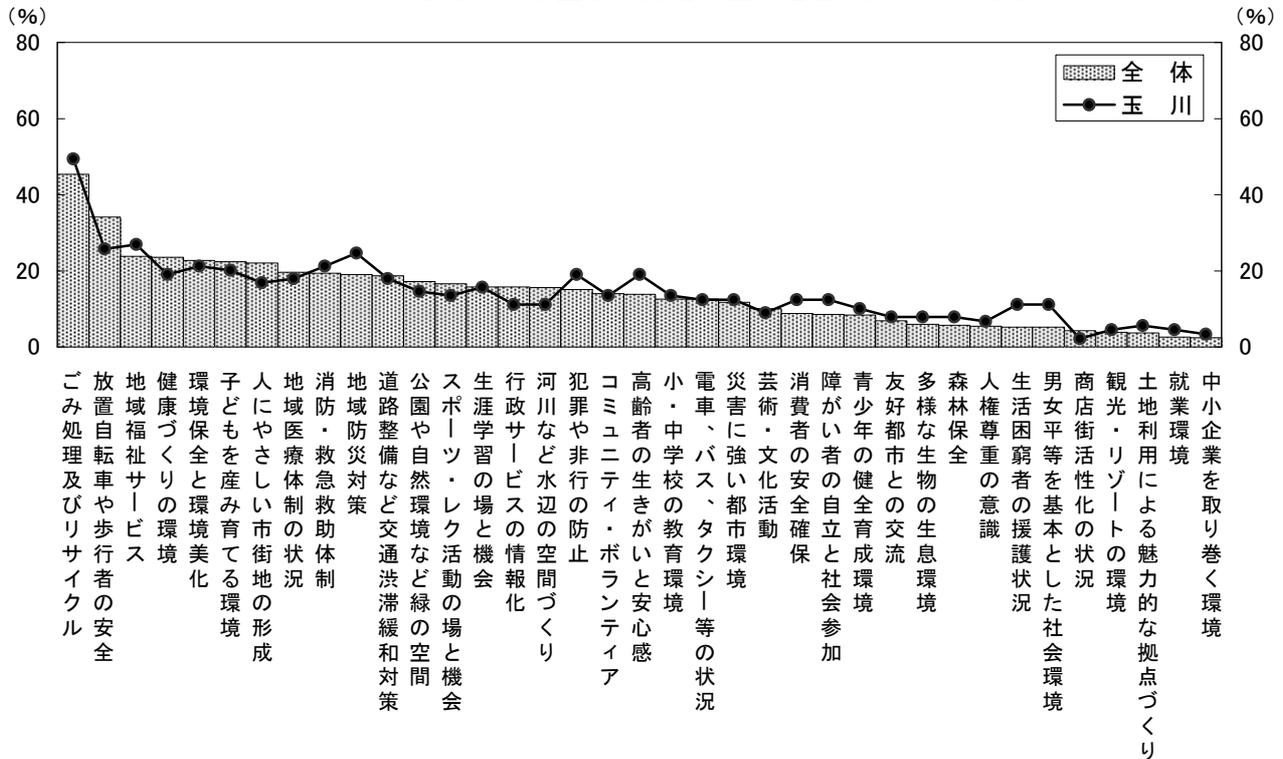


【地区ごとの傾向】

〔玉川地区〕

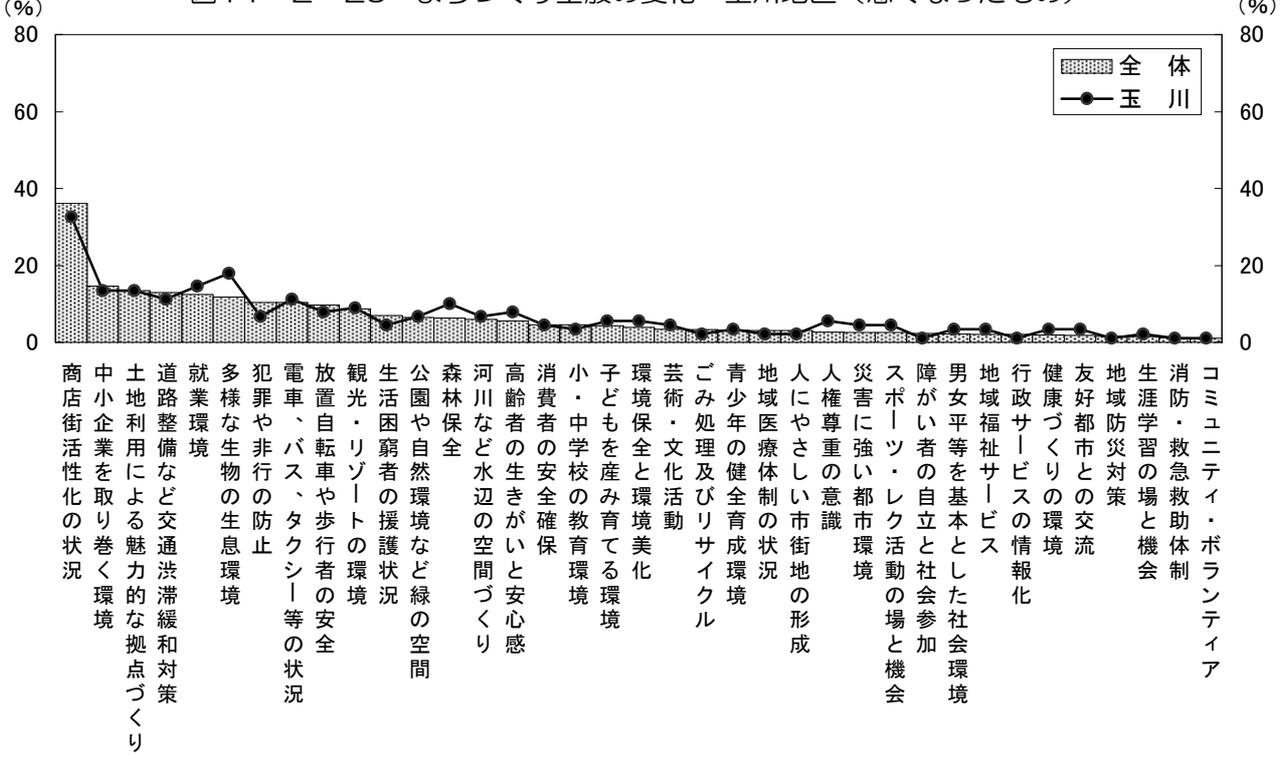
「良くなったもの」では、全体と比べて、「生活困窮者の援護状況」、「男女平等を基本とした社会環境」、「地域防災対策」、「高齢者の生きがいと安心感」が高くなっている。一方、「放置自転車や歩行者の安全」と「人にやさしい市街地の形成」が低くなっている。

図14-2-24 まちづくり全般の変化—玉川地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「多様な生物の生息環境」が高くなっている。一方、「犯罪や非行の防止」がやや低くなっている。

図14-2-25 まちづくり全般の変化—玉川地区（悪くなったもの）

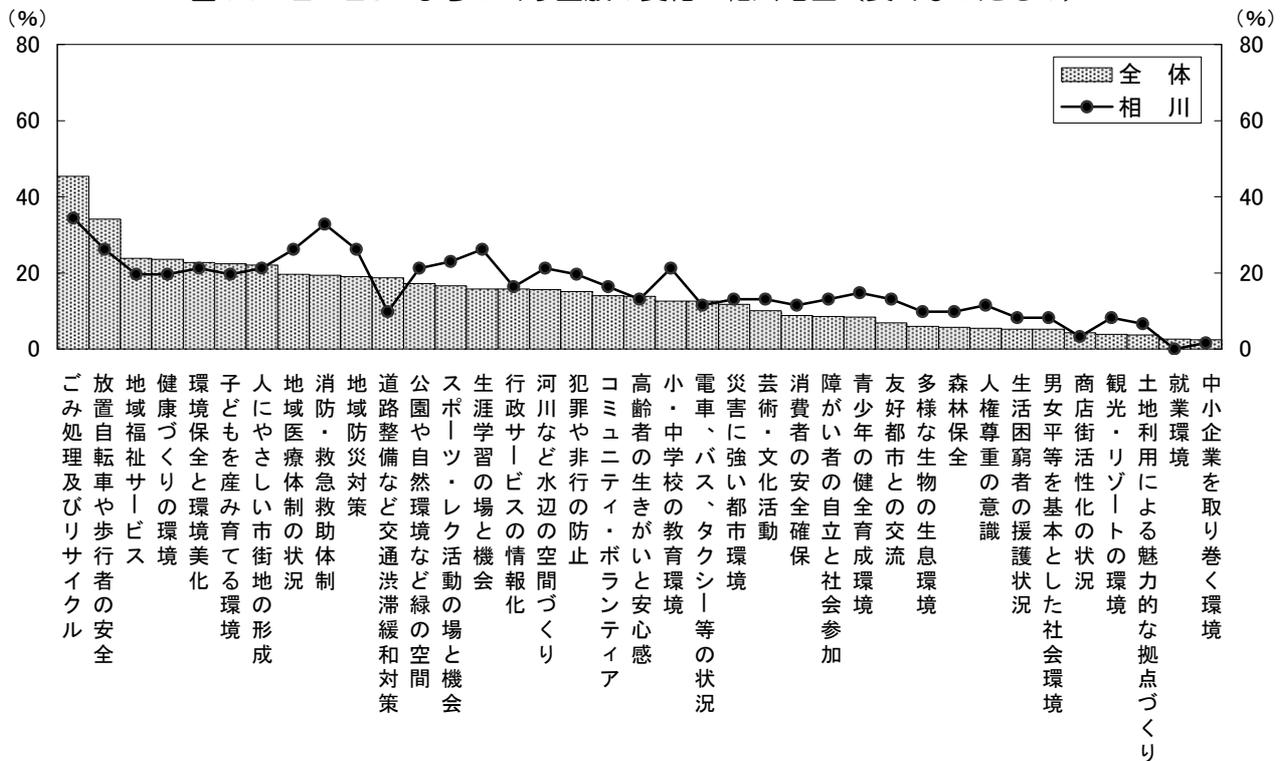


【地区ごとの傾向】

〔相川地区〕

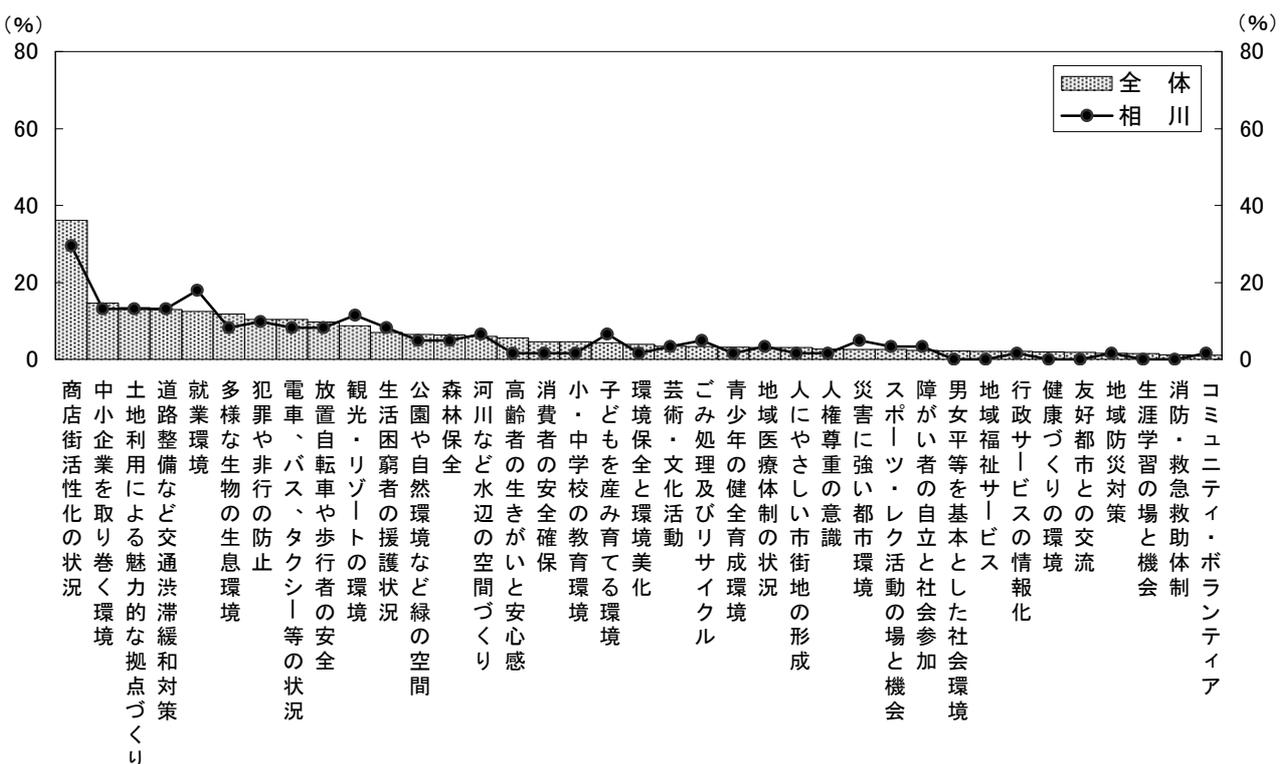
「良くなったもの」では、全体と比べて、「消防・救急救助体制」、「生涯学習の場と機会」、「小・中学校の教育環境」が特に高くなっている。一方、「ごみ処理及びリサイクル」と「道路整備など交通渋滞緩和対策」が特に低くなっている。

図14-2-26 まちづくり全般の変化—相川地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「就業環境」が高くなっている。一方、「商店街活性化の状況」が低くなっている。

図14-2-27 まちづくり全般の変化—相川地区（悪くなったもの）

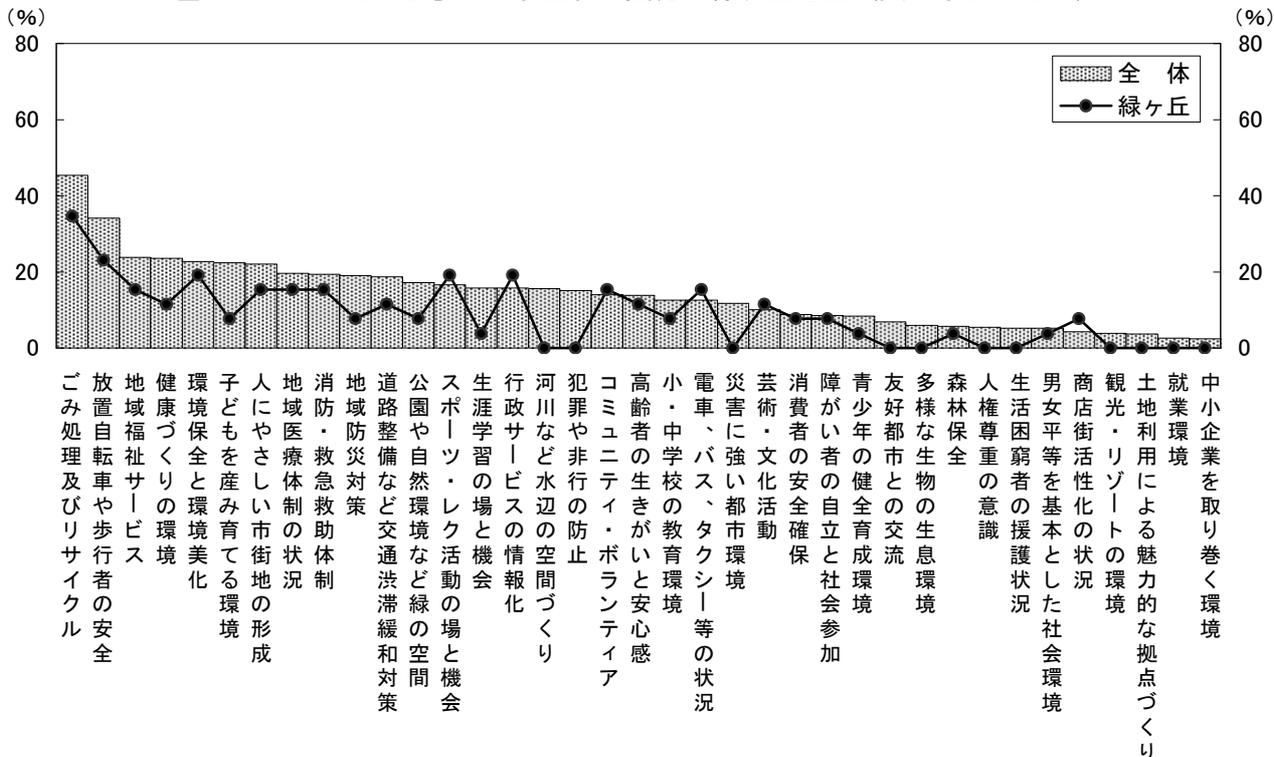


【地区ごとの傾向】

〔緑ヶ丘地区〕

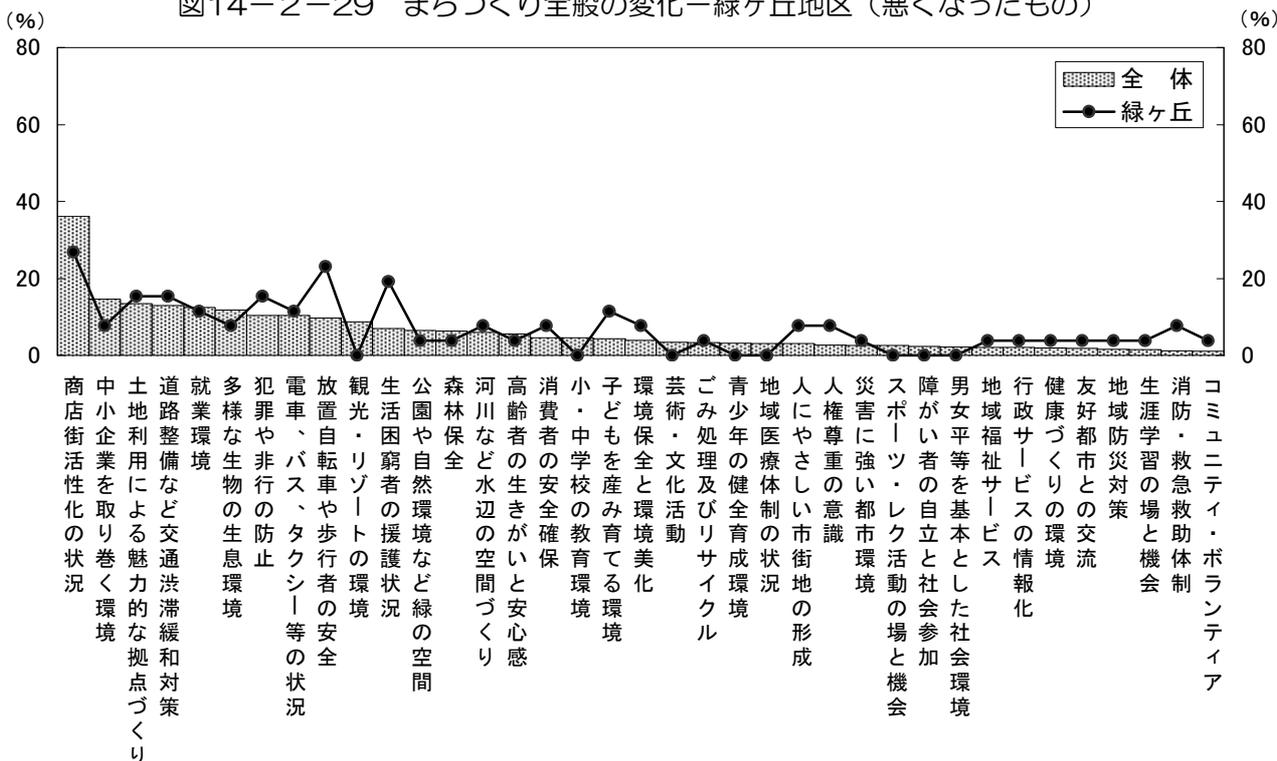
「良くなったもの」では、全体と比べて、「行政サービスの情報化」と「スポーツ・レク活動の場と機会」がやや高くなっている。一方、「河川など水辺の空間づくり」、「災害に強い都市環境」、「犯罪や非行の防止」、「子どもを産み育てる環境」など低い項目が多くなっている。

図14-2-28 まちづくり全般の変化－緑ヶ丘地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「放置自転車や歩行者の安全」、「生活困窮者の援護状況」、「子どもを産み育てる環境」が特に高くなっている。一方、「商店街活性化の状況」、「観光・リゾートの環境」、「中小企業を取り巻く環境」が低くなっている。

図14-2-29 まちづくり全般の変化－緑ヶ丘地区（悪くなったもの）

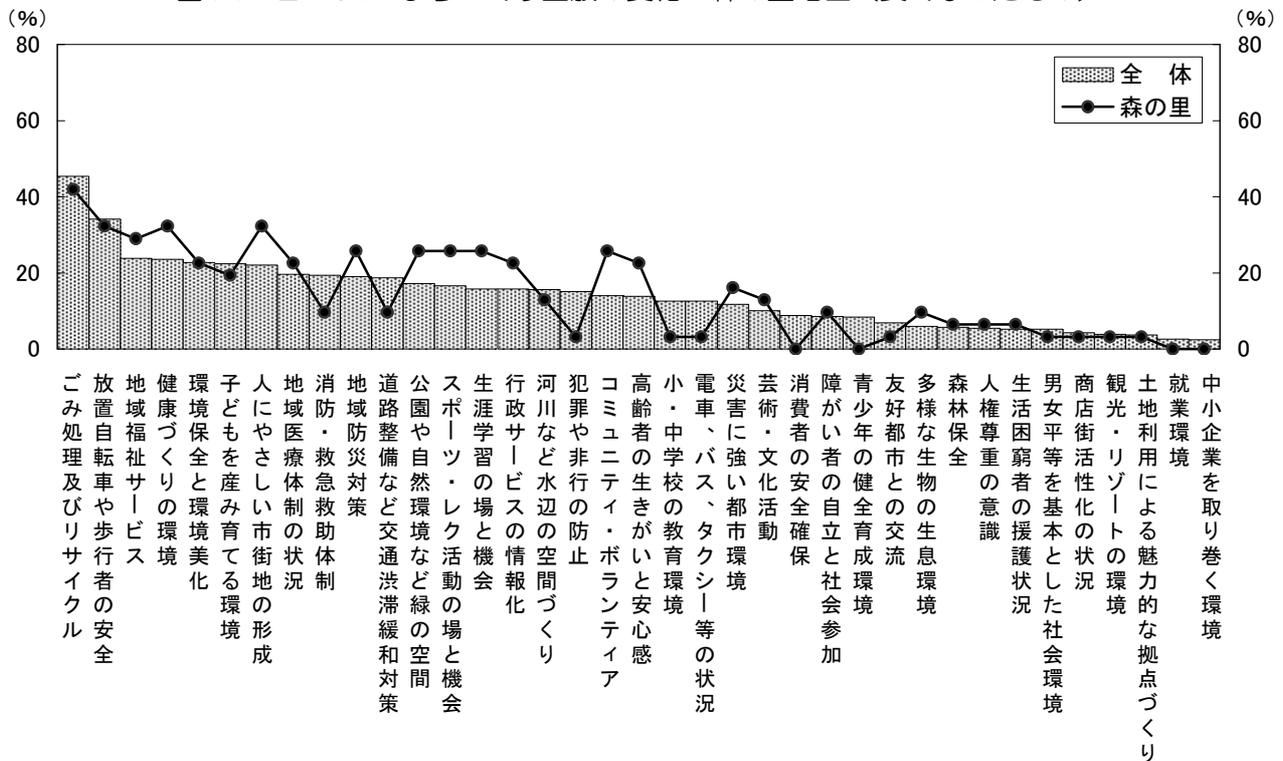


【地区ごとの傾向】

〔森の里地区〕

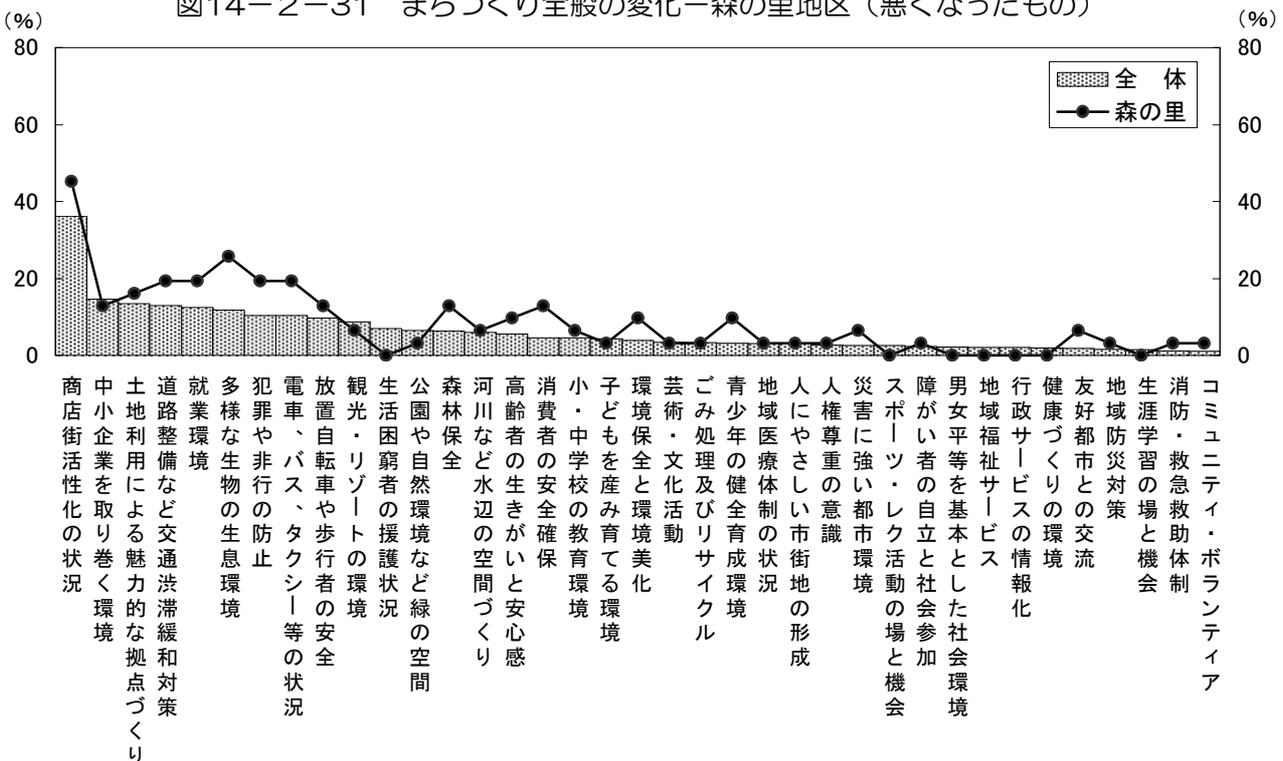
「良くなったもの」では、全体と比べて、「コミュニティ活動・ボランティア活動」、「人にやさしい市街地の形成」、「生涯学習の場と機会」が特に高くなっている。一方、「犯罪や非行の防止」、「小・中学校の教育環境」、「電車、バス、タクシー等の状況」が特に低くなっている。

図14-2-30 まちづくり全般の変化－森の里地区（良くなったもの）



「悪くなったもの」では、全体と比べて、「商店街活性化の状況」と「多様な生物の生息環境」が特に高くなっている。一方、「生活困窮者の援護状況」が低くなっている。

図14-2-31 まちづくり全般の変化－森の里地区（悪くなったもの）

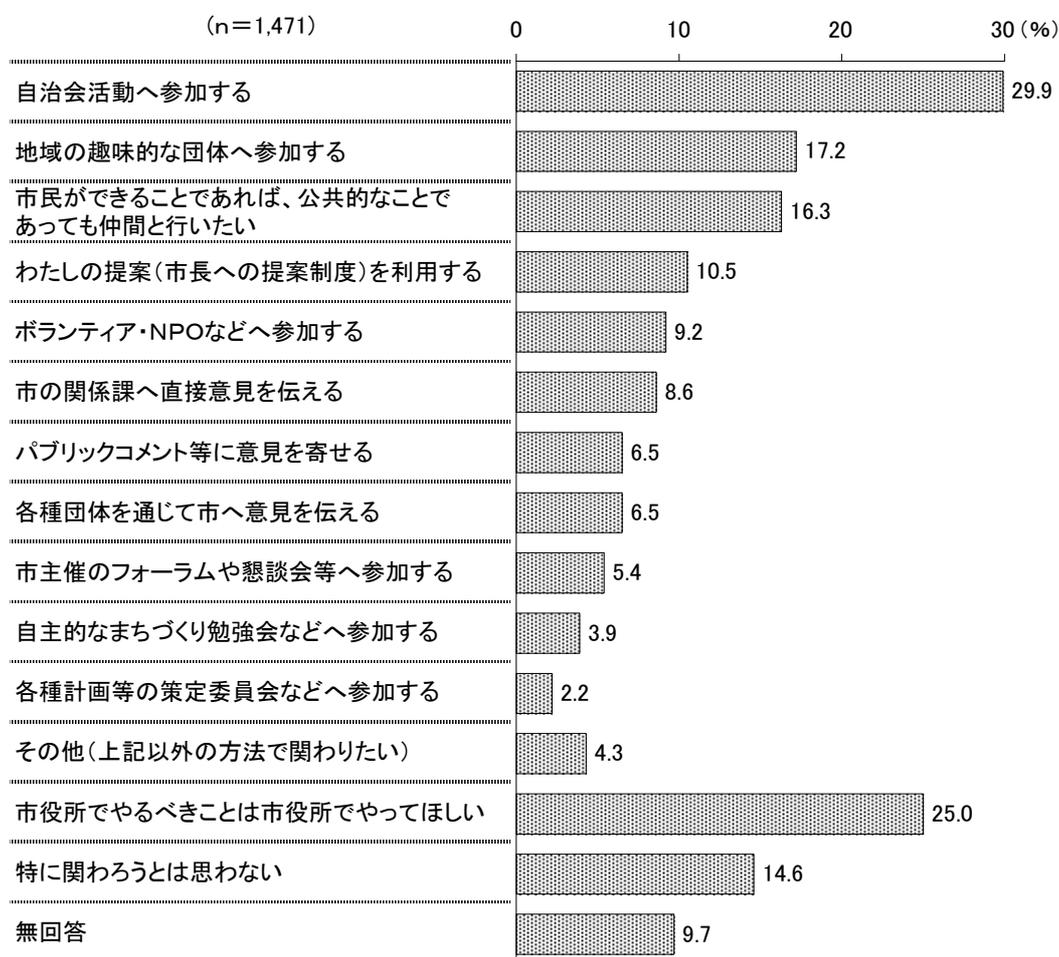


(3) まちづくりへの参加 (A:問33)

問. あなたは、どのようにまちづくりに関わっていきたいと思いますか。

(いくつでも選んでください)

図14-3-1 まちづくりへの参加



【全体】

どのようにまちづくりに関わっていきたいか聞いたところ、「自治会活動へ参加する」(29.9%)が約3割で最も高く、次いで「地域の趣味的な団体へ参加する」(17.2%)、「市民ができることであれば、公共的なことであつても仲間で行いたい」(16.3%)、「わたしの提案(市長への提案制度)を利用する」(10.5%)となっている。

また、「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」(25.0%)が2割半ば、「特に関わろうとは思わない」(14.6%)は1割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「特に関わろうとは思わない」（14.6%）は前回調査（18.0%）より3.4ポイント減少している。

表14-3-1 まちづくりへの参加—経年変化

調査年	n	(%)														
		自治会活動へ参加する	地域の趣味的な団体へ参加する	市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい	わたしの提案（市長への提案制度）を利用する	ボランティア・NPOなどへ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	各種団体を通じて市へ意見を伝える	パブリックコメント等に意見を寄せる	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	その他（左記以外の方法で関わりたい）	市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	特に関わろうとは思わない	無回答
平成27年度	1,471	29.9	17.2	16.3	10.5	9.2	8.6	6.5	6.5	5.4	3.9	2.2	4.3	25.0	14.6	9.7
平成25年度	1,270	29.1	19.5	16.4	11.6	11.7	11.3	6.7	-	6.4	5.3	2.3	5.4	26.3	18.0	11.4
平成23年度	815	24.7	17.4	17.5	11.8	13.3	8.0	8.7	-	8.2	6.5	3.4	4.2	19.3	10.9	5.8
平成21年度	1,608	29.5	14.2	14.9	13.4	9.3	7.5	6.2	-	7.9	5.5	3.4	3.3	21.4	11.1	4.3
平成19年度	1,500	24.8	22.5	15.5	12.9	13.5	8.3	6.9	-	5.9	6.7	2.2	1.6	20.1	14.3	6.4

（注）平成27年度調査では、「パブリックコメント等に意見を寄せる」を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「自治会活動へ参加する」(34.8%)が女性(26.5%)より8.3ポイント高くなっている。一方、女性では「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」(27.0%)が男性(22.5%)より4.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～69歳では「自治会活動へ参加する」(35.9%)が3割半ばと高く、「市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間で行いたい」(24.1%)が2割半ばと高くなっている。70～79歳では「地域の趣味的な団体へ参加する」(22.4%)が2割を超えて高くなっている。

表14-3-2 まちづくりへの参加—性別、年齢別

		(%)															
		n	自治会活動へ参加する	地域の趣味的な団体へ参加する	市民ができることであっても仲間で行いたい	わたしの提案(市長への提案制度)を利用する	ボランティア・NPOなどへ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	パブリックコメント等に意見を寄せる	各種団体を通じて市へ意見を伝える	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	その他(左記以外の方法で関わりたい)	市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	特に関わろうとは思わない	無回答
全 体		1,471	29.9	17.2	16.3	10.5	9.2	8.6	6.5	6.5	5.4	3.9	2.2	4.3	25.0	14.6	9.7
性別	男 性	649	34.8	15.9	15.9	12.0	8.2	9.2	7.6	7.4	6.6	4.6	3.2	4.2	22.5	14.8	9.1
	女 性	804	26.5	18.5	16.8	9.2	10.1	8.0	5.3	5.7	4.4	3.4	1.1	4.4	27.0	14.2	10.0
年 齢 別	20歳未満	7	14.3	28.6	14.3	-	57.1	-	-	-	-	-	-	14.3	14.3	-	-
	20～29歳	90	11.1	12.2	14.4	8.9	13.3	1.1	7.8	4.4	2.2	4.4	1.1	6.7	16.7	30.0	2.2
	30～39歳	195	23.1	11.3	16.9	12.3	7.2	8.7	8.7	4.6	4.1	3.1	0.5	5.6	28.2	19.0	1.5
	40～49歳	228	33.8	17.1	12.7	11.8	7.5	6.6	8.3	4.4	3.1	1.3	1.3	3.1	20.2	18.9	3.5
	50～59歳	223	30.0	19.3	13.9	8.5	9.4	11.2	9.0	7.2	4.9	2.7	1.8	6.7	26.0	13.0	4.5
	60～69歳	323	35.9	18.6	24.1	10.8	11.8	9.3	6.2	6.5	8.4	6.2	5.3	5.0	24.8	8.7	10.8
	70～79歳	286	32.5	22.4	15.4	10.1	8.0	10.1	3.1	9.8	6.6	4.5	1.7	1.7	27.3	12.6	17.1
	80歳以上	110	28.2	10.9	9.1	10.0	4.5	7.3	0.9	5.5	4.5	4.5	-	0.9	29.1	10.9	31.8

〔居住地区別の結果〕

表14-3-3 まちづくりへの参加—居住地区別

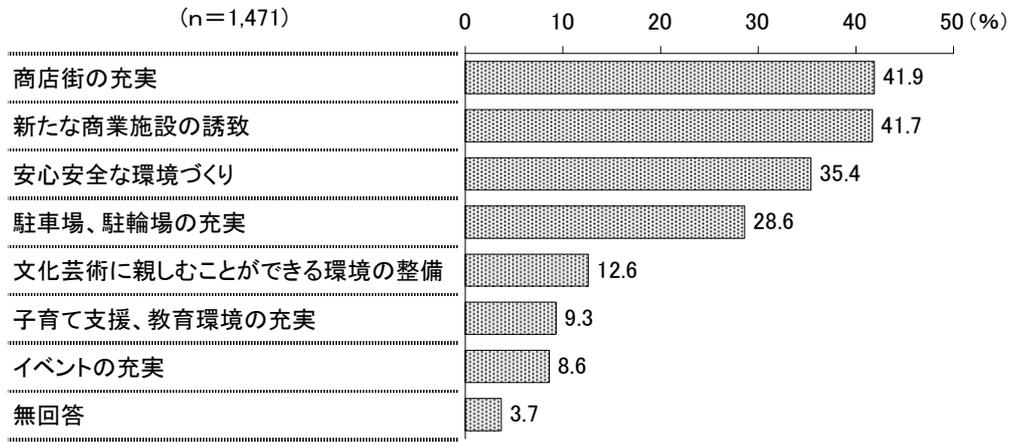
(%)

	n	自治会活動へ参加する	地域の趣味的な団体へ参加する	市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい	わたしの提案（市長への提案制度）を利用する	ボランティア・NPOなどへ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	パブリックコメント等に意見を寄せる	各種団体を通じて市へ意見を伝える	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	その他（左記以外の方法で関わりたい）	市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	特に関わろうとは思わない	無回答	
全 体	1,471	29.9	17.2	16.3	10.5	9.2	8.6	6.5	6.5	5.4	3.9	2.2	4.3	25.0	14.6	9.7	
居 住 地 区 別	厚 木 北	146	17.8	20.5	17.8	9.6	9.6	11.0	9.6	2.7	5.5	2.1	2.1	5.5	21.9	13.0	11.6
	厚 木 南	74	25.7	14.9	20.3	9.5	8.1	12.2	4.1	6.8	2.7	5.4	4.1	4.1	20.3	13.5	6.8
	依 知 北	122	32.0	18.9	13.1	10.7	9.8	6.6	4.1	6.6	4.1	3.3	2.5	1.6	24.6	20.5	13.1
	依 知 南	60	30.0	16.7	15.0	10.0	5.0	10.0	3.3	6.7	5.0	6.7	1.7	5.0	30.0	20.0	6.7
	睦 合 北	62	38.7	21.0	16.1	8.1	6.5	8.1	6.5	11.3	3.2	1.6	3.2	4.8	24.2	14.5	11.3
	睦 合 南	134	26.9	12.7	15.7	8.2	11.2	11.2	4.5	6.0	4.5	2.2	0.7	4.5	28.4	15.7	9.7
	睦 合 西	45	24.4	17.8	20.0	6.7	15.6	8.9	8.9	8.9	11.1	11.1	2.2	2.2	28.9	17.8	4.4
	荻 野	59	25.4	10.2	22.0	11.9	5.1	8.5	3.4	3.4	5.1	5.1	3.4	5.1	22.0	11.9	13.6
	小 鮎	167	35.9	16.8	17.4	13.2	5.4	5.4	7.8	8.4	7.2	4.2	2.4	6.0	29.3	14.4	7.8
	南 毛 利	274	25.5	19.0	16.1	8.8	10.9	8.4	9.1	5.1	5.5	2.6	1.1	4.4	26.3	14.6	8.4
	南毛利南	93	34.4	15.1	12.9	15.1	9.7	10.8	4.3	7.5	9.7	8.6	5.4	3.2	19.4	11.8	10.8
	玉 川	97	47.4	12.4	19.6	13.4	9.3	8.2	4.1	9.3	6.2	6.2	2.1	2.1	18.6	10.3	11.3
	相 川	67	40.3	14.9	14.9	9.0	9.0	6.0	3.0	7.5	3.0	1.5	-	7.5	28.4	11.9	13.4
	緑ヶ丘	26	26.9	26.9	7.7	11.5	7.7	-	3.8	-	3.8	-	3.8	-	42.3	11.5	7.7
	森の里	33	30.3	36.4	12.1	15.2	15.2	9.1	12.1	6.1	-	3.0	-	3.0	9.1	15.2	3.0

(4) 本厚木駅周辺の活性化 (A:問30)

問. 本厚木駅周辺を活性化するために特に必要だと思うことは何ですか。
(2つまで選んでください)

図14-4-1 本厚木駅周辺の活性化



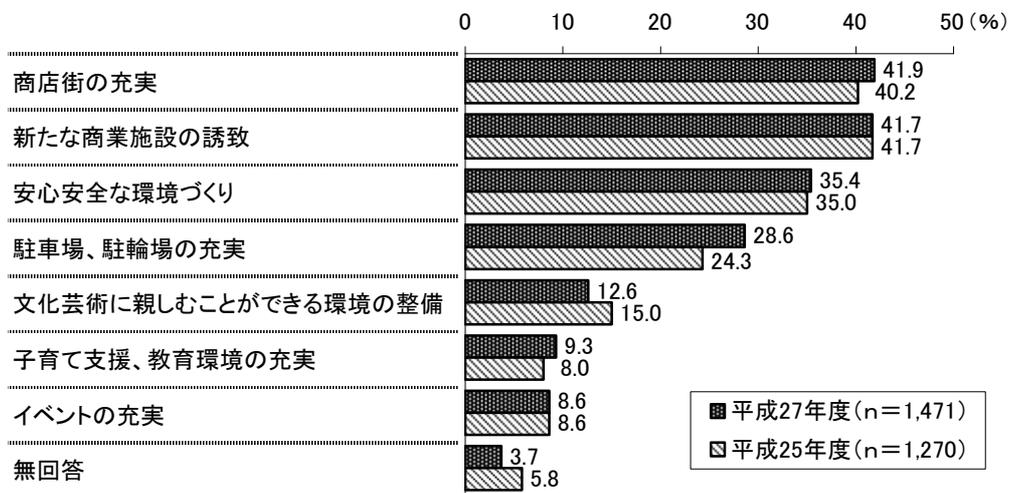
【全体】

本厚木駅周辺の活性化に必要なことについて聞いたところ、「商店街の充実」(41.9%)と「新たな商業施設の誘致」(41.7%)がともに4割を超えて高く、次いで「安心安全な環境づくり」(35.4%)、「駐車場、駐輪場の充実」(28.6%)、「文化芸術に親しむことができる環境の整備」(12.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「駐車場、駐輪場の充実」(28.6%)は前回調査(24.3%)より4.3ポイント増加している。

図14-4-2 本厚木駅周辺の活性化—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「安心安全な環境づくり」(37.7%)が男性(32.7%)より5.0ポイント高くなっている。一方、男性では「新たな商業施設の誘致」(43.6%)が女性(40.2%)より3.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「新たな商業施設の誘致」(51.8%)が5割を超えて高くなっている。20～29歳では「安心安全な環境づくり」(40.0%)が4割と高くなっている。70～79歳では「駐車場、駐輪場の充実」(31.5%)が3割を超えて高くなっている。

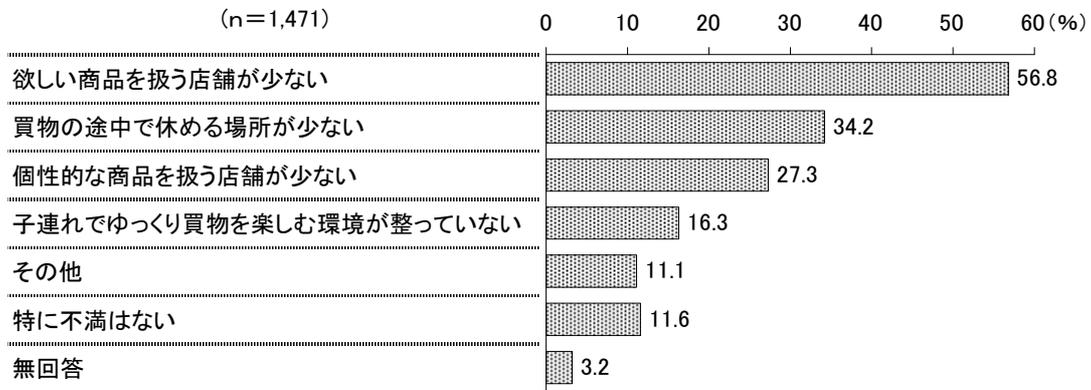
表14-4-1 本厚木駅周辺の活性化—性別、年齢別

		(%)								
		n	商店街の充実	新たな商業施設の誘致	安心安全な環境づくり	駐車場、駐輪場の充実	文化芸術に親しむことができる環境の整備	子育て支援、教育環境の充実	イベントの充実	無回答
全 体		1,471	41.9	41.7	35.4	28.6	12.6	9.3	8.6	3.7
性別	男 性	649	41.3	43.6	32.7	30.2	11.7	9.4	8.3	4.0
	女 性	804	42.8	40.2	37.7	27.6	13.4	9.0	8.7	3.2
年 齢 別	20歳未満	7	42.9	-	42.9	57.1	-	28.6	14.3	-
	20～29歳	90	30.0	35.6	40.0	26.7	10.0	21.1	17.8	2.2
	30～39歳	195	30.8	48.7	34.9	26.2	8.2	22.1	14.9	0.5
	40～49歳	228	38.6	51.8	29.8	29.8	10.1	10.5	8.8	1.3
	50～59歳	223	44.8	44.4	39.0	28.7	11.7	4.5	8.5	0.9
	60～69歳	323	45.5	40.2	37.8	27.9	15.8	5.9	7.1	4.0
	70～79歳	286	47.9	36.0	33.6	31.5	14.0	4.5	5.2	7.0
	80歳以上	110	46.4	29.1	33.6	26.4	18.2	3.6	1.8	11.8

(5) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること (A: 問31)

問. 本厚木駅周辺の買物の際に不満を感じることはありますか。(2つまで選んでください)

図14-5-1 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること



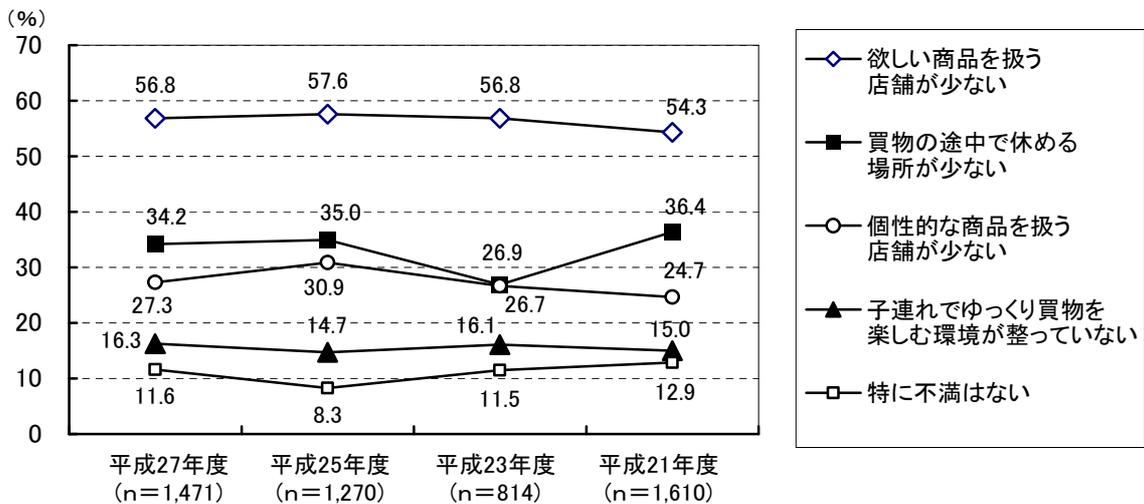
【全体】

本厚木駅周辺の買物で不満を感じることについて聞いたところ、「欲しい商品を扱う店舗が少ない」(56.8%)が6割近くで最も高く、次いで「買物の途中で休める場所が少ない」(34.2%)、「個性的な商品を扱う店舗が少ない」(27.3%)、「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」(16.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「個性的な商品を扱う店舗が少ない」(27.3%)は前回調査(30.9%)より3.6ポイント減少している。「特に不満はない」(11.6%)は前回調査(8.3%)より3.3ポイント増加している。

図14-5-2 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「欲しい商品を扱う店舗が少ない」(59.6%)が男性(53.6%)より6.0ポイント、「買物の途中で休める場所が少ない」(36.6%)が男性(31.1%)より5.5ポイント高くなっている。一方、男性では「個性的な商品を扱う店舗が少ない」(29.7%)が女性(25.4%)より4.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳と50～59歳では「欲しい商品を扱う店舗が少ない」(69.7%・69.1%)が約7割と高くなっている。80歳以上では「買物の途中で休める場所が少ない」(49.1%)が約5割と高くなっている。30～39歳では「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」(34.9%)が3割半ばと高くなっている。

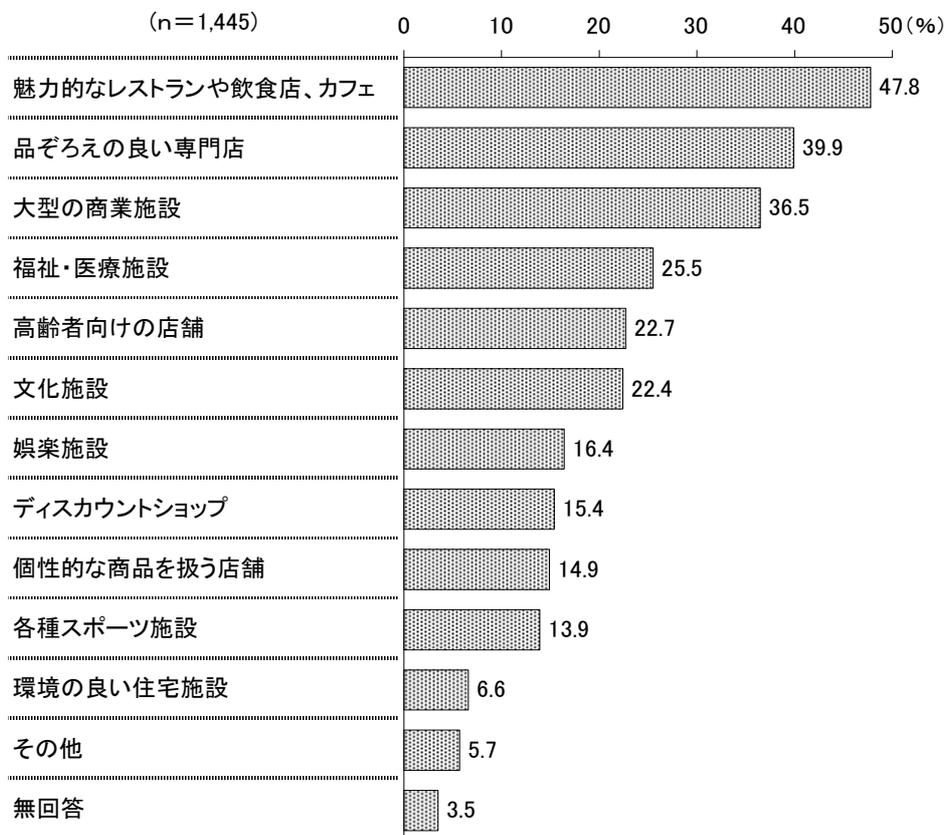
表14-5-1 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること—性別、年齢別

		(%)							
		n	な欲しい商品を扱う店舗が少ない	買物の途中で休める場所が少ない	個性的な商品を扱う店舗が少ない	子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない	その他	特に不満はない	無回答
全 体		1,471	56.8	34.2	27.3	16.3	11.1	11.6	3.2
性別	男 性	649	53.6	31.1	29.7	14.9	10.3	13.3	4.0
	女 性	804	59.6	36.6	25.4	17.4	11.6	10.3	2.4
年齢別	20歳未満	7	57.1	28.6	28.6	-	28.6	14.3	-
	20～29歳	90	56.7	28.9	20.0	26.7	12.2	8.9	3.3
	30～39歳	195	69.7	22.1	23.1	34.9	11.8	7.7	0.5
	40～49歳	228	62.7	24.6	30.7	19.7	14.5	8.8	0.4
	50～59歳	223	69.1	27.8	30.5	13.0	10.8	11.7	0.9
	60～69歳	323	55.7	41.8	31.0	12.1	8.7	10.8	4.6
	70～79歳	286	41.3	42.3	25.5	9.1	11.2	17.8	4.2
	80歳以上	110	40.0	49.1	20.0	5.5	7.3	13.6	11.8

(6) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設 (B: 問25)

問. 本厚木駅周辺に立地してほしい施設は何ですか。(いくつでも選んでください)

図14-6-1 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設



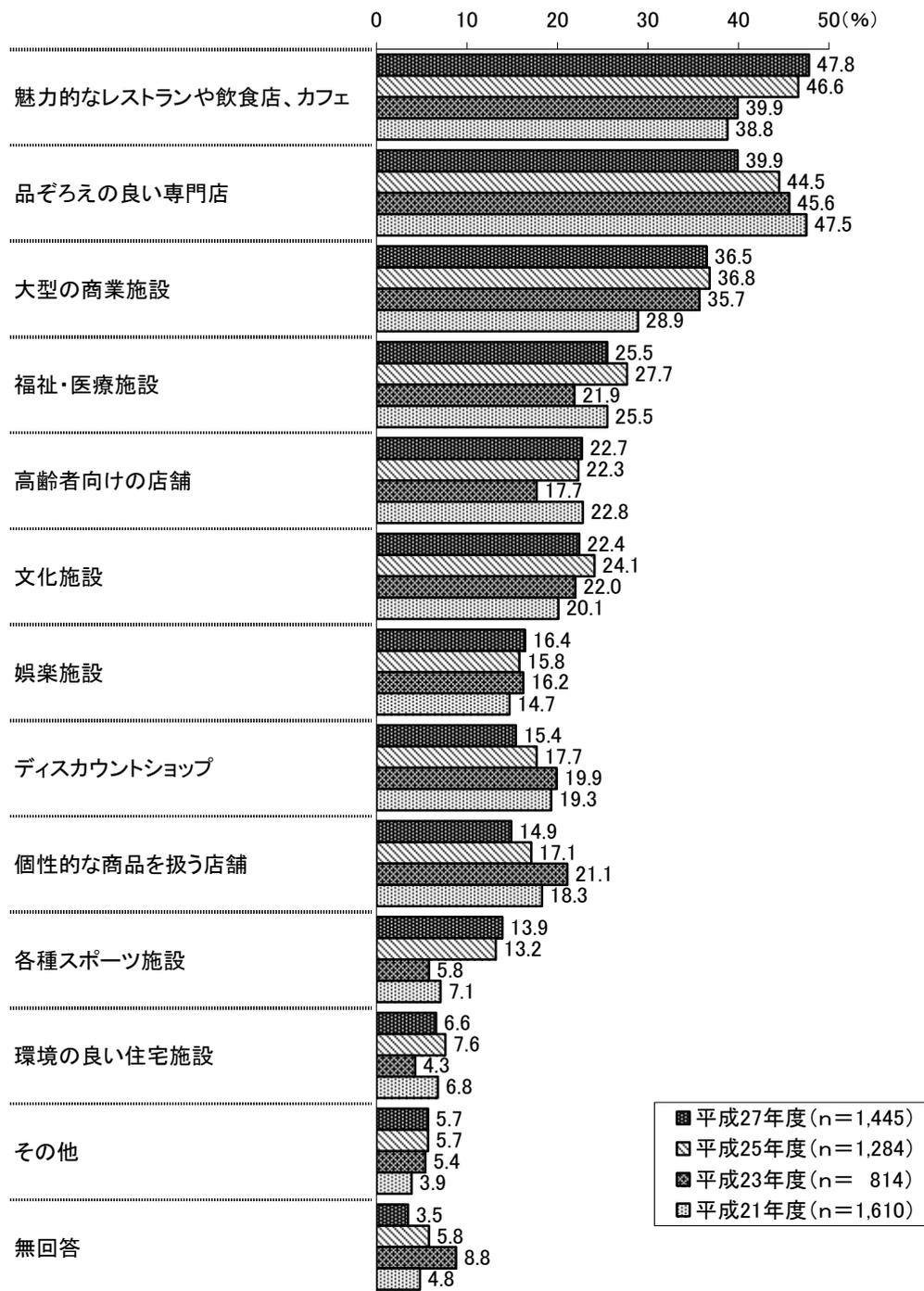
【全体】

本厚木駅周辺にあればよいと思う施設について聞いたところ、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」(47.8%) が5割近くで最も高く、次いで「品ぞろえの良い専門店」(39.9%)、「大型の商業施設」(36.5%)、「福祉・医療施設」(25.5%)、「高齢者向けの店舗」(22.7%)、「文化施設」(22.4%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」（47.8%）は平成21年度調査（38.8%）以降増加傾向にある。一方、「品ぞろえの良い専門店」（39.9%）は前回調査（44.5%）より4.6ポイント減少し、平成21年度調査（47.5%）以降減少傾向にある。

図14-6-2 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」(52.8%)が男性(42.3%)より10.5ポイント、「高齢者向けの店舗」(25.8%)が男性(18.8%)より7.0ポイント、「品ぞろえの良い専門店」(42.5%)が男性(37.3%)より5.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性では「大型の商業施設」(41.1%)が女性(32.5%)より8.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳では「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」(57.4%)が6割近くと高く、「品ぞろえの良い専門店」(52.0%)が5割を超えて高くなっている。30～39歳では「大型の商業施設」(51.1%)が5割を超えて高くなっている。80歳以上では「高齢者向けの店舗」(58.3%)が6割近くと高くなっている。

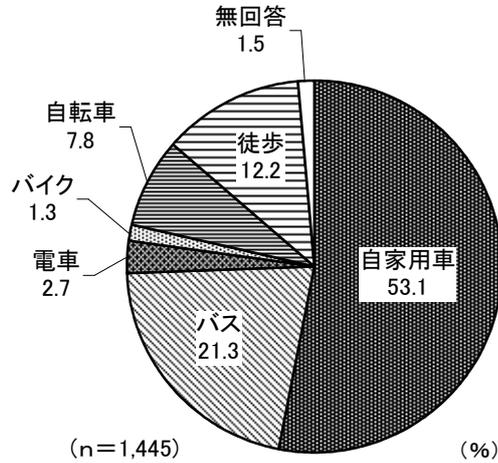
表14-6-1 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—性別、年齢別

			店、魅力的なレストランや飲食店、カフェ	品ぞろえの良い専門店	大型の商業施設	福祉・医療施設	高齢者向けの店舗	文化施設	娯楽施設	ディスカウトショップ	個性的な商品を扱う店舗	各種スポーツ施設	環境の良い住宅施設	その他	無回答
		n	(%)												
全 体		1,445	47.8	39.9	36.5	25.5	22.7	22.4	16.4	15.4	14.9	13.9	6.6	5.7	3.5
性別	男 性	643	42.3	37.3	41.1	23.6	18.8	21.9	17.9	16.2	16.8	15.7	5.1	6.8	3.7
	女 性	782	52.8	42.5	32.5	27.0	25.8	22.6	15.0	15.1	13.3	12.4	7.9	5.0	3.3
年齢別	20歳未満	14	42.9	71.4	35.7	14.3	7.1	7.1	35.7	14.3	14.3	7.1	14.3	7.1	-
	20～29歳	91	48.4	40.7	41.8	8.8	2.2	8.8	29.7	13.2	13.2	30.8	11.0	8.8	2.2
	30～39歳	184	50.5	45.1	51.1	18.5	5.4	18.5	21.2	19.6	13.0	16.3	10.9	5.4	1.6
	40～49歳	244	57.4	52.0	46.3	21.3	9.4	19.7	19.7	17.6	18.9	17.2	9.0	5.7	0.8
	50～59歳	207	52.2	39.1	39.6	28.5	17.4	22.7	16.4	20.8	19.3	15.0	7.2	5.8	1.9
	60～69歳	333	45.0	32.4	33.0	29.4	24.6	29.4	13.2	12.9	12.3	11.4	3.9	6.0	2.7
	70～79歳	260	43.5	36.5	23.1	31.2	43.8	24.6	11.5	12.7	13.8	9.6	3.1	5.0	7.7
	80歳以上	96	33.3	34.4	17.7	30.2	58.3	18.8	6.3	10.4	11.5	4.2	5.2	5.2	11.5

(7) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段 (B: 問26)

問. 本厚木駅周辺で買い物をするとき、自宅からの主な交通手段は何ですか。
(1つだけ選んでください)

図14-7-1 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段



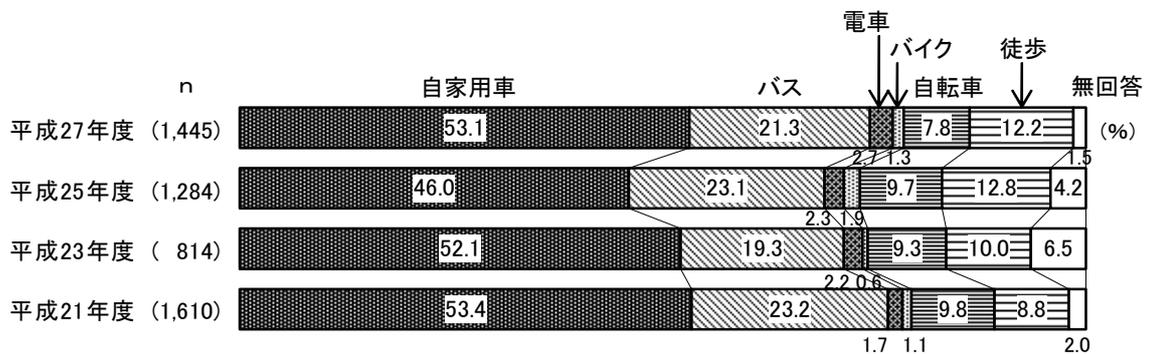
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(53.1%)が5割を超えて最も高く、次いで「バス」(21.3%)、「徒歩」(12.2%)、「自転車」(7.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自家用車」(53.1%)は前回調査(46.0%)より7.1ポイント増加している。

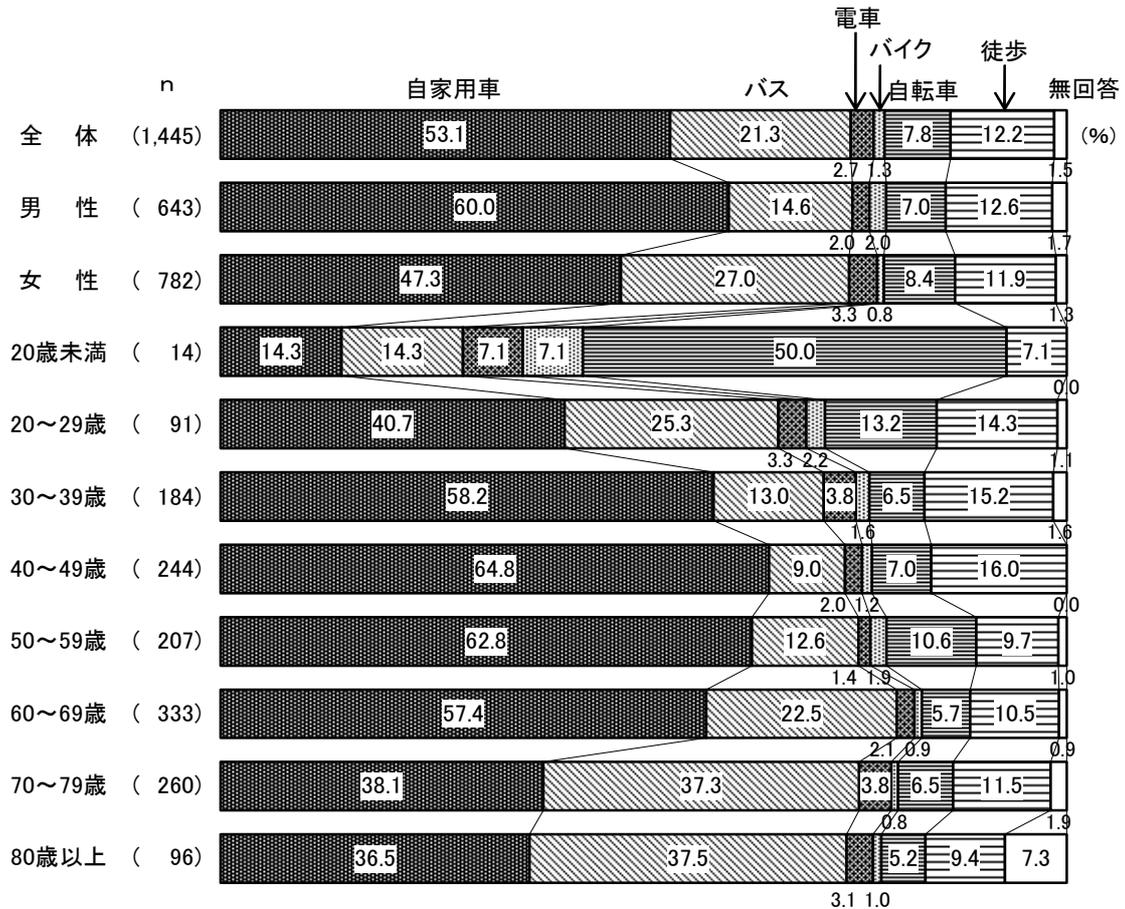
図14-7-2 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—経年変化



【属性別】

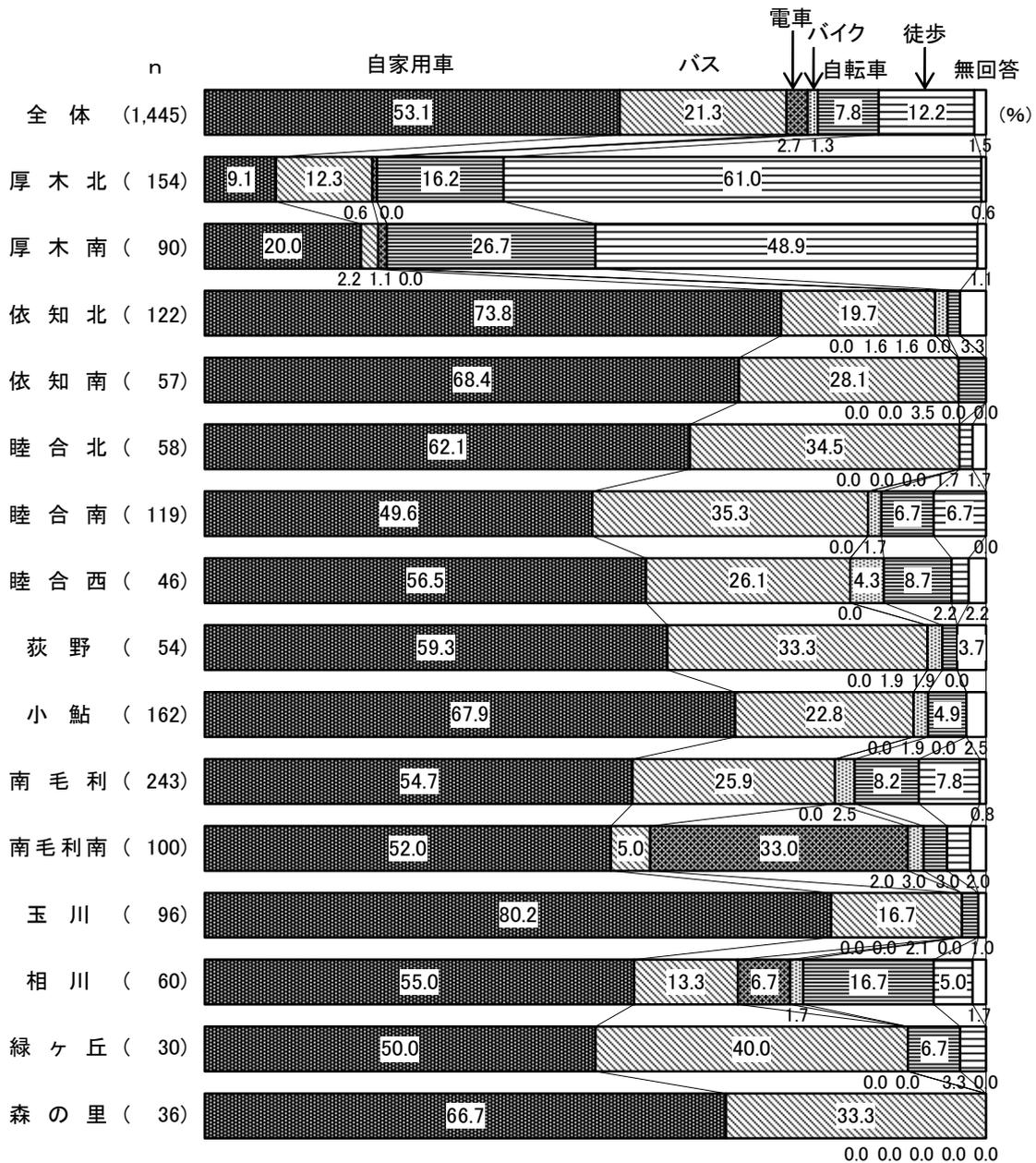
性別で見ると、男性では「自家用車」(60.0%)が女性(47.3%)より12.7ポイント高くなっている。一方、女性では「バス」(27.0%)が男性(14.6%)より12.4ポイント高くなっている。
 年齢別で見ると、40歳から59歳では「自家用車」が6割台と高くなっている。70歳以上では「バス」が4割近くと高くなっている。

図14-7-3 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—性別、年代別



〔居住地区別の結果〕

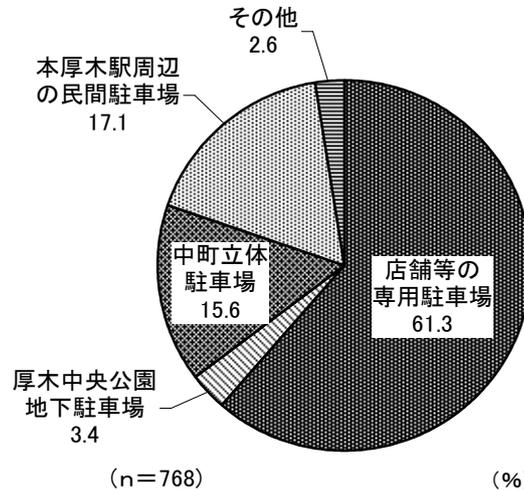
図14-7-4 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—居住地区別



(8) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場 (B: 問27)

問. 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段が「自家用車」とお答えの方にお聞きします。
主に利用される駐車場はどこですか。(1つだけ選んでください)

図14-8-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



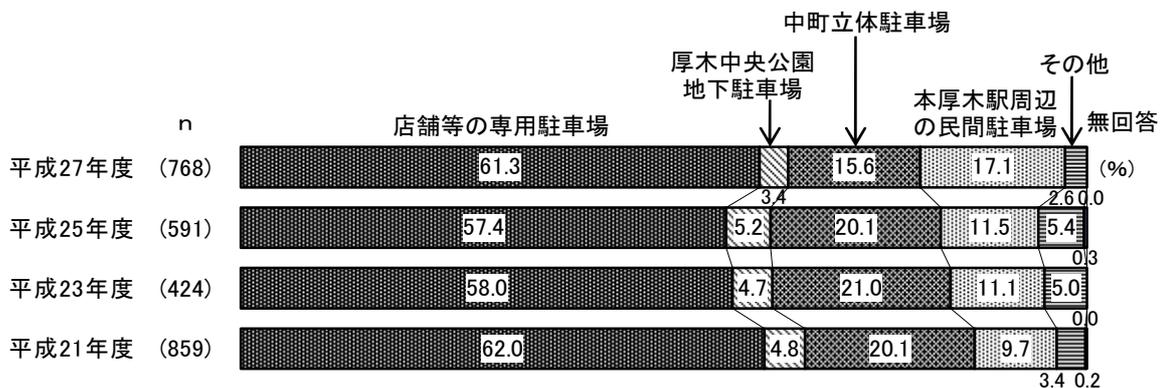
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段が「自家用車」と答えた768人に、本厚木駅周辺で主に利用する駐車場について聞いたところ、「店舗等の専用駐車場」(61.3%)が6割を超えて最も高く、次いで「本厚木駅周辺の民間駐車場」(17.1%)、「中町立体駐車場」(15.6%)、「厚木中央公園地下駐車場」(3.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「本厚木駅周辺の民間駐車場」(17.1%)は前回調査(11.5%)より5.6ポイント増加し、「店舗等の専用駐車場」(61.3%)は前回調査(57.4%)より3.9ポイント増加している。一方、「中町立体駐車場」(15.6%)は前回調査(20.1%)より4.5ポイント減少している。

図14-8-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化

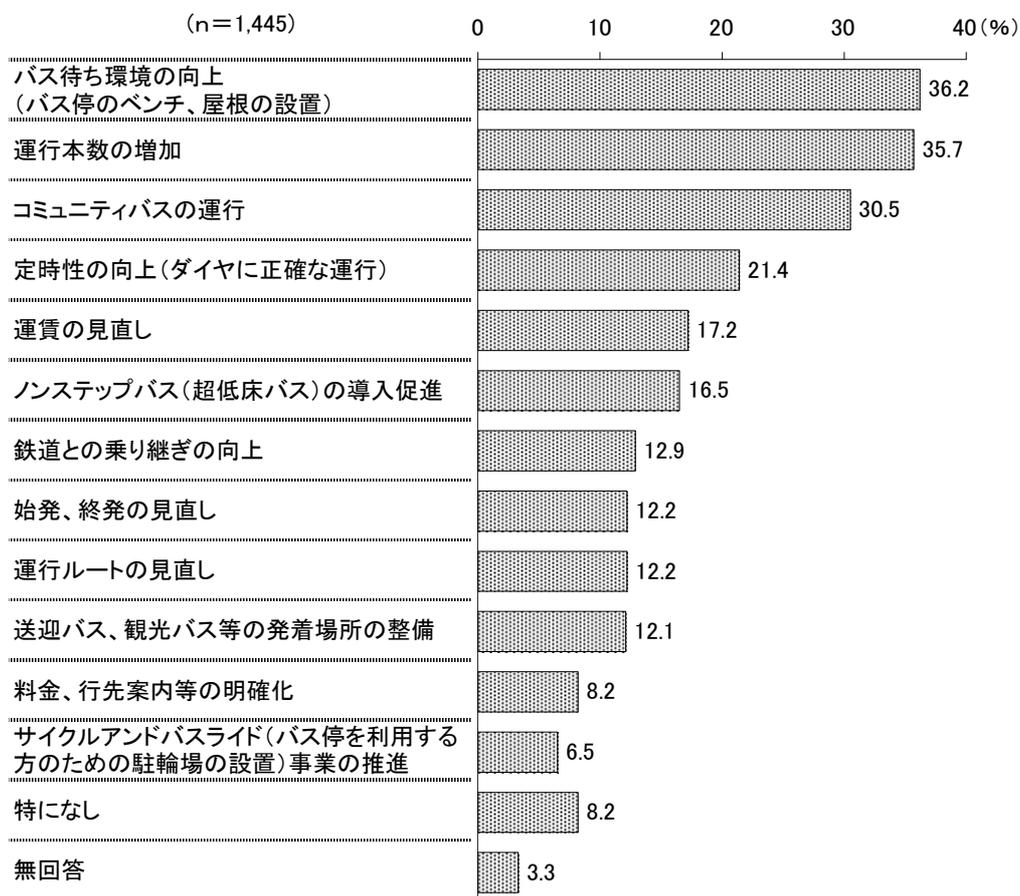


(9) 厚木市内のバス交通に望むこと (B:問29)

問. 厚木市内の主な交通機関であるバス交通に望むことは何ですか。

(3つまで選んでください)

図14-9-1 厚木市内のバス交通に望むこと



【全体】

厚木市内のバス交通に望むことについて聞いたところ、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置)」(36.2%)が4割近くで最も高く、次いで「運行本数の増加」(35.7%)、「コミュニティバスの運行」(30.5%)、「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」(21.4%)、「運賃の見直し」(17.2%)、「ノンステップバス(超低床バス)の導入促進」(16.5%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

〔居住地区別の結果〕

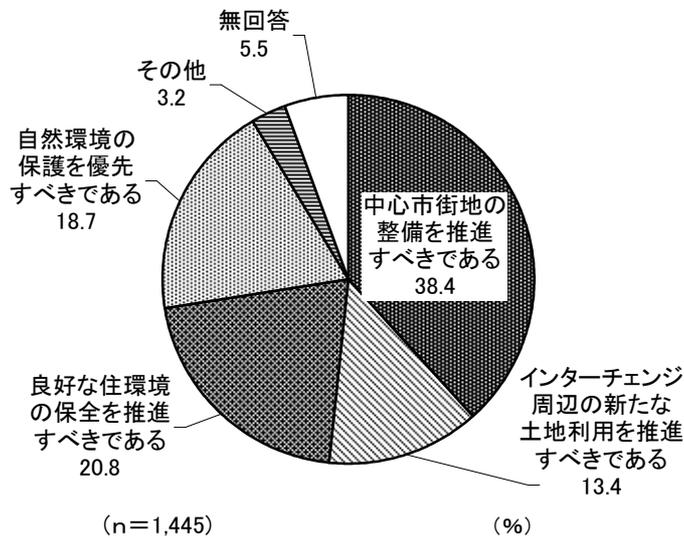
表14-9-2 厚木市内のバス交通に望むこと-居住地区別

			根 バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置）	運 行本数の増加	コ ミュニティバスの運行	定 時性の向上（ダイヤに正確な運行）	運 賃の見直し	進 ノンステップバス（超低床バス）の導入促	鉄 道との乗り継ぎの向上	始 発、終発の見直し	運 行ルートの見直し	送 迎バス、観光バス等の発着場所の整備	料 金、行先案内等の明確化	サ イクルアンドバスライド（バス停を利用する方のための駐輪場の設置）事業の推進	特 になし	無 回 答
		n														
全 体		1,445	36.2	35.7	30.5	21.4	17.2	16.5	12.9	12.2	12.2	12.1	8.2	6.5	8.2	3.3
居 住 地 区 別	厚 木 北	154	31.8	15.6	27.3	18.2	11.7	14.3	11.7	3.2	10.4	16.2	12.3	6.5	16.2	4.5
	厚 木 南	90	27.8	24.4	28.9	16.7	5.6	13.3	7.8	5.6	12.2	12.2	18.9	6.7	20.0	4.4
	依 知 北	122	36.1	44.3	28.7	18.0	31.1	15.6	18.0	16.4	15.6	7.4	5.7	6.6	2.5	4.1
	依 知 南	57	52.6	15.8	29.8	26.3	17.5	21.1	8.8	19.3	5.3	14.0	3.5	5.3	10.5	-
	睦 合 北	58	44.8	36.2	22.4	20.7	22.4	24.1	8.6	10.3	8.6	15.5	13.8	5.2	8.6	1.7
	睦 合 南	119	46.2	17.6	34.5	23.5	22.7	25.2	17.6	5.9	5.9	10.9	10.1	13.4	5.0	0.8
	睦 合 西	46	43.5	28.3	21.7	23.9	4.3	17.4	6.5	13.0	8.7	17.4	6.5	6.5	8.7	4.3
	荻 野	54	42.6	38.9	25.9	20.4	27.8	25.9	11.1	13.0	9.3	11.1	5.6	9.3	3.7	1.9
	小 鮎	162	38.3	49.4	28.4	21.6	24.7	9.9	5.6	20.4	19.8	9.9	2.5	4.3	1.9	3.7
	南 毛 利	243	31.7	45.7	30.0	24.7	11.1	16.5	15.2	12.8	12.8	11.5	8.2	7.0	8.6	2.1
	南毛利南	100	26.0	41.0	34.0	22.0	12.0	13.0	16.0	9.0	18.0	17.0	9.0	3.0	10.0	7.0
	玉 川	96	41.7	47.9	32.3	13.5	16.7	14.6	17.7	18.8	10.4	13.5	4.2	7.3	6.3	4.2
	相 川	60	41.7	31.7	43.3	33.3	11.7	21.7	10.0	8.3	11.7	8.3	8.3	5.0	5.0	-
	緑ヶ丘	30	33.3	26.7	43.3	36.7	16.7	10.0	10.0	6.7	3.3	6.7	3.3	-	10.0	6.7
森の里	36	13.9	52.8	33.3	11.1	25.0	11.1	33.3	25.0	19.4	8.3	13.9	2.8	8.3	-	

(10) 市の将来の土地利用 (B: 問30)

問. 厚木市の将来的な土地利用について、最も力を入れた方がよいと思うことは何ですか。
(1つだけ選んでください)

図14-10-1 市の将来の土地利用



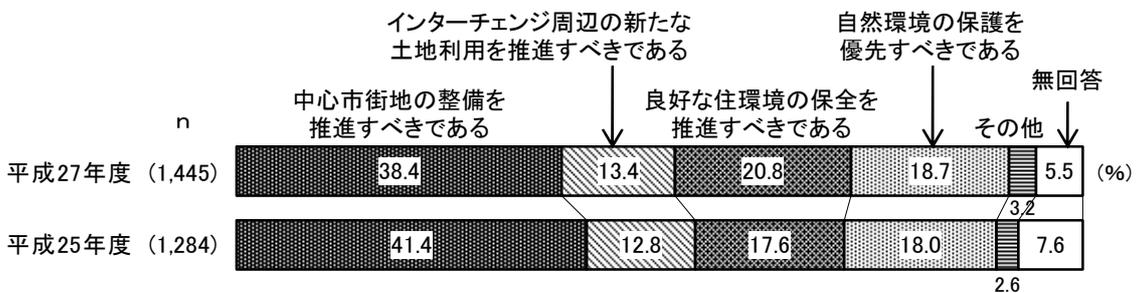
【全体】

市の将来の土地利用について聞いたところ、「中心市街地の整備を推進すべきである」(38.4%)が4割近くで最も高く、次いで「良好な住環境の保全を推進すべきである」(20.8%)、「自然環境の保護を優先すべきである」(18.7%)、「インターチェンジ周辺の新たな土地利用を推進すべきである」(13.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「良好な住環境の保全を推進すべきである」(20.8%)は前回調査(17.6%)より3.2ポイント増加している。一方、「中心市街地の整備を推進すべきである」(38.4%)は前回調査(41.4%)より3.0ポイント減少している。

図14-10-2 市の将来の土地利用—経年変化

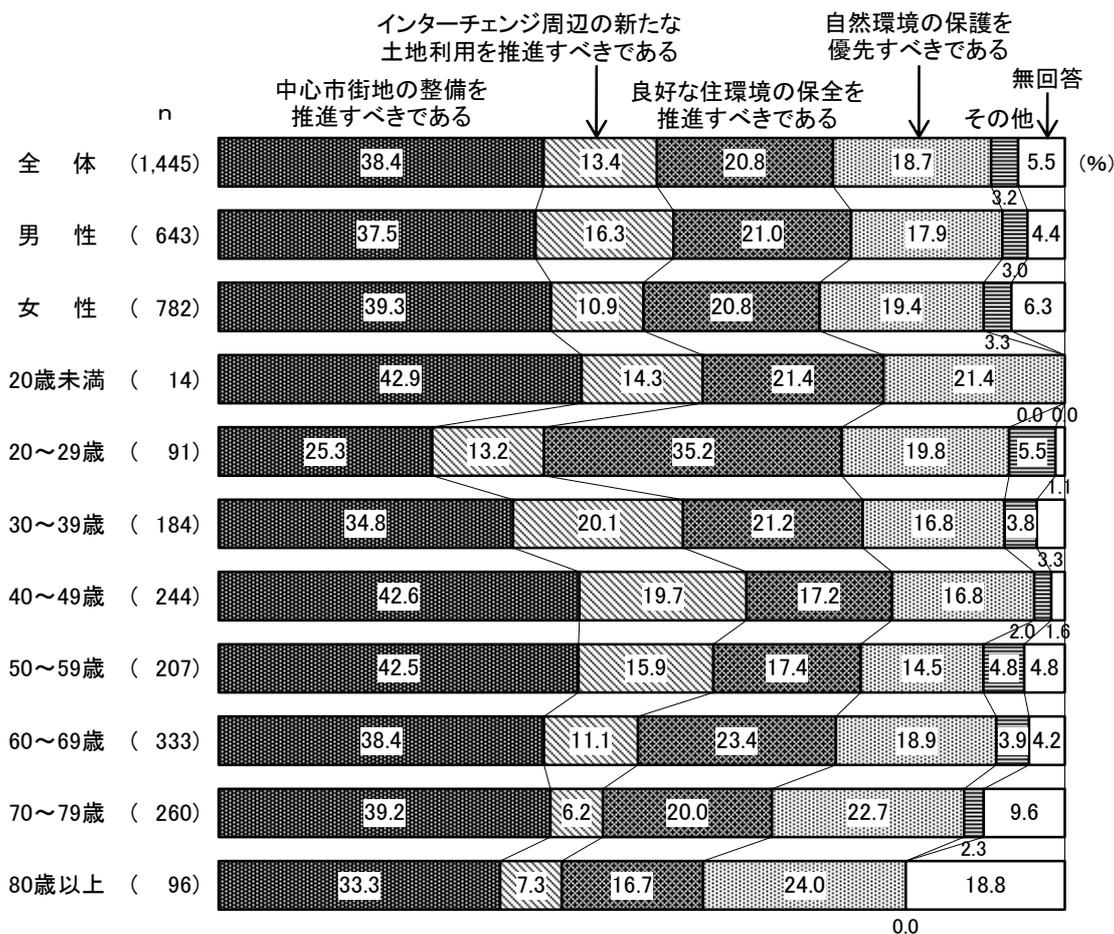


【属性別】

性別で見ると、男性では「インターチェンジ周辺の新たな土地利用を推進すべきである」(16.3%)が女性(10.9%)より5.4ポイント高くなっている。

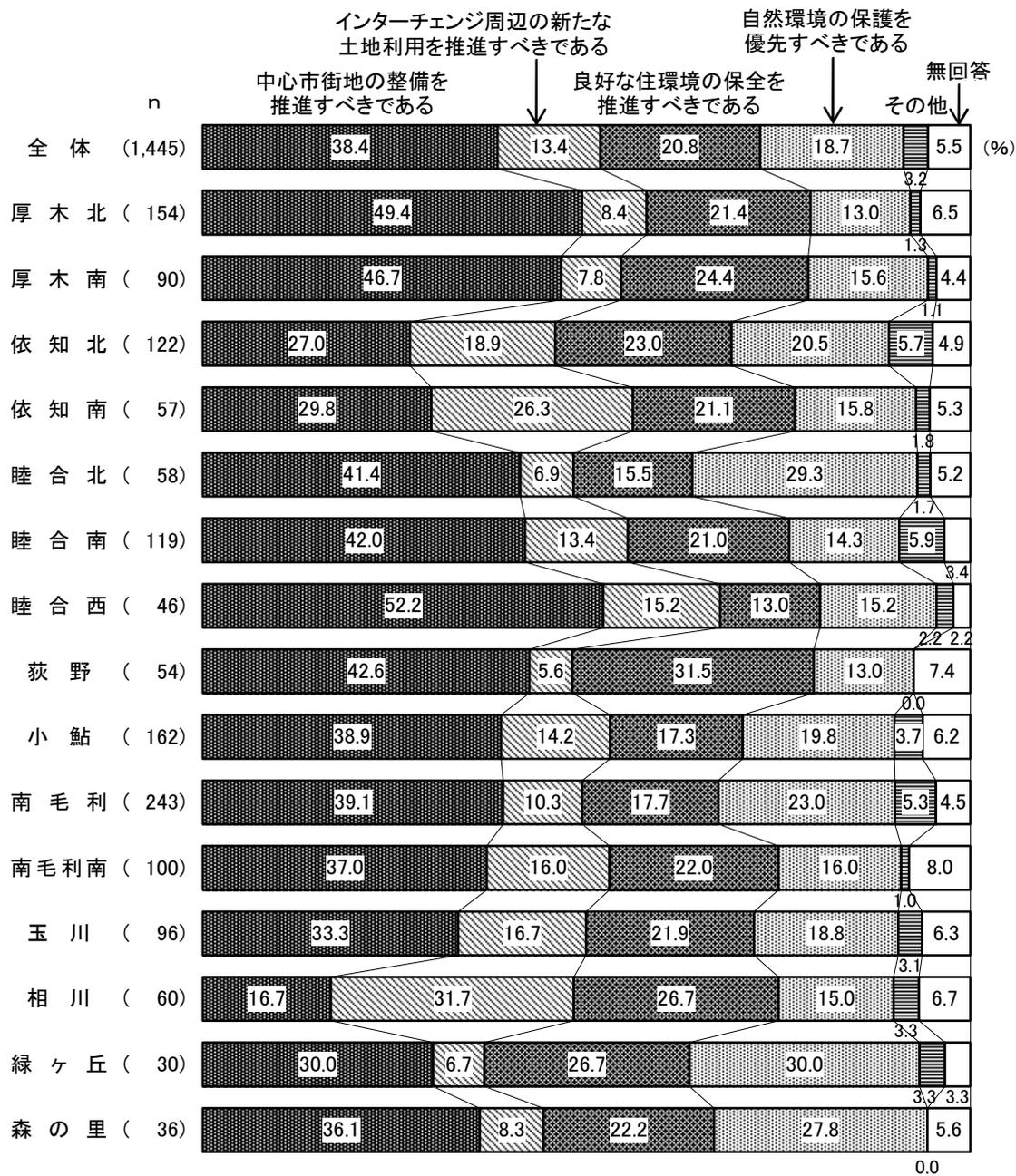
年齢別で見ると、40歳から59歳では「中心市街地の整備を推進すべきである」が4割を超えて高くなっている。20～29歳では「良好な住環境の保全を推進すべきである」(35.2%)が3割半ばと高くなっている。80歳以上では「自然環境の保護を優先すべきである」(24.0%)が2割半ばと高くなっている。

図14-10-3 市の将来の土地利用—性別、年齢別



〔居住地区別の結果〕

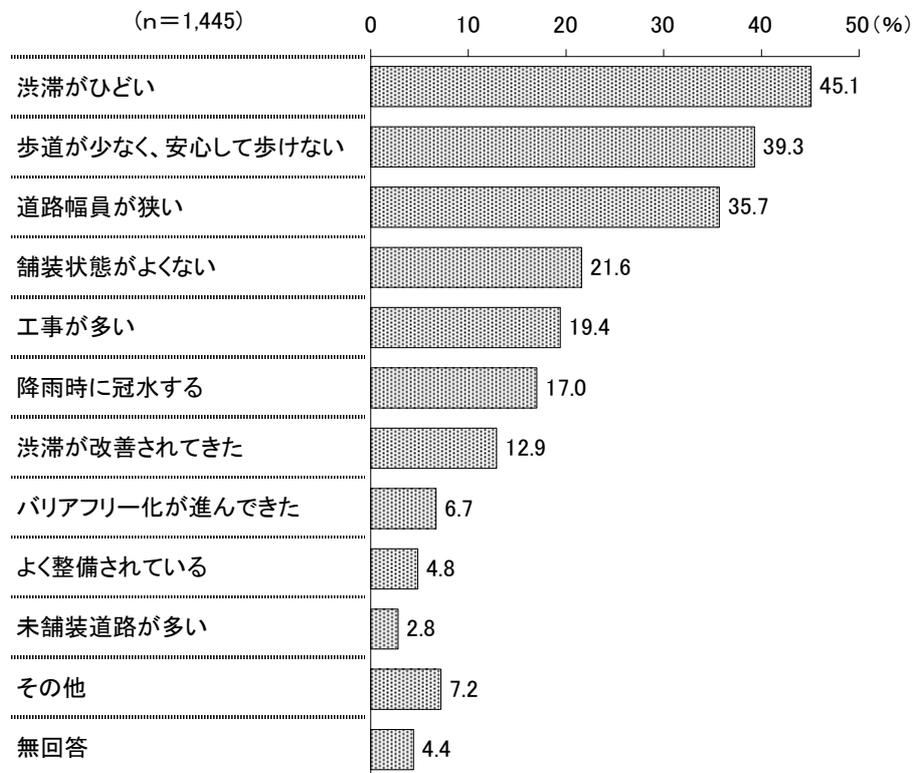
図14-10-4 市の将来の土地利用—居住地区別



(11) 厚木市内の道路の現状 (B:問31)

問. 厚木市内の道路の現状についてどう思いますか。(いくつでも選んでください)

図14-11-1 厚木市内の道路の現状



【全体】

厚木市内の道路の現状について聞いたところ、「渋滞がひどい」(45.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「歩道が少なく、安心して歩けない」(39.3%)、「道路幅員が狭い」(35.7%)、「舗装状態がよくない」(21.6%)、「工事が多い」(19.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「歩道が少なく、安心して歩けない」(39.3%)は前回調査(31.6%)より7.7ポイント増加し、「舗装状態がよくない」(21.6%)は前回調査(17.5%)より4.1ポイント増加している。一方、「渋滞が改善されてきた」(12.9%)は前回調査(17.6%)より4.7ポイント減少し、「バリアフリー化が進んできた」(6.7%)は前回調査(10.0%)より3.3ポイント減少している。

表14-11-1 厚木市内の道路の現状—経年変化

調査年	n	(%)											
		渋滞がひどい	歩道が少なく、安心して歩けない	道路幅員が狭い	舗装状態がよくない	工事が多い	降雨時に冠水する	渋滞が改善されてきた	たバリアフリー化が進んできた	よく整備されている	未舗装道路が多い	その他	無回答
平成27年度	1,445	45.1	39.3	35.7	21.6	19.4	17.0	12.9	6.7	4.8	2.8	7.2	4.4
平成25年度	1,284	43.0	31.6	33.2	17.5	19.9	14.5	17.6	10.0	6.5	3.7	6.5	6.9
平成23年度	814	44.7	32.6	32.9	17.8	28.5	16.2	18.6	16.2	4.9	2.6	6.0	5.3
平成21年度	1,610	51.1	35.2	31.3	18.6	29.0	18.4	14.7	15.9	5.3	3.7	5.0	5.3
平成19年度	1,506	52.7	31.5	33.9	17.9	32.0	19.7	12.9	17.3	4.3	3.7	4.4	5.8

(注)「降雨時に冠水する」は、平成25年調査以前は「側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する」となっていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「渋滞がひどい」（48.8%）が女性（41.6%）より7.2ポイント高くなっている。一方、女性では「工事が多い」（22.4%）が男性（15.9%）より6.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳から39歳では「渋滞がひどい」が5割を超えて高くなっている。80歳以上では「歩道が少なく、安心して歩けない」（46.9%）が5割近くと高く、「舗装状態がよくない」と「工事が多い」（ともに26.0%）がともに3割近くと高くなっている。70～79歳では「道路幅員が狭い」（41.2%）が4割を超えて高くなっている。

表14-11-2 厚木市内の道路の現状－性別、年齢別

		n	渋滞がひどい	歩道が少なく、安心して歩けない	道路幅員が狭い	舗装状態がよくない	工事が多い	降雨時に冠水する	渋滞が改善されてきた	バリアフリー化が進んできた	よく整備されている	未舗装道路が多い	その他	無回答
全 体		1,445	45.1	39.3	35.7	21.6	19.4	17.0	12.9	6.7	4.8	2.8	7.2	4.4
性別	男 性	643	48.8	39.3	37.0	23.6	15.9	15.2	15.4	7.0	6.4	1.9	6.5	3.3
	女 性	782	41.6	39.5	34.7	20.1	22.4	18.7	11.0	6.5	3.6	3.6	7.5	5.2
年齢別	20歳未満	14	21.4	35.7	57.1	35.7	7.1	7.1	-	-	14.3	7.1	7.1	7.1
	20～29歳	91	50.5	34.1	29.7	20.9	19.8	11.0	3.3	2.2	8.8	7.7	11.0	4.4
	30～39歳	184	52.2	37.0	29.3	21.2	19.0	13.6	6.5	2.7	4.9	6.0	10.3	2.7
	40～49歳	244	45.1	44.3	37.7	20.9	18.4	20.5	13.9	4.1	4.9	2.0	7.4	0.8
	50～59歳	207	42.0	36.7	35.3	21.3	19.8	16.9	15.5	6.8	4.8	1.4	9.7	2.4
	60～69歳	333	41.7	36.0	34.5	23.4	17.4	21.3	16.2	9.6	5.7	1.8	7.8	4.8
	70～79歳	260	46.2	42.3	41.2	18.5	20.8	16.2	15.4	9.6	2.7	2.3	2.7	7.3
	80歳以上	96	41.7	46.9	34.4	26.0	26.0	12.5	10.4	8.3	2.1	1.0	1.0	11.5

〔居住地区別の結果〕

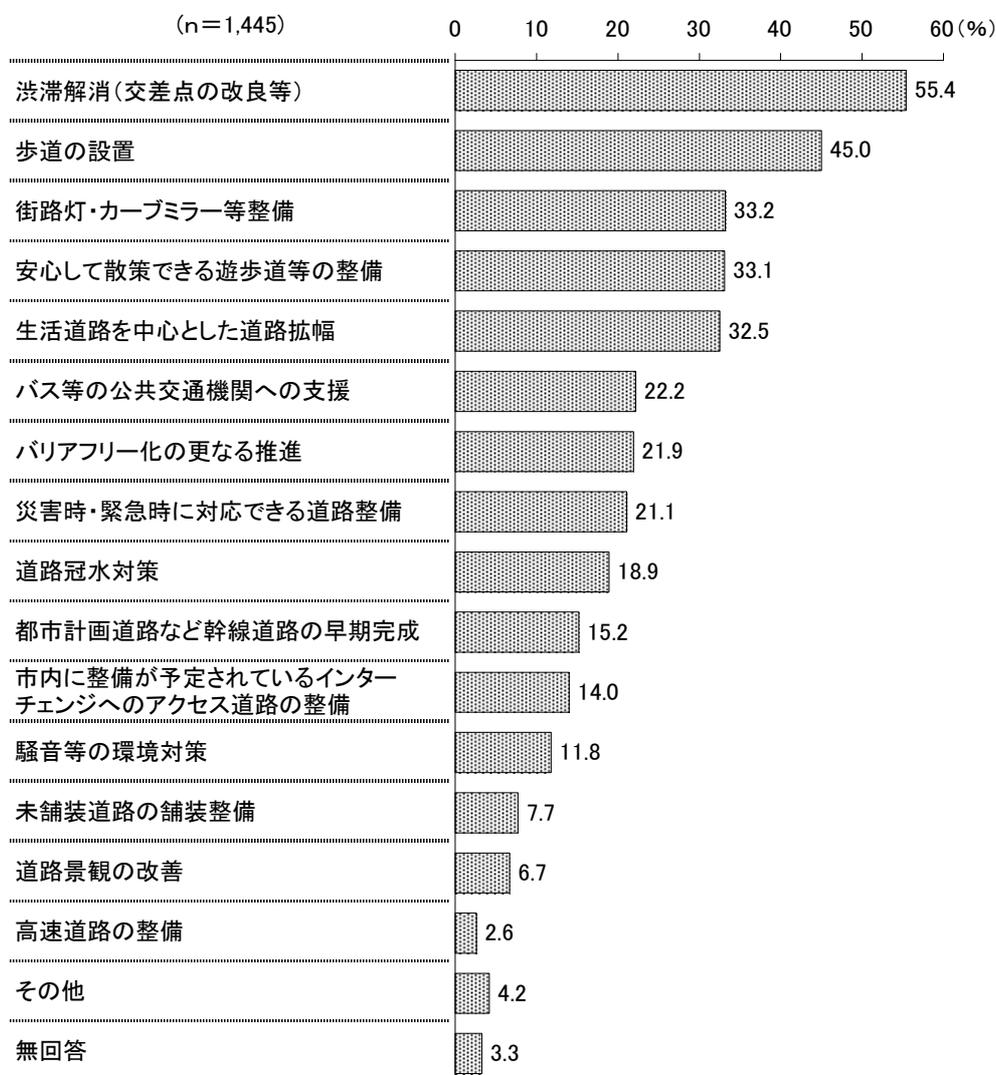
表14-11-3 厚木市内の道路の現状－居住地区別

		(%)												
	n	渋滞がひどい	歩道が少なく、安心して歩けない	道路幅員が狭い	舗装状態がよくない	工事が多い	降雨時に冠水する	渋滞が改善されてきた	バリアフリー化が進んできた	よく整備されている	未舗装道路が多い	その他	無回答	
全 体	1,445	45.1	39.3	35.7	21.6	19.4	17.0	12.9	6.7	4.8	2.8	7.2	4.4	
居 住 地 区 別	厚 木 北	154	40.9	34.4	28.6	16.2	14.3	20.8	8.4	8.4	5.8	1.3	9.1	7.8
	厚 木 南	90	37.8	35.6	34.4	18.9	18.9	25.6	6.7	4.4	13.3	-	5.6	3.3
	依 知 北	122	40.2	37.7	44.3	14.8	16.4	13.9	22.1	2.5	5.7	3.3	3.3	4.1
	依 知 南	57	45.6	21.1	29.8	14.0	10.5	10.5	33.3	15.8	7.0	3.5	7.0	-
	睦 合 北	58	48.3	44.8	37.9	31.0	19.0	20.7	13.8	6.9	5.2	6.9	8.6	3.4
	睦 合 南	119	32.8	53.8	48.7	21.0	18.5	14.3	12.6	8.4	0.8	1.7	8.4	1.7
	睦 合 西	46	37.0	39.1	19.6	28.3	17.4	15.2	21.7	13.0	10.9	-	6.5	4.3
	荻 野	54	35.2	48.1	50.0	24.1	14.8	11.1	18.5	9.3	5.6	3.7	7.4	1.9
	小 鮎	162	45.1	42.0	37.7	27.8	27.2	15.4	13.6	3.7	2.5	5.6	6.8	6.2
	南 毛 利	243	53.5	37.9	28.8	22.6	19.8	18.1	9.5	7.0	5.8	4.1	8.2	4.1
	南毛利南	100	49.0	34.0	38.0	28.0	20.0	21.0	11.0	6.0	2.0	1.0	8.0	5.0
	玉 川	96	58.3	40.6	31.3	19.8	25.0	14.6	8.3	5.2	4.2	3.1	9.4	4.2
	相 川	60	40.0	51.7	48.3	26.7	20.0	26.7	13.3	5.0	-	-	3.3	-
	緑ヶ丘	30	63.3	33.3	30.0	3.3	16.7	10.0	6.7	6.7	-	-	3.3	6.7
森の里	36	44.4	27.8	27.8	22.2	25.0	5.6	8.3	8.3	2.8	-	5.6	11.1	

(12) 道路整備に望むもの (B:問32)

問. 厚木市の道路整備に何を望みますか。(いくつでも選んでください)

図14-12-1 道路整備に望むもの



【全体】

厚木市の道路整備に何を望むか聞いたところ、「渋滞解消(交差点の改良等)」(55.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「歩道の設置」(45.0%)、「街路灯・カーブミラー等整備」(33.2%)、「安心して散策できる遊歩道等の整備」(33.1%)、「生活道路を中心とした道路拡幅」(32.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位3項目は前回調査と同じ順位となっており、「歩道の設置」(45.0%)は前回調査(39.3%)より5.7ポイント増加している。

表14-12-1 道路整備に望むもの一経年変化(上位8項目)

順位	平成27年度 (n=1,445)		平成25年度 (n=1,284)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)	
		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)
1	渋滞解消(交差点の改良等)	55.4	渋滞解消(交差点の改良等)	55.9	渋滞解消(交差点の改良等)	54.9	渋滞解消(交差点の改良等)	59.3	渋滞解消(交差点の改良等)	56.6
2	歩道の設置	45.0	歩道の設置	39.3	街路灯・カーブミラー等整備	36.7	街路灯・カーブミラー等整備	39.6	街路灯・カーブミラー等整備	39.4
3	街路灯・カーブミラー等整備	33.2	街路灯・カーブミラー等整備	35.0	歩道の設置	34.3	歩道の設置	35.7	安心して散策できる遊歩道等の整備	37.6
4	安心して散策できる遊歩道等の整備	33.1	生活道路を中心とした道路拡幅	31.5	災害時・緊急時に対応できる道路整備	32.6	安心して散策できる遊歩道等の整備	34.4	バス等の公共交通機関への支援	35.0
5	生活道路を中心とした道路拡幅	32.5	安心して散策できる遊歩道等の整備	31.4	安心して散策できる遊歩道等の整備	32.3	バス等の公共交通機関への支援	30.7	歩道の設置	31.1
6	バス等の公共交通機関への支援	22.2	災害時・緊急時に対応できる道路整備	29.7	バス等の公共交通機関への支援	28.4	バリアフリー化の更なる推進	27.9	災害時・緊急時に対応できる道路整備	29.4
7	バリアフリー化の更なる推進	21.9	バス等の公共交通機関への支援	25.9	生活道路を中心とした道路拡幅	26.9	生活道路を中心とした道路拡幅	27.5	生活道路を中心とした道路拡幅	27.4
8	災害時・緊急時に対応できる道路整備	21.1	バリアフリー化の更なる推進	22.0	バリアフリー化の更なる推進	25.4	災害時・緊急時に対応できる道路整備	26.6	バリアフリー化の更なる推進	26.3

(注) 平成27年度調査では、「道路冠水対策」を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「都市計画道路など幹線道路の早期完成」(19.4%)が女性(11.5%)より7.9ポイント、「市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備」(17.7%)が女性(10.9%)より6.8ポイント高くなっている。一方、女性では「街路灯・カーブミラー等整備」(37.0%)が男性(29.2%)より7.8ポイント、「道路冠水対策」(21.2%)が男性(16.2%)より5.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳から49歳では「渋滞解消(交差点の改良等)」が6割台と高くなっている。40～49歳では「歩道の設置」(54.5%)が5割半ばと高くなっている。70～79歳では「安心して散策できる遊歩道等の整備」(41.2%)が4割を超えて高くなっている。

表14-12-2 道路整備に望むもの一性別、年齢別

(%)

		n	渋滞解消 (交差点の改良等)	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等整備	安心して散策できる遊歩道等の整備	生活道路を中心とした道路拡幅	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	災害時・緊急時に対応できる道路整備	道路冠水対策	都市計画道路など幹線道路の早期完成	市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全	体	1,445	55.4	45.0	33.2	33.1	32.5	22.2	21.9	21.1	18.9	15.2	14.0	11.8	7.7	6.7	2.6	4.2	3.3
性別	男性	643	57.9	42.8	29.2	32.5	35.8	23.6	19.3	18.7	16.2	19.4	17.7	12.1	7.3	8.1	3.7	4.0	2.8
	女性	782	53.8	47.1	37.0	33.9	29.9	21.1	23.7	23.3	21.2	11.5	10.9	11.8	8.2	5.6	1.8	4.2	3.7
年齢別	20歳未満	14	21.4	21.4	42.9	28.6	14.3	28.6	21.4	21.4	14.3	14.3	21.4	14.3	-	7.1	7.1	7.1	-
	20～29歳	91	65.9	40.7	38.5	25.3	19.8	24.2	11.0	12.1	12.1	11.0	8.8	18.7	8.8	8.8	5.5	5.5	3.3
	30～39歳	184	65.2	49.5	34.8	25.0	30.4	21.7	13.0	12.0	13.6	20.7	21.2	15.8	10.3	6.5	5.4	5.4	1.6
	40～49歳	244	63.1	54.5	36.1	30.3	38.5	20.9	20.1	20.5	20.9	13.9	15.2	12.7	7.4	5.3	3.3	4.5	0.8
	50～59歳	207	58.0	46.4	29.0	31.4	32.9	25.6	26.1	23.2	24.2	13.0	12.1	12.1	8.7	9.2	1.0	3.4	1.9
	60～69歳	333	49.8	39.6	34.8	35.7	29.1	19.5	22.2	23.4	20.7	12.9	12.6	10.5	6.9	6.3	2.1	4.5	3.0
	70～79歳	260	49.2	41.2	29.2	41.2	36.5	24.6	28.5	26.5	17.3	19.2	12.3	9.2	5.8	7.7	0.8	4.2	5.0
	80歳以上	96	42.7	45.8	34.4	38.5	35.4	18.8	26.0	21.9	18.8	11.5	12.5	7.3	10.4	2.1	3.1	-	12.5

〔居住地区別の結果〕

表14-12-3 道路整備に望むもの—居住地区別

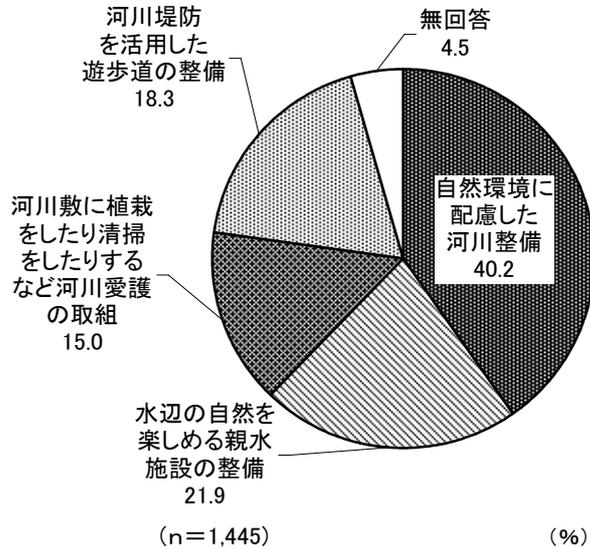
		(%)																	
		n	渋滞解消（交差点の改良等）	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等整備	安心して散策できる遊歩道等の整備	生活道路を中心とした道路拡幅	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	災害時・緊急時に対応できる道路整備	道路冠水対策	都市計画道路など幹線道路の早期完成	市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,445	55.4	45.0	33.2	33.1	32.5	22.2	21.9	21.1	18.9	15.2	14.0	11.8	7.7	6.7	2.6	4.2	3.3
居 住 地 区 別	厚 木 北	154	45.5	38.3	20.1	42.9	26.0	11.0	29.9	18.8	23.4	6.5	12.3	18.8	5.2	9.1	2.6	4.5	3.9
	厚 木 南	90	48.9	42.2	23.3	24.4	20.0	13.3	15.6	20.0	27.8	12.2	8.9	12.2	4.4	6.7	-	5.6	4.4
	依 知 北	122	50.0	41.0	36.1	27.0	41.0	26.2	16.4	23.0	14.8	13.9	13.1	17.2	7.4	9.0	1.6	2.5	6.6
	依 知 南	57	57.9	31.6	33.3	35.1	38.6	17.5	14.0	19.3	10.5	19.3	14.0	14.0	3.5	5.3	1.8	-	1.8
	睦 合 北	58	58.6	51.7	44.8	43.1	44.8	20.7	31.0	20.7	15.5	25.9	17.2	12.1	13.8	8.6	3.4	5.2	5.2
	睦 合 南	119	46.2	55.5	37.0	39.5	34.5	14.3	24.4	19.3	16.8	12.6	8.4	11.8	8.4	5.0	0.8	5.9	1.7
	睦 合 西	46	52.2	45.7	37.0	41.3	30.4	23.9	21.7	19.6	15.2	15.2	13.0	8.7	4.3	6.5	4.3	6.5	2.2
	荻 野	54	64.8	51.9	31.5	46.3	44.4	25.9	20.4	22.2	11.1	25.9	22.2	11.1	11.1	7.4	1.9	3.7	1.9
	小 鮎	162	63.0	41.4	39.5	22.8	32.1	26.5	14.8	24.7	17.3	21.6	15.4	6.8	9.9	6.8	3.7	2.5	3.1
	南 毛 利	243	60.9	51.9	35.0	31.3	28.8	24.3	21.0	15.6	19.3	14.4	11.9	11.1	9.1	5.8	3.3	4.5	2.1
	南 毛 利 南	100	54.0	36.0	33.0	36.0	36.0	25.0	17.0	28.0	27.0	10.0	18.0	14.0	11.0	6.0	5.0	2.0	3.0
	玉 川	96	63.5	50.0	37.5	26.0	39.6	26.0	25.0	25.0	18.8	17.7	21.9	6.3	7.3	7.3	5.2	6.3	3.1
	相 川	60	48.3	51.7	38.3	35.0	30.0	30.0	38.3	26.7	28.3	13.3	15.0	11.7	6.7	5.0	-	1.7	1.7
	緑ヶ丘	30	70.0	33.3	20.0	33.3	20.0	30.0	23.3	13.3	10.0	13.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	13.3	3.3
森の里	36	61.1	38.9	27.8	30.6	25.0	36.1	30.6	25.0	8.3	16.7	19.4	11.1	2.8	5.6	-	5.6	5.6	

(13) 河川環境の整備に望むこと (B: 問33)

問. 厚木市内の河川整備を進めるに当たり、あなたが望むことは何ですか。

(1つだけ選んでください)

図14-13-1 河川環境の整備に望むこと



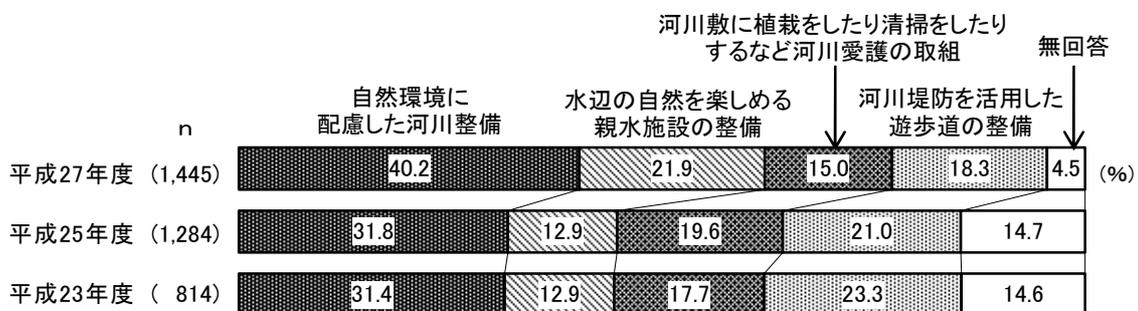
【全体】

厚木市内の河川整備を進めるに当たり望むことを聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(40.2%) が約4割で最も高く、次いで「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」(21.9%)、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(18.3%)、「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」(15.0%) となっている。

【経年変化】

平成27年度調査では、質問が過去と異なっているため、参考に記載する。

図14-13-2 河川環境の整備に望むこと—経年変化



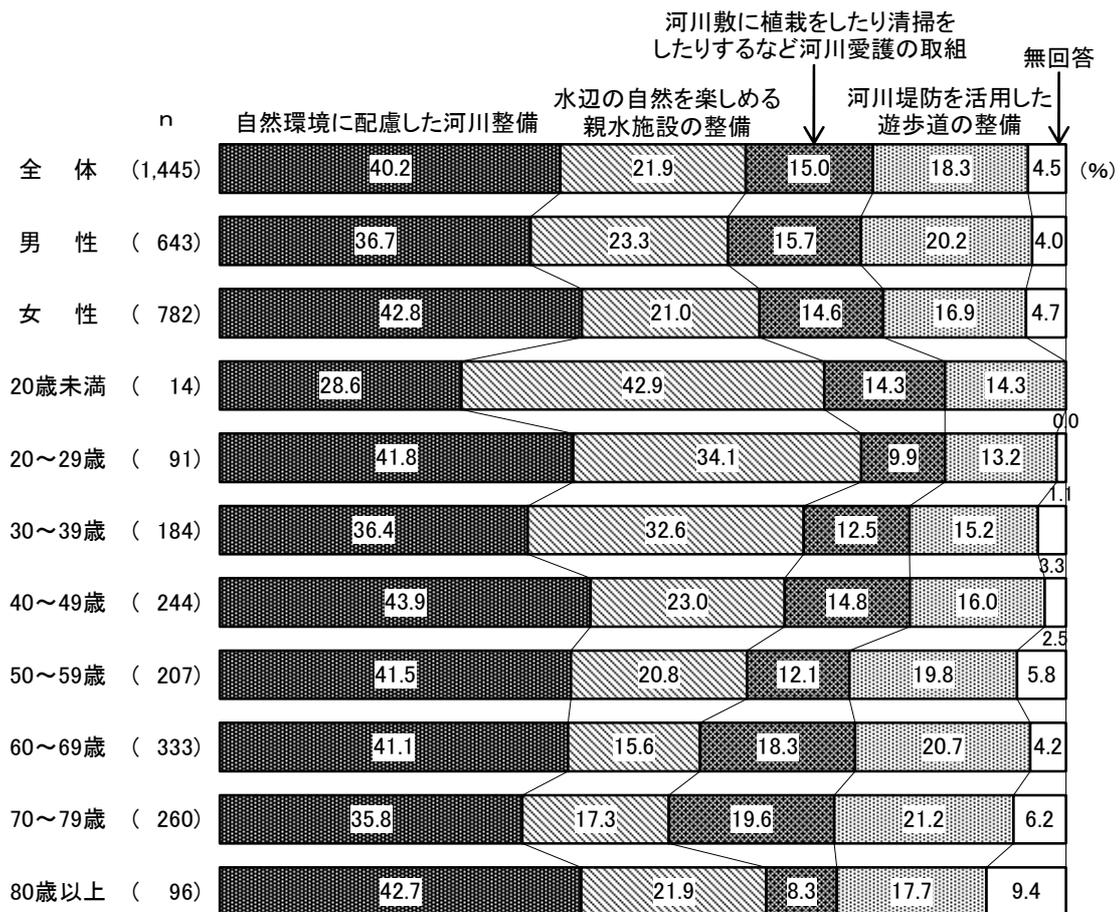
(注) 平成25年度調査までは「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「自然環境に配慮した河川整備」(42.8%)が男性(36.7%)より6.1ポイント高くなっている。一方、男性では「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(20.2%)が女性(16.9%)より3.3ポイント高くなっている。

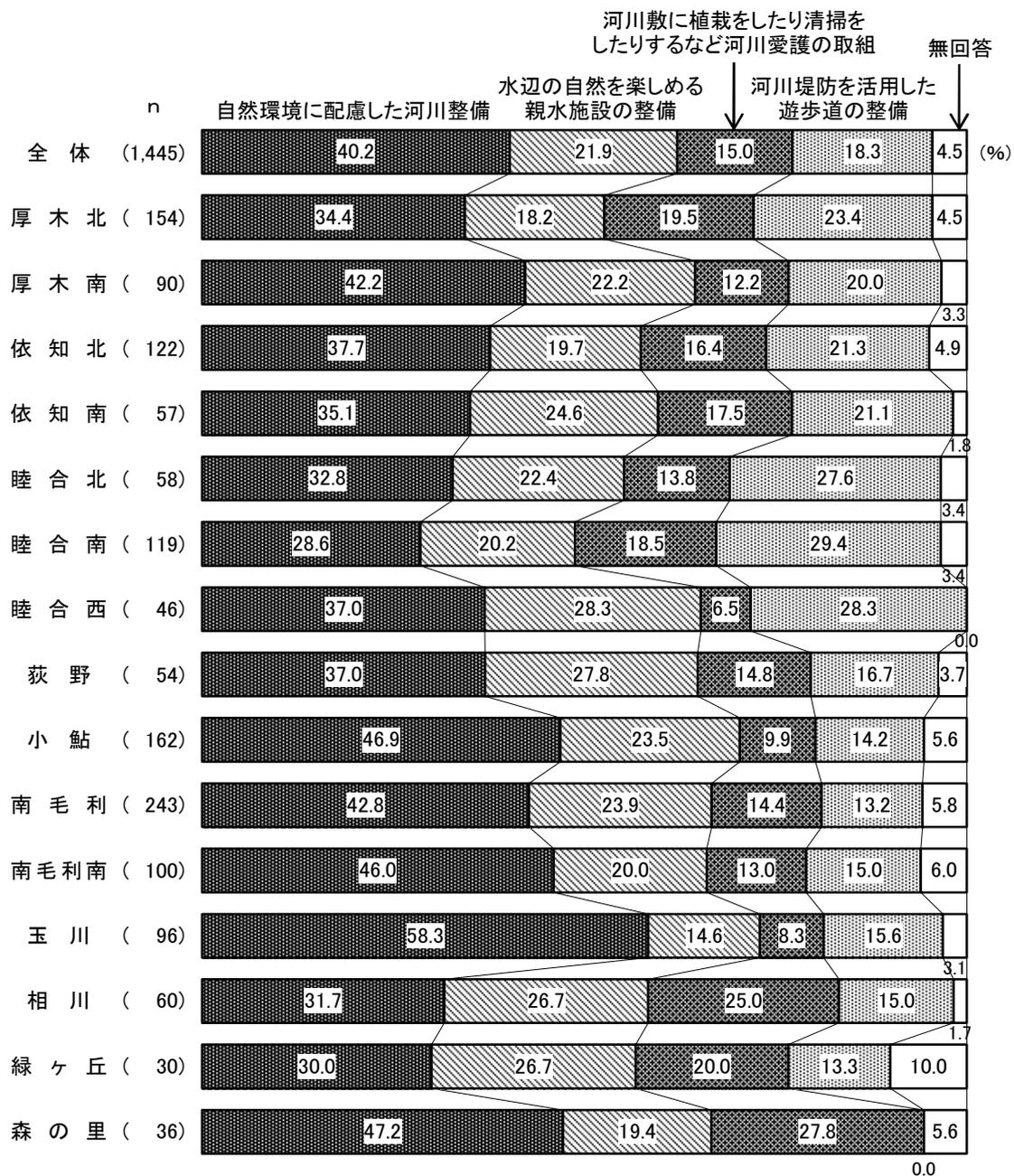
年齢別で見ると、20～29歳と40歳から69歳で「自然環境に配慮した河川整備」が4割台と高くなっている。

図14-13-3 河川環境の整備に望むこと—性別、年齢別



〔居住地区別の結果〕

図14-13-4 河川環境の整備に望むこと—居住地区別



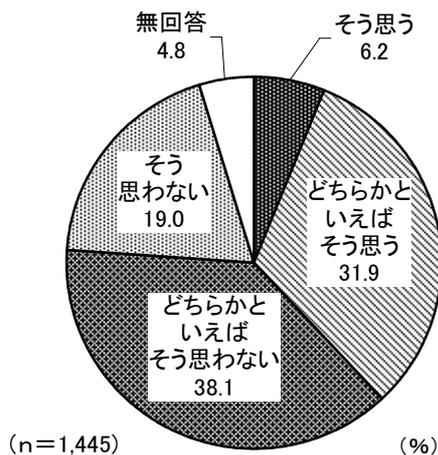
15 行政

(1) 市民の声を行政に反映させる仕組み (B:問34)

問. まちづくりに市民の意思を反映させるための仕組みは十分だと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図15-1-1 市民の声を行政に反映させる仕組み



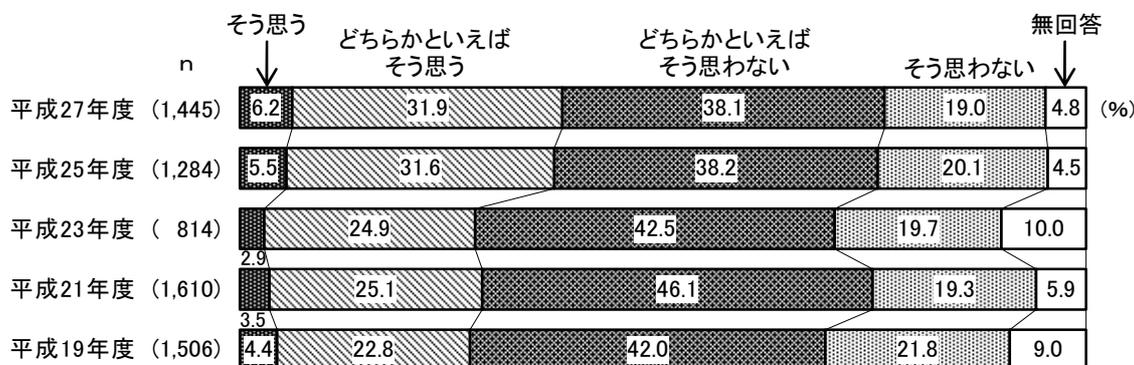
【全体】

まちづくりに市民の意思を反映させるための仕組みは十分だと思うか聞いたところ、「そう思う」(6.2%)と「どちらかといえばそう思う」(31.9%)を合わせた『そう思う』(38.1%)は4割近くとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(38.1%)と「そう思わない」(19.0%)を合わせた『そう思わない』(57.1%)は6割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査と比べて大きな差異はみられない。

図15-1-2 市民の声を行政に反映させる仕組み—経年変化

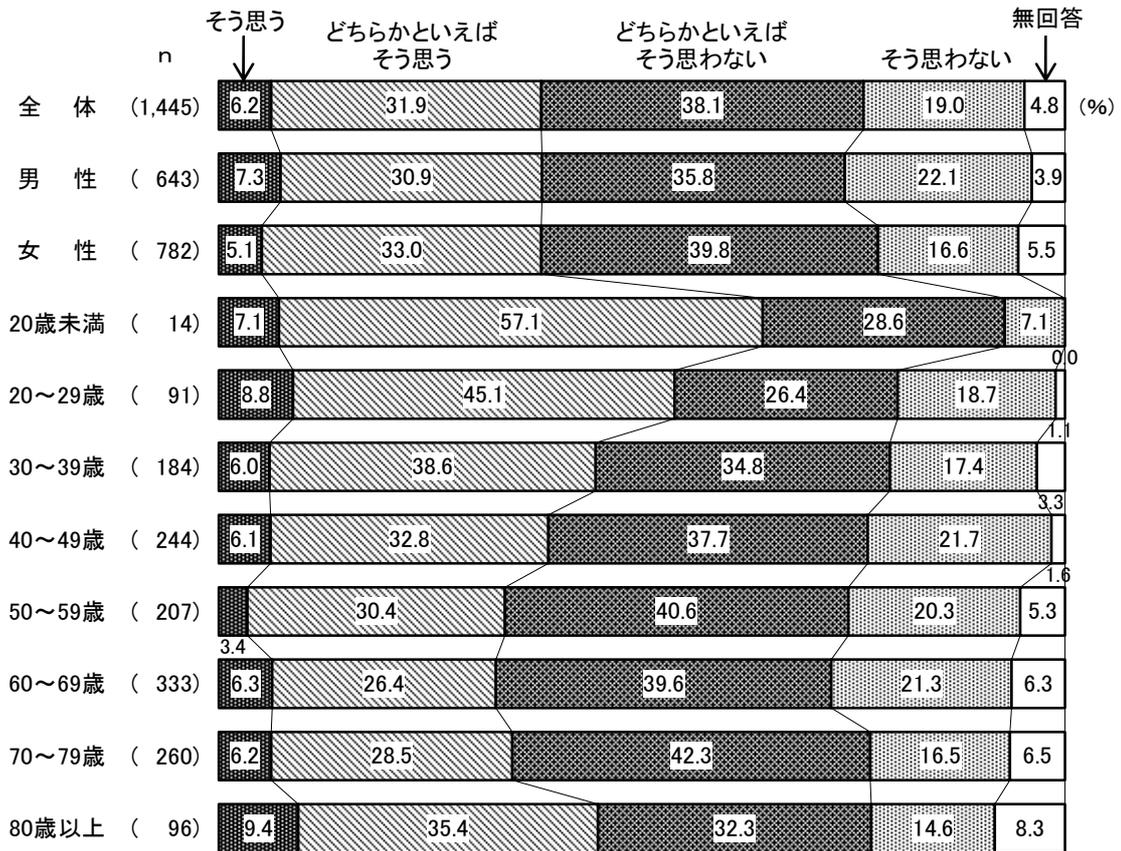


【属性別】

性別で見ると、『そう思う』と『そう思わない』の割合には、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、20～29歳では『そう思う』(53.9%)が5割を超えて高くなっている。40歳から79歳では『そう思わない』が約6割と高くなっている。

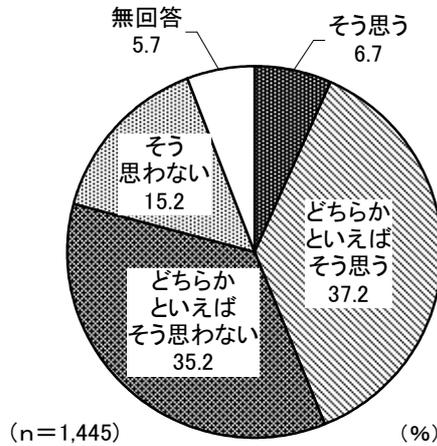
図15-1-3 市民の声を行政に反映させる仕組み—性別、年齢別



(2) 行政情報の公開状況 (B: 問35)

問. 行政の情報が積極的に公開されていると思いますか。(1つだけ選んでください)

図15-2-1 行政情報の公開状況



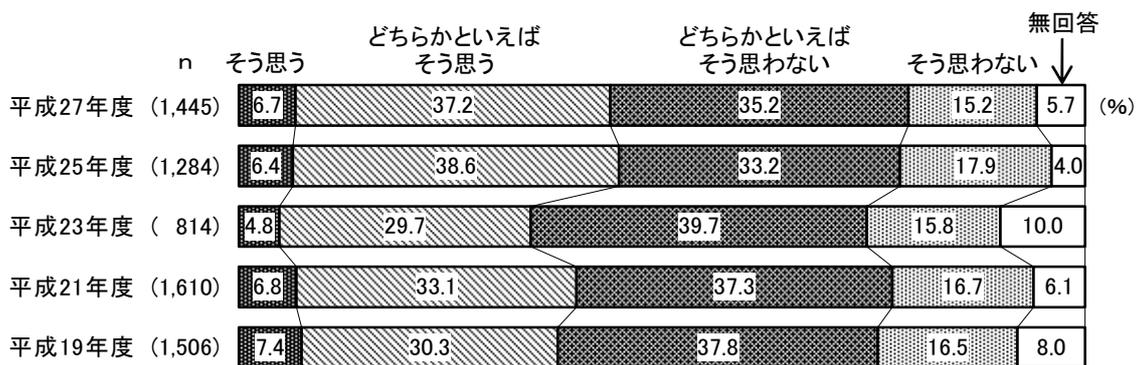
【全体】

行政の情報が積極的に公開されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.7%)と「どちらかといえばそう思う」(37.2%)を合わせた『そう思う』(43.9%)は4割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(35.2%)と「そう思わない」(15.2%)を合わせた『そう思わない』(50.4%)は約5割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査と比べて大きな差異はみられない。

図15-2-2 行政情報の公開状況—経年変化

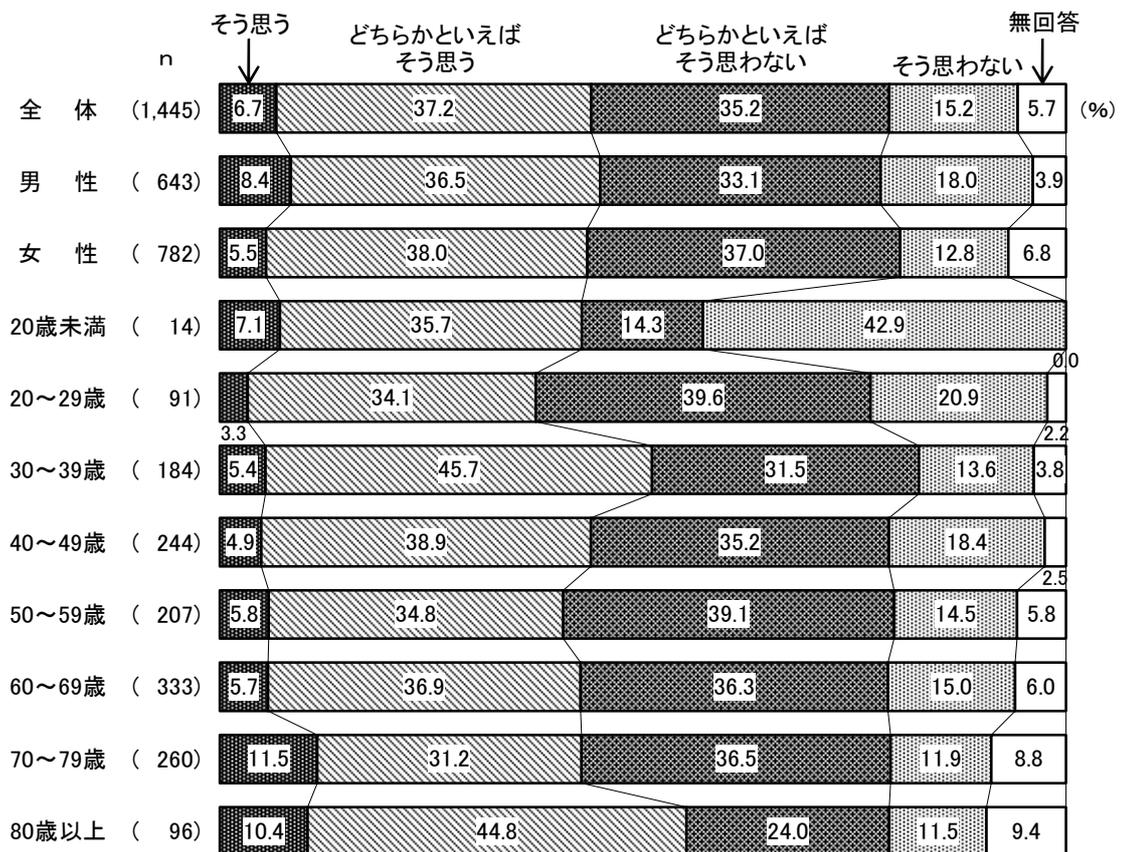


【属性別】

性別で見ると、『そう思う』と『そう思わない』の割合には、大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、80歳以上では『そう思う』(55.2%)が5割半ばと高くなっている。20～29歳では『そう思わない』(60.5%)が約6割と高くなっている。

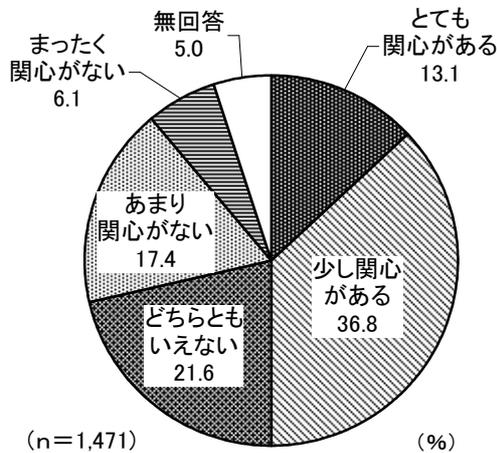
図15-2-3 行政情報の公開状況—性別、年齢別



(3)「市民協働によるまちづくり」(A：問34)

問. 自治会やボランティア活動など、市民と行政が協力して取り組む「市民協働」によるまちづくりが広がることに関心がありますか。(1つだけ選んでください)

図15-3-1 「市民協働によるまちづくり」



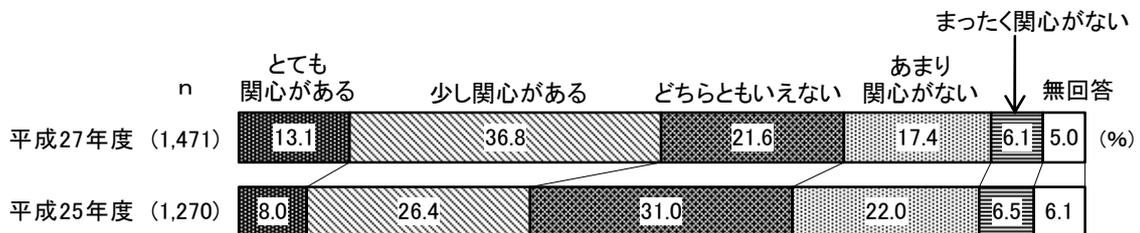
【全体】

「市民協働によるまちづくり」が広がることに関心があるか聞いたところ、「少し関心がある」(36.8%)が3割半ばで、これに「とても関心がある」(13.1%)を合わせた『関心がある』(49.9%)は約5割となっている。一方、「あまり関心がない」(17.4%)と「まったく関心がない」(6.1%)を合わせた『関心がない』(23.5%)は2割を超えている。また、「どちらともいえない」(21.6%)は2割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『関心がある』(49.9%)は前回調査(34.4%)より15.5ポイント増加している。

図15-3-2 「市民協働によるまちづくり」－経年変化

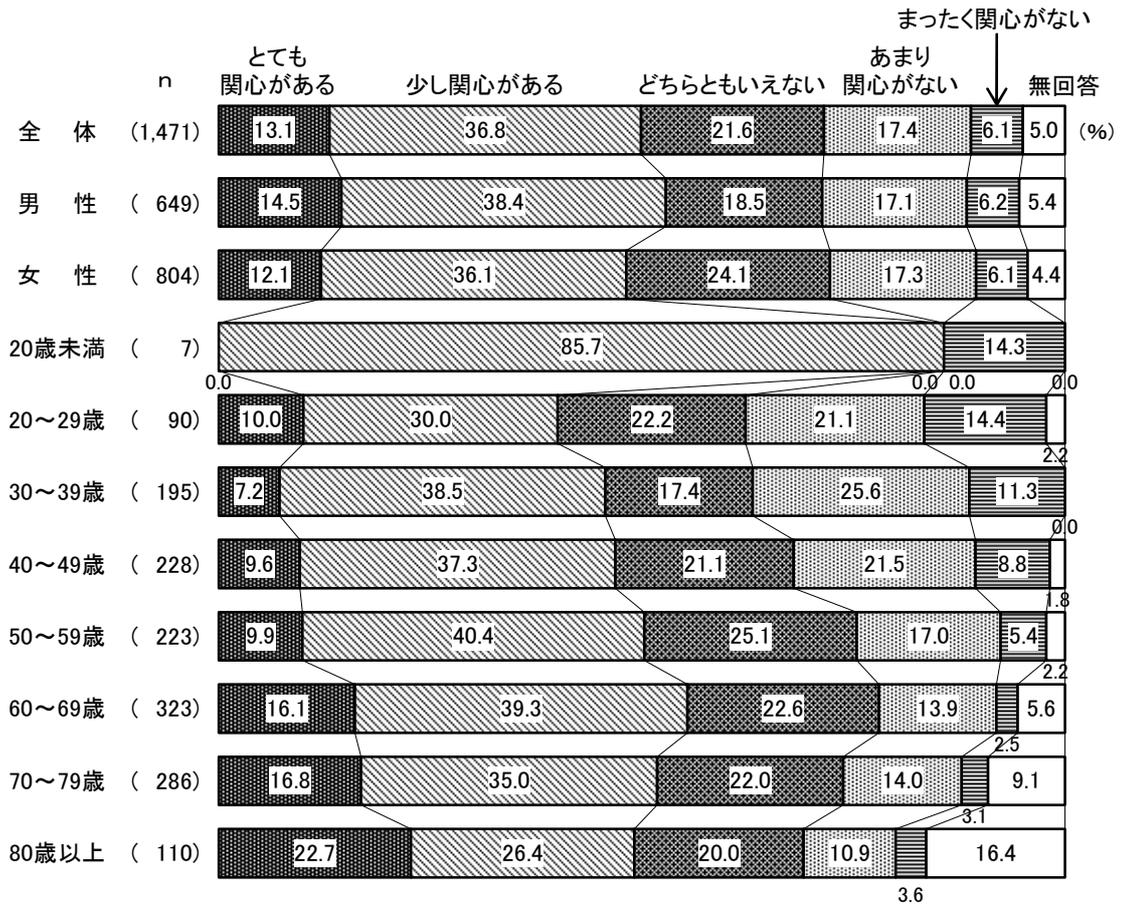


【属性別】

性別で見ると、男性では『関心がある』(52.9%)が女性(48.2%)より4.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～69歳では『関心がある』(55.4%)が5割半ばと高くなっている。30～39歳では『関心がない』(36.9%)が4割近くと高くなっている

図15-3-3 「市民協働によるまちづくり」—性別、年齢別



厚木市民意識調査 調査票 (A)

【最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。】

該当する数字を 印で囲んでください。

ア あなたの性別は。(n = 1,471)

1 男性 44.1	2 女性 54.7	無回答 1.2
-----------	-----------	---------

イ 年齢はおいくつですか。(n = 1,471)

1 20歳未満 0.5	4 40～49歳 15.5	7 70～79歳 19.4
2 20～29歳 6.1	5 50～59歳 15.2	8 80歳以上 7.5
3 30～39歳 13.3	6 60～69歳 22.0	無回答 0.6

ウ 家族構成はどれに該当しますか。(n = 1,471)

1 夫婦 24.6	4 親子孫(三世代) 7.5	
2 親子(親との二世帯) 8.2	5 単身 15.8	
3 親子(子との二世帯) 38.5	6 その他 3.9	無回答 1.4

エ お住まいはどのような形態ですか。(n = 1,471)

1 持ち家(分譲マンション含む。) 74.4	5 社宅・寮・官舎 2.3	
2 民営借家 2.8	6 間借り 0.5	
3 民営アパート(賃貸マンション含む。) 16.2	7 その他 0.7	
4 公営住宅 2.2		無回答 0.8

オ どの地区にお住まいですか。(n = 1,471)

1 厚木北(松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町)	9.9
2 厚木南(幸町、泉町、旭町、南町、温水一部、船子一部、岡田1丁目8番)	5.0
3 依知北(上依知、猿ヶ島、山際、関口、下川入)	8.3
4 依知南(関口一部、中依知、下依知、金田)	4.1
5 睦合北(三田、三田南、棚沢)	4.2
6 睦合南(妻田東、妻田西、妻田南、妻田北)	9.1
7 睦合西(林、及川、王子1丁目)	3.1
8 荻野(上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾)	4.0
9 小 鮎(飯山、上古沢、下古沢、宮の里)	11.4
10 南毛利(戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台)	18.6
11 南毛利南(船子、愛甲)	6.3
12 玉 川(小野、七沢、岡津古久)	6.6
13 相 川(岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼)	4.6
14 緑ヶ丘(緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目)	1.8
15 森の里	2.2
	無回答 0.8

カ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n = 1,471)

1	20年以上(生まれてからずっと)	26.2	5	5~9年	6.8
2	20年以上(移り住んで以来)	43.1	6	3~4年	5.6
3	10~19年(生まれてからずっと)	0.7	7	2年以下	5.6
4	10~19年(移り住んで以来)	11.1		無回答	1.0

キ 日ごろ、鉄道を利用する際の最寄駅はどこですか。(n = 1,471)

1	本厚木駅	78.7	3	海老名駅	5.3	5	その他	1.1
2	愛甲石田駅	12.7	4	厚木駅	1.2		無回答	1.0

ク 自宅からその駅まではどうやって行きますか。(n = 1,471)

1	徒歩	24.7	3	自家用車	17.5	5	バイク	0.9
2	バス	51.2	4	自転車	3.8	6	その他	0.9
							無回答	1.0

ケ 職業は何ですか。(n = 1,471)

1	会社員・公務員	31.6	4	パート・アルバイトなど	14.3	7	無職	24.9
2	自営業	7.1	5	学生	0.7	8	その他	2.9
3	農林業	1.4	6	専業主婦(主夫)	15.9		無回答	1.0

▶コ ケで1から5とお答えの方にお聞きします。通勤(通学)先はどこですか。(n = 813)

1	自宅	8.6	4	その他の県内	19.2	7	その他	2.8
2	厚木市内	55.1	5	東京23区内	5.8			
3	横浜・川崎市内	3.7	6	その他の都内	1.1		無回答	3.7

サ あなたは、自治会に加入していますか。(n = 1,471)

1	加入している	74.1	2	加入していない	20.5	3	分からない	4.1
							無回答	1.2

【ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。】

該当する数字を 印で囲んでください。

問 1 厚木市にずっと住みたいですか。(1つだけ選んでください)(n = 1,471)

1	ずっと住みたい	42.2		
2	できれば住みたい	35.6		
3	できれば市外に転出したい	6.2		
4	すぐにでも市外に転出したい	0.5		
5	どちらともいえない	問4へ 14.6	無回答	0.8

▶ 問 2 問1で「住みたい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで選んでください)

(n = 1,145)

1	自然環境が良い	28.2	8	交通の便が良い	13.9
2	教育環境が良い	0.4	9	人間関係が良い	5.4
3	子育て環境が充実している	8.1	10	生まれ育ったところである	13.5
4	保健福祉施策が充実している	2.1	11	住み慣れて愛着がある	33.7
5	自分の家や土地がある	49.4	12	通勤・通学に便利	3.3
6	仕事や学校の関係がある	9.5	13	その他	3.1
7	買物に便利である	8.4		無回答	1.2

▶ 問 3 問1で「転出したい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで選んでください)

(n = 99)

1	自然環境が良くない	11.1	7	買物に不便	28.3
2	教育環境が不十分	6.1	8	交通の便が悪い	39.4
3	子育て環境が不十分	9.1	9	人間関係が希薄である	14.1
4	保健福祉施策が不十分	7.1	10	通勤・通学に不便	16.2
5	自分の家や土地でない	10.1	11	その他	23.2
6	仕事や学校の関係がない	5.1		無回答	0.0

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいですか。(n=1,471)

(1~11の中からそれぞれ3つまで選び該当するものに 印を記入してください)

項 目		現在の厚木市のイメージ	あなたが望む将来の厚木
1	自然環境の豊かなまち	51.1	21.4
2	都市と自然が共存しているまち	26.9	31.7
3	交通の利便性の高いまち	24.6	38.2
4	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	29.0	9.6
5	防犯・防災対策が充実したまち	8.8	31.7
6	保健福祉・子育て環境が充実したまち	19.6	36.4
7	研究所・大学等のある研究学園都市	10.7	6.9
8	若者が多い活気のあるまち	4.6	18.9
9	居住環境・生活環境の整備されたまち	11.7	38.1
10	自治活動の活発なふれあいのまち	10.3	5.7
11	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	17.9	10.9
	無回答	10.5	7.7

問5 ふだんどこのお店を利用していますか。

(それぞれア～エについて、～の中から該当するものを1つ選び 印を記入してください)(n=1,471)

品 目	本厚木駅周辺	愛甲石田駅周辺	その他厚木市内	伊勢原駅周辺	海老名駅周辺	平塚駅周辺	横浜市内	相模原市内	東京23区内	インターネット	その他	無回答
(ア) 食料品	31.1	4.0	55.4	1.6	1.0	0.2	0.1	1.3	0.0	0.1	3.5	1.7
(イ) 日用衣料品	35.1	1.4	36.6	1.5	6.1	0.3	1.8	2.2	2.0	2.4	4.9	5.8
(ウ) 高級衣料品・装飾品	15.6	0.1	7.2	0.3	8.0	0.2	15.6	3.7	18.1	4.7	12.8	13.7
(エ) 外食	31.2	1.7	40.0	1.0	3.9	0.3	2.4	1.7	2.6	0.0	6.5	8.7

問 6 自然に恵まれ温泉もある厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要だと思いますか。(2つまで選んでください。)(n=1,471)

1	テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介	21.6
2	四季折々のイベントの開催	21.0
3	ハイキングコースや公園など自然をいかした観光資源の整備	19.0
4	温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備	19.7
5	食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	23.3
6	駐車場の整備などの交通利便性の向上	24.9
7	観光ガイドなどの人材の育成	3.5
8	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	10.0
9	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	24.1
10	外国人旅行者向け観光プランの充実	5.8
11	スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓	7.9
12	その他	3.1
	無回答	3.7

問 7 平成27年度に改正された介護保険制度の介護保険料の額は、見込まれる介護サービスの総量によって決まる仕組みとなっています。介護保険料額と介護サービス量のバランスについて、どう考えますか。(1つだけ選んでください)

(対象年齢でない方は、対象者になることを想定して回答してください。)(n=1,471)

1	介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい	12.2
2	介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい	68.7
3	介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい	7.6
4	その他	1.3
5	分からない	8.0
	無回答	2.2

問 8 あなた自身が高齢になった場合、どのような居住形態を望んでいますか。

(現在65歳以上の方は、どのような居住形態を望んでいますか。)

(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1	従来型住宅での子どもの世帯との同居	13.7
2	子どもの世帯との二世帯住宅	14.1
3	子どもの世帯とは別居	27.7
4	サービス付き高齢者向け住宅	23.1
5	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	10.5
6	その他	7.5
	無回答	3.5

問 9 厚木市では子育て教育環境日本一を目指していますが、安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、必要だと思うことは何ですか。(5 つまで選んでください)

(n = 1,471)

1	産前産後における育児や家事などの支援の充実	34.7
2	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	54.4
3	親のリフレッシュの場や機会の提供	16.5
4	健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進	23.1
5	子ども医療費助成制度の充実	49.0
6	父親の育児参加に関する意識啓発	13.6
7	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	32.4
8	子育て相談体制の充実	20.1
9	子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成	6.7
10	サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	8.5
11	ファミリー・サポート・センター(会員相互による育児の援助活動)の充実	7.5
12	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	36.6
13	子育て支援センター「もみじの手」の充実	7.7
14	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	36.4
15	経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の学用品費等の支援	33.9
16	特別支援教育の充実	14.2
17	その他	5.0
	無回答	8.0

問 10 厚木市では、男女がお互いを尊重し、生き生きと暮らせる社会を目指していますが、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれア～キについて、～の中から該当するものを1つ選び 印を記入してください)(n = 1,471)

分野	答					
	平等	男性優位	女性優位	分からない	無回答	
(ア) 家庭生活で	43.5	22.7	10.1	15.2	8.6	
(イ) 職場で	22.5	42.8	1.6	20.8	12.3	
(ウ) 学校教育の場で	39.9	7.9	2.5	37.4	12.3	
(エ) 自治会など地域活動の場で	28.3	35.8	2.4	23.7	9.8	
(オ) 政治の場や政策決定の場で	11.0	56.2	0.3	21.5	11.0	
(カ) 法律や制度上で	26.9	33.9	2.9	24.9	11.4	
(キ) 社会通念、慣習上で	15.0	53.7	1.9	19.0	10.4	

問 11 自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(1つだけ選んでください)

(n = 1,471)

1	ある	26.0	2	ない	69.9	問 14 へ	無回答	4.1
---	----	------	---	----	------	--------	-----	-----

▶問 12 問 11 で「ある」とお答えの方にお聞きします。それはどのような人権侵害ですか。(いくつでも選んでください)(n = 383)

1	性別を理由にした差別や偏見	17.5
2	高齢者であることを理由にした差別や偏見	12.3
3	障がい者であることを理由にした差別や偏見	7.0
4	外国人であることを理由にした差別や偏見	2.1
5	職場での不当な待遇や上司の言動	42.0
6	思想・信条を理由にした差別や偏見	5.0
7	地位や職業を理由にした差別や偏見	16.7
8	学歴を理由にした差別や偏見	14.6
9	あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	39.7
10	名誉・信用のき損、侮辱	19.1
11	プライバシーの侵害	26.4
12	その他	6.5
	無回答	6.8

▶問 13 問 11 で「ある」とお答えの方にお聞きします。人権侵害を受けたとき、どのように対応されましたか。(いくつでも選んでください)(n = 383)

1	黙って我慢した	66.8
2	相手に抗議した	24.5
3	身近な人に相談した	31.3
4	民生委員・児童委員に相談した	1.6
5	自治会長に相談した	0.8
6	弁護士に相談した	5.7
7	法務局または人権擁護委員に相談した	0.8
8	市役所や関係機関に相談した	6.5
9	警察に相談した	5.2
10	その他	8.4
	無回答	1.6

問 14 人権や差別に対して関心がありますか。ある場合、どのような問題に関心がありますか。
(ある場合はいくつでもお選びください)(n = 1,471)

1	子どもに対する問題	33.0
2	女性に対する問題	26.0
3	高齢者に対する問題	31.3
4	障がい者に対する問題	37.3
5	同和関係者に対する問題	6.4
6	外国人に対する問題	12.5
7	ホームレスに対する問題	10.0
8	HIV(エイズウイルス)感染者やハンセン病患者などに対する問題	7.7
9	刑を終えて出所した人に対する問題	10.5
10	犯罪被害者やその家族に対する問題	18.2
11	インターネットを悪用した問題	31.3
12	北朝鮮当局による人権侵害問題	18.6
13	その他	4.8
14	関心がない	10.0
	無回答	10.7

問 15 紙類、びん類、缶類など、きちんと分別すれば資源に生まれ変わります。
そこで、資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別していますか。
(1つだけ選んでください)(n = 1,471)

1	理解して分別している	69.1	4	全く分別していない	0.0
2	おおむね理解して分別している	28.6	5	分別方法が分からない	0.2
3	あまり分別していない	1.0	6	その他	0.3
				無回答	0.7

問 16 ごみの減量化・資源化を推進する上で、特に重要だと思うことは何ですか。
(2つまで選んでください)(n = 1,471)

1	家庭における資源とごみの分別の徹底	60.8
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	28.7
3	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	20.6
4	小・中学校への環境学習の充実	15.1
5	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	9.0
6	行政による住民説明会の開催	2.4
7	買物袋の持参	16.7
8	販売店の過剰包装の削減	25.5
9	生ごみ処理機等の購入	6.7
	無回答	1.6

問 17 本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1 大変良くなったと思う	6.5	4 悪くなったと思う	4.5
2 良くなったと思う	48.9	5 大変悪くなったと思う	1.8
3 変わらない	32.0	無回答	6.3

問 18 防犯対策について、どの取組が効果的だと思いますか。(1つだけ選んでください)
(n=1,471)

1 夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	41.7
2 道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	36.8
3 地域住民等によるパトロール	14.3
4 広報等により市民に防犯を呼びかける	2.0
5 その他	3.5
無回答	1.6

問 19 厚木市は、平成 22 年 11 月 19 日に WHO が推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に興味がありますか。
(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1 とても関心がある	30.4	4 あまり関心がない	9.2
2 少し関心がある	39.2	5 全く関心がない	1.9
3 どちらともいえない	17.1	無回答	2.2

問 20 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加していますか。
(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1 積極的に参加している	4.8	3 あまり参加していない	12.0
2 たまに参加している	15.2	4 全く参加していない	65.9
無回答	2.1		

問 21 平成 27 年 3 月に新市立病院(第 1 期)がオープンしました。市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。(1つだけ選んでください)
(n=1,471)

1 高度・専門的医療を受けるために受診する病院	14.6
2 診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院	47.2
3 身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院	24.7
4 その他	11.5
無回答	2.0

問 22 かかりつけ医は、日ごろから医療や健康相談等を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担がありますが、あなたは風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1	かかりつけの医院や診療所	63.2	3	特に決まっていない	26.9
2	総合病院などの大きな病院	7.6	4	その他	1.5
				無回答	0.8

問 23 24時間フリーダイヤルで医師やカウンセラーが健康相談や医療機関情報についてお答えする「あつぎ健康相談ダイヤル24」を知っていますか。(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1	利用したことがある	8.0
2	知っているが、利用したことがない	24.1
3	知らない	67.0
		無回答 1.0

問 24 厚木市では広く市政を周知するために、様々な方法で情報を発信しています。あなたは市の情報を何で入手していますか。(3つまで選んでください)(n=1,471)

1	広報あつぎ	85.9	7	パンフレット・チラシ	15.5
2	市のホームページ	20.9	8	掲示板やポスター	10.0
3	市の携帯版ウェブサイト	2.2	9	新聞(日刊紙)	8.8
4	本厚木駅前大型映像装置 (あつぎビジョン)	9.6	10	ケーブルテレビ	6.9
5	公民館だより	38.4	11	タウン誌・ミニコミ誌	22.6
6	ラジオ	0.5	12	その他	5.7
				無回答	1.3

問 25 月に2回発行している「広報あつぎ」をどこから入手していますか。(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1	自治会からの配布	79.3	5	市のホームページ	0.4
2	市役所、公民館などの公共施設	5.2	6	入手していない (読んでいない)	9.7
3	駅、病院、スーパーなどの民間施設	2.9			
4	勤務先	1.1		無回答	1.4

問 26 本厚木駅北口駅前に設置されている屋外大型映像装置(あつぎビジョン)の放映を見たことがありますか。(1つだけ選んでください)(n=1,471)

1	よく見ている	9.6	4	全く見ない	13.1
2	ときどき見る	37.9	5	あつぎビジョンを知らない	11.7
3	ほとんど見ない	26.9		無回答	0.8

問 27 生活をする上で、特に必要な施設は何だと思えますか。(3つまで選んでください)

(n = 1,471)

1	公園	20.9	16	映画館	6.1
2	子育て広場	6.2	17	植物園	1.0
3	図書館	11.2	18	動物園	1.0
4	スポーツ施設	10.3	19	水族館	1.3
5	公民館・地区市民センター	16.4	20	科学館	0.3
6	児童館	3.0	21	遊園地	1.1
7	老人憩の家	6.2	22	市民休暇村	2.7
8	老人ホーム	9.9	23	市民農園	1.7
9	病院・診療所	64.9	24	地場農産物直売所	10.7
10	霊園	1.2	25	百貨店・スーパー	58.7
11	葬祭場	7.0	26	ホテル	0.6
12	博物館	0.5	27	駐車場・駐輪場	19.1
13	音楽・演劇等ホール	2.3	28	大型備蓄倉庫	3.7
14	音楽・演劇等専用練習場	0.7	29	その他	4.1
15	美術館	1.7		無回答	2.4

問 28 この1年に、利用された「市の施設」をお答えください。(いくつでも選んでください)

(n = 1,471)

1	市役所	67.5	18	猿ヶ島スポーツセンター	1.9
2	中央図書館	26.0	19	市営水泳プール	3.9
3	小・中学校の体育館	8.4	20	ふれあいプラザ	5.4
4	荻野運動公園	27.5	21	南毛利スポーツセンター	6.3
5	ぼうさいの丘公園	29.2	22	若宮公園テニスコート	0.9
6	厚木中央公園	22.2	23	厚木テニスコート	0.5
7	玉川野球場	1.5	24	小・中学校の校庭	9.9
8	及川球技場	4.8	25	総合福祉センター	12.5
9	厚木野球場	0.8	26	子育て支援センター「もみじの手」	4.9
10	文化会館	28.2	27	児童館	8.8
11	七沢自然ふれあいセンター	5.8	28	公民館・地区市民センター	34.4
12	情報プラザ	2.0	29	郷土資料館	2.0
13	子ども科学館	6.2	30	老人福祉センター(寿荘)	2.0
14	老人憩の家	8.9	31	保健センター	8.0
15	青少年広場	2.1	32	アミューあつぎ 市民交流プラザ	37.7
16	スポーツ広場	1.8	33	その他	1.3
17	東町スポーツセンター	3.9	34	利用したことがない	6.3
				無回答	2.4

問 29 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、どう思いますか。

（それぞれア～コについて、～の中から該当するものを1つ選びで囲んでください）(n=1,471)

(ア) 活気	(ある 12.2	普通 48.5	ない 33.4	無回答 5.8)
(イ) 明るさ・清潔感	(ある 11.9	普通 63.6	ない 18.0	無回答 6.5)
(ウ) 駐車場	(多い 12.3	普通 41.7	少ない 38.5	無回答 7.5)
(エ) 駐輪場	(多い 4.1	普通 42.8	少ない 42.5	無回答 10.5)
(オ) 商店（飲食店等）	(多い 17.4	普通 53.0	少ない 22.3	無回答 7.3)
(カ) マンション（住宅）	(多い 37.3	普通 49.2	少ない 5.3	無回答 8.2)
(キ) 緑	(多い 9.1	普通 39.8	少ない 43.9	無回答 7.2)
(ク) 歩道の整備	(良い 11.3	普通 53.2	悪い 28.8	無回答 6.7)
(ケ) 治安	(良い 7.5	普通 61.9	悪い 22.7	無回答 8.0)
(コ) 交通渋滞の状況	(良い 2.2	普通 44.9	悪い 46.1	無回答 6.8)

問 30 本厚木駅周辺を活性化するために特に必要だと思うことは何ですか。

（2つまで選んでください）(n=1,471)

1	新たな商業施設の誘致	41.7
2	子育て支援、教育環境の充実	9.3
3	文化芸術に親しむことができる環境の整備	12.6
4	商店街の充実	41.9
5	駐車場、駐輪場の充実	28.6
6	安心安全な環境づくり	35.4
7	イベントの充実	8.6
	無回答	3.7

問 31 本厚木駅周辺の買物の際に不満に感じることはありますか。

（2つまで選んでください）(n=1,471)

1	欲しい商品を扱う店舗が少ない	56.8
2	買物の途中で休める場所が少ない	34.2
3	子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない	16.3
4	個性的な商品を扱う店舗が少ない	27.3
5	その他	11.1
6	特に不満はない	11.6
	無回答	3.2

問 32 まちづくり全般の変化について、どう思いますか。(5年前と比べ)
 (それぞれ1~37について、 ~ の中から該当するものを1つ選び 印を記入して
 ください。)(転入されて5年未満の方は、次問に進む)(n=1,292)

項目	5年前と比べ				項目	5年前と比べ					
	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答		良くなった	変わらない	悪くなった	無回答		
1	地域福祉サービス	23.9	58.6	2.1	15.4	19	犯罪や非行の防止	15.1	57.4	10.4	17.0
2	高齢者の生きがいと安心感	13.9	64.9	5.6	15.6	20	消費者の安全確保	8.8	68.7	4.6	17.9
3	障がい者の自立と社会参加	8.6	68.7	2.3	20.4	21	生涯学習の場と機会	15.8	64.0	1.5	18.7
4	子どもを産み育てる環境	22.4	54.3	4.3	19.0	22	ｽﾎｰｯ・ﾚｸﾞﾚｰｼｮﾝ活動の場と機会	16.6	62.2	2.6	18.6
5	健康づくりの環境	23.6	57.4	1.9	17.1	23	青少年の健全育成環境	8.4	68.1	3.2	20.4
6	地域医療体制の状況	19.7	60.2	3.1	17.0	24	小・中学校の教育環境	12.6	61.7	4.6	21.1
7	コミュニティ活動・ボランティア活動	14.0	65.9	1.1	19.0	25	芸術・文化活動	10.1	67.0	3.4	19.5
8	人権尊重の意識	5.5	72.4	2.7	19.4	26	友好都市との交流	6.9	70.2	1.8	21.1
9	生活困窮者の援護状況	5.2	66.6	7.0	21.2	27	男女平等を基本とした社会環境	5.2	72.6	2.2	20.0
10	環境保全と環境美化	22.8	55.7	3.9	17.6	28	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	22.1	57.8	3.1	17.0
11	ごみ処理及びリサイクル	45.4	38.5	3.3	12.8	29	道路整備など交通渋滞緩和対策	18.7	53.0	13.0	15.2
12	多様な生物の生息環境	6.0	62.5	11.8	19.7	30	電車、バス、タクシー等の状況	12.6	62.8	10.4	14.2
13	公園や自然環境など緑の空間	17.2	60.4	6.5	15.9	31	行政サービスの情報化(情報通信基盤の整備等)	15.8	63.2	2.1	19.0
14	河川など水辺の空間づくり	15.6	61.3	6.0	17.1	32	中小企業を取り巻く環境	2.4	61.8	14.6	21.3
15	災害に強い都市環境	11.8	67.7	2.6	18.0	33	商店街活性化の状況	4.3	44.0	36.2	15.4
16	地域防災対策	19.1	61.7	1.6	17.6	34	就業環境	2.6	63.6	12.5	21.3
17	消防・救急救助体制	19.4	62.5	1.2	16.8	35	森林保全	5.7	67.6	6.3	20.3
18	放置自転車や歩行者の安全	34.1	43.0	9.7	13.2	36	観光・リゾートの環境	3.9	67.1	8.7	20.3
						37	土地利用による魅力的な拠点づくり	3.7	63.2	13.5	19.6

問 33 あなたは、どのようにまちづくりに関わっていきたいと思いますか。

(いくつでも選んでください)(n = 1,471)

1	わたしの提案(市長への提案制度)を利用する	10.5
2	パブリックコメント等に意見を寄せる	6.5
3	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	5.4
4	各種計画等の策定委員会などへ参加する	2.2
5	市の関係課へ直接意見を伝える	8.6
6	自治会活動へ参加する	29.9
7	各種団体を通じて市へ意見を伝える	6.5
8	ボランティア・NPOなどへ参加する	9.2
9	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	3.9
10	地域の趣味的な団体へ参加する	17.2
11	市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間で行いたい	16.3
12	その他(1から11以外の方法に関わりたい)	4.3
13	市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	25.0
14	特に関わろうとは思わない	14.6
	無回答	9.7

問 34 自治会やボランティア活動など、市民と行政が協力して取り組む「市民協働」によるまちづくりが広がることに関心がありますか。(1つだけ選んでください)(n = 1,471)

1	とても関心がある	13.1	4	あまり関心がない	17.4
2	少し関心がある	36.8	5	まったく関心がない	6.1
3	どちらともいえない	21.6		無回答	5.0

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査 調査票 (B)

【最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。】

該当する数字を 印で囲んでください。

ア あなたの性別は。(n = 1,445)

1	男性	44.5	2	女性	54.1	無回答	1.4
---	----	------	---	----	------	-----	-----

イ 年齢はおいくつですか。(n = 1,445)

1	20 歳未満	1.0	4	40 ~ 49 歳	16.9	7	70 ~ 79 歳	18.0
2	20 ~ 29 歳	6.3	5	50 ~ 59 歳	14.3	8	80 歳以上	6.6
3	30 ~ 39 歳	12.7	6	60 ~ 69 歳	23.0		無回答	1.1

ウ 家族構成はどれに該当しますか。(n = 1,445)

1	夫婦	24.2	4	親子孫 (三世代)	7.9		
2	親子 (親との二世代)	7.6	5	単身	18.5		
3	親子 (子との二世代)	37.2	6	その他	3.1	無回答	1.5

エ お住まいはどういう形態ですか。(n = 1,445)

1	持ち家 (分譲マンション含む。)	72.9	5	社宅・寮・官舎	2.4
2	民営借家	3.5	6	間借り	0.7
3	民営アパート (賃貸マンション含む。)	14.9	7	その他	0.8
4	公営住宅	3.6		無回答	1.4

オ どの地区にお住まいですか。(n = 1,445)

1	厚木北 (松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町)	10.7
2	厚木南 (幸町、泉町、旭町、南町、温水一部、船子一部、岡田 1 丁目 8 番)	6.2
3	依知北 (上依知、猿ヶ島、山際、関口、下川入)	8.4
4	依知南 (関口一部、中依知、下依知、金田)	3.9
5	睦合北 (三田、三田南、棚沢)	4.0
6	睦合南 (妻田東、妻田西、妻田南、妻田北)	8.2
7	睦合西 (林、及川、王子 1 丁目)	3.2
8	荻野 (上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾)	3.7
9	小 鮎 (飯山、上古沢、下古沢、宮の里)	11.2
10	南毛利 (戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台)	16.8
11	南毛利南 (船子、愛甲)	6.9
12	玉 川 (小野、七沢、岡津古久)	6.6
13	相 川 (岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼)	4.2
14	緑ヶ丘 (緑ヶ丘、王子 2 丁目、王子 3 丁目)	2.1
15	森の里	2.5
		無回答 1.2

カ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n = 1,445)

1	20年以上(生まれてからずっと)	24.4	5	5~9年	7.3
2	20年以上(移り住んで以来)	41.9	6	3~4年	3.9
3	10~19年(生まれてからずっと)	1.3	7	2年以下	6.9
4	10~19年(移り住んで以来)	13.3		無回答	1.2

キ 日ごろ、鉄道を利用する際の最寄駅はどこですか。(n = 1,445)

1	本厚木駅	78.8	3	海老名駅	5.4	5	その他	1.5
2	愛甲石田駅	12.2	4	厚木駅	0.9		無回答	1.2

ク 自宅からその駅まではどうやって行きますか。(n = 1,445)

1	徒歩	26.4	3	自家用車	17.0	5	バイク	0.8
2	バス	49.3	4	自転車	4.1	6	その他	0.9
							無回答	1.5

ケ 職業は何ですか。(n = 1,445)

1	会社員・公務員	33.0	4	パート・アルバイトなど	14.9	7	無職	25.7
2	自営業	6.5	5	学生	1.0	8	その他	2.5
3	農林業	0.7	6	専業主婦(主夫)	14.5		無回答	1.2

▶コ ケで1から5とお答えの方にお聞きします。通勤(通学)先はどこですか。(n = 811)

1	自宅	6.8	4	その他の県内	19.4	7	その他	3.1
2	厚木市内	53.9	5	東京23区内	6.3			
3	横浜・川崎市内	5.5	6	その他の都内	2.2		無回答	2.8

サ あなたは、自治会に加入していますか。(n = 1,445)

1	加入している	73.5	2	加入していない	21.5	3	分からない	3.7
							無回答	1.3

【ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。】

該当する数字を 印で囲んでください。

問 1 厚木市にずっと住みたいですか。(1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1	ずっと住みたい	43.4		
2	できれば住みたい	33.3		
3	できれば市外に転出したい	7.2		
4	すぐにでも市外に転出したい	1.0		
5	どちらともいえない	問4へ 14.4	無回答	0.8

▶ 問 2 問1で「住みたい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで選んでください)

(n = 1,108)

1	自然環境が良い	27.5	8	交通の便が良い	14.1
2	教育環境が良い	0.7	9	人間関係が良い	5.9
3	子育て環境が充実している	8.8	10	生まれ育ったところである	15.3
4	保健福祉施策が充実している	2.9	11	住み慣れて愛着がある	33.2
5	自分の家や土地がある	48.3	12	通勤・通学に便利	3.8
6	仕事や学校の関係がある	9.5	13	その他	2.7
7	買物に便利である	8.8			無回答 0.8

▶ 問 3 問1で「転出したい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで選んでください)

(n = 118)

1	自然環境が良くない	5.9	7	買物に不便	33.9
2	教育環境が不十分	3.4	8	交通の便が悪い	39.0
3	子育て環境が不十分	4.2	9	人間関係が希薄である	11.0
4	保健福祉施策が不十分	5.9	10	通勤・通学に不便	23.7
5	自分の家や土地でない	11.9	11	その他	25.4
6	仕事や学校の関係がない	6.8			無回答 0.8

問 4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいですか。(n = 1,445)

(1~11の中からそれぞれ3つまで選び該当するものに 印を記入してください)

項 目		現在の厚木市のイメージ	あなたが望む将来の厚木
1	自然環境の豊かなまち	50.7	20.9
2	都市と自然が共存しているまち	29.6	34.3
3	交通の利便性の高いまち	24.8	34.7
4	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	28.1	8.6
5	防犯・防災対策が充実したまち	9.3	32.5
6	保健福祉・子育て環境が充実したまち	21.0	36.3
7	研究所・大学等のある研究学園都市	10.6	6.6
8	若者が多い活気のあるまち	4.2	19.2
9	居住環境・生活環境の整備されたまち	14.9	41.2
10	自治活動の活発なふれあいのまち	8.7	4.9
11	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	19.7	9.8
	無回答	7.8	7.6

問 5 豊かな心や健やかな体を育むため、子どもの教育には、何が大切だと思いますか。

(1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1	学校教育	5.9	4	学校・家庭・地域の協力	70.4
2	家庭教育	15.4	5	わからない	3.4
3	地域の教育力	3.9		無回答	1.0

問 6 厚木市では、いつでも生涯学習に取り組むことができる社会の実現を目指しています。講座、教育などの学習活動に参加する際、最も支障になるとと思われる理由はどれですか。

(1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1	参加する時間がない	29.3	5	参加したい講座がない	13.8
2	学習機会に関する情報がない	16.7	6	特に支障はない	18.7
3	学習しても成果をいかす場がない	6.0	7	その他	6.8
4	一緒に学ぶ仲間がない	6.3		無回答	2.4

問 7 価値観の多様化などにより、文化芸術や伝統芸能への関心・意識が変化しています。
あなたが優先的に取り組んでほしい文化芸術施策は何ですか。

(3 つまで選んでください)(n = 1,445)

1	文化芸術活動や鑑賞活動などの情報提供	37.0
2	市民の文化芸術活動に対する支援	17.1
3	市街地での文化芸術イベントの充実	26.4
4	文化会館での鑑賞機会の充実	31.5
5	学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	27.7
6	文化芸術を通じた国際交流、地域間交流	17.6
7	文化芸術施設の整備	18.9
8	文化財展示や郷土芸能などの情報提供について	14.0
9	魅力ある都市景観の創造	33.1
	無回答	7.8

問 8 異文化への理解を深め、国際化に対応するためには、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。(2 つまで選んでください)(n = 1,445)

1	文化・スポーツ等の交流の推進	36.6
2	青少年海外研修の推進	15.4
3	市内在住外国人との交流促進	28.2
4	新たな友好都市の締結	4.8
5	国際友好都市との交流	10.9
6	市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備	14.1
7	国際理解を推進する講座等の開催	10.4
8	外国の大学・企業等の誘致	10.8
9	国際交流施設の整備	11.1
10	外国人との共生意識の推進	15.1
11	市内企業の国際活動の支援	6.4
12	その他	4.4
	無回答	8.2

問 9 健康意識やスポーツへの関心が高まる中、あなたはスポーツ（運動）をどの程度やっていますか。（1つだけ選んでください）（n = 1,445）

1	ほぼ毎日やっている	11.0	4	月に1～3回やっている	12.5	
2	週に3～4回やっている	10.7	5	年数回やっている	7.5	
3	週に1、2回やっている	17.2	6	ほとんどやらない	39.0	
					無回答	2.0

▶問 10 問9で1から5とお答えの方にお聞きします。現在、あなたが行っているスポーツの種目は何ですか。（いくつでも選んでください）（n = 853）

1	ウォーキング（散歩）	55.0	19	乗馬	0.1	
2	体操・ストレッチ・筋力トレーニング	30.4	20	クレー射撃	0.0	
3	ゴルフ	11.8	21	スキー・スノーボード	4.5	
4	ジョギング・ランニング	8.9	22	ゲートボール	1.1	
5	水泳（アクアビクス・水中ウォーク）	10.2	23	社交ダンス・エアビクス・ジャズダンス	2.7	
6	登山・ハイキング・ウォークライミング	8.8	24	なぎなた	0.1	
7	ボウリング	2.7	25	ラグビー・アメフト	0.1	
8	陸上競技	0.4	26	バウンドテニス	0.1	
9	野球	2.0	27	ヨガ・気功・太極拳	6.7	
10	ソフトボール	2.1	28	サイクリング	6.4	
11	柔道・剣道・空手・ 少林寺拳法・ボクシング	0.4	29	釣り	6.9	
12	テニス・ソフトテニス	6.2	30	スケートボード・インラインスケート	0.2	
13	バレーボール・ソフトバレーボール	1.3	31	ターゲットバードゴルフ	1.8	
14	バスケットボール	1.2	32	グラウンドゴルフ	3.6	
15	弓道・アーチェリー	0.5	33	アイススケート・アイスホッケー	0.0	
16	卓球	1.8	34	サーフィン・ウィンドサーフィン	0.6	
17	サッカー・フットサル	3.2	35	ダイビング	0.8	
18	バドミントン	2.5	36	その他	6.8	
					無回答	0.5

問 11 今後、参加してみたいと思うスポーツイベントは何ですか。（いくつでも選んでください）（n = 1,445）

1	順位を競う大会やイベント	6.6	
2	参加型の大会やイベント	25.9	
3	公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室	20.3	
4	上級者向けのスポーツ教室やイベント	3.3	
5	初心者向けのスポーツ教室やイベント	28.9	
6	有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント	19.9	
7	特になし	34.7	
		無回答	3.9

問 12 厚木市では、市民の方に地球温暖化防止に関する情報を広報紙やホームページなどで提供していますが、他にはどのような提供方法が必要だと思いますか。

(1 つだけ選んでください)(n = 1,445)

1 イベントを通じた情報提供 (講演会や展示会など)	59.4
2 省エネルギーに関する個別相談会の実施	7.8
3 メールマガジンの充実	11.0
4 その他	13.8
	無回答 7.9

問 13 地球温暖化防止への取組について、特に必要だと思うものは何ですか。

(2 つまで選んでください)(n = 1,445)

1 各家庭や企業における省エネルギーの推進	67.3
2 家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化	36.5
3 行政による地球温暖化防止の P R 活動	23.7
4 地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実	23.8
5 その他	6.0
	無回答 3.5

問 14 平成 23 年に全ての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられましたが、あなたの家には設置されていますか。(1 つだけ選んでください)(n = 1,445)

1 設置している	77.9
2 設置していないが、すぐに設置する	6.0
3 賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない	5.4
4 設置したいが、自分で設置することができない	4.9
5 その他	4.4
	無回答 1.5

問 15 救急車が到着するまでの間の応急手当は、傷病者の生存率を高めるためにとても重要であり、そのための知識も必要とされています。あなたは次の応急手当のうち、いざというときに実行できるものはどれですか。(いくつでも選んでください)(n = 1,445)

1 何もできない	3.0
2 119 番に通報する	91.3
3 周囲の人に助けを求める	71.4
4 状況により止血などを行う	35.2
5 人工呼吸を行う	20.1
6 心臓マッサージ (胸骨圧迫) を行う	26.7
7 自動体外式除細動器 (AED) を使用する	25.5
8 車などで近くの病院に運ぶ	35.5
	無回答 1.0

問 16 厚木市では、大規模地震災害等に備え地域防災計画の見直しをしています。あなたの家庭ではどのような災害対策をしていますか。(いくつでも選んでください)(n = 1,445)

1 自主防災隊等の防災訓練に参加している	26.0
2 災害時に備え、水や食糧などを備蓄している	56.3
3 災害時に必要な懐中電灯やラジオなどを備えている	69.5
4 防災に関する講演会や研修会等に参加している	5.3
5 地震による家具等の転倒防止策を実施している	31.8
6 災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている	24.6
7 隣近所の方と協力し合うようにしている	13.6
8 パンフレットやインターネットなどで防災に関する情報を収集している	11.3
無回答	6.6

問 17 自転車に関係する事故は、交通事故全体に対して高い割合を占めています。あなたは自転車事故を対象にした保険等に加入していますか。(1つだけ選んでください)

(n = 1,445)

1 加入している	20.7
2 加入していないが、加入したいと考えている	16.7
3 加入しない	15.3
4 自転車を使用しない	45.9
無回答	1.5

問 18 がんは、日本人の死因の第一位となる病気です。あなたはがん検診を受診していますか。(主なものを1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1 厚木市のがん検診を受診している	30.4
2 人間ドックを受診している	11.3
3 学校や職場の健康診査を受診している	25.2
4 受診していない	31.1
無回答	2.0

問 19 自殺で亡くなる方は全国で年間 2 万 5 千人を超え、厚木市でも少なくありません。このことに対して、どのような対策が重要だと思えますか。(1つだけ選んでください)

(n = 1,445)

1 相談事業を積極的に展開する	28.9
2 広報やキャンペーン事業等で啓発を進める	7.1
3 早期対策の役割を果たす人材を育成する	14.0
4 自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する	9.4
5 うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める	23.9
6 自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない	13.7
無回答	3.1

問 20 厚木市では、様々な方法で市政情報を発信しています。あなたは行政サービスの情報化を推進するために何を優先するべきだと考えますか。(2つまで選んでください)

(n = 1,445)

1	CATV(ケーブルテレビ)などの情報通信メディアの育成・振興	25.2
2	パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備	42.8
3	パソコン等に習熟するための講座や研修の充実	12.0
4	ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	9.8
5	個人情報保護など情報セキュリティの確保	41.6
6	ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進	10.7
7	その他	7.7
	無回答	8.4

問 21 どのような情報機器やサービスを利用していますか。(いくつでも選んでください)

(n = 1,445)

1	パソコン	54.5
2	タブレット型パソコン	12.7
3	携帯電話(スマートフォン含む)	68.9
4	テレビ	80.4
5	ラジオ	35.0
6	ゲーム機	5.5
7	インターネット	49.0
8	電子メール	29.1
9	その他	3.5
	無回答	2.4

問 22 厚木市のインターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことがあるものは何ですか。(いくつでも選んでください)(n = 1,445)

1	図書館情報(図書予約・検索)システム	18.8
2	施設予約システム	16.6
3	講座・イベントシステム	6.6
4	公募・募集システム	3.0
5	サークル情報(地域のサークル、ボランティア団体の活動情報の紹介)	3.2
6	チケット予約システム	2.1
7	お店・サービス情報	7.1
8	あつぎ地域SNS	3.2
9	マイタウンクラブを利用したことがない	48.6
	無回答	13.9

問 23 厚木市の公民館など、現在使用料が無料の施設を有料化することについてどう思いますか。(1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1	施設の維持管理のために有料化した方がよい	13.0
2	施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方がよい	30.0
3	市の財政状況を考慮して有料化した方がよい	5.5
4	施設の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し 有料化した方がよい	17.4
5	有料化する必要はない	30.7
	無回答	3.5

問 24 現在無料である公共施設の駐車場を有料化することについてどう思いますか。(1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1	施設の維持管理のために有料化した方がよい	9.2
2	不正駐車抑制等のために有料化した方がよい	14.0
3	施設の利用目的を考慮して有料化した方がよい	12.2
4	施設の立地場所を考慮して有料化した方がよい	5.3
5	市の財政状況を考慮して有料化した方がよい	2.5
6	駐車場の利用者と未利用者の公平性(受益者負担)を考慮し 有料化した方がよい	13.3
7	有料化する必要はない	40.3
	無回答	3.1

問 25 本厚木駅周辺に立地してほしい施設は何ですか。(いくつでも選んでください)
(n = 1,445)

1	品ぞろえの良い専門店	39.9
2	娯楽施設	16.4
3	文化施設	22.4
4	ディスカウントショップ	15.4
5	高齢者向けの店舗	22.7
6	個性的な商品を扱う店舗	14.9
7	魅力的なレストランや飲食店、カフェ	47.8
8	大型の商業施設	36.5
9	福祉・医療施設	25.5
10	各種スポーツ施設	13.9
11	環境の良い住宅施設	6.6
12	その他	5.7
	無回答	3.5

問 26 本厚木駅周辺で買い物をするとき、自宅からの主な交通手段は何ですか。

(1つだけ選んでください)(n = 1,445)

1	自家用車	53.1	4	バイク	1.3	
2	バス	21.3	5	自転車	7.8	
3	電車	2.7	6	徒歩	12.2	
					無回答	1.5

▶ 問 27 問 26 で自家用車とお答えの方にお聞きします。主に利用される駐車場はどこですか。

(1つだけ選んでください)(n = 768)

1	店舗等の専用駐車場	61.3	4	本厚木駅周辺の民間駐車場	17.1	
2	厚木中央公園地下駐車場	3.4	5	その他	2.6	
3	中町立体駐車場	15.6			無回答	0.0

問 28 あなたは将来(65歳以降)主にどのような交通手段を利用すると思いますか。

(65歳以上の方は、現在どのような交通手段を主に利用していますか。)

(2つまで選んでください)(n = 1,445)

1	徒歩	23.0	6	電車	11.8	
2	自転車	12.0	7	バス	55.6	
3	オートバイ	1.9	8	タクシー	8.2	
4	自家用車(自分が運転)	46.6	9	その他	0.2	
5	自家用車(家族が運転)	15.5			無回答	1.6

問 29 厚木市内の主な交通機関であるバス交通に望むことは何ですか。

(3つまで選んでください)(n = 1,445)

1	運行本数の増加	35.7	
2	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	21.4	
3	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	16.5	
4	鉄道との乗り継ぎの向上	12.9	
5	バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置)	36.2	
6	始発、終発の見直し	12.2	
7	運行ルートの見直し	12.2	
8	運賃の見直し	17.2	
9	料金、行先案内等の明確化	8.2	
10	サイクルアンドバスライド(バス停を利用する方のための駐輪場の設置) 事業の推進	6.5	
11	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	12.1	
12	コミュニティバスの運行	30.5	
13	特になし	8.2	
		無回答	3.3

問 30 厚木市の将来的な土地利用について、最も力を入れた方がよいと思うことは何ですか。
(1つだけ選んでください)(n=1,445)

1	中心市街地の整備を推進すべきである	38.4
2	インターチェンジ周辺の新たな土地利用を推進すべきである	13.4
3	良好な住環境の保全を推進すべきである	20.8
4	自然環境の保護を優先すべきである	18.7
5	その他	3.2
	無回答	5.5

問 31 厚木市内の道路の現状についてどう思いますか。(いくつでも選んでください)
(n=1,445)

1	渋滞がひどい	45.1	7	歩道が少なく、安心して歩けない	39.3
2	渋滞が改善されてきた	12.9	8	未舗装道路が多い	2.8
3	バリアフリー化が進んできた	6.7	9	舗装状態がよくない	21.6
4	よく整備されている	4.8	10	降雨時に冠水する	17.0
5	道路幅員が狭い	35.7	11	その他	7.2
6	工事が多い	19.4		無回答	4.4

問 32 厚木市の道路整備に何を望みますか。(いくつでも選んでください)(n=1,445)

1	渋滞解消(交差点の改良等)	55.4
2	バリアフリー化の更なる推進	21.9
3	都市計画道路など幹線道路の早期完成	15.2
4	生活道路を中心とした道路拡幅	32.5
5	歩道の設置	45.0
6	未舗装道路の舗装整備	7.7
7	安心して散策できる遊歩道等の整備	33.1
8	災害時・緊急時に対応できる道路整備	21.1
9	街路灯・カーブミラー等整備	33.2
10	騒音等の環境対策	11.8
11	高速道路の整備	2.6
12	バス等の公共交通機関への支援	22.2
13	道路景観の改善	6.7
14	市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備	14.0
15	道路冠水対策	18.9
16	その他	4.2
	無回答	3.3

問 33 厚木市内の河川整備を進めるに当たり、あなたが望むことは何ですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,445)

1	自然環境に配慮した河川整備	40.2
2	水辺の自然を楽しめる親水施設の整備	21.9
3	河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組	15.0
4	河川堤防を活用した遊歩道の整備	18.3
	無回答	4.5

問 34 まちづくりに市民の意思を反映させるための仕組みは十分だと思いますか。

(1つだけ選んでください)(n=1,445)

1	そう思う	6.2
2	どちらかといえばそう思う	31.9
3	どちらかといえばそう思わない	38.1
4	そう思わない	19.0
	無回答	4.8

問 35 行政の情報が積極的に公開されていると思いますか。(1つだけ選んでください)

(n=1,445)

1	そう思う	6.7
2	どちらかといえばそう思う	37.2
3	どちらかといえばそう思わない	35.2
4	そう思わない	15.2
	無回答	5.7

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。